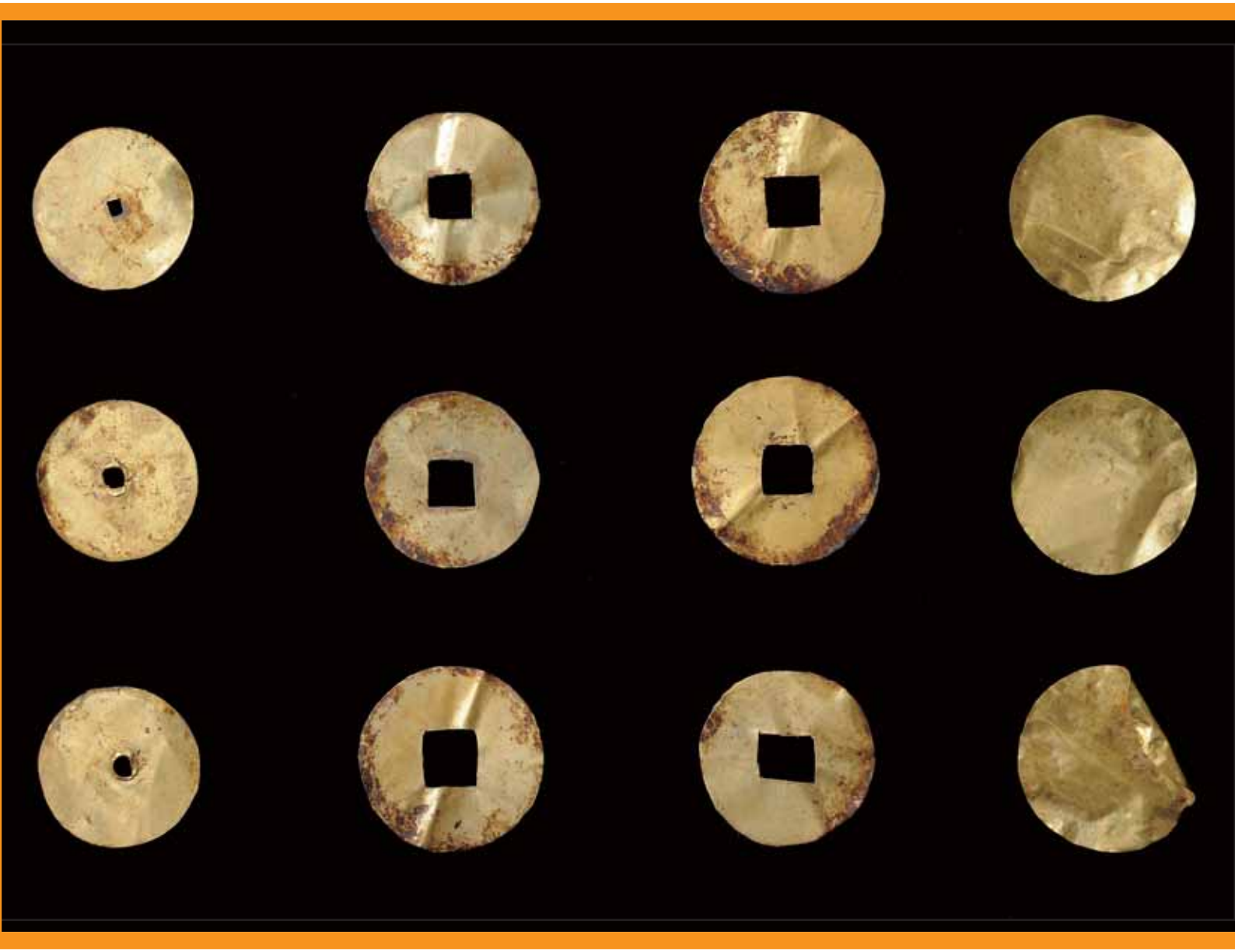
沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第97集

首　里　城　跡

― 継世門北地区発掘調査報告書 ―



平成30（2018）年３月

沖縄県立埋蔵文化財センター

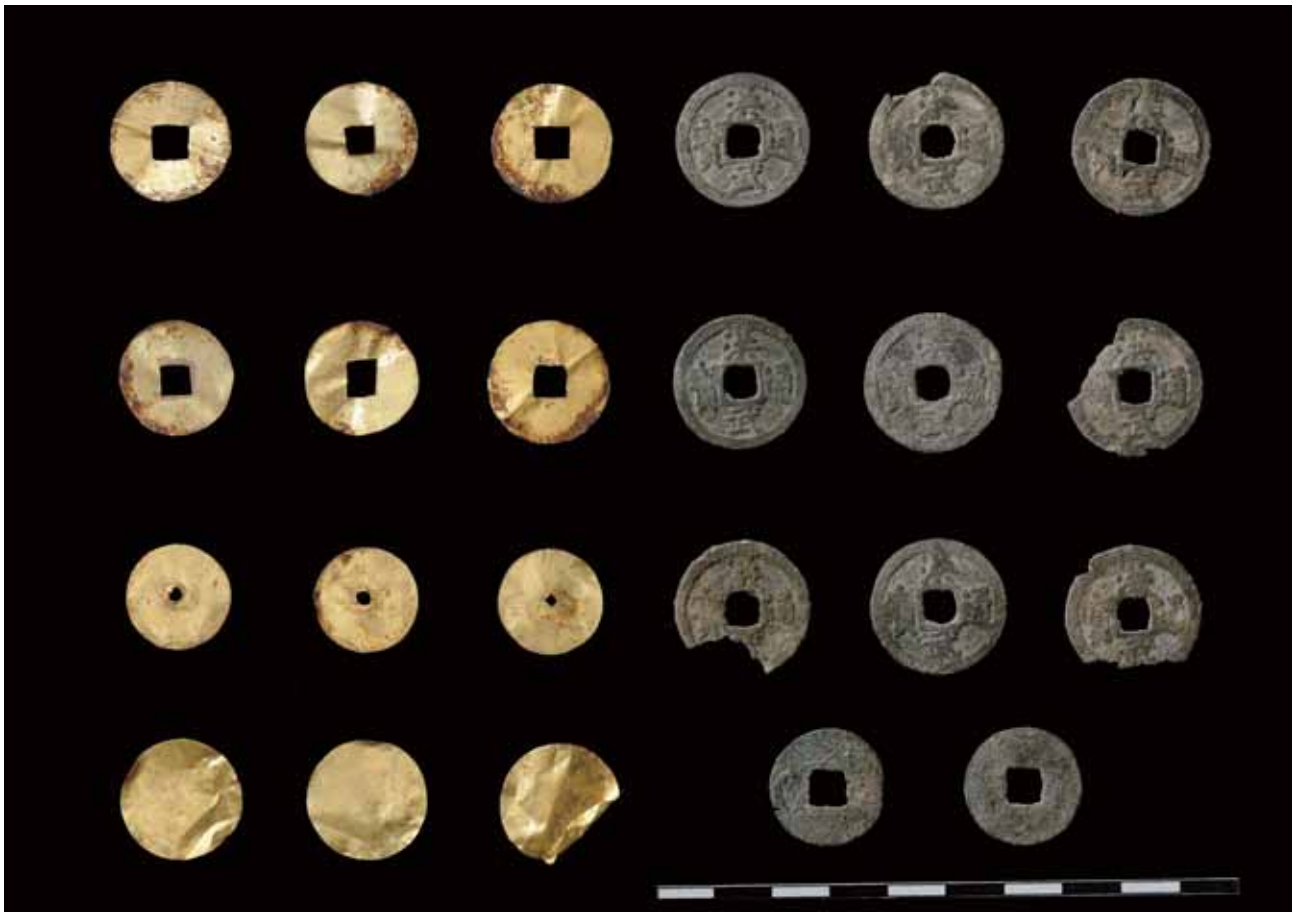
沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第 97 集

首　里　城　跡

－継世門北地区発掘調査報告書－

平成 30（2018）年３月

沖縄県立埋蔵文化財センター



巻頭図版　首里城跡継世門北地区遠景（上）、御嶽イビ出土銭貨・銭貨状金製品（下）

序

本報告書は、沖縄県立埋蔵文化財センターが国営沖縄記念公園事務所より委託を受けて平成 26 年度に実施した、首里城跡継世門北地区の発掘調査の成果をまとめたものです。

本調査においては、首里城内郭東方の城門である美福門の基壇と階段、それに隣接する御嶽、これらより古い可能性もあるピット群を確認しました。美福門については、基壇と階段の下層に土留めの可能性がある石積みや堆積層を確認しました。美福門は尚巴志により構築されたと伝承されますが、出土した陶磁器では 15 世紀代のものも多く見られましたが、それより新しい遺物も一定量見られたので、残念ながら確定するには至りませんでした。

御嶽は、イビと称される巨大な岩盤に石積みを巡らしており、その岩盤の隙間には 12 枚の金銭、11 枚の宋銭が出土しました。この御嶽は、継世門と美福門の間に位置することから、かつて存在した首里城内十嶽などと称される御嶽のひとつである「赤田御門の御嶽」と考えられます。御嶽の整備もしくは利用時期ですが、今回検出された美福門基壇と階段よりは古いことは確実であり、周辺の出土遺物からは 15 世紀代に遡る可能性も想定されます。

このような成果を掲載した今回の報告書は、首里城はもちろん沖縄県の歴史・文化を理解する資料として活用されるとともに、地域における文化財の保存活用のために役立てば幸いです。

最後に、様々な御指導・御助言・御協力を戴きました諸機関及び関係各位に心から感謝申し上げます。

２０１８（平成３０）年３月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長　　金城　亀信

例　　言

1．本報告書は、沖縄県那覇市首里当蔵町に所在する「史跡　首里城跡」における国営沖縄記念公園首里城地区の整備に際して、継世門北地区の遺構確認発掘調査及び資料整理の成果をまとめたものである。

2．本発掘調査及び資料整理業務は、内閣府沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所が沖縄県と委託契約を交わし、沖縄県教育委員会の指導のもと、沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。

3．調査期間は、現地調査を平成 26 年 7 月 1 日より平成 27 年 3 月 27 日まで実施し、資料整理作業・発掘調査報告作成を平成 28・29 年度に実施した。

4．本書に掲載した遺構図の座標軸は国土座標軸（第ⅩⅥ座標系）を使用し、その座標値は日本測地系である。ちなみに、報告書抄録の緯度経度については世界測地系で算出している。

5．現地調査及び資料整理に際して、下記の諸氏・機関に協力・指導・助言を戴いた（敬称略、順不同）。
　黒住耐二（千葉県立中央博物館）　　沓名貴彦（国立科学博物館理工学研究部）
　丸山真史（東海大学）

6．本書の編集は、新垣力・玉城綾の協力のもと瀬戸哲也が行った。執筆分担は、下記のとおり。
　第１章、第３章第１～３節、第５章…瀬戸・新垣　　第２章…新垣
　第３章第４節…大堀皓平（３、８-1)、瀬戸（左記以外）　第４章…沓名

7．本書に掲載した写真は、発掘調査状況を新垣・宮里知恵、遺物を領家範夫、當真香（埋蔵文化財資料整理員）が主に撮影した。

8．発掘調査で得られた遺物及び実測図・写真等の記録は、全て沖縄県立埋蔵文化財センターにて保管している。

9．付録として、本報告書のＰＤＦファイルと、観察表・集計表、巻頭図版・図版１～９のＪＰＥＧファイルを添付ＣＤに収録した。学術研究、公開活用に利用していただきたい。

目次

巻頭図版
序
例言

第１章 経緯と経過 …… 1
第１節　調査の経緯 …… 1　第２節　調査体制 …… 1　第３節　調査の経過 …… 2

第２章 遺跡の位置と環境 …… 3
第１節　地理的環境 …… 3　第２節　歴史的環境 …… 3

第３章 調査の方法と成果 …… 11
第１節　調査の方法 …… 11
第２節　層序 …… 11
第３節　遺構 …… 14
1. 継世門北側ピット群 …… 14　2. 美福門基壇・階段 …… 14　3. 御嶽 …… 30
第４節　遺物 …… 32
1. 中国産陶磁器 …… 32
1）青磁 …… 32　2）白磁 …… 35　3）青花 …… 36　4）褐釉陶器 …… 44　5）その他の中国産陶磁器 …… 44
2. タイ産他陶磁器 …… 46
3. 本土産陶磁器 …… 52
1）磁器 …… 52　2）施釉陶器 …… 52　3）無釉陶器 …… 53
4. 沖縄産陶器 …… 53
1）施釉陶器 …… 53　2）無釉陶器 …… 53
5. 土器類 …… 53
1）陶質土器 …… 53　2）瓦質土器 …… 62　3）土器 …… 62　4）土製品 …… 65
6. 金属製品・るつぼ …… 65
1）青銅製品 …… 65　2）鉄製品 …… 66　3）るつぼ …… 66
7. 銭貨・銭貨状金製品 …… 73
8. その他の製品 …… 73
1）石製品・石造物・石材 …… 73　4）煙管 …… 79
2）貝製品 …… 78　5）ガラス製品・ガラス玉 …… 79
3）骨製品 …… 79　6）円盤状製品 …… 80
9. 瓦 …… 80
1）高麗系 …… 80　2）大和系 …… 81　3）明朝系 …… 81
10. 塼 …… 86
11. 漆喰 …… 86
12. 貝類遺体 …… 108
13. 脊椎動物遺体 …… 117

第４章　首里城跡継世門北地区出土の銭貨状金製品の科学調査について …… 129

第５章　総括 …… 132
引用文献 …… 133
図版 …… 135
報告書抄録 …… 177

挿図目次

第 1 図　沖縄本島の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第 2 図　首里城跡の位置及び周辺の遺跡・・・・・・・・ 4
第 3 図　史跡首里城跡の範囲 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第 4 図　首里城絵図（17 世紀後半～18 世紀前半作成）にみる調査区の推定位置・・・・・・・・ 8
第 5 図　首里古地図（18 世紀初頭作成）にみる調査区の推定位置・・・・・・・・・・・・・・ 8
第 6 図　沖縄県首里旧城図（明治初期作成）にみる調査区の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第 7 図　旧首里城熊本鎮台沖縄分遣隊配置図にみる調査区の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第 8 図　旧首里城図（昭和 6 年頃作成）にみる調査区の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
第 9 図　旧琉球大学校舎配置図にみる調査区の位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
第 10 図　継世門北地区の調査位置 ・・・・・・・・・・・・・ 12
第 11 図　継世門北地区全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
第 12 図　継世門北側ピット群 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
第 13 図　美福門基壇・階段（1）　・・・・・・・・・・・・・ 18
第 14 図　美福門基壇・階段（2）　・・・・・・・・・・・・・ 19
第 15 図　美福門基壇・階段（3）　・・・・・・・・・・・・・ 20
第 16 図　美福門階段平面・断面・立面図（4）・・ 21
第 17 図　美福門階段平面・断面・立面図（5）・・ 23
第 18 図　御嶽（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
第 19 図　御嶽（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
第 20 図　御嶽（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
第 21 図　御嶽（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
第 22 図　中国産青磁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
第 23 図　中国産白磁・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
第 24 図　中国産青花（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
第 25 図　中国産青花（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第 26 図　中国産褐釉陶器（1）・・・・・・・・・・・・・・・ 42
第 27 図　中国産褐釉陶器（2）・その他の陶磁器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
第 28 図　タイ産陶磁器・産地不明陶器・・・・・・・ 45
第 29 図　本土産陶磁器（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第 30 図　本土産陶磁器（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
第 31 図　本土産陶磁器（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
第 32 図　本土産陶磁器（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
第 33 図　沖縄産施釉陶器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
第 34 図　沖縄産無釉陶器（1）・・・・・・・・・・・・・・ 57
第 35 図　沖縄産無釉陶器（2）・・・・・・・・・・・・・・ 58
第 36 図　沖縄産無釉陶器（3）・・・・・・・・・・・・・・ 59
第 37 図　沖縄産無釉陶器（4）・・・・・・・・・・・・・・ 60
第 38 図　沖縄産無釉陶器（5）・陶質土器・・・・・ 61
第 39 図　瓦質土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
第 40 図　土器・土製品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
第 41 図　金属製品（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
第 42 図　金属製品（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
第 43 図　金属製品（3）・るつぼ ・・・・・・・・・・・・・ 69
第 44 図　銭貨（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
第 45 図　銭貨（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第 46 図　銭貨状金製品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
第 47 図　石製品・貝製品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第 48 図　骨製品・煙管・ガラス製品・・・・・・・・・ 76
第 49 図　ガラス玉・円盤状製品 ・・・・・・・・・・・・・ 77
第 50 図　高麗系瓦・大和系瓦・明朝系瓦（1）・ 83
第 51 図　明朝系瓦（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
第 52 図　明朝系瓦（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
第 53 図　塼（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87
第 54 図　塼（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
第 55 図　塼（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
第 56 図　塼（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
第 57 図　塼（5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
第 58 図　Ⅳ層出土陶磁器類の組成 ・・・・・・・・・・・ 133

写真目次

写真 1　本土産白磁製洗面台 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
写真 2　貝類遺体　巻貝（1）・・・・・・・・・・・・・・・ 110
写真 3　貝類遺体　巻貝（2）・・・・・・・・・・・・・・・ 115
写真 4　貝類遺体　二枚貝 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 116
写真 5　脊椎動物遺体（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
写真 6　脊椎動物遺体（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
写真 7　脊椎動物遺体（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120
写真 8　脊椎動物遺体（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
写真 9　継世門北地区出土金貨表面の電子顕微鏡画像 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
写真 10　福寺遺跡出土蛭藻金表面の電子顕微鏡画像 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131

表目次

第 1 表　層序対応表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
第 2 表　イビ出土銭貨等位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
第 3 表　中国産青磁集計表（1）・・・・・・・・・・・・・ 32
第 4 表　中国産青磁集計表（2）・・・・・・・・・・・・・ 33
第 5 表　中国産白磁集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
第 6 表　中国産青花集計表（1）・・・・・・・・・・・・・ 37
第 7 表　中国産青花集計表（2）・・・・・・・・・・・・・ 38
第 8 表　中国産褐釉陶器集計表 ・・・・・・・・・・・・・・ 38
第 9 表　中国産その他の陶磁器集計表 ・・・・・・・・ 41
第 10 表　タイ産他陶磁器集計表 ・・・・・・・・・・・・・・ 44
第 11 表　産地不明陶器集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第 12 表　本土産陶磁器集計表（1）・・・・・・・・・・・ 46
第 13 表　本土産陶磁器集計表（2）・・・・・・・・・・・ 47
第 14 表　沖縄産施釉陶器集計表 ・・・・・・・・・・・・・ 54
第 15 表　沖縄産無釉陶器集計表 ・・・・・・・・・・・・・ 56
第 16 表　陶質土器集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
第 17 表　瓦質土器集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
第 18 表　土器集計表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
第 19 表　土製品集計表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
第 20 表　金属製品集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

表目次

第 21 表　銭貨・銭貨状金製品集計表…… 73
第 22 表　るつぼ集計表…… 74
第 23 表　石製品集計表…… 74
第 24 表　石製品石材別集計表…… 74
第 25 表　石材重量集計表…… 74
第 26 表　骨製品集計表…… 78
第 27 表　貝製品集計表…… 78
第 28 表　ガラス製品集計表…… 78
第 29 表　煙管集計表…… 78
第 30 表　ガラス玉集計表…… 79
第 31 表　円盤状製品集計表…… 79
第 32 表　高麗系瓦集計表…… 80
第 33 表　大和系瓦集計表…… 80
第 34 表　明朝系軒丸瓦集計表…… 80
第 35 表　明朝系軒平瓦集計表…… 81
第 36 表　明朝系丸・平瓦集計表…… 82
第 37 表　明朝系ヘラ記号瓦集計表…… 82
第 38 表　塼集計表…… 86
第 39 表　塼ヘラ記号集計表…… 86
第 40 表　漆喰集計表…… 86
第 41 表　遺物観察表（1）…… 92
第 42 表　遺物観察表（2）…… 93
第 43 表　遺物観察表（3）…… 94
第 44 表　遺物観察表（4）…… 95
第 45 表　遺物観察表（5）…… 96
第 46 表　遺物観察表（6）…… 97
第 47 表　遺物観察表（7）…… 98
第 48 表　遺物観察表（8）…… 99
第 49 表　遺物観察表（9）…… 100
第 50 表　遺物観察表（10）…… 101
第 51 表　遺物観察表（11）…… 102
第 52 表　遺物観察表（12）…… 103
第 53 表　遺物観察表（13）…… 104
第 54 表　遺物観察表（14）…… 105
第 55 表　遺物観察表（15）…… 106
第 56 表　遺物観察表（16）…… 107
第 57 表　遺物全体集計表…… 107
第 58 表　出土貝類遺体（巻貝等）一覧…… 108
第 59 表　出土貝類遺体（二枚貝）一覧…… 109
第 60 表　貝類の生息場所類型…… 109
第 61 表　巻貝集計表…… 111
第 62 表　二枚貝集計表…… 113
第 63 表　脊椎動物遺体の種名一覧…… 117
第 64 表　脊椎動物遺体集計表（1）…… 122
第 65 表　脊椎動物遺体集計表（2）…… 123
第 66 表　脊椎動物遺体集計表（3）…… 124
第 67 表　脊椎動物遺体集計表（4）…… 125
第 68 表　脊椎動物遺体集計表（5）…… 126
第 69 表　脊椎動物遺体集計表（6）…… 127
第 70 表　脊椎動物遺体集計表（7）…… 128
第 71 表　首里城跡継世門北地区出土金貨の
　蛍光エックス線分析による半定量分析結果…… 131

図版目次

図版 1　遺構（1）…… 135
図版 2　遺構（2）…… 136
図版 3　遺構（3）…… 137
図版 4　遺構（4）…… 138
図版 5　遺構（5）…… 139
図版 6　遺構（6）…… 140
図版 7　遺構（7）…… 141
図版 8　遺構（8）…… 142
図版 9　遺構（9）…… 143
図版 10　中国産青磁（1）…… 144
図版 11　中国産青磁（2）・中国産白磁…… 145
図版 12　中国産青花（1）…… 146
図版 13　中国産青花（2）…… 147
図版 14　中国産青花（3）…… 148
図版 15　中国産褐釉陶器（1）…… 149
図版 16　中国産褐釉陶器（2）・
　その他の陶磁器…… 150
図版 17　タイ産陶磁器・産地不明陶器…… 151
図版 18　本土産陶磁器（1）…… 152
図版 19　本土産陶磁器（2）…… 153
図版 20　本土産陶磁器（3）…… 154
図版 21　本土産陶磁器（4）…… 155
図版 22　沖縄産施釉陶器（1）…… 156
図版 23　沖縄産施釉陶器（2）・
　沖縄産無釉陶器（1）…… 157
図版 24　沖縄産無釉陶器（2）…… 158
図版 25　沖縄産無釉陶器（3）…… 159
図版 26　沖縄産無釉陶器（4）…… 160
図版 27　沖縄産無釉陶器（5）…… 161
図版 28　沖縄産無釉陶器（6）・
　陶質土器…… 162
図版 29　瓦質土器…… 163
図版 30　土器・土製品…… 164
図版 31　金属製品（1）…… 165
図版 32　金属製品（2）・るつぼ…… 166
図版 33　銭貨（1）…… 167
図版 34　銭貨（2）…… 168
図版 35　銭貨状金製品・
　石製品・貝製品…… 169
図版 36　骨製品・煙管・ガラス製品…… 170
図版 37　ガラス玉・円盤状製品…… 171
図版 38　高麗系瓦・大和系瓦・
　明朝系瓦（1）…… 172
図版 39　明朝系瓦（2）・塼（1）…… 173
図版 40　塼（2）…… 174
図版 41　塼（3）・漆喰（1）…… 175
図版 42　漆喰（2）…… 176

第１章　経緯と経過

第１節　調査の経緯

首里城跡内郭地区は、昭和 61（1986）年度に「国営沖縄記念公園首里城地区」として整備されることが閣議決定されたことにより、遺構確認のための発掘調査が沖縄県教育委員会（以下、県教委）により行われている。

本報告の対象となる継世門北地区の発掘調査も、上記の整備の一環として遺構確認を目的として実施されたものである。なお、あわせて書院南地区で２ヶ所の試掘調査を行ったが、安全面を考慮して地表下 1.2 mまで掘削したが、戦後の造成土が続いていた。

これらの調査は、平成 26 年４月 12 日付、内閣府沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所（以下、公園事務所）所長と沖縄県知事の間で交わされた「平成 26 年度　首里城地区（南城郭エリア）発掘調査及び資料整理業務」委託契約によるものである。発掘調査は、沖縄県教育庁文化財課（以下、文化財課）を主管課として事務調整及び調査指導を行い、沖縄県立埋蔵文化財センター（以下、当センター）が担当した。首里城跡における発掘調査は、史跡範囲に該当するため、文化財保護法第 125 条第１項に基づく申請が必要となっている。今回の調査は、平成 26 年４月 22 日付にて現状変更申請を県教委経由により文化庁長官へ提出し、県教委の指示を受けることを条件として、同年６月 20 日付にて許可された。発掘調査は、平成 26 年７月１日に着手し、平成 27 年３月 27 日に終了した。

なお、これまで首里城跡の発掘調査は未開園地区であり整備工事が行われることもあって安全のために、調査成果を公開する現地説明会は実施できなかった。しかし、今回の調査は公園事務所が実施する公園整備のための発掘調査としては最終年度にあたるため、公園事務所等関係者の理解を得ることにより、事前受付の上で初めて発掘調査現地説明会を実施することができた。平成 27 年１月 18 日には一般県民 102 名、１月 22 日には市町村文化財担当者 26 名が参加した。

調査終了後の出土品は、遺物収納コンテナ 131 箱に昇った。これらは、平成 27 年３月 27 日付にて当センターから文化財課へ発見報告を行い、文化財課を経由し那覇警察署へ埋蔵文化財発見通知を提出し、遺失物法の手続きを経た。

第２節　調査体制

首里城跡継世門北地区の発掘調査は、当センターが県教委の指導の下に平成 26 年度に現地調査、平成 28・29 年度に資料整理・報告書作成を実施した。実施体制は以下のとおりである。

平成 26 年度　発掘調査

事業主体　沖縄県教育委員会　諸見里明（教育長）

事業主管　沖縄県教育庁文化財課　嘉数卓（参事兼課長）、金城亀信（記念物班長）、長嶺均（主任専門員）

調査所管　沖縄県立埋蔵文化財センター　下地英輝（所長）、島袋洋（副参事）

調査担当…新垣力（主任）・宮里知恵（臨時的任用専門員）

調査補助…玉城綾・翁長圭乃子（文化財調査嘱託員）

発掘作業員　上江洲由昇・喜瀬彰・呉我フジ子・佐渡山正子・新垣朝秀・砂辺光義・砂辺理恵・玉城初美・中塚末子・福地佐枝子・宮國恵子

平成 28・29 年度　資料整理・報告書刊行

事業主体　沖縄県教育委員会　平敷昭人（教育長）

事業主管　沖縄県教育庁文化財課　萩尾俊章（課長）、上地博（記念物班長）、神村智子（指導主事）
調査所管　沖縄県立埋蔵文化財センター　金城亀信（所長）、濱口寿夫（副参事）
調査班　総括…仲座久宜（班長）
資料整理担当…瀬戸哲也・新垣力（主任専門員）、大堀皓平（主任）、玉城綾（専門員）
埋蔵文化財資料整理員　上原園子・小渡直子・嘉数渚・工藤孝美・城間彩香・當間郁子・仲里由利・花城咲子・比屋根沙耶香・宮城かの子

第３節　調査の経過

現地調査

現地調査は平成26年７月１日より平成27年３月27日まで実施した。以下、概要を調査日誌抄にて示す。

７ 月 １日　発掘作業員の雇用開始（12 名）、調査区周辺の除草等準備
７ 月 ４日　調査区北側より掘削開始
７ 月 18 日　階段遺構が 12 段分を確認
８ 月 22 日　階段遺構東側の石積み１から伸びる石積み４を確認
９ 月 ５日　石積み１と石積み４の間の堆積土を掘削すると岩盤（イビと呼称）とそれを円形に囲んだ石積み６を確認、赤田御門の御嶽ではないかと想定
９ 月 26 日　イビの隙間より銭貨状金製品（金銭）が出土
10 月 ３日　イビより銭貨状金製品は 12 枚、銅銭は 11 枚出土したことを確認
11 月 11 日　書院南地区の試掘２ヶ所を実施、遺構の確認なし
12 月 19 日　継世門前トレンチで地山面よりピット群検出
１ 月 ９日　遺構検出作業が終了
１ 月 18 日　一般対象の現地説明会を実施し、102 名の参加
１月 22 日　市町村文化財担当者の現地説明会を実施し、26 名の参加
３ 月 ４日　継世門前トレンチのピット群の掘削終了
３ 月 18 日　ラジコンヘりによる調査区全体空中写真
３ 月 27 日　調査区の重機による埋め戻し終了

資料整理作業

発掘作業で出土した遺物は、現地調査中の雨天時に遺物洗浄作業を行うことで終了させた。遺構図面・写真の整理については、調査終了後速やかに実施するよう努めた。

遺物・記録類の本格的な資料整理作業は、平成 28・29 年度に埋蔵文化財センターにて実施した。整理作業を経て作成した遺構・遺物実測図は当センターでパソコン上により作図ソフト（イラストレーター）を用いてデジタルトレース及びレイアウトを行った。その後、写真や文字原稿も含めて編集ソフト（インデザイン）を用いてＤＰＴ印刷用の編集を行い、最終的には全てＰＤＦファイルとして作成し、株式会社文進印刷へ入稿した。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

那覇市は東方分水界付近に広がる標高数 10 m～ 120 mに達する台地と、港に面する沖積低地とに代表される対照的な地形を示している（古川・高里 1989）。首里城は那覇市の東側、首里当蔵町３丁目１番地に所在し、首里台地と称される標高 100 m前後の琉球石灰岩丘陵上に築かれた県下最大規模のグスクで、東西 410 m、南北 273 m、面積 46,167㎡を誇る。東側に那覇市の最高所（標高 165.7 m）である弁ヶ嶽がそびえ、多くの河川が首里城を取り巻くように配されるなど、優れた風水思想に基づいた王都に相応しい環境が整えられている。この丘陵の南側には、安里川の浸食により比高差 70 ～ 80 mの比較的急な斜面が形成され、地形を利用した掘り込み式の古墓が点在している。

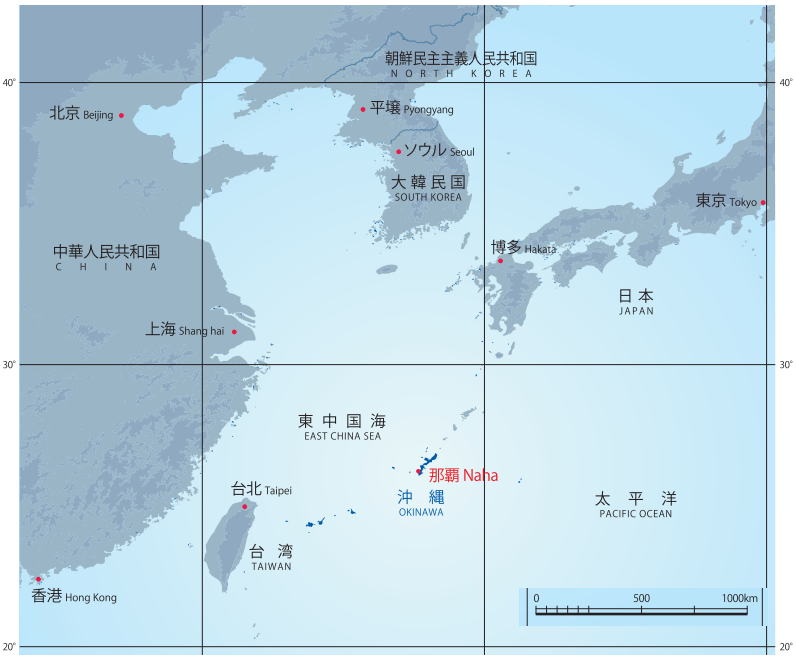
首里城周辺の地質の特徴として、前述した琉球石灰岩の下層に新第三紀鮮新世の砂岩・泥岩からなる島尻層群が基盤となっている点が挙げられる。不透水層である島尻層群の上に、スポンジ状の構造で高い透水性を有する琉球石灰岩が重なることにより、首里の各地では両者の不整合部分からの湧水が多数確認されている。城内の龍樋や寒水川樋川もこれに由来するものである（角田 2014）。

首里城の基盤層も上記の例に漏れず、琉球石灰岩や赤土（島尻マージ）と島尻層群に大別される。今回の調査のうち、「継世門北地区」の北側部分（美福門側）と「書院南地区」は琉球石灰岩、「継世門北地区」の南側（継世門側）は赤土（島尻マージ）をそれぞれ基盤層に持つことが発掘調査で判明している。

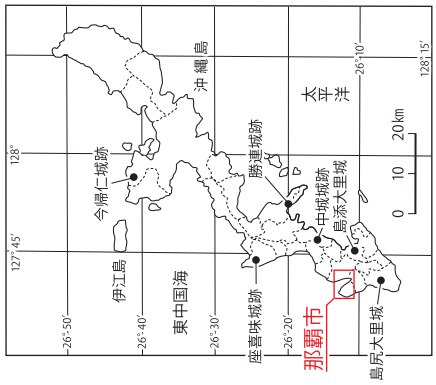
第２節　歴史的環境

現在のところ、首里城の創建について明確に触れている史料は確認されていない。察度 43（1392）年に察度王が建造したと伝わる数十丈の高楼（高世層理殿）を首里城内の施設とする説もあるが、より信頼性の高いものとしては『安国山樹華木之記』が挙げられる（沖縄県文化課 1985）。尚巴志６（1427）年に建立されたこの碑文には、首里城北西側で人工池の龍潭を掘り安国山に華樹を植えたとの記述がみられるため、尚巴志王代（1422 ～ 1439 年）に周辺の整備を行えるような状況であったこと、つまり当該期に王城としての基本的な構造が確立していた可能性は高い。そして尚真・尚清王代（1477 ～ 1555 年）には外郭の拡張や周辺施設の整備が進み、現在のような姿に近づいていったと推定される。

今回調査区のひとつである「継世門北地区」は、かつて「美福門」や「赤田御門の御嶽」が存在した場所に相当する。美福門は内郭城壁に付随する門の一つで、内郭城門のうち最大の規模を有する。切石積みの門口の上に木造櫓を架け渡す内郭城門共通の構造で、入母屋造り・本瓦葺きの櫓の正面中央に「美福」の字を掘った扁額を掲げて



第１図　沖縄本島の位置



グスク時代の主要遺跡

1 首里城跡
2 浦添城跡（浦添市）
3 首里西森遺物散布地（那覇市）
4 中城御殿跡（〃）
5 玉陵南側洞窟遺跡（〃）
6 崎山御嶽遺跡（〃）
7 魚下原遺跡（〃）
8 石田グスク（〃）
9 石田遺跡（〃）
10 シーマ御嶽遺跡（〃）
11 識名原遺跡（〃）
12 安謝東原遺跡（〃）
13 安謝東原南遺跡（〃）
14 安謝前東原遺跡（〃）
15 ヒヤジョー毛遺跡（〃）
16 天久グスク（〃）
17 牧志御願東方遺跡（〃）
18 波上遺跡（〃）
19 御物グスク（〃）
20 三重グスク（〃）
21 屋良座森グスク（〃）
22 カニマン御嶽遺物散布地（〃）
23 尻川原遺跡（〃）
24 豊見城城跡（豊見城市）
25 長嶺グスク（〃）
26 クニンドー遺跡（南風原町）
27 東村跡（那覇市）
28 渡地村跡（〃）

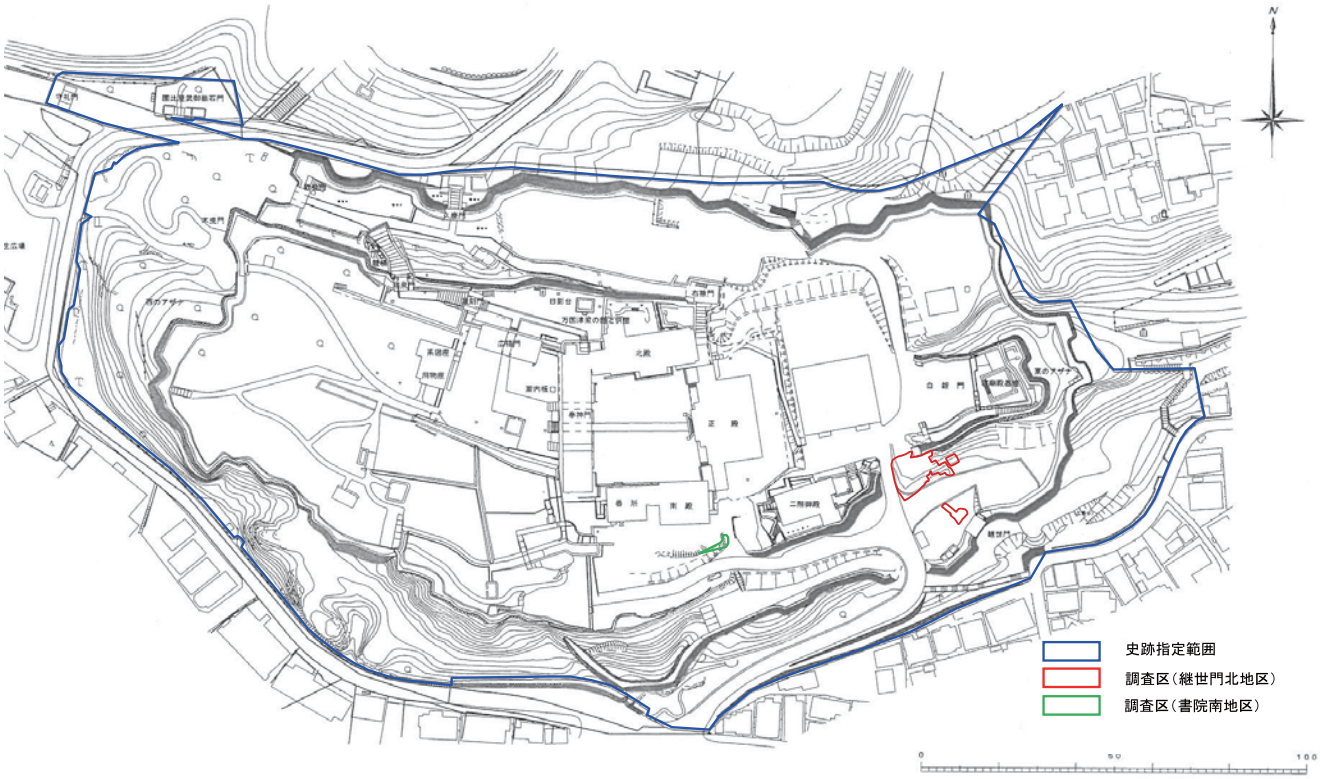
0 2000m

第２図　首里城跡の位置及び周辺の遺跡（薄いトーンは概ね 15 世紀前後の海岸線を想定）

いた。門前には瑞泉門と同じく一対の石獅子像が設置され、そこから幅広で急勾配の石段が延びていた。創建年代は文献などにみられないが、伝承によると尚巴志王代（1422 ～ 39 年）に開かれたとされ、かつて正殿が南面していた古い時代の正門であったとも言われている（真栄平 1997、久手堅 2000 など）。ちなみに、『李朝実録』世祖 8（1462）年の記事では漂流民梁成等が漏刻器の設置された南門を目撃しており、同年記事中にある琉球側使臣との問答では、「紫宸」と呼ばれる正門の存在を明かしている（池谷・内田・高瀬 2005）。これらの記述は瑞泉門または美福門を指すとの説があり（高良 1996）、また伝承と類似する部分もみられるため、今後多方面からの更なる検討が必要であろう。美福門は、赤田に面することから「赤田御門」、門の奥が御内原であることから「みもの御門」、門前にある一対の石獅子像から「シーサー御門」など様々な俗称がみられるが（首里城研究グループ 1997、久手堅 2000、外間 2015 など）、このうち「赤田御門」については、美福門の外側に 1456 年に継世門が創建されて以降は継世門の俗称となった。その後、尚泰 4（1851）年には首里城周辺を徘徊する異国人の侵入対策として、淑順門などとともに二重扉が設置された（球陽研究会 1974）。

赤田御門の御嶽は、かつて城内に 10 ないし 9 ヶ所存在した御嶽の一つで、城門に隣接する唯一の御嶽と考えられる。1706 ～ 13 年成立と推定される『女官御双紙』（琉球王府御近習方 1958）や、1713 年編纂の『琉球国由来記』（外間・波照間 1997）にその名前が登場し、前者での名称は「赤田御門のあがるい嶽押明森の御いべ」、後者では名称が「アカタ御ヂャウノ御嶽」で、神名が「アガルタケ押明森ノ御イベ」と記されている。また、『球陽』巻二の尚泰久 5（1458）年の条にある、尚泰久王の娘で阿麻和利に嫁いだ百度踏揚が鬼大城賢勇に背負われて首里城へ逃げ帰った際の「天未だ暁曙ならず、門に扣へて稟報す。王怒りて曰く、婦女と男と夜に乗じて来る。豈貞節なる者ならんやと。夫人泣哭して将に押明森の樹木に縊らんとす」（球陽研究会 1974）にみられる押明森も、本御嶽一帯を指している。創建年代は不明だが、美福門との関係や『おもろさうし』中の「揚がる嶽」（外間 2015）が本御嶽を指すとの説を踏まえると、16 世紀以前に遡る可能性も想定される。

これまでの発掘調査では、平成 5（1993）・6（1994）年度に美福門の東側城壁及び石獅子像台座の



第３図　史跡首里城跡の範囲

一部と御嶽上部の方形石積み、平成９（1997）年度に門口の基礎または下層遺構と考えられる石積みがそれぞれ検出されている（沖縄県埋文 2004・2005b）。ちなみに今回の発掘調査では、御嶽のイビに相当する自然岩を上部の方形石積みと下部の円形石積みでそれぞれ囲繞している状況が確認されたが、17 世紀後半～ 18 世紀前半作成とされる首里城絵図（第４図、安里 2013）や、18 世紀初頭作成とされる首里古地図（第５図、琉球国絵図史料集編集委員会ほか 1994）には下部の石積みしか描かれておらず、上部の石積みは後述するように明治初期作成とされる沖縄県首里旧城図（第６図、平良 1994）が初見であるため、現在みるような本御嶽の姿を近世前半に遡らせるのは困難と思われる。

もう一方の調査区である「書院南地区」は、かつて「奉行詰所」が存在した場所の南側に相当する。奉行詰所は王府の財政を掌る御物奉行が出仕する施設で、薩摩琉球館とも連携して職務を果たしていたことが知られている（久手堅 2000）。創建年代は不明だが、西側に隣接する書院に詰めていた御書院当官職との関係から、書院と同じく 1622 年には設置されていた可能性もある。平成 13（2001）・14（2002）年度には、鎖之間や書院とともに奉行詰所北半分を対象に発掘調査を実施したが、当該建物の存在を示すような遺構は検出されていない（沖縄県埋文 2005a）。

上記のように、これらは首里城内の重要施設として、琉球国が存続する間は適切な管理のもとに機能を維持してきた。しかし、明治 12（1879）年に沖縄県の設置及び琉球王府の解体が断行されると、首里城も歴史の荒波に翻弄されていく。まず､琉球処分の同年から首里城に駐屯した熊本鎮台沖縄分遣隊（以下、分遣隊）は、城内の建物や石垣などを各所で改変した。この頃首里城は建物・土地とも陸軍省の管轄となり、軍事施設であった同所へは関係者以外容易に立ち入ることができなかったため、分遣隊が撤退する明治 29（1896）年までの間に城内がどのように改変されたか、その詳細は現在も判然としない。しかし、今回調査区のうち奉行詰所は隣接する書院も含めて士官官舎に利用されたと考えられるが（第７図）、美福門や赤田御門の御嶽は幸いにも主要施設として使用されなかったとみられ（法大沖縄文化研究所 2014 など）、当該期における目立った改変はないと思われる。

特に美福門は、分遣隊駐屯時の明治 21（1887）年に山本芳翠の描いた『琉球中城之東門』が往時の姿を表したものとされており（高階 1998、宮内庁三の丸尚蔵館 2001）、これによると美福門は同年段階で櫓の残存が確認されるものの、門前は石獅子像が２基とも消失し台座のみになっていたことが理解される。また赤田御門の御嶽については、明治初期作成とされる「沖縄県首里旧城図」（第６図、平良 1994）で上部の方形石積みと思われるものを一部確認できるが、下部の円形石積みや自然岩は描かれていないことから、本御嶽はこの時期既に大部分が埋没していた可能性も考えられる。

分遣隊が撤退した明治 29（1896）年以降、首里城は学校や役所施設として使用されるようになる。同年 11 月から翌年９月まで沖縄県師範学校が城内の建物を仮校舎として使用したのを契機に、師範学校付属小学校の移転（明治 31 年４月～翌年４月）、沖縄県臨時土地整理局の設置（明治 33 年８月～同 37 年３月３日）、校舎火災に伴う沖縄県師範学校の再移転（明治 37 年１月 14 日～同 41 年７月）、首里区立工業徒弟学校の移転（明治 37 年４月～大正７年１月）、首里区立女子工芸学校（以下、工芸学校）の移転（明治 41 年～昭和９年）、首里尋常高等小学校五学年三学級の移転（明治 42 年４月～同 45 年４月）、沖縄県立中学校分校の設置（明治 43 年４月～翌年４月）、首里尋常高等小学校三年以上高等科まで 14 学級の移転（明治 44 年～翌年４月）、首里女子尋常高等小学校分教場の移転（明治 45 年４月～）などが確認されている。

この頃、赤田御門の御嶽の状況は不明だが、美福門は明治 41（1908）年の工芸学校の移転に伴い、管理の都合で閉ざされることになった。しかし閉鎖といっても門口を高さ１m程度の石積みで塞いだだけであり、昭和７（1932）・８（1933）年頃には再び開かれたとされる。また同時期に、首里区は首里城

の建物及び敷地の払い下げを願い出ていた。最初は明治 36（1903）年で、「城内の建物一切を相当価格、地所は無償」という内容を陸軍省に依頼したが、希望は叶わず相当年限貸し付けという形になった。地所については、明治 37（1904）年 4 月～昭和 9（1934）年 3 月までの満 30 ヶ年間公園敷地としての無償使用が可能になったが、明治 42（1909）年に建物も含めて再度依頼したところ許可され、建物は合計 887 円 30 銭、地所は 1,054 円 55 銭で払い下げられることになった。

このうち、美福門は坪数 7 坪 1 合 4 勺で払い下げ価格 71 銭 4 厘、奉行詰所はおそらく書院・鎖之間との一括で坪数 151 坪 1 合 9 勺、払い下げ価格 90 円 71 銭 4 厘となっている。ただし、当該期における美福門の全体像については不明な点もあり、明治初期作成とされる沖縄県首里旧城図（第 6 図、平良 1994）には櫓と思しきものが確認できるものの、昭和 6 年頃作成の旧首里城図（第 8 図）だと両側の城壁のみが描かれている。このため、払い下げ時の美福門に櫓が残存していたか否かは判然としない。

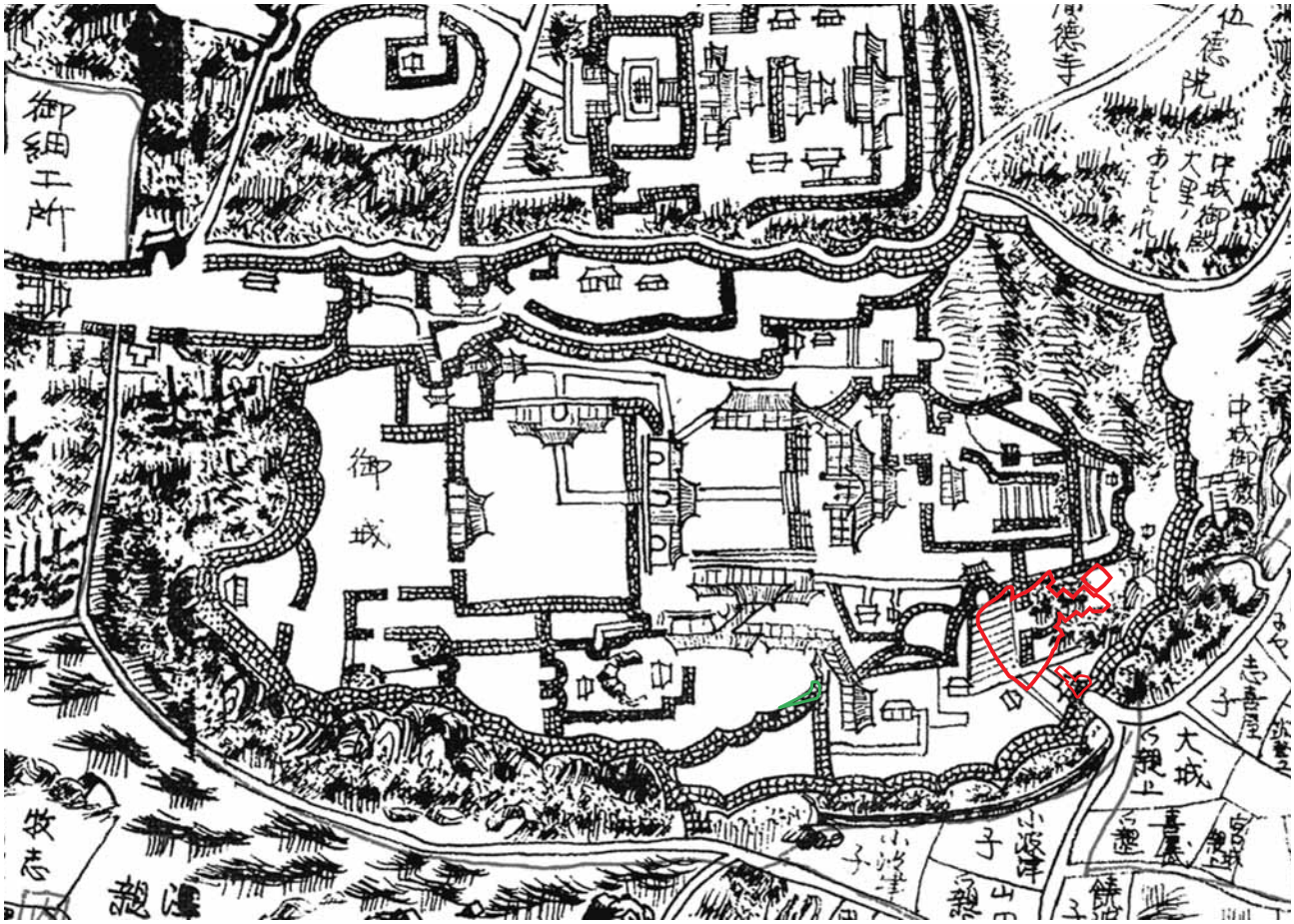
その後、正殿は大正 15（1925）年国宝に指定され、昭和 9（1934）年 3 ～ 4 月頃には解体修理が落成し、往時の威容を幾分か取り戻すのだが、戦争の時代に突入していたこともあり、首里城はまたも軍隊の駐屯地となった。昭和 19（1944）年、城内にあった首里第一国民学校校舎の一部を第 9 師団（武部隊）が兵舎に使用したのを皮切りに、南風原から移動してきた第 32 軍司令部が地下に壕の構築を開始した。その影響も手伝ってか、翌年には米軍の砲撃を浴びて灰燼に帰した。他の施設も大半が同様に焼失したと考えられるが、美福門は昭和 20（1945）年 6 月 18 日撮影とされる写真を確認すると、大破しているのは門から東西に延びる城壁の一部で、門口の石積みや門前の石段が概ね良好な状態で残存していることから（首里城復元期成会ほか 1987）、少なくとも美福門に関してはそれほど戦災を被っていないとみられる。

戦後、跡地には昭和 25（1950）年に琉球大学が開学した。その際、校舎などの建設に伴う大規模な掘削及び土砂移動が行われ、一帯は旧地形の面影がわずかに偲ばれる状態にまで変貌を遂げた（第 9 図）。この状況は両調査区でも同様で、継世門北地区では昭和 40（1965）年度に完成した農学ビル（琉大二十周年記念誌編集委員会 1970）に伴う工事により、一帯の南側を基盤層ごと削平している状況が今回の発掘調査で確認された。また書院南地区でも、正殿跡地への通路として基盤層が切通し状に掘削されており、これが以前の発掘調査で遺構が検出されなかった要因の一つと考えられる。

この状況は、昭和 30（1955）年に琉球政府指定史跡となって以降も特に変化はなかったが、昭和 47（1972）年の沖縄県本土復帰時に国の史跡に指定されてからは、同年より戦災文化財復元整備事業で城門や城壁の修復が開始され、また昭和 59（1984）年に琉球大学の移転が完了した跡地を公園用地にすることが決定して以降、現在まで国営公園及び県営公園事業に伴う復元整備が進められている（第 3 図）。

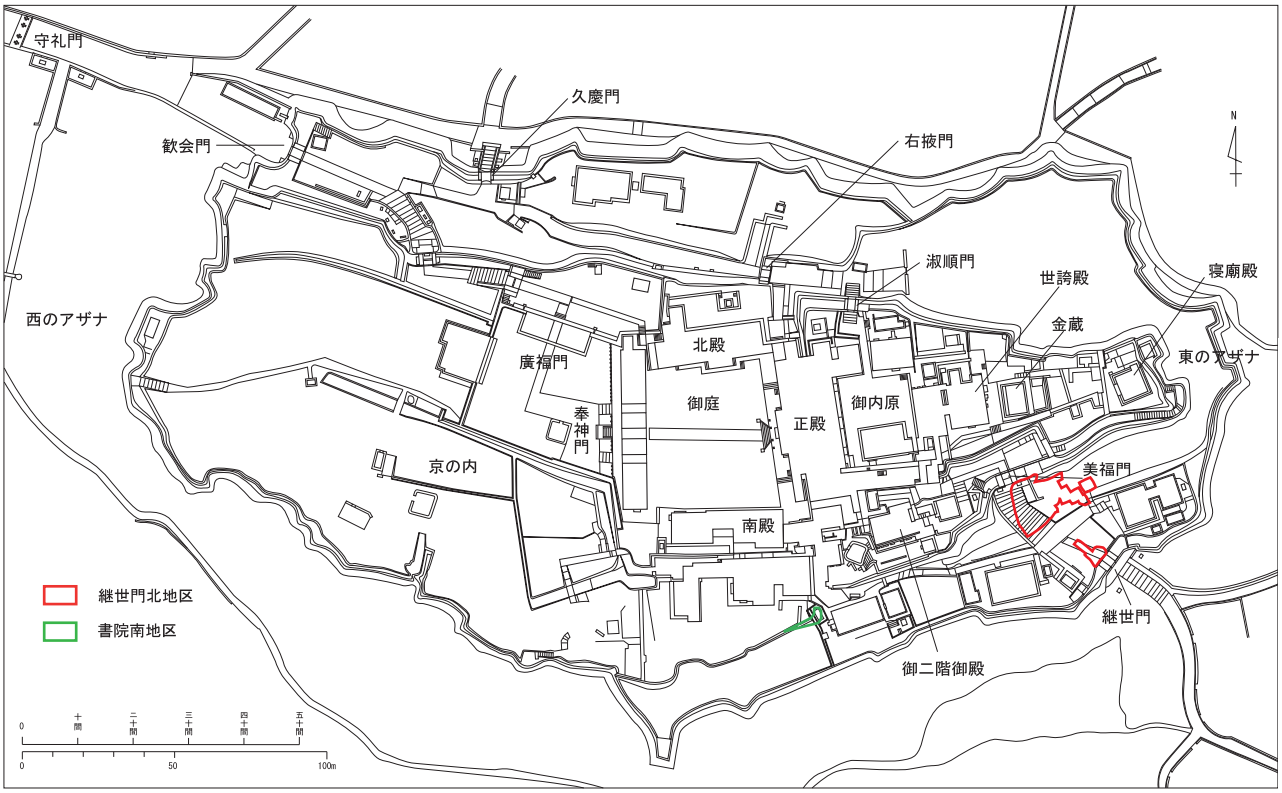
そして、平成 12（2000）年には、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として玉陵・園比屋武御嶽石門・今帰仁城跡・座喜味城跡・勝連城跡・中城城跡・識名園・斎場御嶽の 8 件の資産とともに、日本で 9 件目の世界文化遺産に登録された（沖縄県文化課 2001）。現在、首里城公園は平成 28（2016）年度実績で 2,727,677 人が訪れており、平成 27（2015）年 4 月 25 日には開園から数えて入園者 5,000 万人を達成するなど、県内有数の観光地として沖縄県の経済を牽引している。

第４図　首里城絵図（17 世紀後半～ 18 世紀前半作成）にみる調査区の推定位置　※東京大学史料編纂所蔵



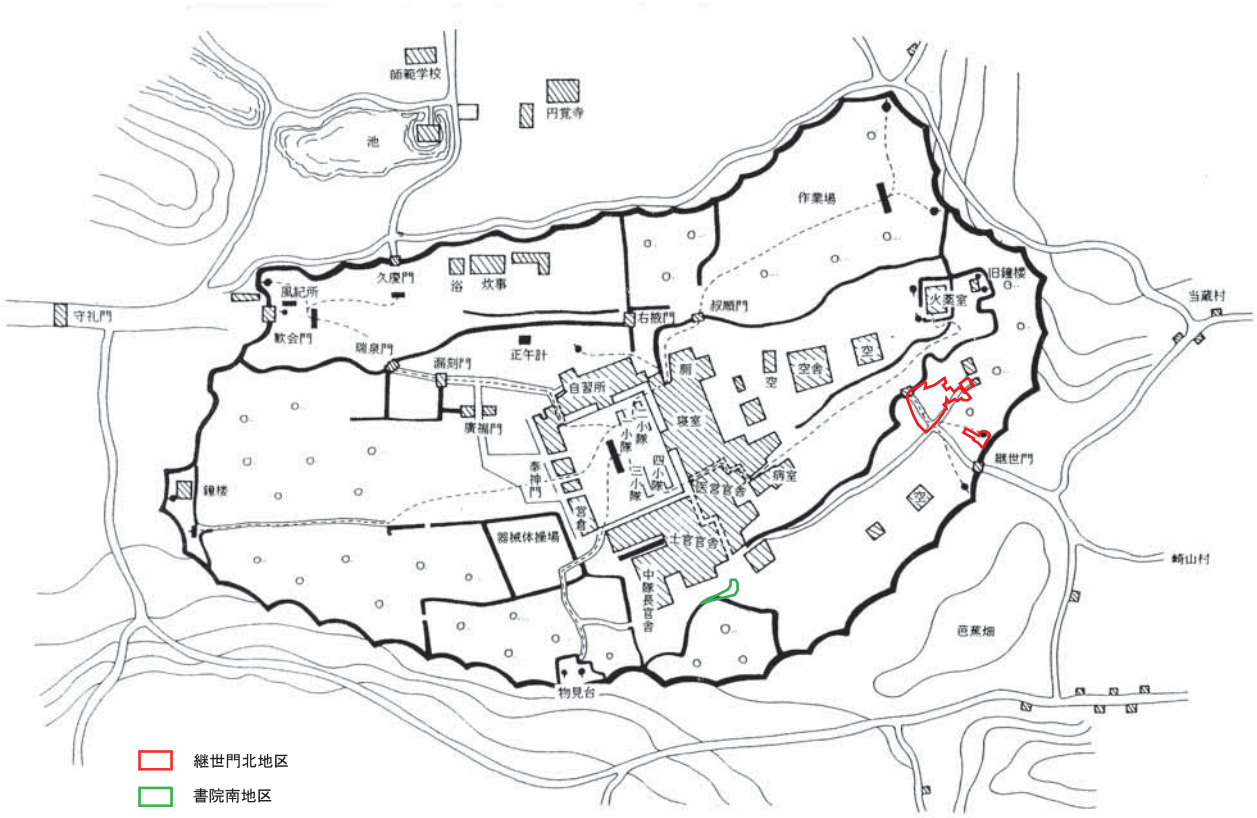
第５図　首里古地図（18 世紀初頭作成）にみる調査区の推定位置

※沖縄県立図書館蔵

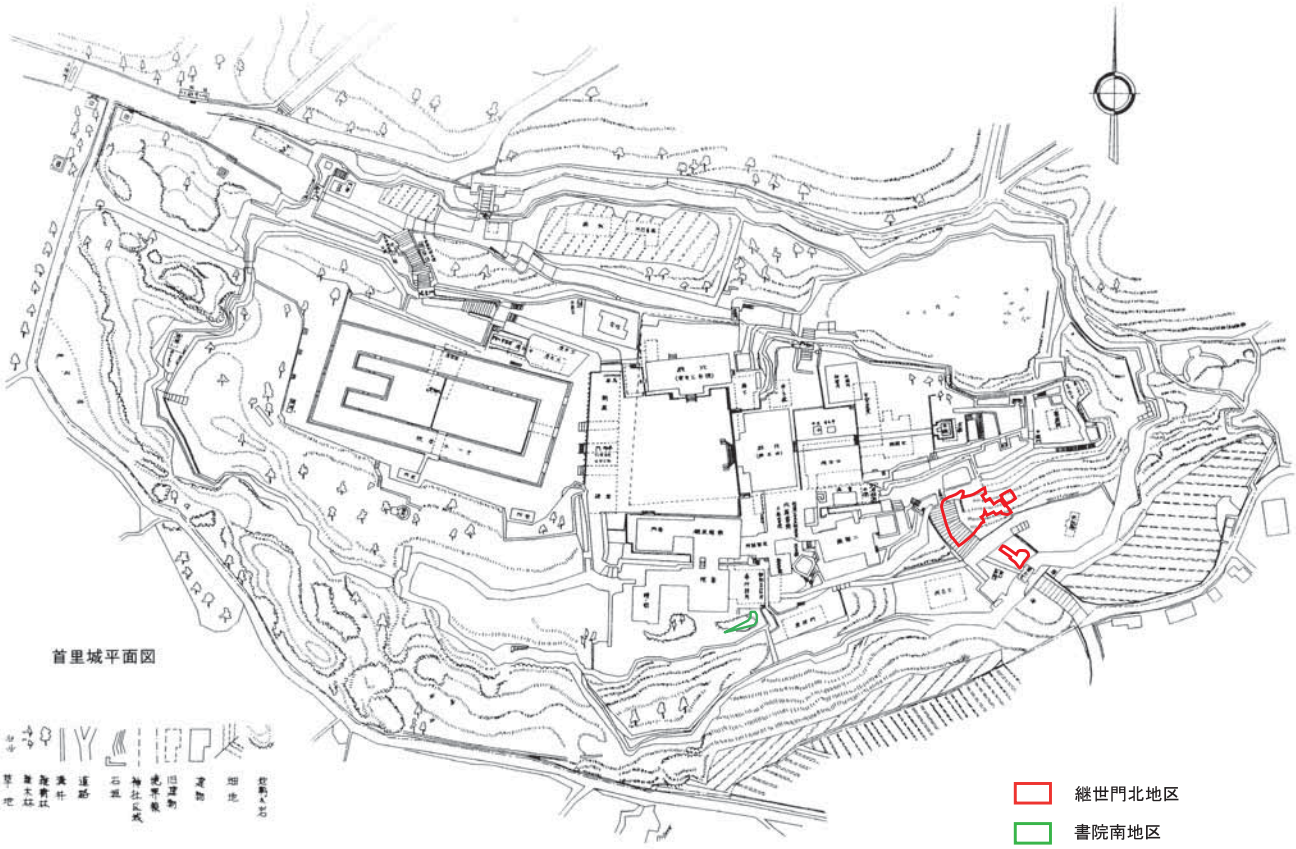


第６図　沖縄県首里旧城図（明治初期作成）にみる調査区の位置

※那覇市歴史博物館蔵原図をトレース



第７図　旧首里城熊本鎮台沖縄分遣隊配置図にみる調査区の位置



第８図　旧首里城図（昭和６年頃作成）にみる調査区の位置　※沖縄県立図書館蔵

第９図　旧琉球大学校舎配置図にみる調査区の位置

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

今回の調査は、公園整備計画に合わせて継世門北地区における遺構の確認を目的とし、その調査面積は286㎡となり、後述するように御嶽、階段などの遺構が確認できた。また、書院南地区においても２ヶ所の試掘調査（10㎡）を行ったが、1.2 m掘り下げても戦後の造成土であった。ちなみに、首里城の復元方針は、1709 年の火災後 1712 年に再建され、1925 年に国宝指定となった正殿を基本とされており、城壁や各建物もそれに合わせて概ね 18 世紀から戦前の遺構を確認することが目的となっている。

継世門北地区の調査は、美福門に近い北側より開始し、戦後の造成土を重機と人力を併用しながら掘削していった。その中で、美福門基壇と階段をまず検出し、その東側に岩盤（イビ）を石積み１～４・６で囲まれた御嶽を確認した。本来ならば、美福門階段はその南側にある外郭の継世門へ続いているが、それは全て戦後の造成により破壊されていたことを確認した。ただ、基盤層の確認ために、標高が低い継世門前にＥトレンチを設定したところ、地山面が確認されピット群を検出した。

なお、調査区北側の美福門階段・御嶽と、南側の継世門前のＥトレンチには８m近い高低差が生じたため、安全面を確保するためにこの両者間を排土で埋めて橋状の通路を造成した。そのため、両者は分断された形となっており、平面図の作成も別個で行っている（第 10・11 図、図版１）。

さて、調査区北側の調査であるが、美福門階段周辺においては、階段の石敷きの遺構が残存していない部分の堆積土について階段内１～３トレンチ、東側側壁である石積み３の東側にＢトレンチの４つのサブトレンチを設定し岩盤まで掘削した。赤田御門の御嶽の周辺には、南側に隣接するＣトレンチ、東側にＡトレンチ、その北側にＤトレンチを設定した（第 11 図、図版２）。

以上のように、今回の調査では石積み・石敷きで構成された遺構を検出することを第一の目的とし、これらの遺構がない場所については必要に応じてトレンチを設けて、遺構の有無、堆積土の年代を確認することとした。

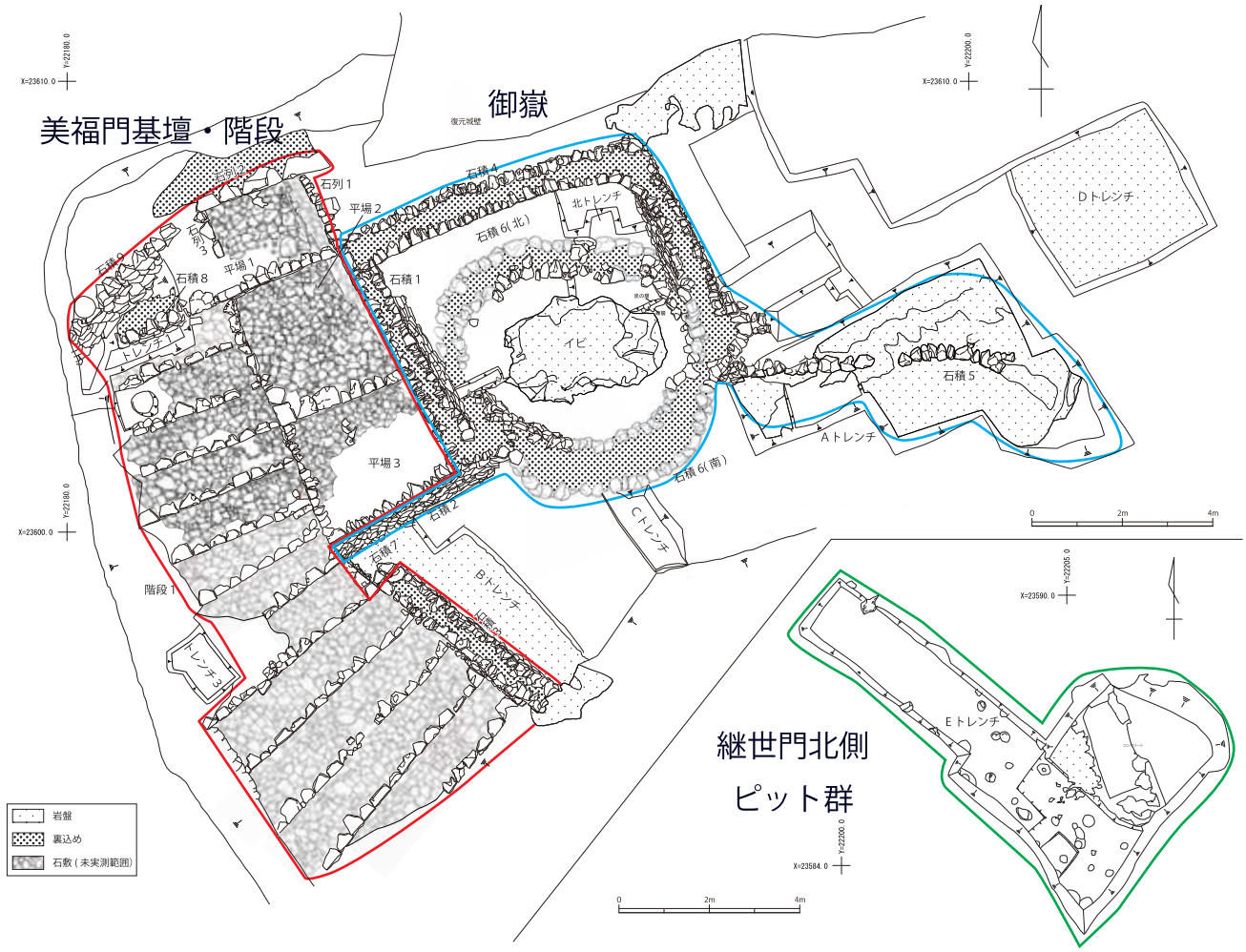
現地での写真は、35mm のフィルムカメラ、または適宜６×７サイズの中判フィルムカメラを用いて白黒とリバーサルフィルムで撮影・現像した。なお、デジタルカメラ（ニコンＤ 70 ｓ）でも撮影を行い、報告書時の写真はＤＴＰ印刷に対応するために、デジタル画像を使用することとした。

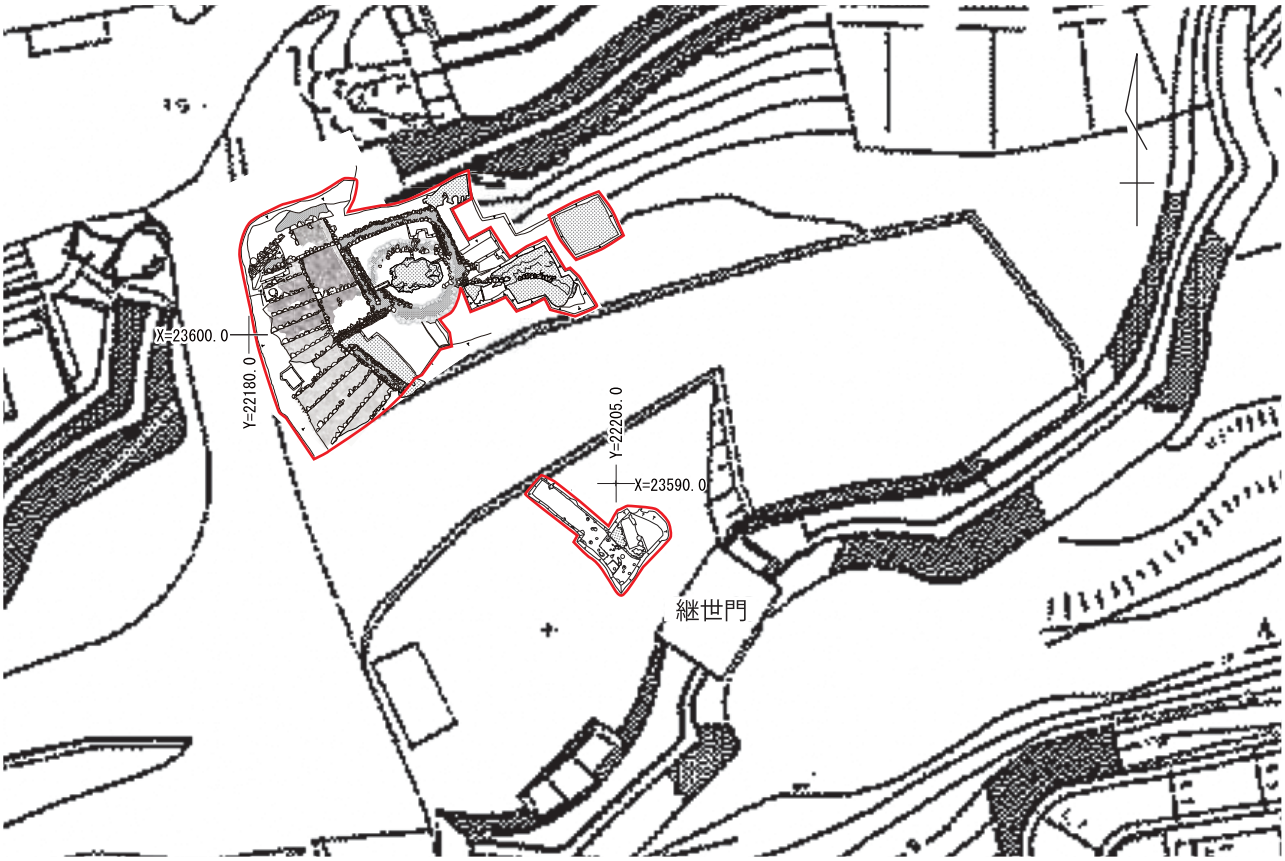
遺物のナンバリングは、「Ｈ 26　首継北（トレンチ・遺構・層序）」、「Ｈ 26　首書南（トレンチ）」と注記している。

第２節　層序

前節で述べたように、今回の調査区では、戦後の造成土を外すと美福門階段や御嶽を囲う石積み４などの上面が検出された。

美福門階段については、遺構が残存していない周辺にサブトレンチを設定し調査することで、その下層となる堆積土を確認できた。一方、御嶽は石積み１と４で囲まれており、その内部の堆積土を外すとイビと称した岩盤とそれを円形に取り囲んだ石積み６が確認された。さらに、石積み６とイビの間にはより下層の堆積土が見られ、それを掘削するとイビは部分的に盛り上がった岩盤で、局所的には２m以上深くなっており、岩盤や地山を確認できない部分も見られた。





第 10 図　継世門北地区の調査位置

このように、本調査区では幾つかの堆積土が見られたが、これらの関係を全て一つの土層断面で確認することはできなかった。資料整理時において、遺構の前後関係や出土遺物の検討を経て、次のとおり時期的な区分として６層にまとめることとした。なお、遺物取り上げ時のナンバリング名と、本報告書でまとめた遺構・層序名の対応関係を第１表に示す。

Ⅰ層　戦後　造成土

調査区全体に覆っており、琉球大学及びその後の公園の造成に伴うものと考えられる。

Ⅱ層　戦前～ 18 世紀ごろ　遺物包含層

拝所遺構の上面や外側を覆っている遺物包含層（図版９－３）。グスク時代から近代の遺物が出土するが、下層であるⅢ層が概ね 18 世紀が下限と考えられるため、それを上限とした。

Ⅲ層　17 ～ 18 世紀　御嶽覆土

御嶽を覆っていた土層で、上部と下部に分けることができる。出土遺物では 16 ～ 18 世紀代の陶磁器が見られ、下部のほうが 16 ～ 17 世紀代のものが多い傾向はある。

Ⅲ層上部　石積み１、石積み４の間に堆積する土層。

Ⅲ層下部　石積み１と４より切り合い関係で古いと判断できる石積み６とイビの間に堆積する土層。イビとした岩盤の隙間や直上に銭貨状金製品が出土している（図版８）。

Ⅳ層　15 ～ 17 世紀　美福門基壇・階段下層堆積土

美福門基壇・階段の下層に堆積する土層である。階段１内トレンチ１～３、Ｂトレンチの埋土となる。出土遺物は 17 世紀代に下る遺物も見られるが、主体は 15 世紀代の陶磁器である（図版６）。

Ⅴ層　不明　ピット内埋土

ＥトレンチⅥ層上面から掘削されたピットの埋土である（図版３）。ピット内の遺物はごく少量であるため、時期については確定できない。

Ⅵ層　マージ　基盤層

島尻層群の明～黄褐色土で、方言で「マージ」と称される。Ｅトレンチでしか確認されなかった。拝所遺構やＡ・Ｄトレンチでは岩盤が検出されているが、Ⅵ層の堆積は見られなかった。

第１表　層序対応表

層名	遺構・トレンチ	主なナンバリング名
Ⅰ層	表土	表土、表採、平場3、Eトレンチ1～3層
Ⅱ層	御嶽外側	Cトレンチ1～3層、石積み4東側、石積み6南側
	石積2外側	石積み2・南側、貝だまり1・2
	石積5外側	Aトレンチ1～3層、石積み5
	Dトレンチ	Dトレンチ1～3層
Ⅲ層上	御嶽上部	石積み1、石積み1・4間、石積み4、石積み4・6間
Ⅲ層下	御嶽下部	石積み6・イビ間、石積み6北トレンチ
	御嶽イビ	イビ
Ⅳ層	階段1下層	階段1内トレンチ1～3、石積み8、石積み9
	階段1東側下層	Bトレンチ、石積み3、石積み7
Ⅴ層	Eトレンチピット内	SP

第３節　遺構

今回確認された遺構は、継世門北側ピット群、美福門基壇・階段、御嶽の大きく３つにまとめることができる（第 10・11 図）。

１．継世門北側ピット群（第 12 図、図版３）

継世門北側のＥトレンチでは、地山面であるⅥ層（マージ）直上面の標高 118.5 m前後において、ピットを 26 基（ＳＰ３・18・19 は欠番）確認した。平面は円形で径 20cm 前後、検出面が削平されている可能性も考えられるが、深さは 10cm 以内のものが多い。ただ、一部柱痕と思われるものが確認されている。

２．美福門基壇・階段（第 13 ～ 17 図、図版４～６）

美福門は内郭城壁の両脇に櫓を載せる形式で、今回の調査により美福門の基壇、継世門へ下る階段がそれぞれ部分的に確認されている。

基壇に相当するのは石列２で、東側は内郭城壁に連結するが、西側は調査区外になるが破壊を受けているものと思われる。石列２からは南側に石列１が石積み４まで長さ２m伸びており、そこから西へ続く石積み８で構成された平場１を区画している。この平場１は後述する階段の踏み面と同様な石畳であるが、南側へ５°の傾斜をもっている点で若干異なる。この平場は調査区外の西側まで続くのでその東西の長さは不明だが、基壇と階段を結ぶ空間と思われる。また、この平場１には石列２と連接する長さ約１mの石列３が見られるが、本来西側へも続くものでかつて門前に置かれていたとされる獅子像の台座の根石とも考えられる。なお、平場１西側の階段１トレンチ１より、その下面から石積み９が確認されたが、石列２と方向が異なっている。その面は乱雑であるので、基壇や階段の造成に伴う土留めとも考えられる。

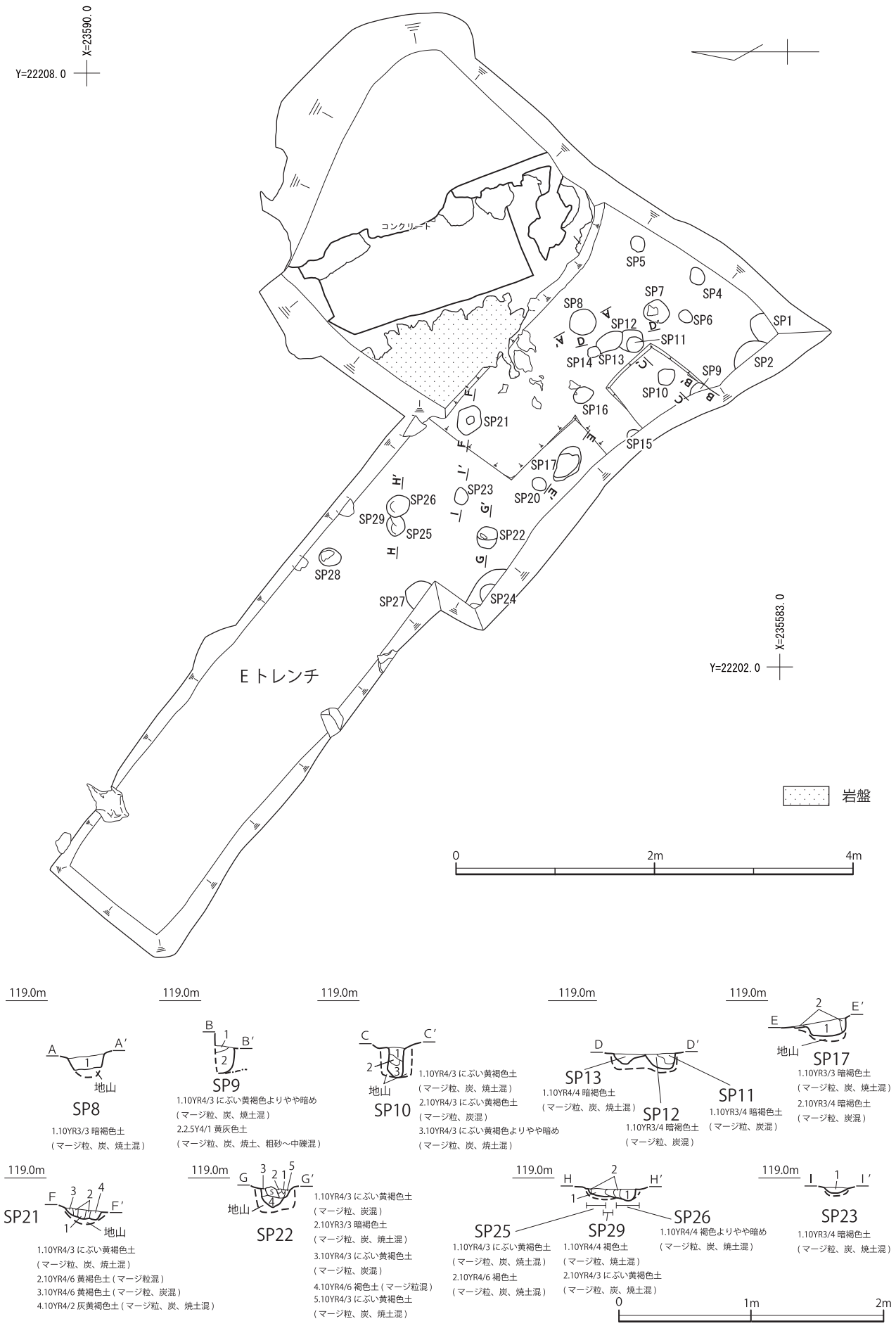
階段は、基壇から継世門へ向かったもので、一定の間隔で踏み面と蹴上げがある階段１とその東側に連接した平場と石積み３で構成されている。階段１は 12 段分残存しているが、それより南半は先述したように破壊されている。また、西側は調査区外であり、また一部は琉球大学に伴う建物基礎などにより破壊されている。その平面形は南に向かって台形状に開く形で、基壇から７段目では西に 30°大きく振っている。階段の踏み面は、長さ 20 ～ 40cm 前後の略方形の上面が平坦な石を敷き詰めた石畳となっており、蹴上げは一段で高さ 25 ～ 30cm、長さ 30 ～ 50cm の長方形の石を置き、平滑な面を使用している。踏み面の奥行きは 1.0 ～ 1.2 mであり、傾斜は 10 ～ 15°である。

平場は階段の東側に連接したものでその上面は同様な石畳で傾斜面はほぼなく、先述した基壇と関連する平場１に連接して南側へ平場２、３と続く。平場１の南端である石積み８は高さ１mあり、ほぼ直角で南側の平場２に接続し、その長さ３mを測る。その南側は、石１段による高さ 15cm の段をもって平場３に続き、石積み２まで長さ 2.7 mあるが、南半は撹乱されており石が欠損している。石積み２は傾斜角 75°で高さは 3.5 mを測る。平場２・３の東側は石積み１で区画されており、これらの平面形は南に開く台形状であり、東西幅が平場２の北端 2.8 m、平場３の南端が 3.2 mとなっている。平場３の南側には石畳がなく、平場として造成されていたかは不明である。調査時では、Ⅳ層とした階段１の下層堆積土が露出していた。

なお、この平場がなくなる７段目から階段は東へ 15°振り、８段目より南側には東壁として石積み３が見られ、南端はやはり破壊されている。石積み３はかなり乱雑なつみ方で、その上面は西壁では階段の踏み面より 30cm ほどの高さで並行して南側へ傾斜している。東壁はⅣ層の上に載っており、地表からは 60cm ほどの高さで表出している。

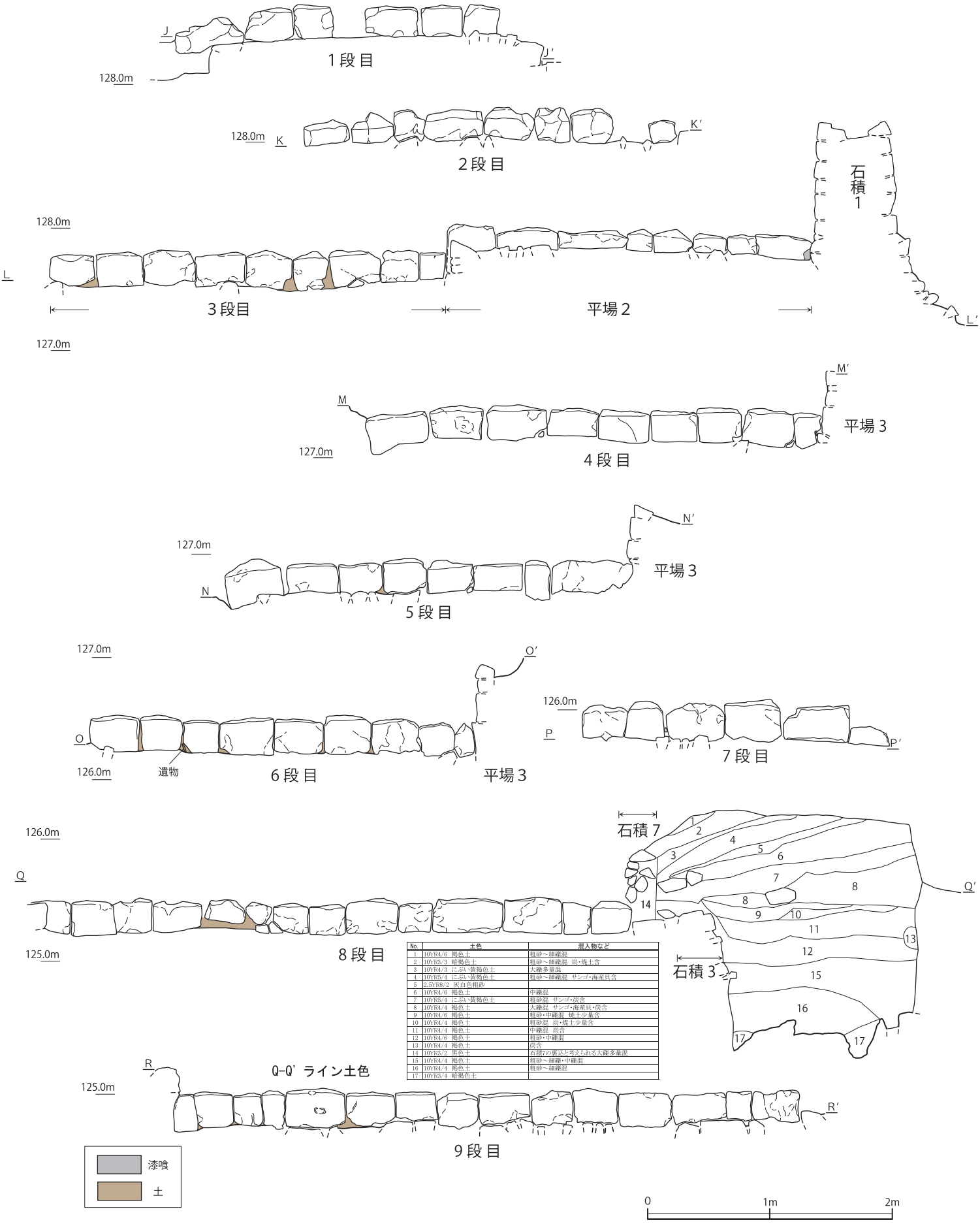
このように、検出された美福門基壇と階段そして連接する平場は基本的に一連のものと考えられ、改変・

第 11 図　継世門北地区全体図



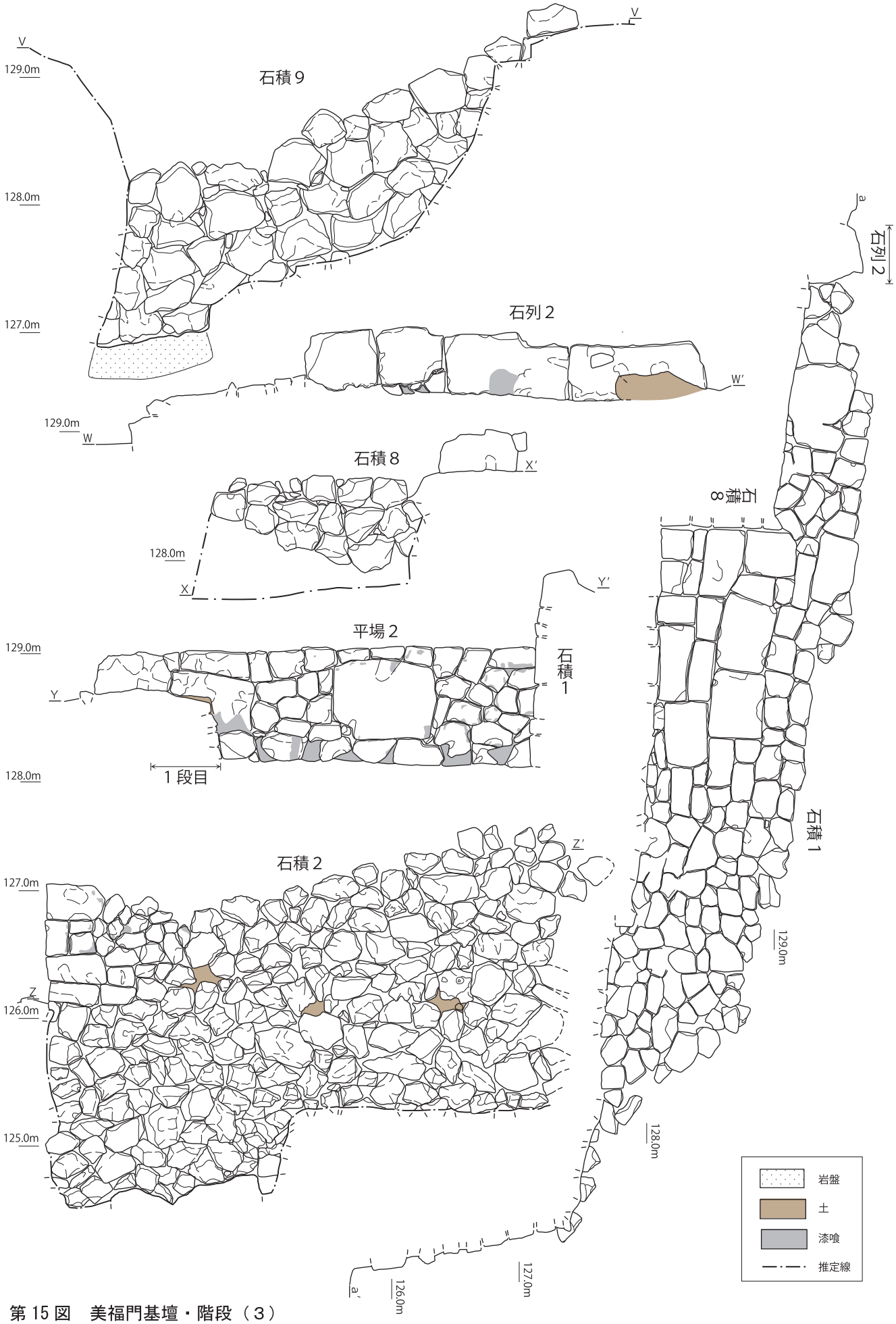
第 12 図　継世門北側ピット群

第13図　美福門基壇・階段（1）



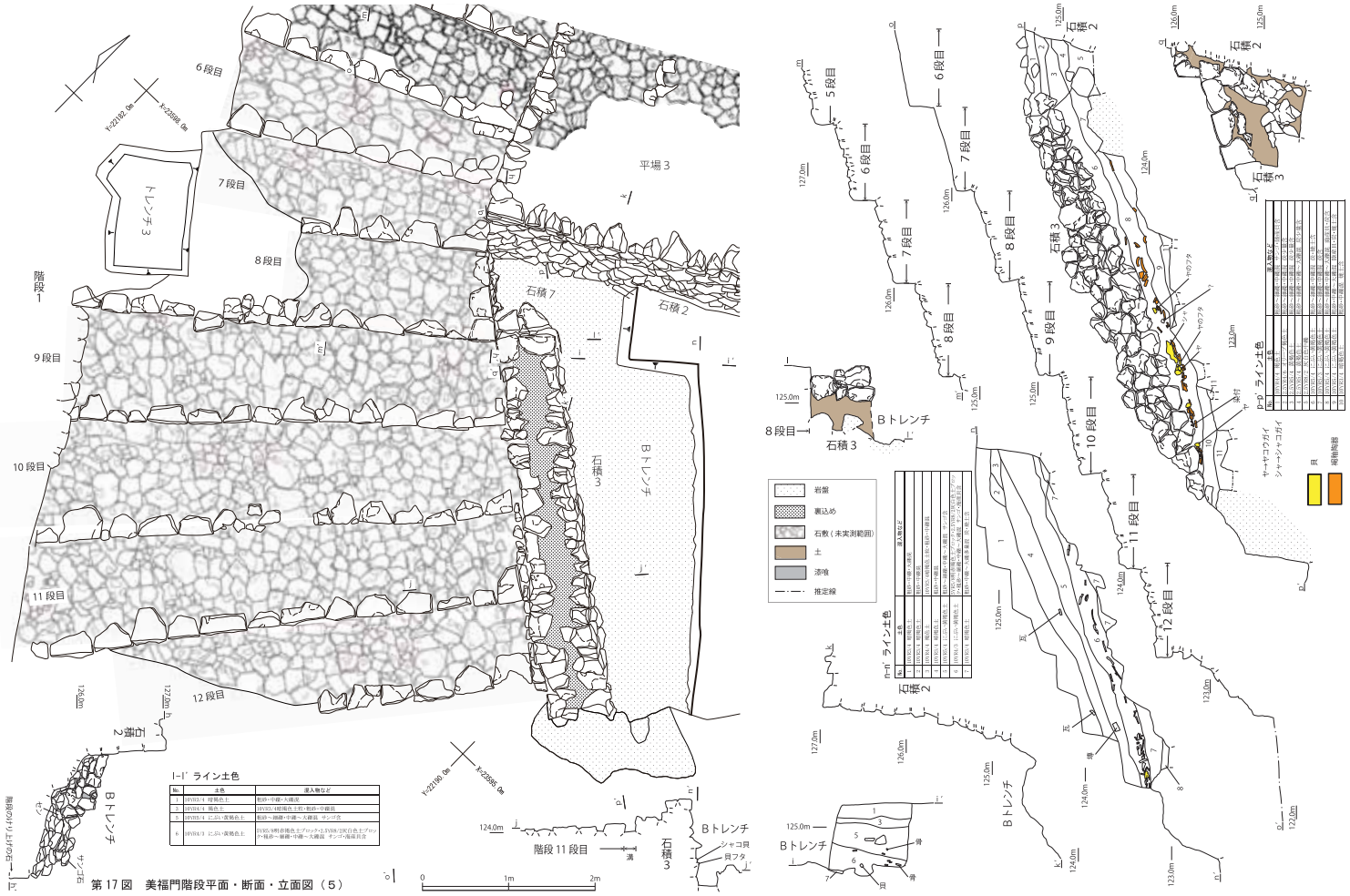
No.	土色	混入物など
1	10YR4/6 褐色土	粗砂～神礫混
2	10YR3/3 暗褐色土	粗砂～神礫混 炭・焼土含
3	10YR4/3 にぶい黄褐色土	大礫多量混
4	10YR5/4 にぶい黄褐色土	粗砂～神礫混 サンゴ・海産貝含
5	2.5YR8/2 灰白色粗砂	
6	10YR4/6 褐色土	中礫混
7	10YR5/4 にぶい黄褐色土	粗砂混 サンゴ・炭含
8	10YR4/4 褐色土	大礫混 サンゴ・海産貝・炭含
9	10YR4/6 褐色土	粗砂・中礫混 焼土少量含
10	10YR4/4 褐色土	粗砂混 炭・焼土少量含
11	10YR4/4 褐色土	中礫混 炭含
12	10YR4/6 褐色土	粗砂・中礫混
13	10YR4/4 褐色土	炭含
14	10YR3/2 黒色土	石積7の裏込と考えられる大礫多量混
15	10YR4/4 褐色土	粗砂～神礫・中礫混
16	10YR4/4 褐色土	粗砂～神礫混
17	10YR3/4 暗褐色土	

第14図　美福門基壇・階段（２）



第 15 図　美福門基壇・階段（３）

第16図　美福門階段平面・断面・立面図（4）



第17図　美福門階段平面・断面・立面図（5）

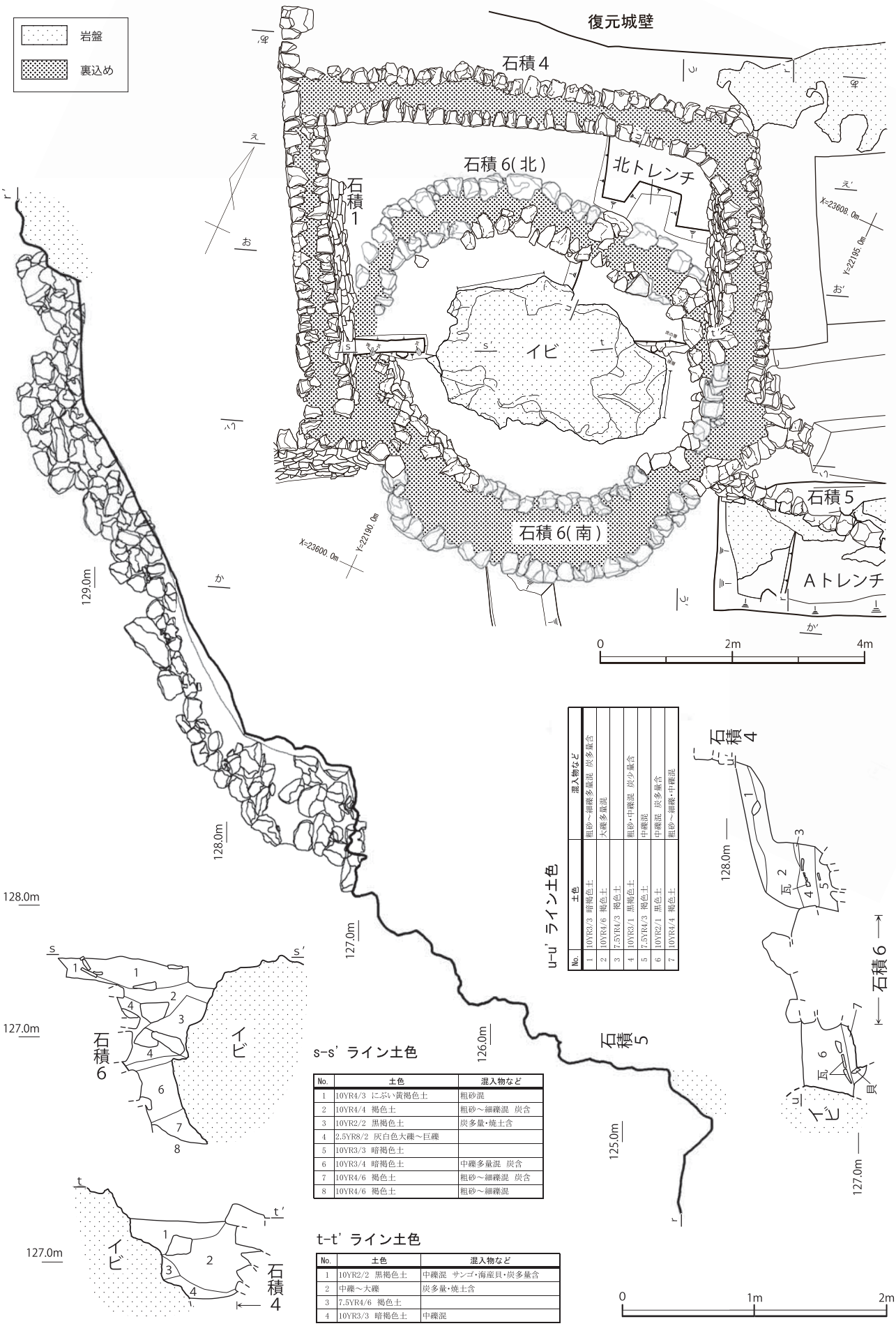
第18図　御嶽（1）

第２表　イビ出土銭貨等位置

掲載遺物番号	種類	位置	X	Y	標高(m)
299,305,307,313	銅	中央北側	23604.667	22191.196	127.483
306,318～322,324,325	金				
301	銅		23604.640	22191.197	127.502
302	銅		23604.675	22191.195	127.515
303,317	銅・金		23604.681	22191.181	127.485
304	銅		23604.683	22191.220	127.482
323	金		23604.659	22191.165	127.488
314	銅		岩盤裏の為、座標なし		
326,327	金	西側	23604.106	22190.969	127.682
328	金	中央	23604.130	22190.985	127.676

※金－銭貨状金製品、銅－銅銭(銭貨)

第19図　御嶽（2）



u-u'ライン土色

No.	土色	混入物など
1	10YR3/3 暗褐色土	粗砂～細礫多量混 炭多量含
2	10YR4/6 褐色土	大礫多量混
3	7.5YR4/3 褐色土	
4	10YR3/1 黒褐色土	粗砂・中礫混 炭少量含
5	7.5YR4/3 褐色土	中礫混
6	10YR2/1 黒色土	中礫混 炭多量含
7	10YR4/4 褐色土	粗砂～細礫・中礫混

s-s'ライン土色

No.	土色	混入物など
1	10YR4/3 にぶい黄褐色土	粗砂混
2	10YR4/4 褐色土	粗砂～細礫混 炭含
3	10YR2/2 黒褐色土	炭多量・焼土含
4	2.5YR8/2 灰白色大礫～巨礫	
5	10YR3/3 暗褐色土	
6	10YR3/4 暗褐色土	中礫多量混 炭含
7	10YR4/6 褐色土	粗砂～細礫混 炭含
8	10YR4/6 褐色土	粗砂～細礫混

t-t'ライン土色

No.	土色	混入物など
1	10YR2/2 黒褐色土	中礫混 サンゴ・海産貝・炭多量含
2	中礫～大礫	炭多量・焼土含
3	7.5YR4/6 褐色土	
4	10YR3/3 暗褐色土	中礫混

第20図　御嶽（3）

修理はあっても一時期に造成されたものと考えられる。その構築時期であるが、第５章でも検討するが階段１の下層堆積土であるⅣ層は 15 世紀代の陶磁器が主体であるが、17 世紀代の遺物も一定量見られることから、現時点では断定しにくい（第 58 図）。

３．御嶽（第 18 ～ 21 図、図版７～９）

御嶽は、美福門階段の東側に隣接する遺構で、イビと称した岩盤の周りをめぐる石積み６と、さらにそれを囲う石積み１・４、石積み６の前面左右に接する石積み２・５で構成されている。

なお、御嶽とは、首里王府が称したとされる聖地の総称である。また、イビは聖地の内奥の神域を指し、その依代として巨石、神木、墓などがある（沖縄タイムス社 1983）。本遺構については、後述するが顕著な加工が見られない岩盤の周囲に石積みで取り囲まれており、銭貨や銭貨状金製品が出土していることから、岩盤がイビに相当するものとして御嶽と呼称した。第２章で述べたように、赤田御門の御嶽と通称されるものに相当すると考えている。

イビは、長さが東西４m、南北２mを測る明確な加工はない岩盤で、高さは暗褐色土が堆積しマージや岩盤が確認できていない部分もあるので下端が不明だが 1.2 m以上見られる。現状を南面から見ると、石積み６の南側が低いため岩盤の頂部が見えるが、本来は巨木などが生い茂っていたことも想定される。岩盤の上面は凹凸が見られるが、そのレベルは 127.5 ～ 127.8 mの間に収まっている。岩盤の中央より西北部の隙間からは、銭貨や銭貨状金製品が出土しており、重ねられた状態のものも見られた（第２表）。

石積み６は、岩盤より 0.6 ～ 1.0 mの間隔をあけてその周囲を巡り、中央に裏込めを介した両面積みとなっている。面石は 10 ～ 30 ｃm前後のほとんど整形されていない礫で積まれた乱雑な野面積みで、裏込めは径 20cm 以下の礫で充填されている。石積みの幅は北側が 0.6 m前後､南側が 1.2 m前後と広くなっている。高さは 0.4 ～ 1.0 mで南側に高く積まれている。東西は、石積み１と４の下に潜り込んでいるので、これらより古いと言える。イビと石積み６の間に堆積していた暗褐色土はⅢ層下部に当り、16 ～ 17 世紀代の陶磁器が出土していた。

石積み１は、美福門階段東側の平場２・３に接した長さ 4.8 m、幅 0.6 mの両面積みの石積みである。面石は 20 ～ 30cm 前後の大きさで、その面は整形されている。平場１側へ向ける西側の面は、方形もしくは長方形の切石も使われているのに対し、東側の面はやや粗い。裏込めは 10cm 以下の中礫が大半である。高さは北側が 1.6 mで、南側に向かって低くなっており、南端は破壊されている可能性もあり 0.4 m となっている。この南端には石積み２の東端の上面に取り付くようになっている。

石積み４は、石積み１の北端より東へ 6.8 m延び、南にほぼ直角に折れて 4.8 mの地点で石積み５に接する両面積みの石積みである。面石は 20 ～ 30cm 前後の大きさで、その面は整形されており、上方は長方形に近い石がおおよそ横方向で積まれているが、下方はやや乱雑である。高さは北側が 1.6 mで 10 段前後の石で詰まれるが、南側につれて低くなり、南端は 0.4 mである。南側へ曲がるコーナーは緩やかに角度をつけながら整形し、全体としてはほぼ直角に曲げている。先述したように、石積み１・４の間の堆積土はⅢ層上部でこれを除去すると、イビと石積み６の上面が確認できた。

石積み２は、平場３の南西端より石積み１の南端までに東西方向に伸びる長さ４m、高さ 2. 4 mの両面積みの石積みである。面石は長さ 10 ～ 30cm の不整形で、面はほとんど整形されてない。石積み６に取り付くようにあり、美福門階段の下に潜り込んでいる（図版６－５）。このことから、石積み２は美福門階段より確実に古く、石積み６よりは新しいものと思われる。

石積み５は、石積み６の東南端から東側へ 6.4 m延びる石積みで、根石は岩盤に置かれており、おそらく南側にしか面を持たない。石は長さ 20 ～ 30cm 前後の不整形で、面は整形していない。その高さは西

第21図　御嶽（4）

側が1.6ｍで８段前後見られるが、その東側はおそらく後世の破壊により１段しか見られない。石積み６に取り付くように見られるので、おそらくこれよりは古い。

以上のことから、御嶽においてイビを巡る石積み６が美福門階段より古いことは確かであるが、階段の構築が15～17世紀の間で絞りきれないため、御嶽としての使用開始時期も確定は出来ない。しかしながら、第５章でも後述するように、イビ周辺のⅢ層下部の遺物では青磁Ｖ類が一定量見られるので、15世紀前半に遡る可能性もある。石積み６の前面に取り付く石積み２や石積み５は美福門階段より古いと考えられる。一方、石積み１と４は石積み６の東西よりも新しく、その構築時期はその覆土であるⅢ層から17～18世紀代の可能性が考えられる。しかし、第２章で述べたように、石積み１と４に相当する遺構は、18世紀初頭作成「首里古地図」（第５図）には見られず、明治初期作成「沖縄県首里旧城図」（第６図）に見られるということから、18世紀後半～19世紀前半の可能性も考えうる。

いずれにせよ、今回確認できた赤田御門の御嶽は、何回かの変遷を経たことは確実であり、その初源は15世紀代に遡る可能性も考えられよう。

第４節　遺物

遺物の種類としては、中国・タイ・本土産の各陶磁器、沖縄産陶器、近代陶磁器、土器等陶磁器類 10,368 点、瓦、塼、金属・骨・貝・石等の製品等 5,303 点、合計 15,671 点が出土している（第 57 表）。その他に、漆膜（図版９－５）、食糧残滓と思われる貝類遺体、脊椎動物遺体が出土している。以下、種類ごとにその概要と分類について、図面や写真を掲載したものを中心に説明する。なお、個別の詳細は観察表（第 41 ～ 56 表）を参照のこと。

１．中国産陶磁器

中国産陶磁器には、主体的なものとして青磁・白磁・青花・褐釉陶器、少数なものとしては色絵・瑠璃釉などが見られる。以下、種類ごとに説明する。

1）青磁　（第 22 図・図版 10・11　1 ～ 16）

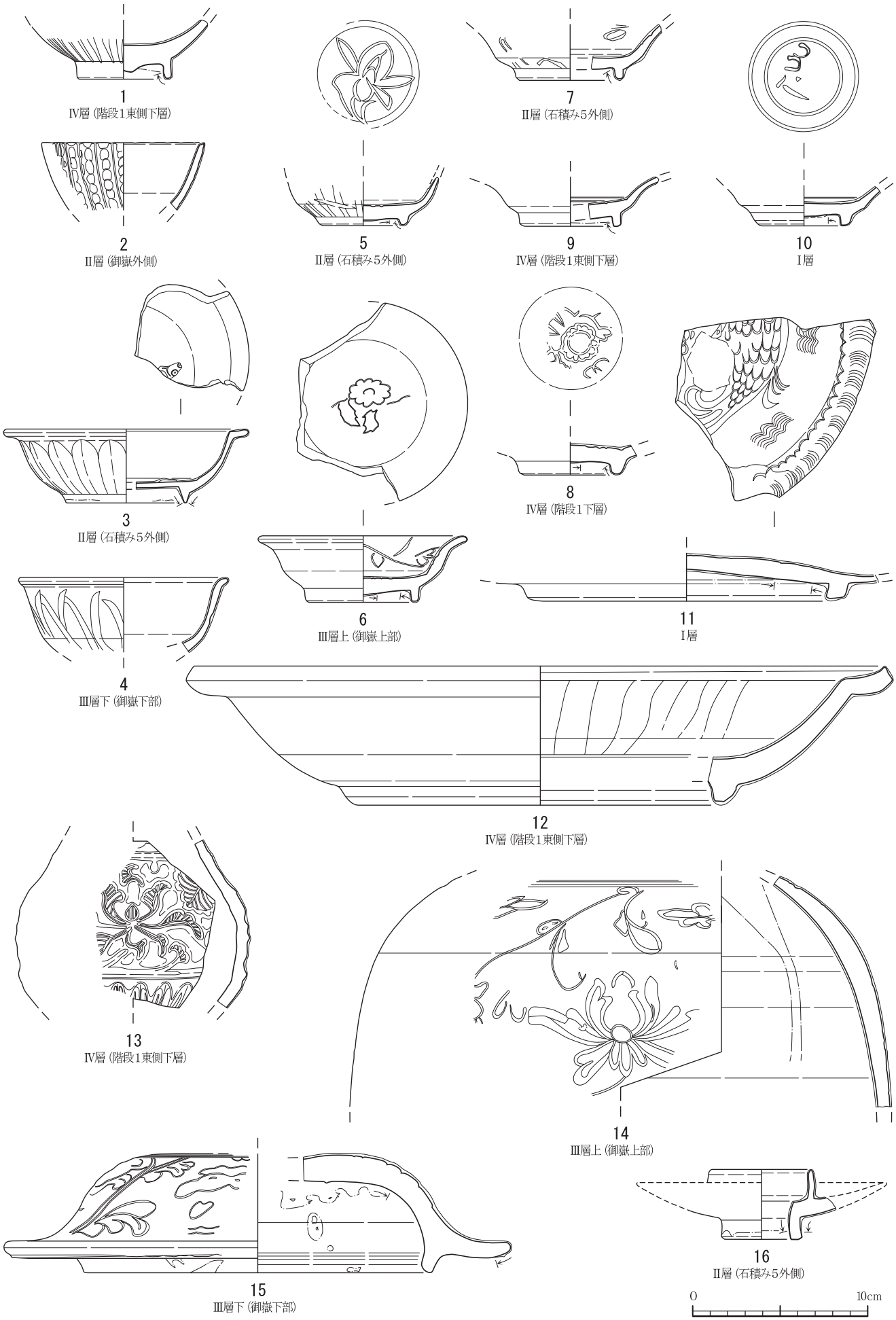
総破片 1,758 点を数える（第３・４表）。碗・皿については、分類記号は（瀬戸・仁王・玉城・宮城・安座間・松原 2007・瀬戸 2015 a）に基づいている。また掲載したものの釉について、（A）を釉が厚く緑色が強いもので龍泉窯の中心である大窯等、（B）を釉が薄く青みもしくは灰掛かるもので龍泉窯でも周辺地で

第３表　中国産青磁集計表（１）

合計／点数			継世門北											書院南	小計	中計	総計
			Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層					
器形	分類	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	Dトレンチ	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層				
碗	–	口縁部	2		1							1	1		5	19	915
		胴部	5		1		4			2	1		1		14		
	Ⅱ	口縁部	1												1	2	
		底部	1												1		
	Ⅲ-1	底部	1				1								2	2	
	Ⅳ	口縁部	9	1	2		7		1	2		2	6		30	85	
		底部	2						2			2	2		8		
		胴部	14	1	4	1	13		1	1		1	10		46		
	Ⅳ-2	口縁部							1						1		
	Ⅳ'	底部	3		1		2		0	1			2		9	105	
		胴部	11		6		12		3	2		5	15	1	55		
	Ⅳ' 玉縁	口縁部	7		6		12		3	5		4	4		41		
	Ⅴ	底部	15	2	2		7					2	5	1	34	596	
		胴部	102	6	15	1	58		10	10	1	26	30	2	261		
	Ⅴ-0	口縁部	14		3		1		1			7	10		36		
	Ⅴ-0外反	口縁部	24		2		9		1	2		2	7	1	48		
		胴部	2				2								4		
	Ⅴ-0直口	口縁部					1								1		
	Ⅴ-1	口縁部	5		3		2					3	4		17		
		底部	2				2			1			2		7		
		胴部	18	3	1		7		3			3	11		46		
	Ⅴ-2	口縁部	18			1	9		3	2		6	6	1	46		
		底部	4		1		1			1					7		
		胴部	28	3	3	1	10	1	1	4	1	6	13		71		
	Ⅴ-3	口縁部	2				2			1					5		
		底部	1												1		
		胴部	2									1			3		
	Ⅴ-3外反	胴部	3		1		2		1			1	1		9		
	Ⅵ	口縁部			1										1	92	
		胴部					1								1		
	Ⅵ-0	口縁部	3		2		6		1				1		13		
	Ⅵ-1	口縁部	2		1		3					2	21		29		
		底部				1							1		2		
		胴部	8	1	3		7		1	1		3	22		46		
	Ⅶ-0	口縁部	3										2		5	13	
	Ⅶ-1	口縁部			1		1			1					3		
		胴部					1								1		
	Ⅶ-2	口縁部			1					1			2		4		
	産地不明	口縁部					1								1	1	
小碗	–	口縁部	1												1	3	
	A	底部											1		1		
	B	底部			1										1		
東口碗	Ⅳ	底部	1												1	1	

第４表　中国産青磁集計表（２）

合計／点数			継世門北											書院南	小計	中計	総計
			Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層					
器形	分類	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	Dトレンチ	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層				
皿	Ⅲ'-1	口縁部					2								2	8	328
		底部					1								1		
		胴部	1												1		
	Ⅲ-0	底部	1												1		
	Ⅲ-1	口～底部					1								1		
		胴部	1				1								2		
	Ⅳ'	口縁部	3						1	3					7	34	
		底部	16	1	1	2	6								26		
		胴部											1		1		
	Ⅴ	底部	15		2		7		1	2		2	6		35	280	
		胴部	5			1	3		2			3	3		17		
	Ⅴ-0	底部										1			1		
	Ⅴ-0外反	口～底部							1						1		
		口縁部	24		1		21		5	6		6	11		74		
		底部	2		1		5								8		
		胴部	9				4		1				1		15		
	Ⅴ-0腰折	胴部	1												1		
	Ⅴ-0直口	口縁部	5				2				1				8		
		底部	3				2					1			6		
	Ⅴ-1	口縁部								1					1		
		底部	4				1			1					6		
		胴部	3				1					1			5		
	Ⅴ-1口折	口縁部	15	1	4		7		2			2	1		32		
		底部					1								1		
		胴部	9	1		1	2						1		14		
	Ⅴ-1直口	口縁部	5				5		2						12		
		胴部		1											1		
	Ⅴ-2	口縁部	1				3		1						5		
	Ⅴ-3	口縁部	1												1		
	Ⅴ-3外反	胴部	4		1		2						1		8		
	Ⅴ-3腰折	口縁部	1				1								2		
		底部					1						1		2		
		胴部	3				1			1		1	1		7		
	Ⅴ-3稜花	口縁部	4		1	1	1		1			1	8		17		
	Ⅵ-0	底部	1										1		2	6	
	Ⅵ-0直口	口縁部	1						1	1			1		4		
盤	–	底部	11	1	3		5		2	1			2		25	133	
		胴部	4	1	1		1			1		3			11		
	A	胴部	9	2	3	1	6			1		4	7		33		
	A-1	口～底部											1		1		
		口縁部	15	2			3		1	3		5	8		37		
	A-2	口縁部	5				1						4		10		
	A-3	口縁部	7		1		2			1					11		
	B	口縁部	1		1								1		3		
		胴部	1				1								2		
水盤	–	口縁部	1												1	1	
瓶	–	口縁部	3				1					1			5	21	
		底部	1												1		
		胴部	6		1		3		1			2	2		15		
壷	–	底部	1		1		1						1		4	111	
		胴部	20	1	2	1	6		1	1		1	3		36		
	A	口縁部	1				1								2		
		胴部	27	2	1		12		2	2		5			51		
	B	口縁部	3										1		4		
		胴部	10				4								14		
酒海壷の蓋	–	口縁部								1					1	1	
壷の蓋	–	蓋甲	1				1		1	1			1		5	17	
		口縁部	4		2		3			2			1		12		
鉢	–	口縁部											1		1	32	
		胴部	17		1		5	1	1			1	5		31		
擂鉢	–	口縁部					1								1	2	
		胴部					1								1		
香炉	–	口縁部			1		1								2	2	
天目台	–	口～底部					1								1	2	
		口縁部								1					1		
器台	–	口縁部										1			1	4	
		胴部	1				1					1			3		
器種不明	–	口縁部	1						1	1	1	1			5	185	
		底部								1		1	1		3		
		胴部	58	11	2	5	17		7	3	3	20	49	1	176		
		把手							1						1		
小計			660	41	93	17	343	1	69	72	5	141	305	7	1758		
総計			701		455				69	80		446		7			


1
Ⅳ層（階段1東側下層）
7
Ⅱ層（石積み5外側）
2
Ⅱ層（御嶽外側）
5
Ⅱ層（石積み5外側）
9
Ⅳ層（階段1東側下層）
10
Ⅰ層
3
Ⅱ層（石積み5外側）
8
Ⅳ層（階段1下層）
6
Ⅲ層上（御嶽上部）
11
Ⅰ層
4
Ⅲ層下（御嶽下部）
12
Ⅳ層（階段1東側下層）
13
Ⅳ層（階段1東側下層）
14
Ⅲ層上（御嶽上部）
15
Ⅲ層下（御嶽下部）
16
Ⅱ層（石積み5外側）
0
10cm

第 22 図　中国産青磁

生産されたと考えられるものとして細分した（瀬戸 2015 b）。以下、器形ごとにその特徴を説明する。

碗（1・2） Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅳ´・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ類が出土しており、量的には 915 点中、Ⅴ類 596 点（65％）が最も多く、以下Ⅳ´類 105 点（12％）、Ⅵ類 92 点（10％）、Ⅳ類 85 点（９％）の順で目立つ。Ⅳ類は、新安沈船資料よりも後出する新相タイプである（瀬戸 2015 a）。掲載したものは共にⅥ類である。（2）は、細蓮弁状の区画に縦位の円文を連続で浮き彫りにしたもので、あまり例を見ない。

小碗 掲載していないが、口径 10 ｃm以下のもので、Ａ高台、Ｂ碁笥底のものがある。

皿（3～10） Ⅲ・Ⅲ´・Ⅳ´・Ⅴ・Ⅵ・Ⅵ類が出土しており、量的には 328 点中、Ⅴ類 280 点（85％）と圧倒的に多い。（3）はⅢ－１類で釉･胎土とも良好で、これまでの首里城跡の調査でも多くはない。他は、Ⅴ類（4～8）、Ⅵ類（9・10）である。

盤（11･12） 形態で次のように分類した。Ａは鍔縁口縁で３細分でき、１端部を摘み上げ（12）、２稜花、３平縁である。Ａ－３は新安沈船資料を含むⅣ類に相当する。Ｂは内湾するタイプで、（11）の底部が該当する可能性がある。

瓶（13） 貼付花弁文を施したいわゆる玉壺春瓶だと思われる。

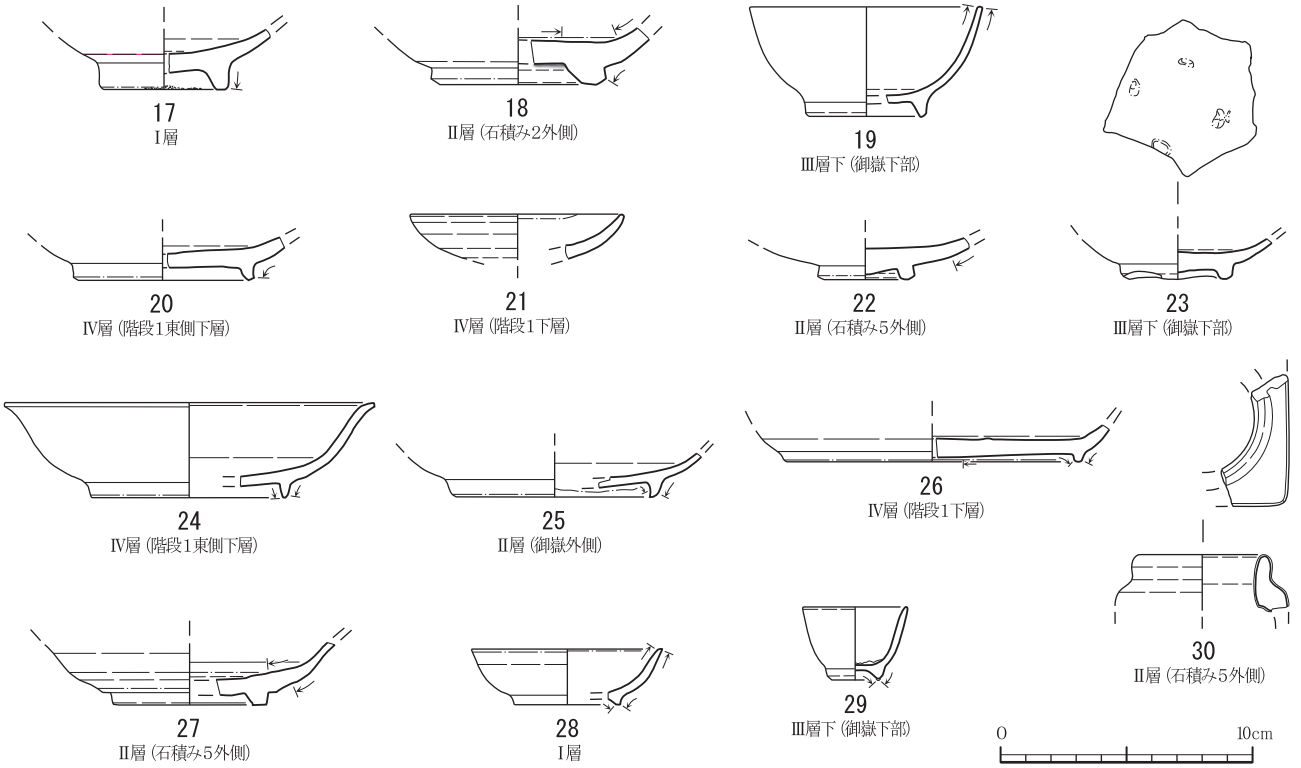
壺（14･15） ２タイプあり、Ａは短胴のいわゆる酒海壺、Ｂは長胴（14）がある。（15）はＡの蓋である。

天目台（16） 釉の発色が良好である。

２）白磁（第 23 図・図版 11 17～30）

303 点を数える（第５表）。景徳鎮窯系・福建産のものは、森田（森田 1982）、大宰府 (太宰府市 2000)、田中克子（2003）、新垣力（2005）、徳化窯系のものは陳（1999）の各研究を参考に分類を行った。以下、産地ごとに記述し、（瀬戸・玉城・仁王・宮城・安座間・松原 2007）の分類記号があるものはこれを付した。

景徳鎮窯系 碗・皿・瓶・蓋が出土している。（17）は碗Ｅ０群、（20）はＥ０群の外反皿、（24～26）はＥ群だが（26）は見込みに円圏があるあまり見られないものである。



第 23 図 中国産白磁

第５表　中国産白磁集計表

合計／点数				継世門北										書院南	小計	総計
				Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層				
産地	器形	分類	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層			
景德鎮	碗	–	口縁部					1				1	1		3	60
			底部	2					1						3	
			胴部				1	1	1						3	
		E	口縁部	2								3	4		9	
			胴部	1											1	
		EO	底部	3			1								4	
			胴部	1											1	
	皿	E	口～底部										1		1	
			底部			2						1	1		4	
		E－外反	口縁部	2		1		2					2		7	
			胴部	1				1							2	
		E－直口	口縁部					1					1		2	
		EO	底部	4			1						1		6	
			胴部	4				2				1	1		8	
	瓶	–	口縁部			1									1	
	蓋	–	口縁部			1									1	
	不明	–	底部										1		1	
			胴部				1	1				1			3	
福建	碗	–	口縁部	3		3	1	3	2			2	1		15	62
			底部				1								1	
			胴部	3			1	1		2					7	
		C2	底部					1							1	
		C3	口縁部					2		1					3	
			底部	1											1	
			胴部					1				1			2	
	小碗	D	口縁部						1			1			2	
	皿	–	底部					1							1	
			胴部					1		1					2	
		D	口縁部	1		3						10	1		15	
			底部	4	1		2	2		1					10	
			胴部	1											1	
	器台？	–	口縁部					1							1	
德化	碗	–	口縁部	4				5		6			3		18	29
	小碗	–	口～底部							1					1	
			口縁部					1							1	
			底部	3						1					4	
	皿	–	口～底部	1											1	
			口縁部			1									1	
	小杯	–	底部	2				1							3	
不明	碗	–	口縁部					1							1	152
			底部					1							1	
			胴部	1											1	
	皿	–	口縁部	2											2	
			底部					1							1	
			胴部	1											1	
	杯	–	口縁部							2					2	
	碗・皿・小杯	–	口縁部	6		4	1	5		9		1			26	
			胴部	42		7	6	23	4	13	2	2	10	3	112	
	瓶	–	胴部			1	1								2	
	不明	–	口縁部							3					3	
小計				95	1	24	17	60	9	40	2	24	28	3	303	
総計				96		101			9	42		52		3		

福建産　碗はＣ２・Ｃ３・Ｄ群が出土しており、掲載した（18）はそれら以外で、見込みが釉剥ぎされた厚い高台をもつ。皿は、（21 ～ 23）はＤ群、（27）は外反皿と思われる。（30）は、胴部が方形であり、器台の上半部と思われる。

徳化窯系　清代のもので、小杯（29）を掲載した。

３）青花　（第 24･25 図・図版 12 ～ 14　31 ～ 66）

1,651 点を数える（第６・７表）。元様式、明代、清代に分けられる。

元様式　亀井明徳らの研究（2009・2010）に基づく概念で、明代早期にも作られている可能性がある。

８点出土しており、盤（60）、壺（61・62）を掲載した。

明代　296 点出土している。産地は大半が景徳鎮窯だが、漳州窯系もある

景徳鎮窯系　日本出土の青花の碗・皿については、小野正敏（小野 1982）によって確立されているが、近年の資料増加に伴い、森毅（森毅 1995・2005）、森達也（森達也 2009）、柴田圭子（柴田 2011）により追補されている。小野分類のＢ～Ｅ群より新しいと考えられるものは、便宜的にＸ群とした。

碗（31 ～ 35）　分類できたものとして、Ｂ群 34 点、Ｄ群６点、Ｅ群１点、Ｘ群 17 点が出土している。（31 ～ 35）はＸ群で、ペンシルドーイング・ダミ塗りによる文様、器形は緩やかに内湾し、器壁が薄く高台が細いなどの共通点が見られる。

皿（49 ～ 54）　分類できたものとして、Ｂ群 12 点、Ｃ群４点、Ｘ群 74 点がある。掲載したものは（49）がＣ群、（50）がＢ群、（51 ～ 54）はＸ群である。

第６表　中国産青花集計表（１）

合計 / 点数					継世門北											書院南	小計	総計
					Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層				
時代	産地	器形	細分類	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	Dトレンチ	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層			
元様式	景徳鎮	盤	–	口縁部	1												1	8
				底部	1				1						1		3	
		杯	–	胴部	2												2	
		壷	–	口縁部	1												1	
				胴部					1								1	
明代	景徳鎮	碗	B	口縁部	2						2	1		4	7		16	279
				底部	2				1		1					1	5	
				胴部	4		2		2					2	3		13	
			D	口縁部	1			1	2								4	
				底部											1		1	
				胴部			1										1	
			E	底部					1								1	
			X	口～底部			1										1	
				口縁部	3		2		3		1	2		1			12	
				底部	2		1										3	
				胴部					1								1	
			–	口縁部	2							1		1	1		5	
				底部	14	2			2			1		1	4		24	
				胴部	5				1		1	1			1		9	
		小碗	X	口縁部					2								2	
				底部					1								1	
		皿	B	口～底部					1		1						2	
				口縁部				1	1								2	
				底部	3		2					1			2		8	
			C	口縁部			2		1								3	
				底部			1										1	
			X	口～底部	2		1				1	1	1				6	
				口縁部	4		7		3		10	7	2				33	
				底部	1		3	1	6		5	10	1		1		28	
				胴部	2		4					1					7	
			–	底部					2								2	
				胴部	3		1		1		5	4			1		15	
		小杯	–	口～底部			2										2	
				口縁部	1		1	1							1	2	6	
				底部	1									1			2	
				胴部	1		2		1					1			5	
		盤	–	底部										1			1	
		杯	–	口縁部					1								1	
				底部	1												1	
		瓶	–	口縁部	1										3		4	
				底部	2										2		4	
				胴部	11		1		8		1			2	5		28	
		瓶の蓋	–	口縁部			1										1	
		壷	–	底部					1								1	
				胴部	6	1	1		3		1						12	
		香炉	–	足					1								1	
		水注	–	注口			1										1	
	景徳鎮？	瓶	–	口縁部											1		1	
		壷	–	口～底部								1					1	
		蓋	–	口縁部	1												1	
明代末清初	漳州	碗	–	口縁部	2		2	2	3	1	1	1					12	17
				底部	1		1		1								3	
				胴部			1										1	
	漳州？	碗	–	口～底部			1										1	

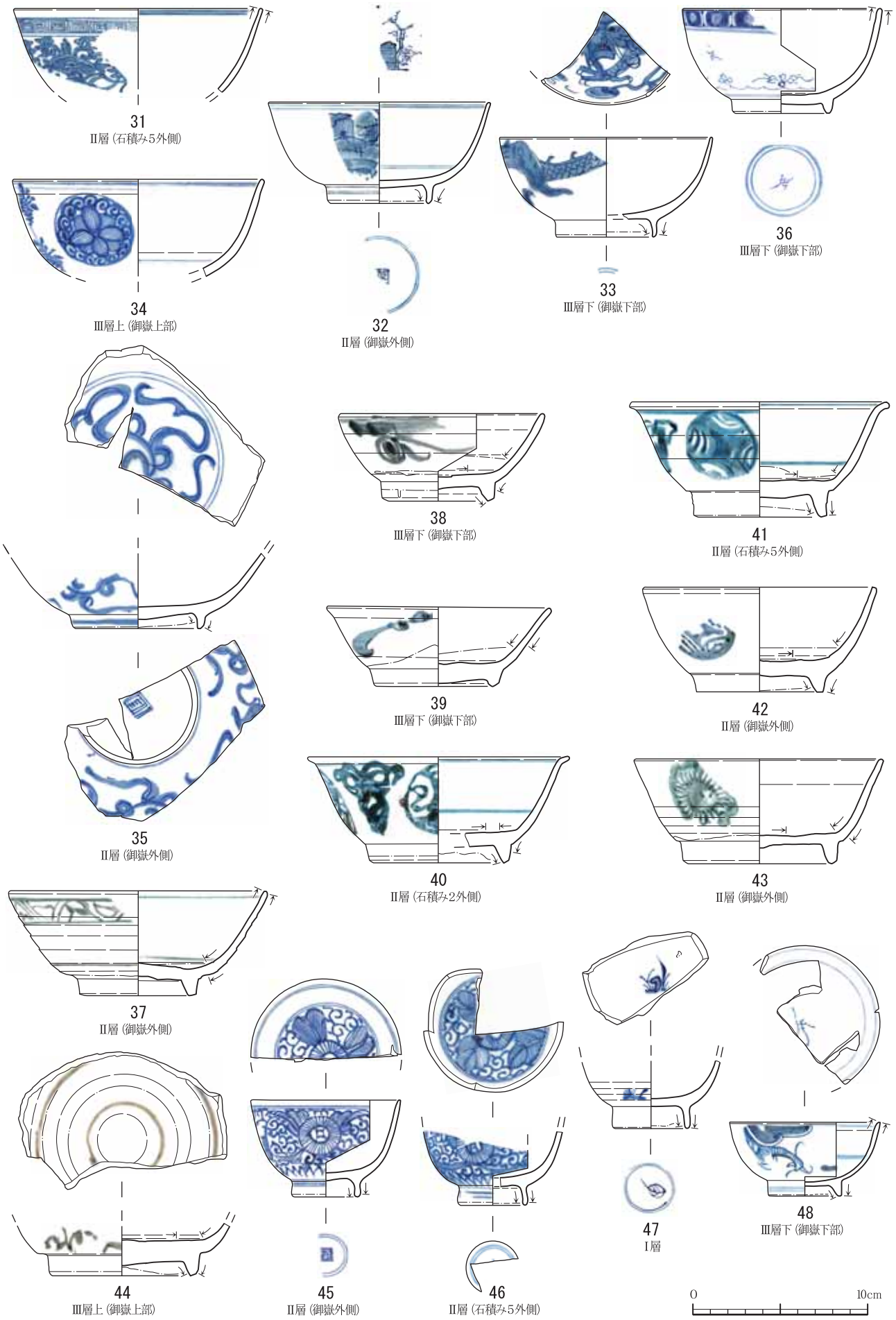
その他、（55）は時期的に群に相当すると思われる小杯（55）、玉壺春瓶と思われる（59）、蓋（63・64）、精巧な蔓唐草文が描かれる水注の注口（65）、獣足形の香炉（66）がある。

第７表　中国産青花集計表（２）

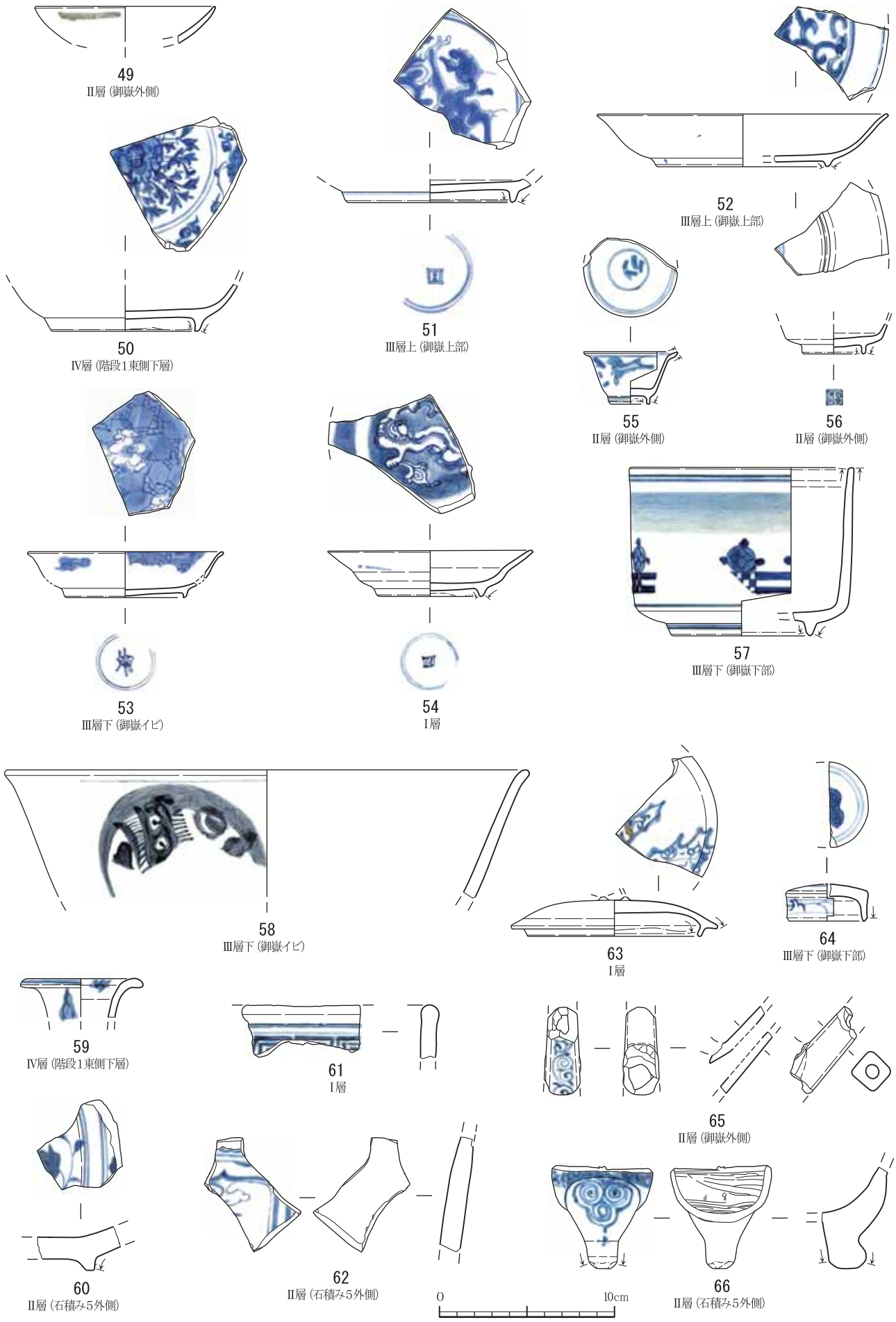
合計 / 点数					継世門北											書院南	小計	総計
					Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層				
時代	産地	器形	細分類	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	Dトレンチ	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層			
清代	福建・広東	碗	A	口～底部	1		3		1			3					8	1314
				口縁部	38		17	1	51	1	6	13	1		4		132	
				底部	1				3								4	
				胴部	22		13		31		3	7				1	77	
			B	口～底部	2		4	1	5		1	2					15	
				口縁部	46		32	15	60		12	8			10		183	
				底部	4		4		12		1	3					24	
			－	口縁部	4	2	4	3	13	2	4	4			2		38	
				底部	14	1	3	3	11	1		3			4		40	
				胴部	27		11		22		2	3	1		2		68	
		小碗	A	口縁部	1				2								3	
			B	口縁部	3		3		1		1						8	
		鉢	－	口縁部	3		1		1				2				7	
				胴部	8				1	1		6		1			17	
	徳化	碗	－	口～底部								1					1	
				口縁部	6	1	4		1		4	6					22	
				底部	6	1			1			4					12	
				胴部	7		1				1	3					12	
		小碗	－	口縁部	12		2		6		5	11	1			1	38	
				底部	7				1			1					9	
				胴部	1				1			2					4	
		皿	－	口～底部								1					1	
				口縁部	4						2	3			1		10	
				底部	3		1		2			2			1		9	
				胴部	1				1								2	
	景徳鎮／徳化	碗	－	口～底部								1					1	
				口縁部	36	4	20	3	22		19	14	1	2	15	3	139	
				底部	18		2		4		3	6			2		35	
				胴部	136	7	30	4	42	2	25	43	3	15	39	6	352	
		皿	－	口縁部	2										1		3	
				底部	1				1								2	
				胴部	2	1	1		1								5	
		杯	－	底部	1												1	
				胴部								1					1	
		小杯	－	口縁部	3	1	1		1						1	1	8	
				底部	1							2				1	4	
				胴部	2		1				1	1			1		6	
		瓶	－	胴部	3				1					2	2		8	
		壷	－	口縁部	1												1	
	景徳鎮	碗	－	口～底部			1		1								2	
	景徳鎮？	杯	－	口～底部								1					1	
				底部			1										1	
不明		器形不明	－	胴部	11	1	3		7	1	2	1		3	4		33	33
小計					521	22	205	36	359	9	122	188	13	37	123	16	1651	
総計					543		609				122	201		160		16		

第８表　中国産褐釉陶器集計表

合計 / 点数		継世門北									書院南	小計	総計
		Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層				
器種	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	御嶽上部	御嶽下部	階段1下層	階段1東側下層			
壷	口縁部	29	2	11	3	19	7	12	16	94		193	343
	耳		1	2		1		1				5	
	底部	31	1	3	4	17	7	17	6	55	1	142	
	胴部＋耳	1										1	
	胴部									2		2	
小壷	口～底部					1						1	3
	口縁部						1			1		2	
鉢	口～底部					2						2	6
	口縁部					1				1		2	
	底部					2						2	
植木鉢	口縁部					1						1	1
擂鉢	底部					1						1	1
水注	口縁部							1				1	1
不明	底部									1		1	1
小計		61	4	16	7	45	15	31	22	154	1	356	
総計		65		68			15	31	176		1		


31
Ⅱ層（石積み5外側）
32
Ⅱ層（御嶽外側）
33
Ⅲ層下（御嶽下部）
34
Ⅲ層上（御嶽上部）
36
Ⅲ層下（御嶽下部）
35
Ⅱ層（御嶽外側）
38
Ⅲ層下（御嶽下部）
39
Ⅲ層下（御嶽下部）
40
Ⅱ層（石積み2外側）
41
Ⅱ層（石積み5外側）
42
Ⅱ層（御嶽外側）
43
Ⅱ層（御嶽外側）
37
Ⅱ層（御嶽外側）
44
Ⅲ層上（御嶽上部）
45
Ⅱ層（御嶽外側）
46
Ⅱ層（石積み5外側）
47
Ⅰ層
48
Ⅲ層下（御嶽下部）
0
10cm

第 24 図　中国産青花（１）


49
Ⅱ層（御嶽外側）
50
Ⅳ層（階段1東側下層）
51
Ⅲ層上（御嶽上部）
52
Ⅲ層上（御嶽上部）
53
Ⅲ層下（御嶽イビ）
54
Ⅰ層
55
Ⅱ層（御嶽外側）
56
Ⅱ層（御嶽外側）
57
Ⅲ層下（御嶽下部）
58
Ⅲ層下（御嶽イビ）
59
Ⅳ層（階段1東側下層）
60
Ⅱ層（石積み5外側）
61
Ⅰ層
62
Ⅱ層（石積み5外側）
63
Ⅰ層
64
Ⅲ層下（御嶽下部）
65
Ⅱ層（御嶽外側）
66
Ⅱ層（石積み5外側）
0
10cm

第 25 図　中国産青花（２）

漳州窯系　福建省漳州窯周辺で生産されたと考えられ、景徳鎮窯系と比べると胎土が軟質で釉・呉須が鈍いものが多い（福建博物館 1997）。碗（37）を掲載した。

清代　景徳鎮窯系、徳化窯系、窯は限定できないが福建・広東系のものがあり、1,314 点出土している。なお、景徳鎮窯系と徳化窯系の一部は区別が難しく、景徳鎮／徳化窯系としてまとめたものもある。

景徳鎮窯系　碗（45 ～ 47）、杯（56・57）がある。細い高台が特徴といえる。

福建・広東系　胴部下半や底部が露胎する一群である。

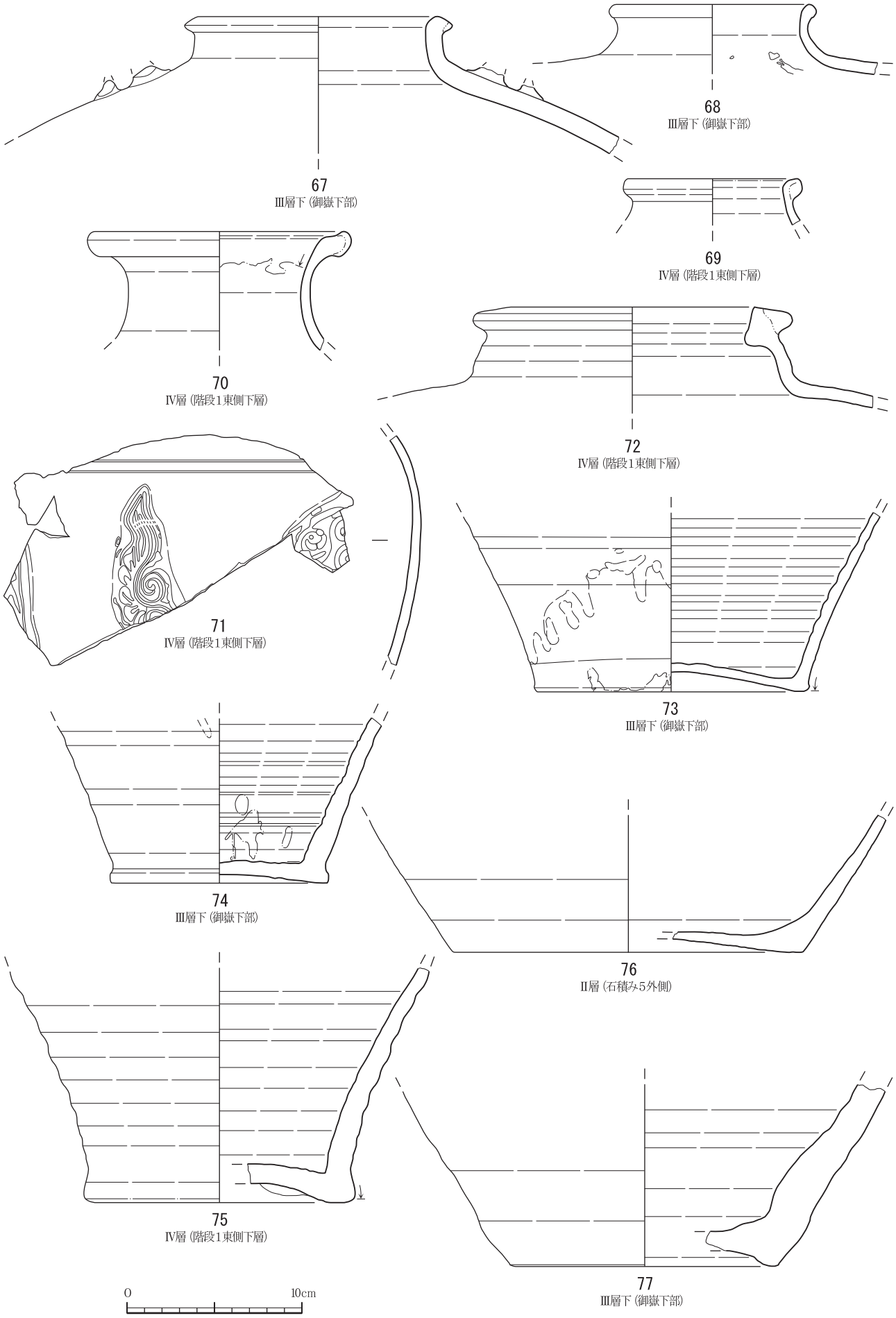
碗（38 ～ 44）　A 類（38・39）を草花文、B 類（40 ～ 43）を円文とした。（44）は底部のみである。

鉢（58）　碗 B 類に相当する文様が描かれる。

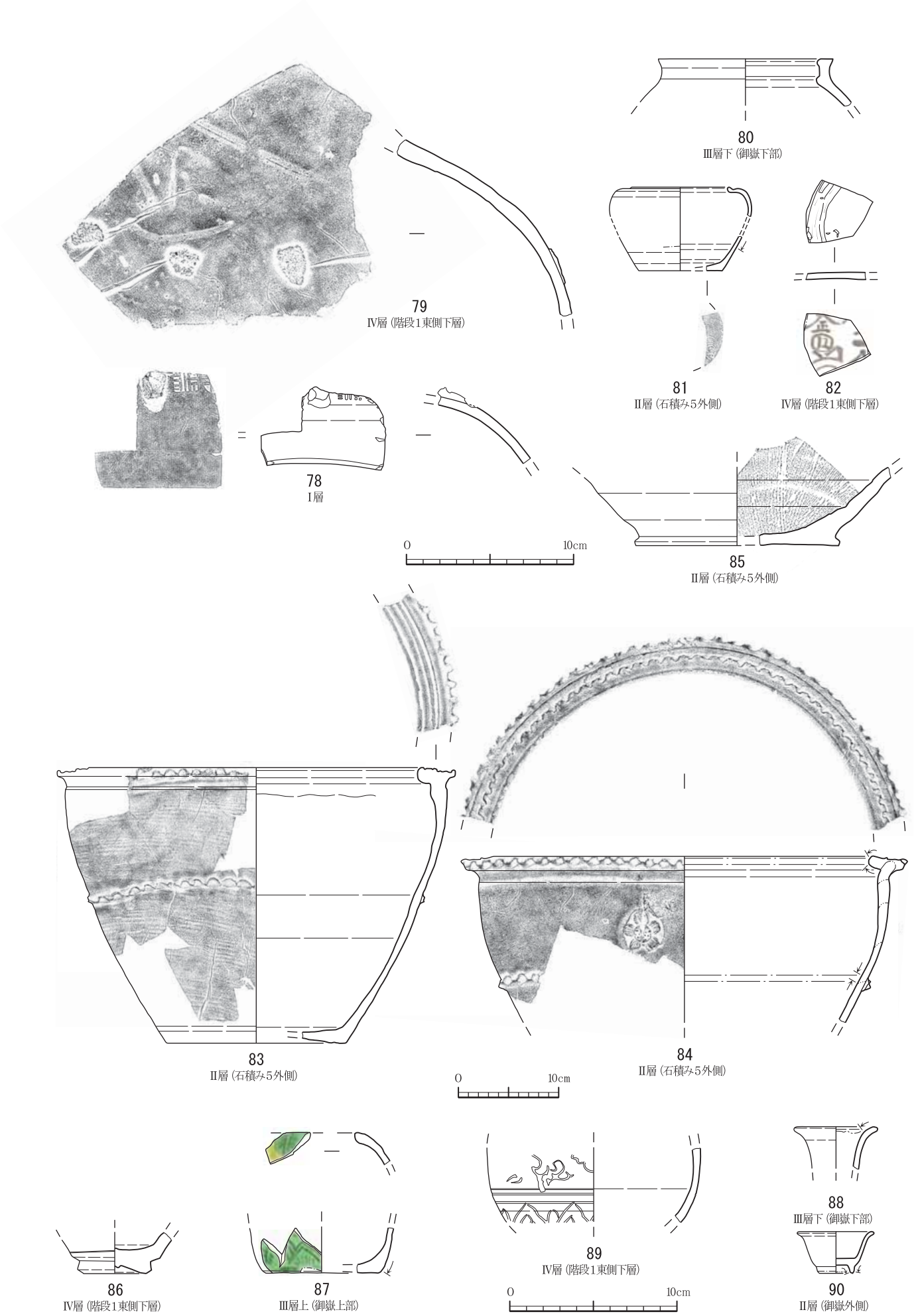
徳化窯系　胎土は白く、透明釉で光沢が強いことが特徴である。（48）は厚く三角形の高台をもつ碗である。

第９表　中国産その他の陶磁器集計表

合計 / 点数			継世門北									書院南	小計	総計
			Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層				
種類	器形	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2 外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部	階段1 下層	階段1 東側下層			
色絵	碗	口縁部	1					1					2	27
		底部	2										2	
		胴部	9				2				3		14	
	小碗	口縁部	1										1	
	皿	底部	2						1				3	
		胴部									1		1	
	小杯	口縁部					1						1	
	壷	胴部					1						1	
	小壷	口縁部	1										1	
	器種不明	胴部								1			1	
鉄絵	壷	胴部					1						1	1
瑠璃釉	碗	口縁部	1										1	15
		胴部	2		1								3	
	小碗	口縁部	1					1					2	
		底部			1		1						2	
	壷	胴部	3				1						4	
	香炉	底部			1								1	
	器種不明	胴部	1				1						2	
銅緑釉	壷	口縁部							1				1	18
		胴部	4		1	1	2	2	2				12	
	壷の蓋	蓋甲	1		1								2	
		庇	1						2				3	
緑釉	碗	口縁部			1								1	10
	盤	口縁部	2										2	
		胴部	1										1	
	瓶	口縁部									1		1	
	鉢	胴部	2										2	
	水注	胴部					1						1	
	器種不明	胴部	1		1								2	
紫釉	碗	胴部	1										1	2
	瓶	胴部									1		1	
翡翠釉	皿	底部	1										1	4
		胴部			1								1	
	瓶	口縁部					1						1	
		胴部					1						1	
翡翠釉磁器？	瓶	口縁部							1				1	1
褐釉磁器	碗	口縁部									1		1	3
	小杯	口～底部			2								2	
褐釉染付	小碗	底部	1										1	1
三彩	水注	口～底部						1					1	21
		口縁部							1				1	
		胴部	6						11		2		19	
法花	鉢	口縁部			1						1		2	5
	壷	胴部	1										1	
	器種不明	胴部	1						1				2	
中国産黒釉	天目碗	口縁部	3		3		3	1	2		1		13	79
		底部	4	1			1	2	1	2	3		14	
		胴部	21		2		12	6	3	7	1		52	
宜興窯	急須	口縁部	2					1	1				4	13
		注口	1										1	
		胴部	3			1	1		1			1	7	
		把手					1						1	
小計			81	1	16	2	31	15	28	10	15	1	200	
総計			82		49			15	28	25		1		



第 26 図　中国産褐釉陶器（１）



第 27 図　中国産褐釉陶器（２）・その他の陶磁器

4）褐釉陶器（第 26･27 図・図版 15・16　67 ～ 85）

356 点を数え、壺が 343 点（96％）と圧倒的に多い（第 8 表）。

壺（67 ～ 79）　5 類（72・75・79）が多く、そのうち（79）は胎土では 5 類に近いが、胴部に字かどうか不明だが釉が掻き取られており例を知らない。（70・71）は胎土・釉から同一個体と思われ、貼付による雲状文があり、あまり見られない。（78）は、不明スタンプがあり、胎土からも通例のものではない。

この他、（80）は水注の口縁、（81）は洪糖窯の可能性がある小壺、植木鉢（83･84）、擂鉢（85）がある。（82）は、器壁が薄く何らかの底部と思われ、外面に墨書で「企」が書かれる。

5）その他の中国産陶磁器（第 27 図・図版 16　86 ～ 90）

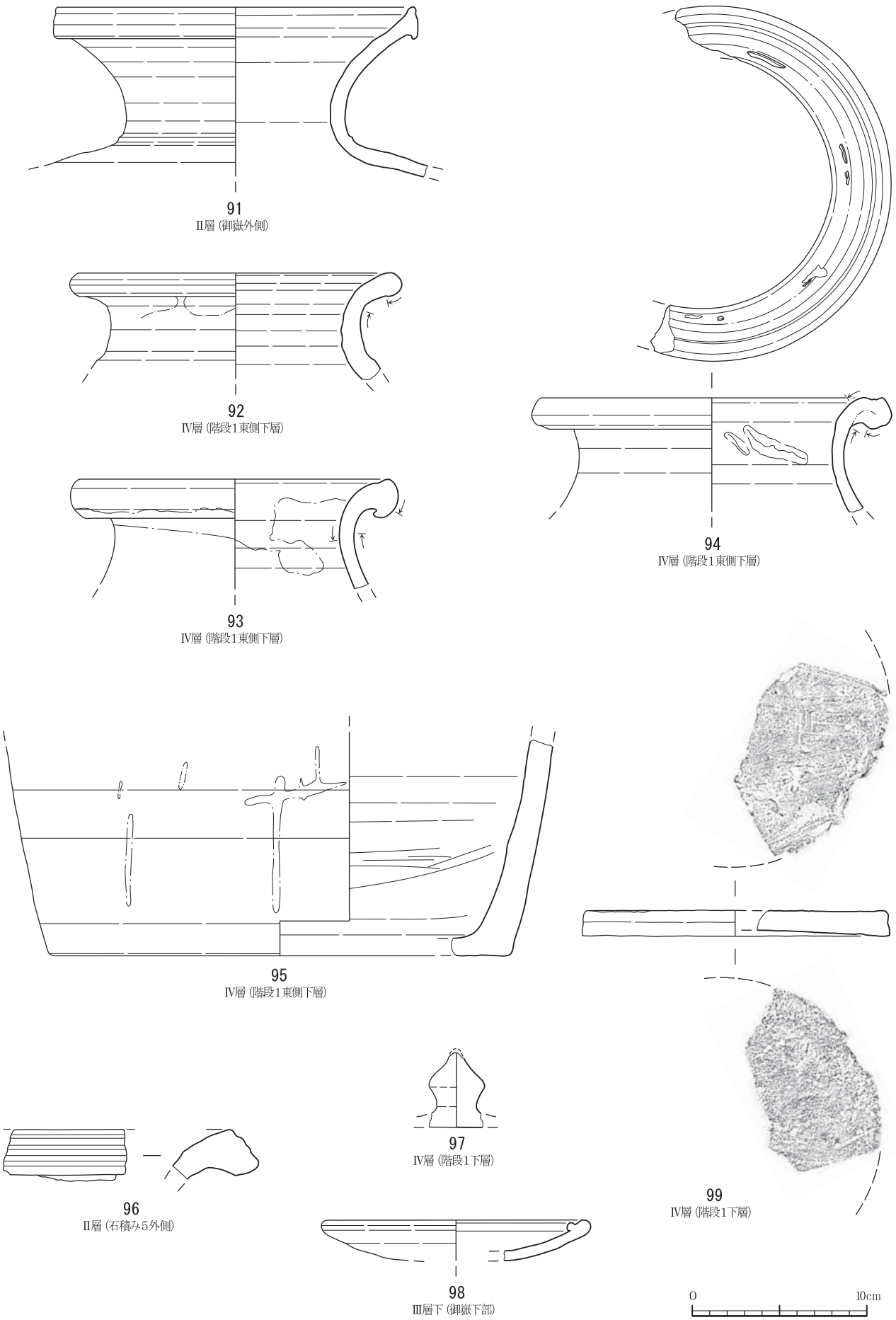
上記以外の中国産陶磁器には、黒釉天目（86）、三彩陶器（87）、翡翠釉磁器（88）、紫釉陶器（89）、褐釉磁器（90）の他、掲載していないが色絵、鉄絵、瑠璃釉、銅緑釉、緑釉、翡翠釉、褐釉青花、法花、宜興窯製品がある（第 9 表）。出土量としては、黒釉天目が 79 点とやや目立っている。

第 10 表　タイ産他陶磁器集計表

合計 / 点数			継世門北										小計	総計
			Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層			
種類	器種	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2 外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1 下層	階段1 東側下層		
タイ産褐釉陶器	碗	口縁部						1					1	178
	壷	口縁部	19		4		6	6	1	1	4	40	81	
		耳	9		2		3	1	2		3	27	47	
		底部	8				6	4	2		1	27	48	
	小壷	胴部			1								1	
タイ産土器	壷	口縁部		1			1						2	57
	半練蓋	口～撮							1				1	
		胴部	4	1			3	4			2	4	18	
		撮	1								1		2	
		口縁部	6		1		1	1	3		8	14	34	
ベトナム産白磁	碗	底部										1	1	3
		胴部	1									1	2	
ベトナム産青花	碗	口縁部	1										1	14
		胴部	1				2						3	
	小碗	口縁部	1										1	
		底部	1										1	
	皿	底部	1					1					2	
	瓶	胴部	1										1	
	壷	胴部	1										1	
	香炉	口縁部				1							1	
	水注	胴部	1										1	
	器種不明	胴部				1	1						2	
ベトナム産色絵	碗	口縁部					1						1	2
		胴部					1						1	
朝鮮半島産象嵌青磁	碗	胴部								1			1	2
	皿	口縁部								1			1	
小計			56	2	8	2	25	18	9	3	19	114	256	
総計			58		35			18	12		133			

第 11 表 産地不明陶器集計表

合計 / 点数		継世門北										書院南	総計
		Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層			
器種	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2 外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1 下層	階段1 東側下層		
鉢	口縁部					1							1
蓋	口～底部									1			1
	蓋甲	19		6		23		8	1	38	128		223
	庇	18	1	4		19	5	3	2	24	64		140
蓋B	庇	1											1
土管	広端部	1											1
	狭端部	1											1
	筒部	16		1		3							20
器種不明	胴部	46	1	7	3	22	4	10		5	5	1	104
	不明	5	2	4		3	2	2		2	4		24
小計		107	4	22	3	71	11	23	3	70	201	1	516
総計		111		96			11	26		271		1	



第 28 図　タイ産陶磁器・産地不明陶器

２．タイ産他陶磁器　（第 28 図・図版 17　91 ～ 99）

中国・本土産以外の陶磁器として、タイ産・ベトナム産・朝鮮半島産象嵌青磁がある（第 10 表）。今回はタイ産のみを掲載している。タイ産褐釉陶器には、シーサッチャナライ窯（91・92）と、メナムノ

第 12 表　本土産陶磁器集計表（１）

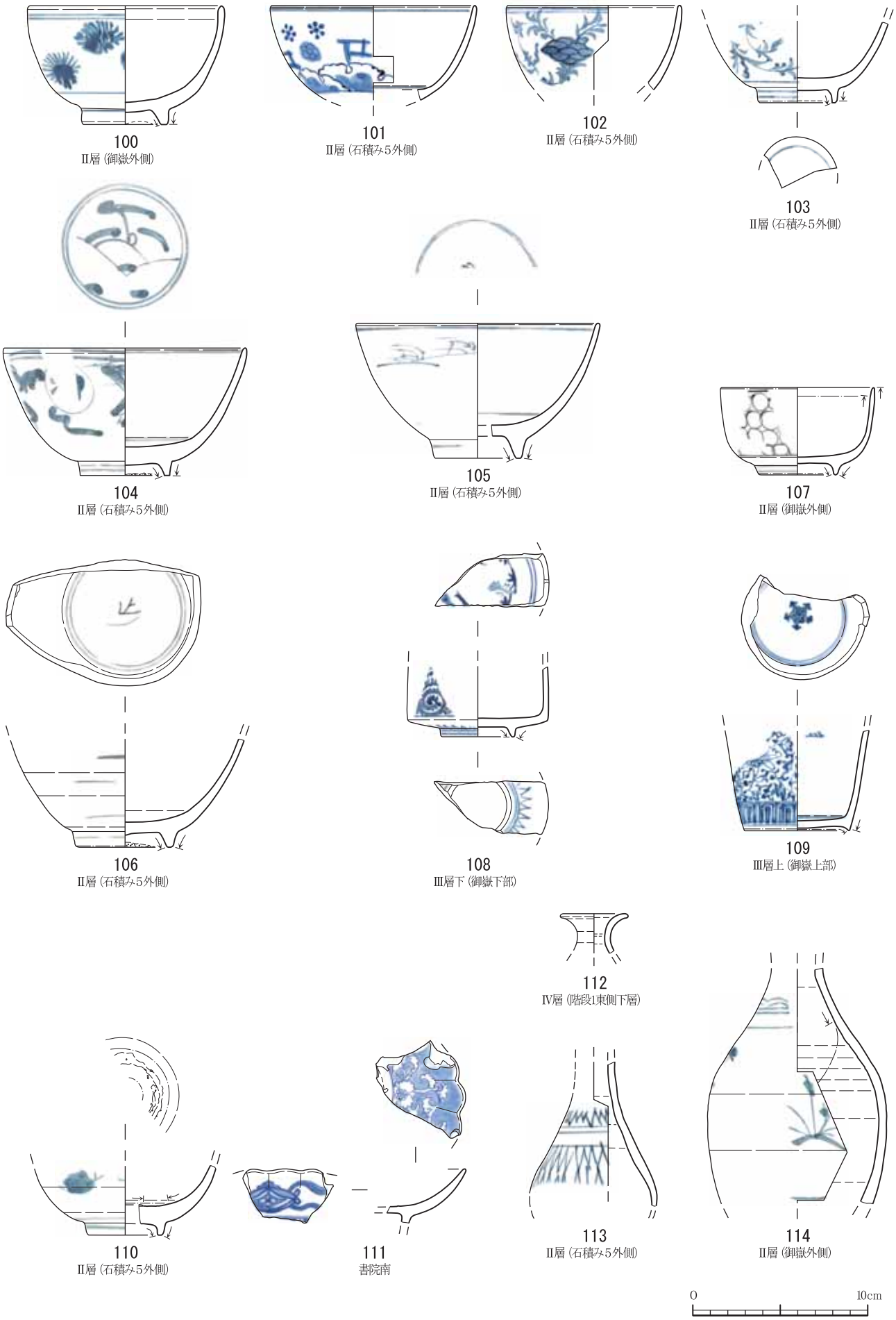
合計 / 点数					継世門北											書院南	小計	中計	総計
					Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層					
種類	産地	器種	分類	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	Dトレンチ	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層				
磁器	染付肥前	碗	–	底部	1		1					1					3	137	181
				胴部	6		2				1	1					10		
			Ⅱ-1	口～底部			1										1		
			Ⅲ	口～底部					2								2		
				口縁部	8	1	5	1	13			1			2		31		
				底部					6								6		
				胴部	3		3	1	10		3	1			1	1	23		
			ⅢかⅣ	口～底部			1										1		
			Ⅳ	口縁部	2							1					3		
				底部					3		1	1					5		
			Ⅳ	胴部					1						1	1	3		
		小碗	Ⅳ	底部								1					1		
			Ⅴ	口縁部	1							1					2		
			Ⅴ	底部							1						1		
			Ⅴ	胴部	1												1		
		皿	Ⅲ	口縁部	1				1		1						3		
			Ⅲ	底部	1												1		
			Ⅴ	口縁部	8		1		2							1	12		
			Ⅴ	底部	3							1					4		
			Ⅴ	胴部	5				1		1				1		8		
		瓶	Ⅱ～Ⅲ	口縁部											1		1		
			Ⅲ	胴部	1		1	1	4						3		10		
			Ⅴ	胴部								2					2		
		蓋	–	口縁部							1	1					2		
			Ⅴ	口縁部								1					1		
	染付鍋島	皿	–	口～底部												1	1	1	
	染付波佐見	碗	–	口縁部	1				2			1					4	6	
				底部					1								1		
				胴部								1					1		
	色絵肥前	碗	–	口縁部	3							2					5	13	
				底部	1						1						2		
				胴部	3		1										4		
		皿	Ⅴ	底部	1												1		
		蓋	–	口縁部								1					1		
	青磁肥前	碗	–	底部			1										1	7	
		瓶	–	胴部							1						1		
		香炉	–	口縁部	2												2		
				胴部					1								1		
		火入	–	底部					1		1						2		
	白磁肥前	杯	–	口縁部	1												1	17	
		瓶	–	胴部					1								1		
	白磁不明	碗	–	口縁部					3		1	2					6		
				胴部	2				3			1					6		
		壷	–	口縁部			1										1		
				底部	1												1		
				胴部					1								1		
施釉	肥前	碗	–	口～底部					2								2	138	
				口縁部					6								6		
			A-1	口～底部					1								1		
				口縁部	1			1	4		8	1			1		16		
				底部	1				2		1						4		
				胴部	8		4	3	12	1	3	2			1		34		
			A-2	口縁部			1	2				1					4		
				底部	1												1		
				胴部			2	1	1		1	1					6		
			B	口～底部				1									1		
				口縁部	1		2		4						1		8		
				底部			1		1			1					3		
				胴部	1		4	1	3						1		10		
		皿	A-1	口～底部					1								1		
				底部							1						1		
				胴部	4		3	1	1			1					10		
			A-1屈曲	口縁部	1		1										2		
			A-1直口	口～底部	1				1								2		
				口縁部			1		8			2					11		
			A-2	口～底部			1										1		
				口縁部					1						1		2		
			B	口～底部					1								1		
		盤	–	口縁部	1						1	1					3		
				底部			1				1						2		
				胴部	1				3			1	1				6		

イ窯（93 ～ 95）のものがある。タイ産土器には、バンプーン窯の壺（96）、半練土器の蓋（97・98）がある。

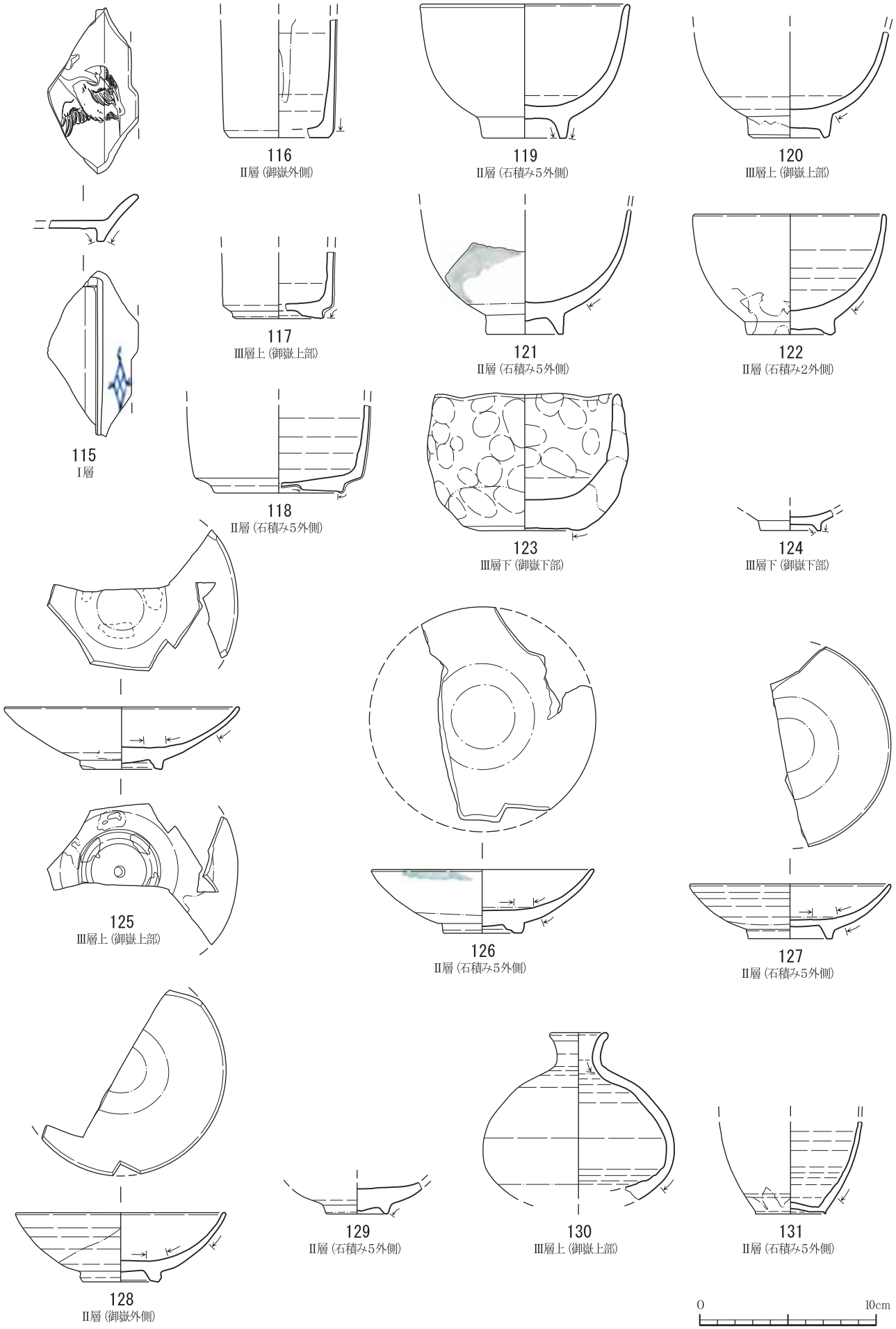
この他、（99）は産地不明陶器の蓋だが、首里城跡ではこれまでも一定量出土している（第 11 表）。

第 13 表　本土産陶磁器集計表（２）

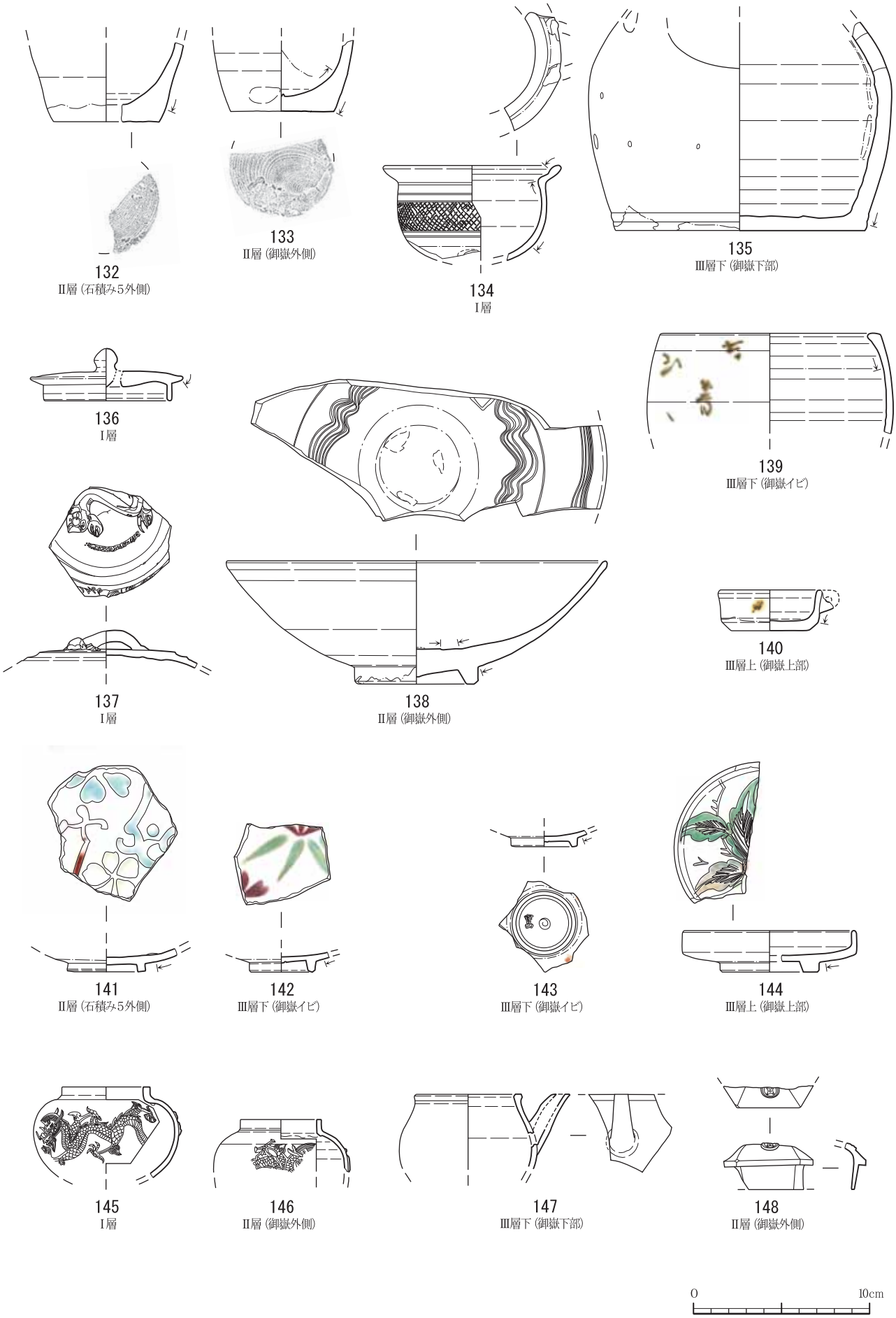
合計 / 点数					継世門北											書院南	小計	中計	総計
					Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層					
種類	産地	器種	分類	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	Dトレンチ	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層				
施釉	丹波	擂鉢	–	胴部	1												1	1	436
	丹波か	小壷	–	口縁部									1				1	1	
	関西系	碗	–	口～底部	1							1					2	53	
				口縁部	1		2		3		1		1			1	9		
				底部	1				1		1	1					4		
				胴部	1			1	4		1	2					9		
		皿	–	口～底部					1								1		
				口縁部	2							1					3		
				底部	1							1					2		
				胴部	3	1			2		3						9		
		火入	–	口縁部								1					1		
		急須	–	口縁部					1								1		
				胴部							1						1		
		餌猪口	–	口～底部							1						1		
		段重	–	口～底部								1					1		
				底部								1					1		
		不明	–	胴部					1		4	3					8		
	関西系か	火入	–	口縁部									1				1	1	
	京・信楽	皿	–	口～底部							1						1	4	
				底部					1				2				3		
	不明	碗	A-2	口～底部								1					1	238	
			–	口縁部	3		2		2			1	1				9		
		小碗	–	口縁部								4					4		
				底部								1					1		
		皿	–	口縁部			1										1		
				底部					1								1		
		瓶	–	口縁部											1		1		
				底部			1										1		
				胴部	7	1					1	1			4		14		
		壷	–	口縁部	1						1						2		
				胴部	8		1		6		2	2			1		20		
		小壷	–	底部					2								2		
		蓋	–	口～撮	1												1		
				撮	1												1		
				口縁部	1			1			1						3		
		鉢	–	口縁部					1								1		
		鍋	–	口縁部	1												1		
		火炉	–	口～底部								1					1		
		急須	–	口縁部			1					1					2		
		不明	–	口縁部	2				3			2					7		
				底部	3				1		2	3					9		
				胴部	34	3	10	2	36		19	25	1	6	17	2	155		
無釉	紫砂	急須	–	口縁部			1										1	4	173
				注口								1					1		
				口縁部	1												1		
		蓋	–	口縁部			1										1		
	薩摩	壷	–	口縁部	2				2								4	161	
				胴部					9		1	7					17		
		壷or甕	–	底部	1							1					2		
		甕	–	口～底部											1		1		
				口縁部								1					1		
		植木鉢	–	口縁部	2		1		2		1	8	1				15		
				底部	1						1						2		
				胴部			1					2	1		1		5		
		擂鉢	–	口縁部	1							1					2		
				胴部	2							1					3		
		不明	–	口縁部	2						1						3		
				底部					1								1		
				胴部	28	1	12	4	15		14	22		1	7	1	105		
	備前	壷	–	口縁部	1												1	7	
				底部											1		1		
		擂鉢	–	口縁部			1										1		
				底部							1				1		2		
				胴部											2		2		
	京・信楽か	不明	–	足					1								1	1	
小計					191	7	74	21	204	1	87	130	10	7	50	8	790		
総計					198		300				87	140		57		8			



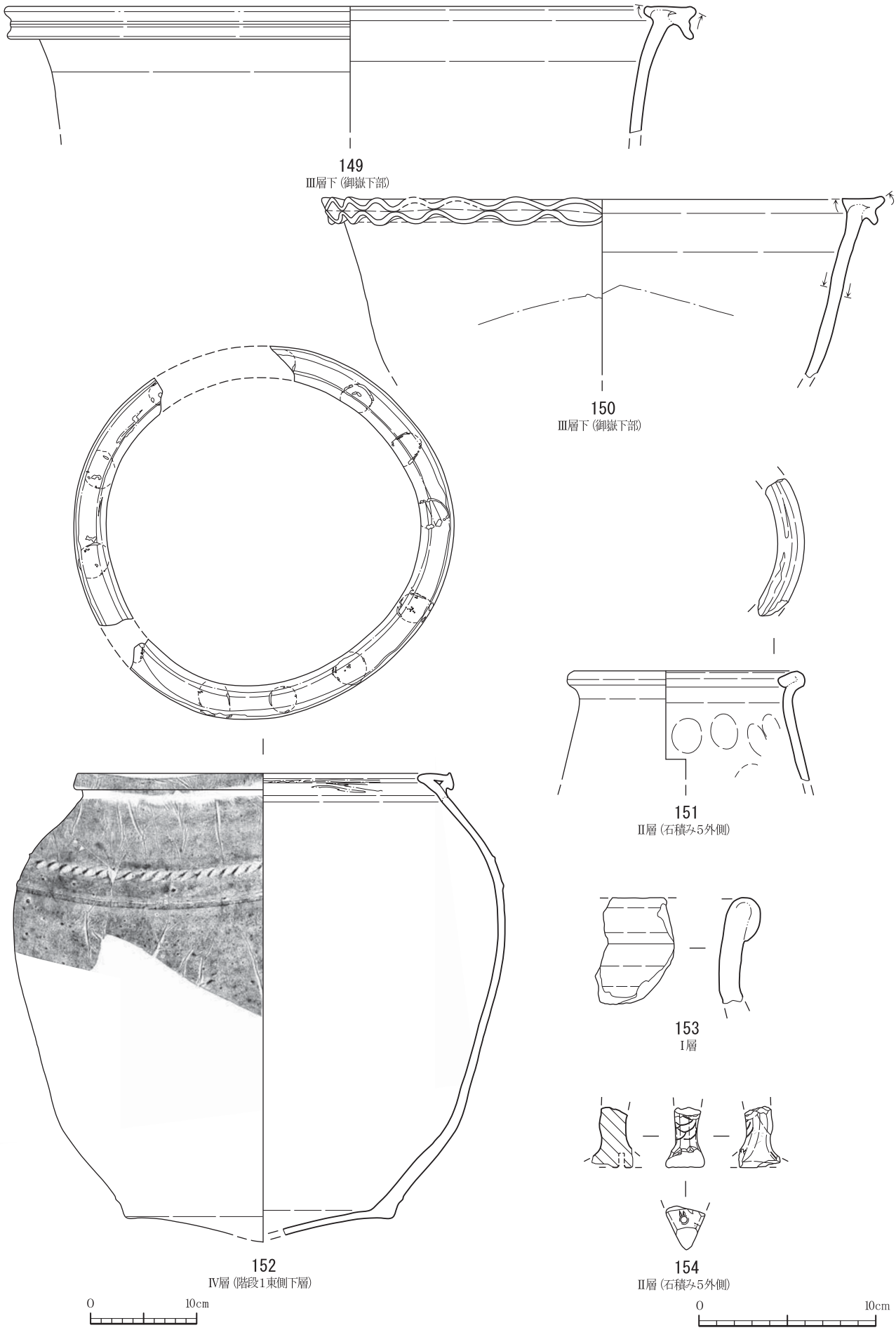
第 29 図　本土産陶磁器（１）



第30図　本土産陶磁器（２）



第31図　本土産陶磁器（３）



第32図　本土産陶磁器（４）

３．本土産陶磁器

磁器 181 点、施釉陶器 436 点、無釉陶器 173 点の総破片数 790 点を数える（第 12･13 表）。また、器種組成では、碗・小碗 258、皿 93、壷・甕 55、その他 96、器種不明 288 で、碗・小碗が過半を占める。また、産地には肥前、肥前（波佐見）、肥前（鍋島）、関西系、京･信楽系、薩摩、丹波、備前、不明が確認された。

１）磁器（第 29･30 図・図版 18･19　100 ～ 118）

染付、白磁、青磁、色絵が確認された。

染付　産地は不明を除くとほぼ肥前に限定されるが、その中には波佐見や鍋島が含まれる。

肥前（100 ～ 109、112 ～ 114）　137 点が出土している。『九州陶磁の編年』の分類におけるⅡ期からⅤ期までが得られているが、特に見込荒磯文碗（104）や山水文碗（105）を代表とする肥前の海外輸出がピーク時となるⅢ期が主体である（101 ～ 106）。

波佐見（110）　6 点が出土している。いわゆる「くらわんか」碗などが確認される（110）。

鍋島（111）　変形皿が 1 点出土している。文様などにより、初期から盛期のものと目される。首里城跡管理用道路地区の出土資料と同一個体の可能性が考えられる。

色絵（115）　13 点が出土した。皿（115）のほかに碗や蓋が認められる。いずれも肥前産と目される。

青磁（116 ～ 118）　7 点が得られた。底部に鉄泥を塗布した筒形碗（116）や火入（117･118）をはじめ、瓶･香炉も確認された。

２）施釉陶器　（第 30･31 図・図版 19･20　119 ～ 144）

肥前、関西、京・信楽、丹波、薩摩などの製品が確認された。

肥前（119 ～ 122・125 ～ 128）　碗をはじめ皿・盤など 138 点が得られている。特に銅緑釉の施釉されたⅣ期相当の碗（119 ～ 121）や皿（125 ～ 126）が確認された。

丹波か（130）　髪油壷とみられる小壷と擂鉢の 2 点が挙げられる。小壷は胎土の特徴から丹波産と判断した（130）。

関西系（138 ～ 140）　碗、皿、火入、急須、段重、餌猪口など 54 点が得られている。

京・信楽（141 ～ 144）　色絵陶器の皿 4 点が得られている。うち 1 点には「寶山」銘のある資料が含まれる（143）。

不明（129・131 ～ 137）　産地不明の資料で、皿、小壷、瓶などをはじめ多数の器種が含まれる。中には摘部が龍形の蓋といった精緻な製品も含まれる（137）。

写真１　本土産白磁製洗面台

3）無釉陶器（第 31･32 図・図版 20･21　145 ～ 154）

薩摩、備前などが挙げられる。また、紫砂製品も確認された。

紫砂（145 ～ 148）　急須と蓋の 4 点が出土している。急須に型作りで龍が施文される資料で、2 点が得られているが同一個体の可能性がある（145、146）。また蓋は六角水注に伴うもので、印判が押されている（148）。

薩摩（149 ～ 152）　161 点が出土しており、その内訳には壷・甕、植木鉢、擂鉢が含まれる。壷には口唇部に重ね焼き痕が残る資料が確認される（151）。

備前（153）　7 点が確認される。4 点が B トレンチ、さらにその中の 3 点は西側 6 ～ 9 層に出土している点で比較的まとまった出土傾向にある。

不明（154）　龍もしくは鳥の脚部を模した型作りの資料。器種不明。

本土産近代陶磁器も出土していたが、今回は集計・実測を行わなかった。その中で、白磁製洗面台（写真 1　440）のみは写真を掲載した。これは、ロゴマークより東洋陶器株式会社の昭和 3 ～ 36 年製品と思われる（江浦 2003）。

4．沖縄産陶器

沖縄産陶器には、施釉陶器、無釉陶器瓦質土器がある。

1）施釉陶器（第 33 図・図版 22・23　155 ～ 175）

方言では「上焼（ジョウヤチ）」と称され、施釉や絵付けを生地土に直接行う A 類と、化粧土の上から行う B 類がある。器形には、碗（155 ～ 160）・小碗（161 ～ 163）・鉢（166）・壺（167）・鍋（168）・瓶（169 ～ 171）・袋物（172）・香炉（173）・灯明具（174）・餌入れ（175）のほか、厨子・香炉・火炉・火入・蓋・急須・水注があり、合計 1,400 点出土している（第 14 表）。

特徴的なものとして、いわゆる琉球古典焼きの瓶（170）、灰釉の把手付の小杯形でおそらく小鳥用の餌入れと思われるもの（175）がある。

2）無釉陶器（第 34 ～ 38 図・図版 23 ～ 28　176 ～ 222）

方言では「荒焼（アラヤチ）」と称され、比較的高温で焼成された焼き締め陶器で、自然釉などが掛かるものもある。この内、通有のものより色調が鈍く硬質で自然釉などが掛かる「初期無釉陶器」とされる一群は（県埋文 2010、新垣 2011）、本調査ではほとんど出土しなかった。

器形には、碗･小碗（176 ～ 188）、皿（189 ～ 191）、鉢（192 ～ 194）、擂鉢（195 ～ 197）、瓶（198 ～ 200）、壺（201 ～ 203）、急須（204 ～ 208）、急須蓋（209 ～ 215）、火炉（216･217）、植木鉢（218･219）、蓋（220）、人形（221）、脚付皿（222）の他、甕、火入、獅子があり、合計 2,285 点出土している（第 15 表）。

特徴的なものとして、楽茶碗状のもの（186）や、植木鉢などの台皿と思われる浅鉢（194）、灯明皿として利用された可能性も考えられる脚付皿（222）がある。特に、円筒スタンプによる花文を施す（218）の植木鉢は、瓦質土器と器形的には類している。

5．土器類

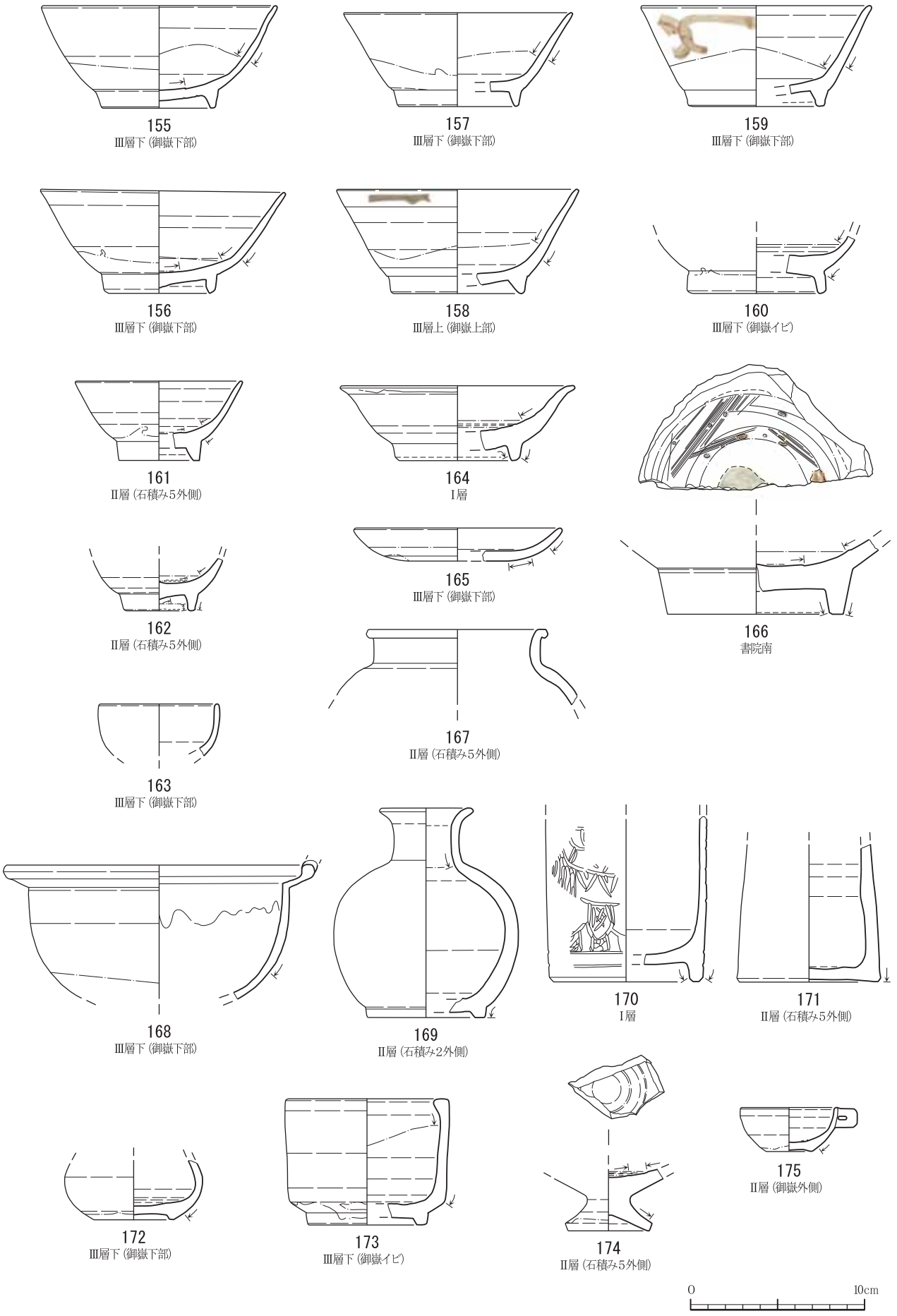
土器類には、陶質土器、瓦質土器、土器がある。

1）陶質土器（第 38 図・図版 28　223 ～ 227）

方言で「アカムヌー」又は「カマグァーヤチ」などと称される軟質焼成の土器群である。器形には、鍋

第 14 表　沖縄産施釉陶器集計表

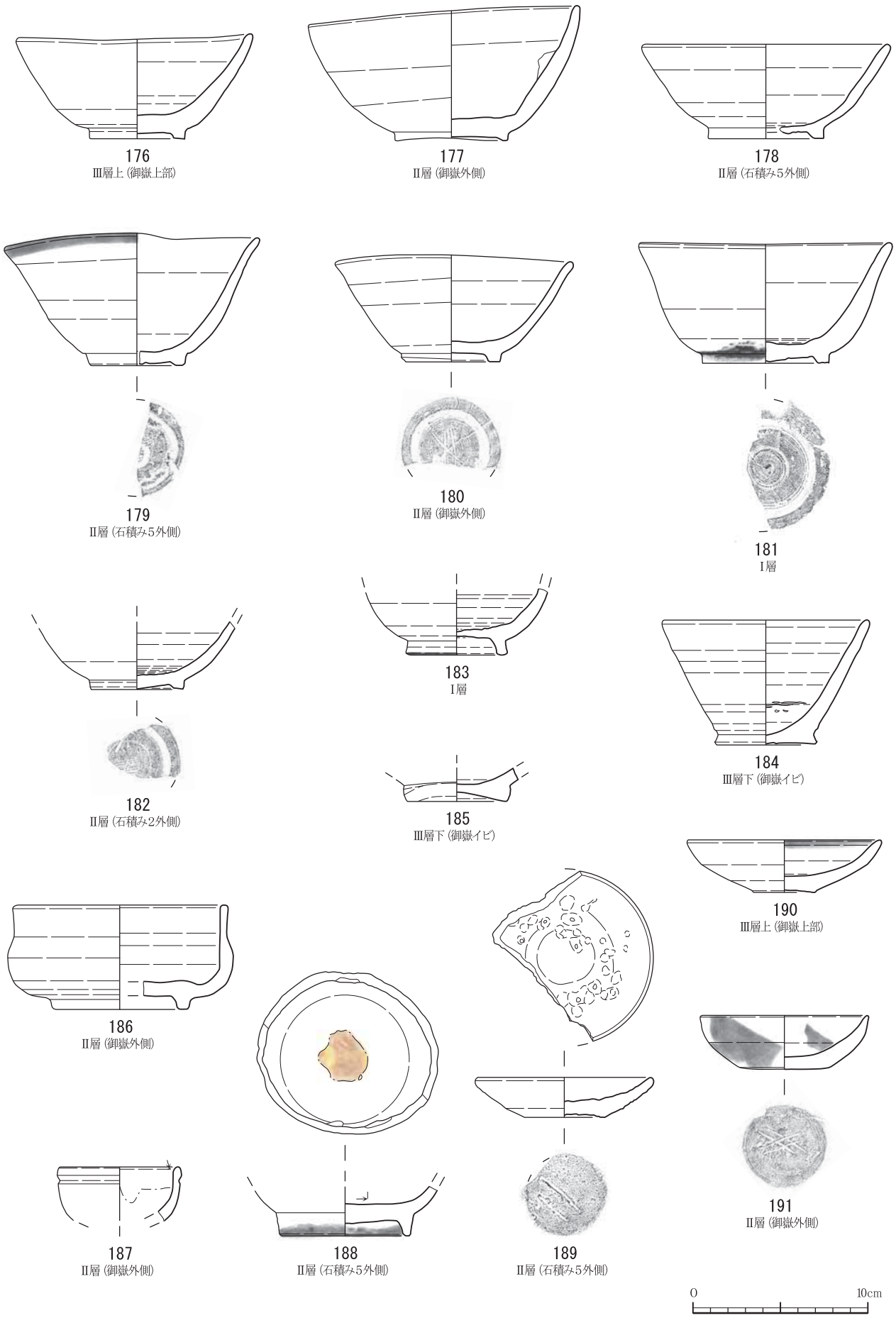
合計 / 点数			継世門北										書院南	小計	総計
			Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層				
器種	分類	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2 外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1 下層	階段1 東側下層			
碗	–	口縁部	8	1	5		6	5	2	1	1			29	539
		胴部	177	5	7	4	28	10	21	1	2	6	7	268	
	A	口～底部						2	8					10	
		口縁部	33		5		22	7	31		1	3		102	
		底部	22		2		16	3	7	1				51	
		胴部						1	1					2	
	B	口縁部	28	2			7		3		1	1	2	44	
		底部	23	1	2		3						2	31	
		胴部	2				0							2	
小碗	A	口～底部					1							1	51
		口縁部	1				1		4					6	
		底部	10				3	1						14	
	B	口～底部	1											1	
		口縁部	6				1		1					8	
		底部	8	1			6		2			1		18	
		胴部	2				1							3	
皿	A	口縁部	2				3		6					11	89
		底部	4				1	1	2					8	
		胴部	3											3	
	B	口～底部	2											2	
		口縁部	23				3	1	4		1			32	
		底部	13				2					1		16	
		胴部	13				2	1					1	17	
瓶	–	口～底部				1								1	25
		口縁部	1						1				1	3	
		底部	5				1		1					7	
		胴部	5		1		3		5					14	
壷	–	口縁部	3	1			2		1					7	8
		胴部					1							1	
鉢	–	口縁部	28	2	1		5	3	1		1	1		42	60
		底部	8				2	1					1	12	
		胴部	3	1				1			1			6	
厨子	–	胴部	1											1	1
鍋	–	口縁部	10				2	1	3		1			17	30
		底部	1				1					1		3	
		胴部	1			1								2	
		把手	4				1		2			1		8	
香炉	–	口～底部								1				1	6
		口縁部							1					1	
		底部					1							1	
		胴部	2				1							3	
火炉	–	口縁部	3	1				1						5	17
		底部	8					2	1					11	
		胴部		1										1	
火入	–	口縁部	5						1				1	7	10
		底部	2						1					3	
蓋	–	撮	1				1							2	18
		口縁部	8	1			3	3	1					16	
急須	–	口縁部	5				1	2						8	68
		耳	1				2							3	
		注口	8		1		1							10	
		底部	12	1	1		1	3	1			1		20	
		胴部	16	1	1		3	1	1		2	1	1	27	
水注	–	胴部	1											1	3
		把手					2							2	
灯明具	–	口縁部					1							1	3
		底部					1		1					2	
袋物	–	底部							1					1	1
餌入れ	–	口～底部			1									1	1
器種不明	–	口縁部	8				4	2						14	470
		底部	3				1	1	1					6	
		胴部	246	8	19	6	57	17	33	5	14	21	24	450	
小計			780	27	46	12	204	70	149	9	25	38	40	1400	
総計			807		262			70	158		63		40		



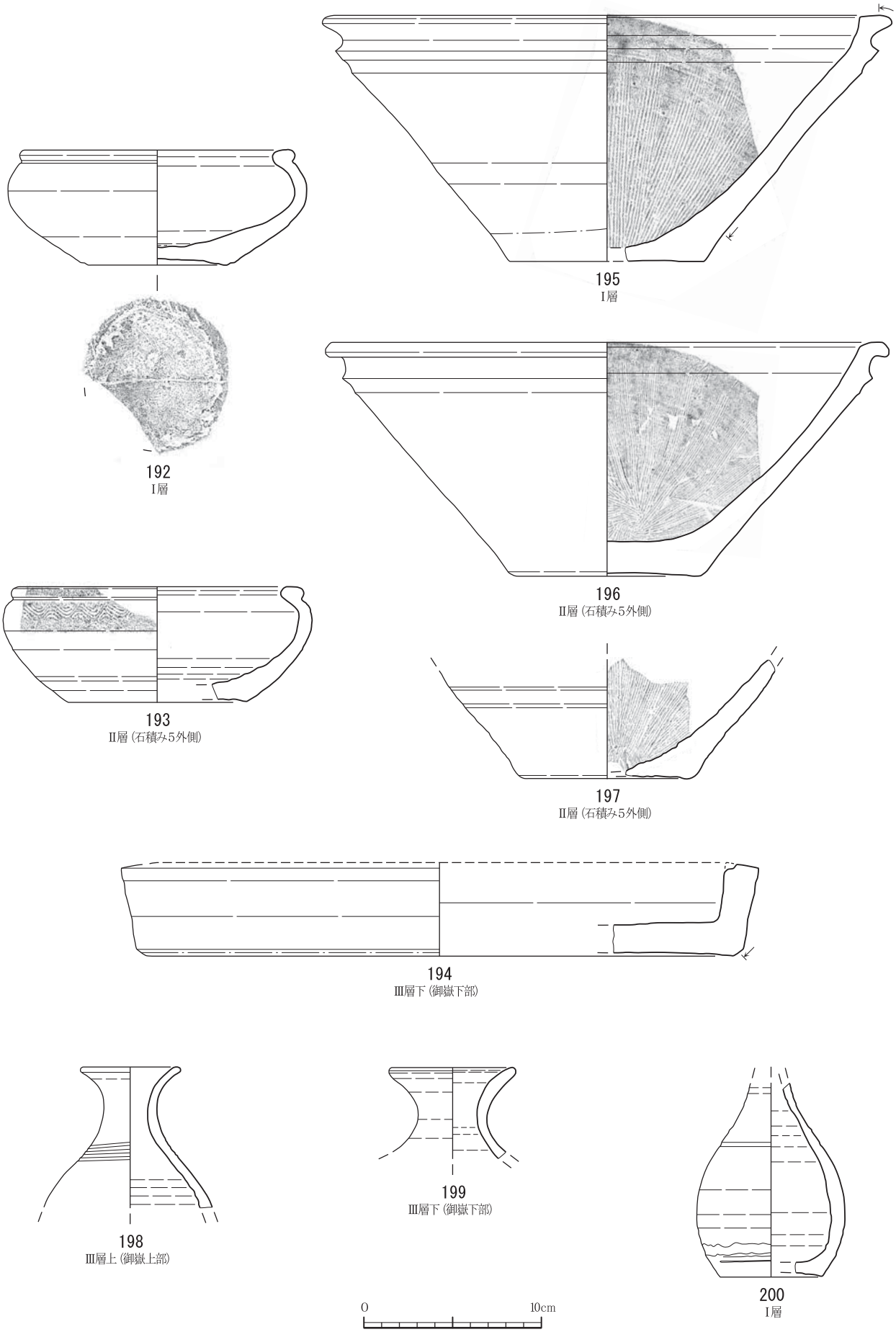
第 33 図　沖縄産施釉陶器

第 15 表　沖縄産無釉陶器集計表

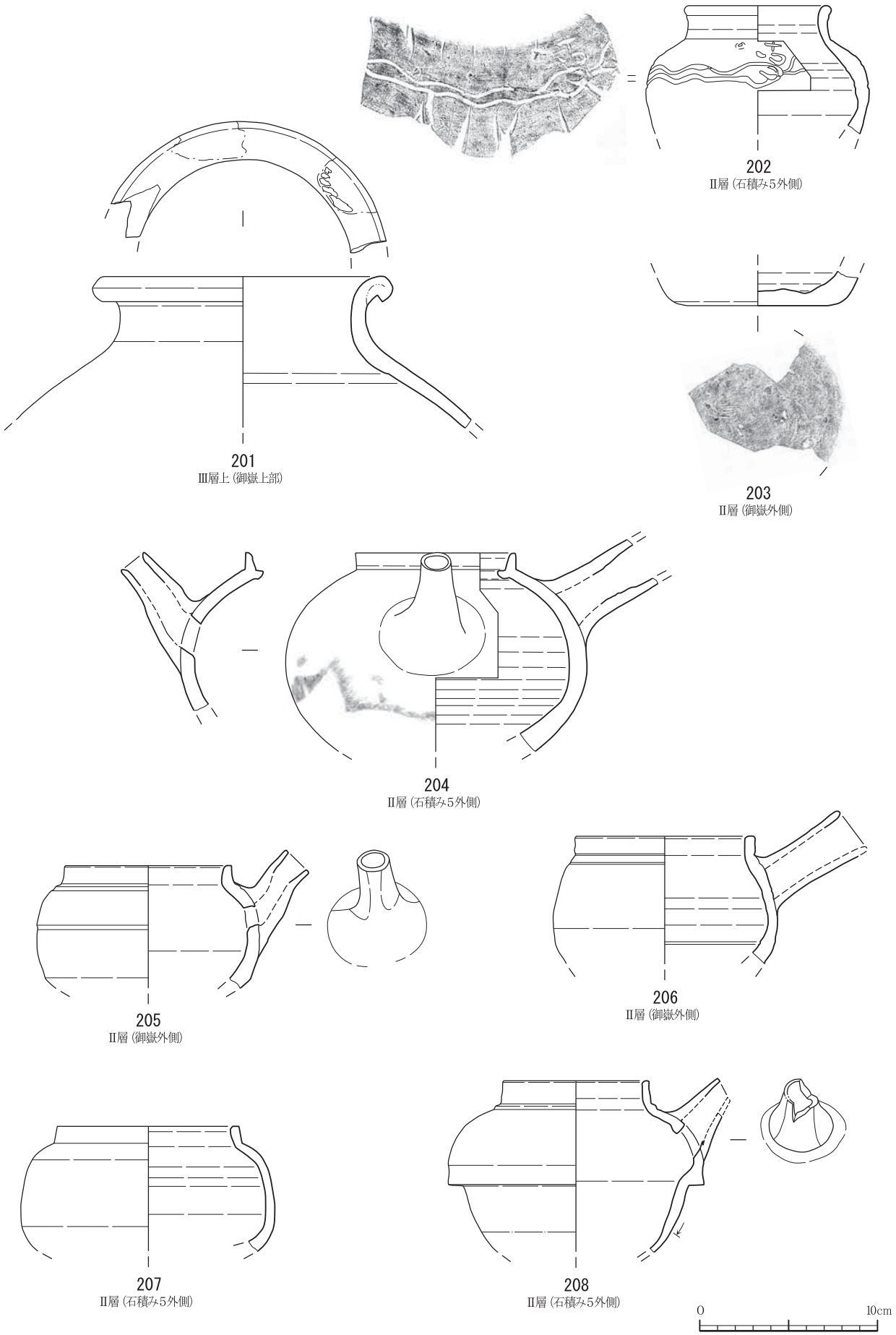
合計 / 点数		継世門北											書院南	小計	総計
		Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層				
器種	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	Dトレンチ	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層			
碗	口～底部	1		4	1	2		1		1		1		11	104
	口縁部	16	1	4	2	13	1	5	2			4		48	
	底部	10		3	1	8		1	5	1				29	
	胴部	7	1	1		4		1	1			1		16	
小碗	口縁部			1										1	1
脚付皿	口～底部					1								1	1
皿	口～底部			1		7		1	1			1		11	31
	口縁部	3		1	1	5		1	5					16	
	底部	2				1			1					4	
瓶	口縁部	3		1		4	1	2	2					13	28
	胴部	8		1					3	2				14	
	底部	1												1	
壷	口縁部	13	1	7	1	14		4	3			4		47	180
	耳			1										1	
	底部	12	2	6		6		2	10	1	3	4		46	
	胴部	23		10	7	17	2	9	12	1	1	4		86	
小壷	口縁部			1	2	2			2					7	8
	胴部											1		1	
瓶か壷	底部	22	1	11	3	9		2	3			2		53	53
鉢	口～底部	1		1		1		1	1					5	79
	口縁部	18	1	10	1	7		2	11			1		51	
	底部			3		3		1	1			1		9	
	胴部	4	1			5		1	1			2		14	
擂鉢	口～底部	2				1								3	227
	口縁部	26	1	6		15		6	11	1		1		67	
	底部	9		1		7			3		1			21	
	胴部	67	5	12	3	25	2	4	13		1	3	1	136	
植木鉢	口縁部	33	2	5		12		3	11				1	67	119
	底部	5		1					1					7	
	胴部	17	2	5		8		2	9		1	1		45	
鉢・植木鉢	底部	19	1	2		6		2	1			1		32	32
甕	口縁部	12		2		2		1	6					23	99
	底部	3			1	2		1						7	
	胴部	31	1	4	1	3		8	19			2		69	
壷か甕	底部	22		8		3		2	6		1	6		48	421
	胴部	206	12	29	3	56		19	36		1	8	3	373	
火炉	口～底部			1	1									2	123
	口縁部	17		13	3	29		2	8	1		3		76	
	耳	1		2					2				1	6	
	底部	4		4	1	6		1	2			1		19	
	胴部	4	1	1		7			6			1		20	
火入	口縁部	4				3			3					10	10
蓋	口縁部	2		3	3	4			3			2	1	18	23
	胴部	1				1								2	
	撮			1		1			1					3	
急須	口縁部	3		6	4	16		2	2			2		35	83
	注口			2	1	1			2			1		7	
	胴部	3		3	2	8		2	6			2		26	
	把手	2		2		6		3	2					15	
急須の蓋	口～撮			1		3								4	7
	口縁部					3								3	
型物（しし）	不明					1								1	1
人形	不明								1					1	1
器種不明	口縁部	5	1	1		2			1		1		1	12	654
	底部	5		1		7		1	1			4		19	
	胴部	293	24	45	14	130		41	36	2	3	21	10	619	
	把手	2				1		1						4	
小計		942	58	228	56	478	6	135	256	10	13	85	18	2285	
総計		1000		768				135	266		98		18		



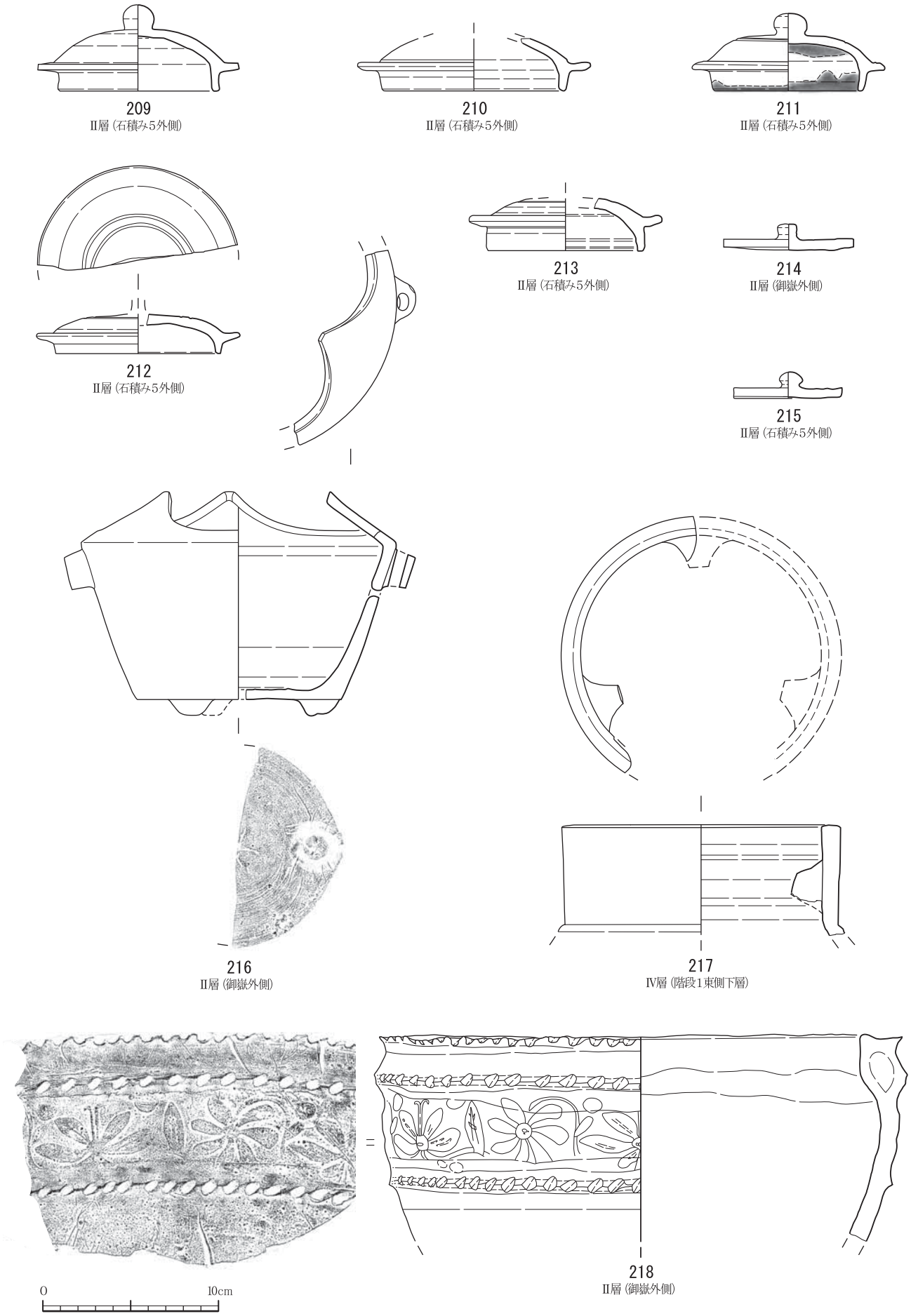
第 34 図　沖縄産無釉陶器（１）



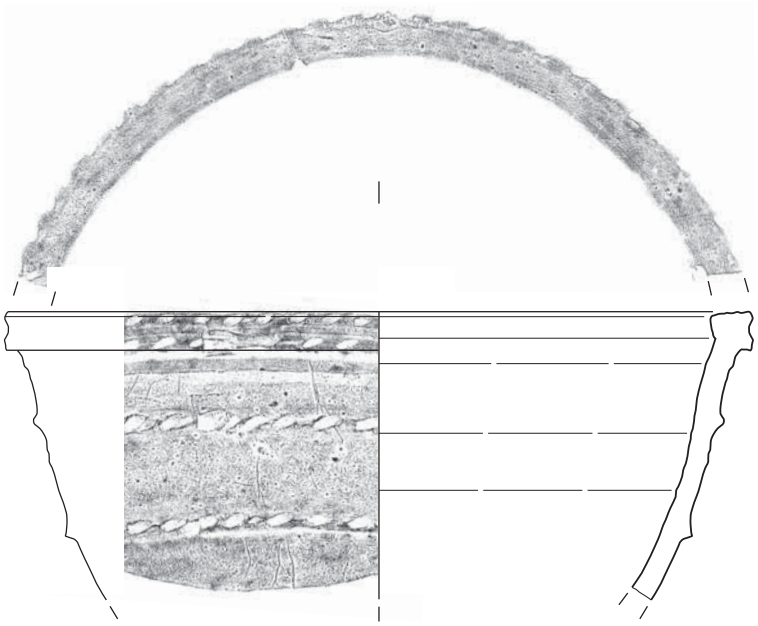
第 35 図　沖縄産無釉陶器（２）



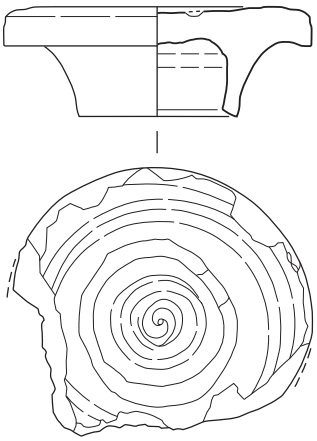
第 36 図　沖縄産無釉陶器（３）



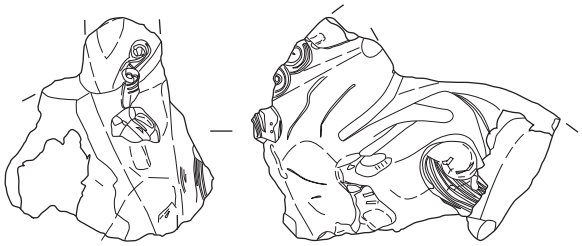
第37図　沖縄産無釉陶器（4）



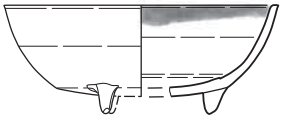
219
Ⅱ層（御嶽外側）



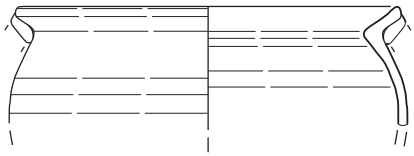
220
書院南



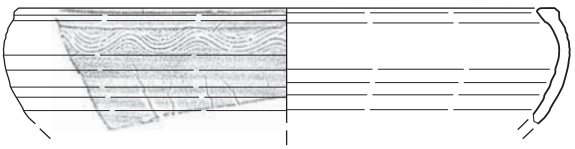
221
Ⅲ層下（御嶽下部）



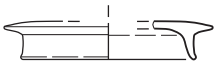
222
Ⅱ層（石積み5外側）



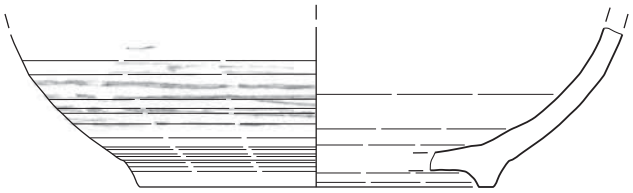
223
Ⅰ層



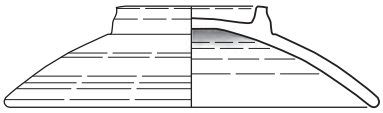
225
Ⅰ層



226
Ⅰ層



224
Ⅰ層



227
Ⅰ層

0　10cm

第 38 図　沖縄産無釉陶器（５）・陶質土器

（223）・火炉（224）・鉢（225）・蓋（226・227）のほか急須が、合計 667 点出土している（第 16 表）。

2）瓦質土器（第 39 図・図版 29　228 ～ 233）

瓦に類した焼成をもつもので、本土産と沖縄産の両者があり、合計 55 点を数える（第 17 表）。

本土産のものとして、風炉（228・229）があり、突線の貼付には区画線の上から行うなど、比較的丁寧な造りである。

沖縄産のものは、その胎土や焼成からおそらく湧田窯で生産されたものと考えられる。ただ、鉢（230）は平面形が方形で口縁外面に突起をもつなど、現時点では湧田窯では確認されていない。他の香炉（231）、植木鉢（232・233）、火炉、擂鉢は湧田窯で見られるものである。（233）の円筒スタンプ文は、石井分類（石井 2009）の湧田Ｇに近似するが、上方の蔓がない点で異なる。

3）土器（第 40 図・図版 30　234 ～ 244）

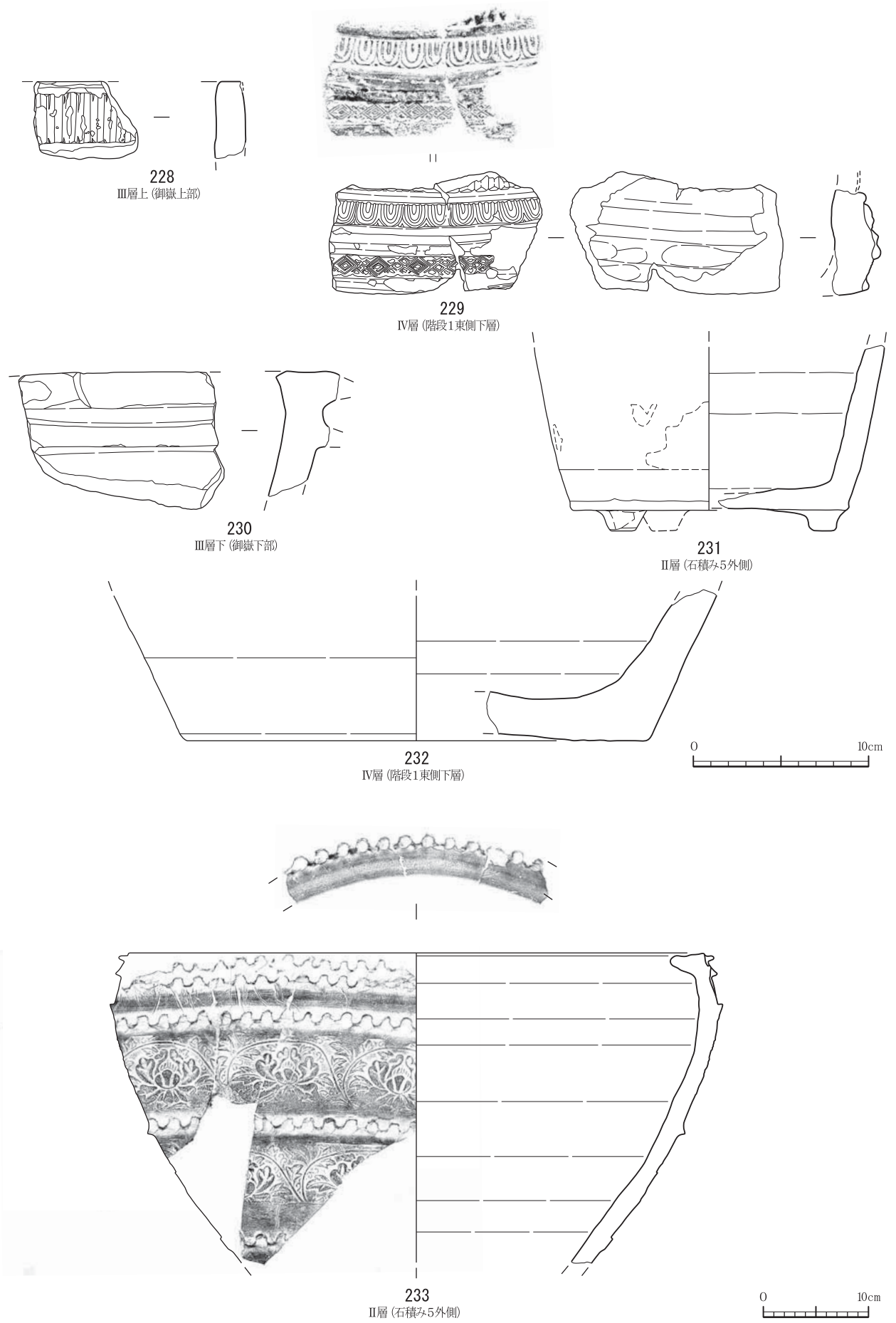
本土産土器のほか、グスク土器、宮古式土器、八重山式土器、産地不明も含めて 125 点出土している（第

第 16 表　陶質土器集計表

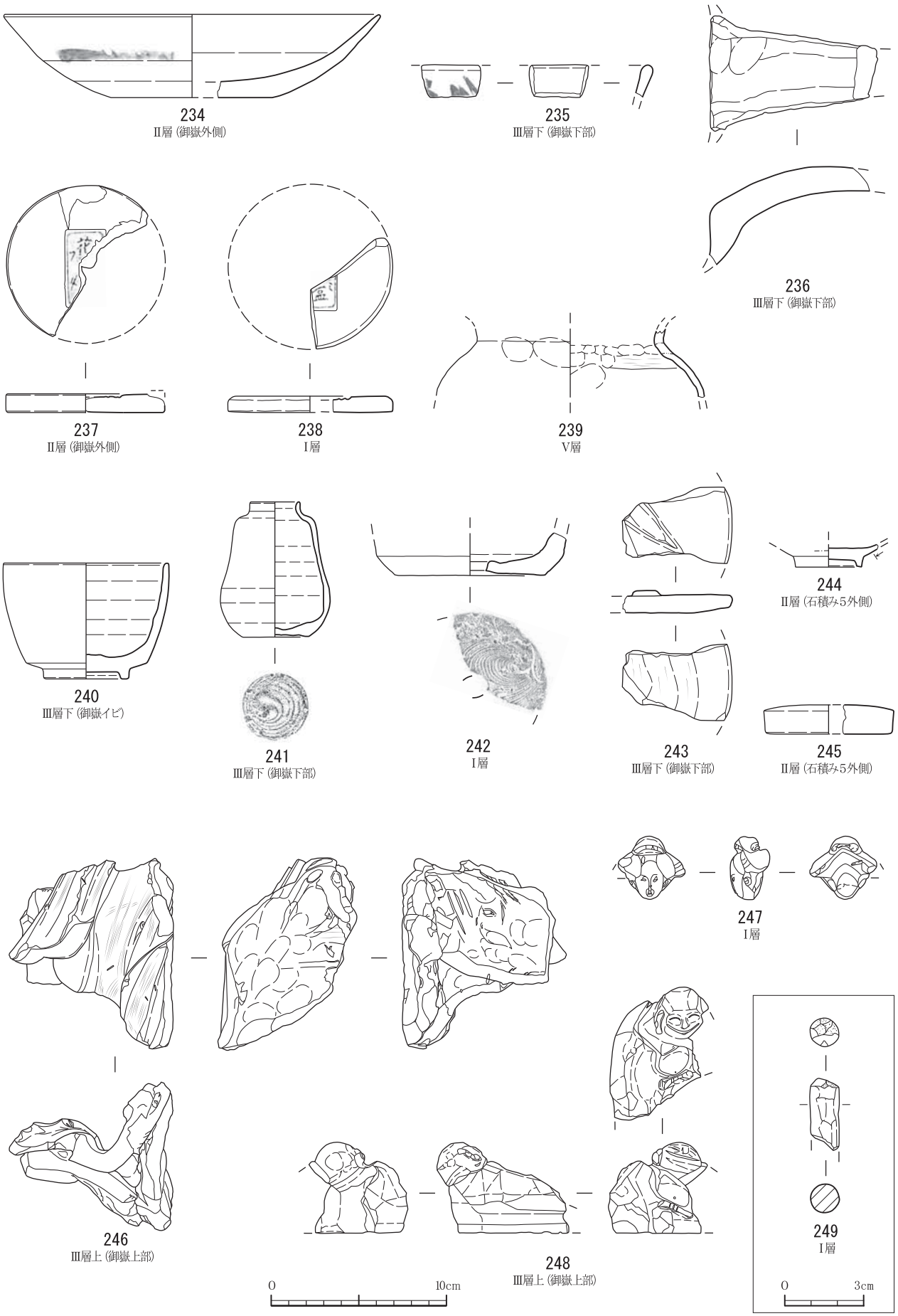
合計／点数		継世門北										書院南	小計	総計
		Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層				
器種	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層			
皿	口縁部	7				2	5	12					26	27
	底部					1							1	
鉢	口縁部	9		3		5		2					19	30
	底部	6	1	1		2	1						11	
鍋	口縁部	15											15	25
	耳	3					1	1					5	
	胴部	3				2							5	
火炉	口縁部	14				5		2					21	56
	耳	1											1	
	底部	9											9	
	胴部	16			2	3	2	1				1	25	
蓋	口～撮	1											1	37
	口縁部	14	1			2		1					18	
	撮	8						3			1		12	
	胴部	3				1	2						6	
急須	口～底部	3				1		4					8	81
	口縁部	6				4	1	12					23	
	耳	4					1						5	
	注口	3					2	8					13	
	底部	4											4	
	胴部	10						13					23	
	把手					2		3					5	
器種不明	口縁部	2										1	3	411
	胴部	188	5	22	7	49	36	80	4	8	5	4	408	
小計		329	7	26	9	79	51	142	4	8	6	6	667	
総計		336		114			51	146		14		6		

第 17 表　瓦質土器集計表

合計/点数		継世門北								小計	総計
		Ⅰ層		Ⅱ層		Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層			
器種	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積5外側	御嶽上部	御嶽下部	階段1下層	階段1東側下層		
鉢	口縁部						1			1	1
植木鉢	口縁部			3	7					10	39
	底部				2				2	4	
	胴部	4		1	8	1	6	4	1	25	
擂鉢	胴部								1	1	1
香炉	底部				1					1	1
火炉	口縁部			3	1					4	6
	胴部	1		1						2	
風炉	口縁部	1				1				2	3
	胴部								1	1	
器種不明	口縁部								1	1	4
	胴部		1	1		1				3	
小計		6	1	9	19	3	7	4	6	55	
総計		7		28		3	7	10			


228
Ⅲ層上（御嶽上部）
229
Ⅳ層（階段1東側下層）
230
Ⅲ層下（御嶽下部）
231
Ⅱ層（石積み5外側）
232
Ⅳ層（階段1東側下層）
0
10cm
233
Ⅱ層（石積み5外側）
0
10cm

第 39 図　瓦質土器


234
Ⅱ層（御嶽外側）
235
Ⅲ層下（御嶽下部）
236
Ⅲ層下（御嶽下部）
237
Ⅱ層（御嶽外側）
238
Ⅰ層
239
Ⅴ層
240
Ⅲ層下（御嶽イビ）
241
Ⅲ層下（御嶽下部）
242
Ⅰ層
243
Ⅲ層下（御嶽下部）
244
Ⅱ層（石積み５外側）
245
Ⅱ層（石積み５外側）
246
Ⅲ層上（御嶽上部）
247
Ⅰ層
248
Ⅲ層上（御嶽上部）
249
Ⅰ層
0
10cm
0
3cm

第 40 図　土器・土製品

第 18 表　土器集計表

合計 / 点数			継世門北											書院南	小計	総計
			Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層		Ⅴ層			
種類	器形	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積5外側	Dトレンチ	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層	Eトレンチピット内			
本土産（？含む）	焙烙	口縁部							1						1	35
		胴部			1			1	4						6	
		把手						1	1						2	
	焼塩壷	口縁部	1		1										2	
		庇				1									1	
	皿	口～底部			1										1	
	不明	胴部	8			3		2	6						19	
		不明	1		1							1			3	
グスク	不明	底部	1												1	53
		胴部	15	2	7	3	1		6		7	8		2	51	
		不明						1							1	
宮古式	壷	胴部			1								1		2	17
	不明	口縁部	1			1									2	
		底部				2									2	
		胴部	2		1	1			3		1	1		1	10	
		不明				1									1	
八重山	不明	胴部		1	1	2			2		1				7	7
沖縄産？	碗	口～底部								1					1	13
	壷？	底部	1												1	
	小壷	口～底部							1						1	
	蓋	庇							1						1	
	不明	底部				2									2	
不明	不明	不明				2			1		2	2			7	
小計			30	3	14	18	1	5	26	1	11	12	1	3	125	
総計			33		33			5	27		23		1	3		

第 19 表　土製品集計表

合計 / 点数			継世門北				総計
			Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層上	Ⅴ層	
産地	器形	部位	表土他	石積5外側	御嶽上部	Eトレンチピット内	
本土産？	人形	不明	1		1		2
沖縄産？	人形	口～底部			1		1
	不明	不明	1	1			2
不明	不明	不明				1	1
総計			2	1	2	1	6

18 表）。

本土産と考えられるものには、皿（234）、焙烙（235・236）、焼塩壷蓋（237・238）がある。沖縄県内では、焼塩壷は初めての報告と思われる。

胎土・焼成より沖縄産と考えられるものには、碗（240）、小壷（241）、壷（242）、蓋（243・244）があるが、今までの出土例がない。このほか、産地が確定できるものは（239）の宮古式土器である。

4）土製品　（第 40 図・図版 30　245 ～ 249）

容器以外のもので、本土産と沖縄産と考えられるものがあり、合計 6 点である（第 19 表）。

本土産は、共に人形（246・247）である。沖縄産は胎土から推定されるもので、人形（248）と、不明製品で円盤状（245）と円柱状（249）がある。

6．金属製品・るつぼ

金属製品は、材質により青銅製品と鉄製品の 2 つに分けられ、今回の調査では青銅製品に比べ鉄製品が圧倒的に多く出土している。

1）青銅製品　（第 41 図・図版 31　250 ～ 269）

青銅製品は 195 点（うち鍍金されたもの 12 点）が出土しており、冑金具（250･251）、甲冑金具（252

第 20 表　金属製品集計表

合計 / 点数			継世門北												書院南	総計
			Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層		Ⅴ層		
種類	器形・分類		表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	Dトレンチ	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層	Eトレンチピット内		
青銅製品	飾金具	花弁形							1							1
		–	3													3
	立物		1				2			1						4
	かんざし	側差	1		3		1			1						6
	釘	角釘	5		1		1			1					1	9
		丸釘	3		1				1	2						7
	鋲				1											1
	覆輪												1			1
	指輪												1			1
	鈴		1													1
	毛抜き		1										1			2
	スナイドル銃　薬莢		1													1
	薬莢		1	2											1	4
	銃弾片		2	1												3
	砲弾片		7	1			4									12
	香炉？								1							1
	ペンホルダー		1													1
	ボタン		4							1						5
	鍵									1						1
	不明	不明	41	6	3	1	13		13	24		10	3	1	3	118
		花弁形											1			1
青銅製品 集計			72	10	9	1	21		16	31		10	7	1	5	183
青銅製品（鍍金）	冑金具	鍬形	1										1			2
	甲冑金具	笠鞅											1			1
		責鞅											1			1
		八双金具	1										2			3
		覆輪											2			2
	飾金具	不明		1												1
	鋲												1			1
	不明												1			1
青銅製品・鍍金 集計			2	1									9			12
鉄製品	釘	角釘	64	6	63	20	103	5	73	92	4	354	196	2	1	983
		丸釘	1				7	1	2							11
		釘破片	25		32		15			16		18	65			171
	小札		1						1	3		1	23			29
	鉄鏃					1										1
	刀子												3			3
	環状鋲												2			2
	鉄鎌									1						1
	鎹											1				1
	包丁		1													1
	砲弾											1			2	3
	不明		13	2	5		3	1	6	19		8	24		7	88
鉄製品 集計			105	8	100	21	128	7	82	131	4	383	313	2	10	1294
不明	鍵		1													1
不明 集計			1													1
小計			180	19	109	22	149	7	98	162	4	393	329	3	15	1490
総計			199		287				98	166		722		3	15	

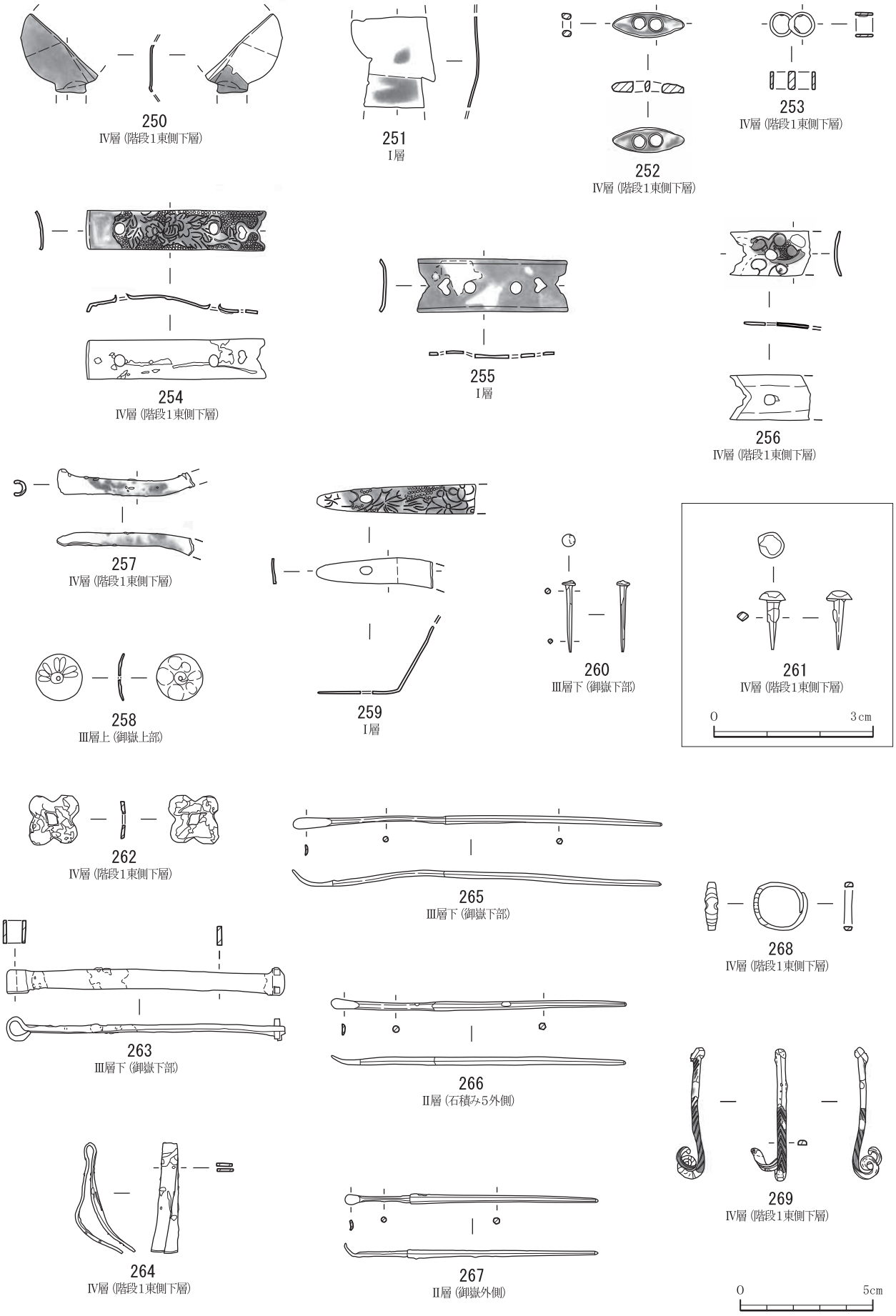
～ 257)、飾金具（258･259)、釘（260)、鋲（261)、鍵（263)、かんざし（265 ～ 267)、毛抜き（264)、指輪（268）のほか、鈴、毛抜き、薬莢、銃弾・砲弾片などが出土している（第 20 表)。これらのほか不明なものも多く、掲載した（262）はやや粗雑であるが中央に穿孔された花弁形、(269）は両面鍍金された断面半円で部分的に撚糸状のものである。

2）鉄製品　（第 42･43 図・図版 32　270 ～ 284）

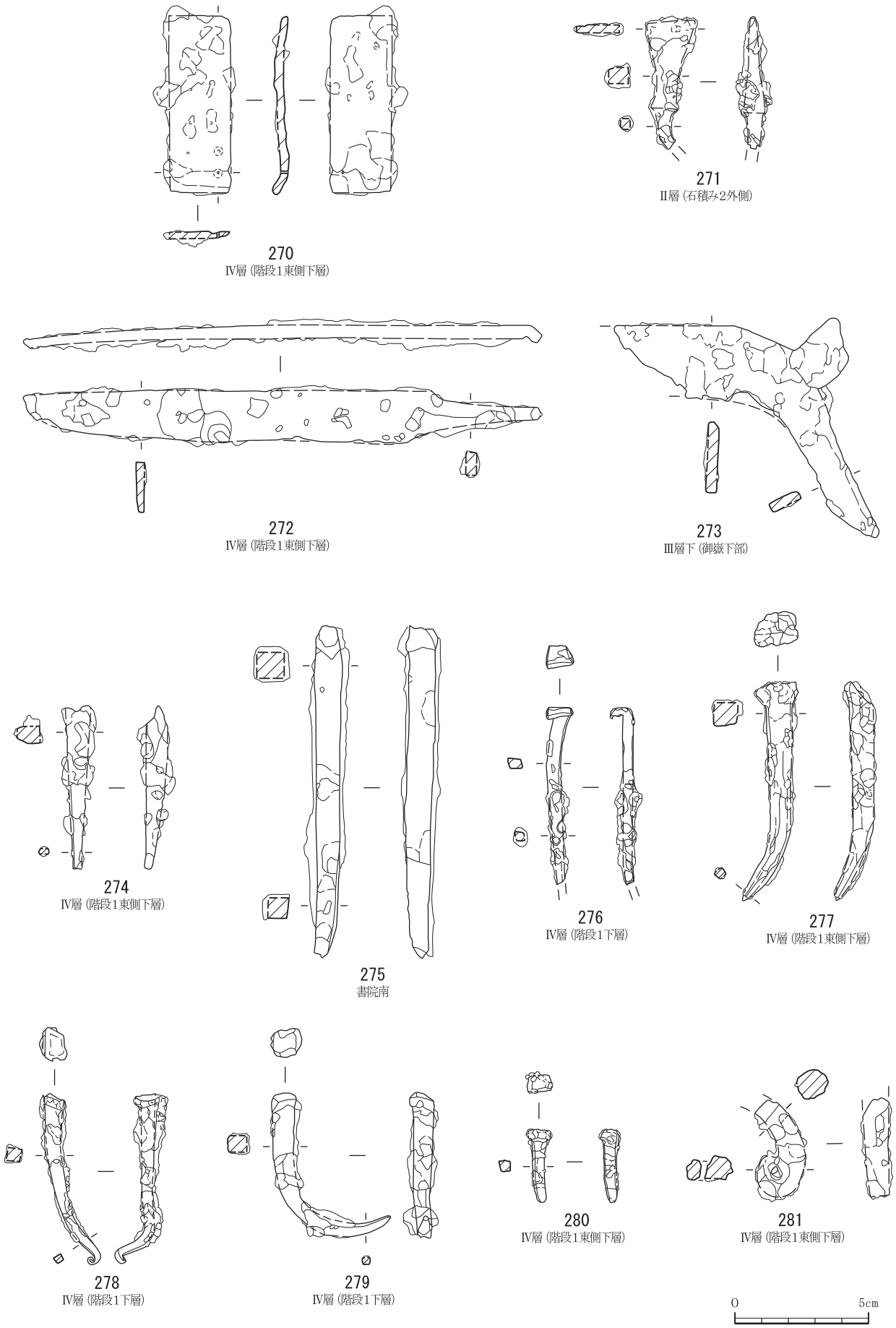
鉄製品には、小札（270）鉄鏃（271)、刀子（272)、鉄鎌（273)、釘（274 ～ 281)、鎹（282)、環状鋲（283･284）のほか包丁･砲弾があり、合計 1,294 点である（第 20 表)。このうち、釘が 1,165 点と 90％を占める。

3）るつぼ（第 43 図・図版 32　285 ～ 288）

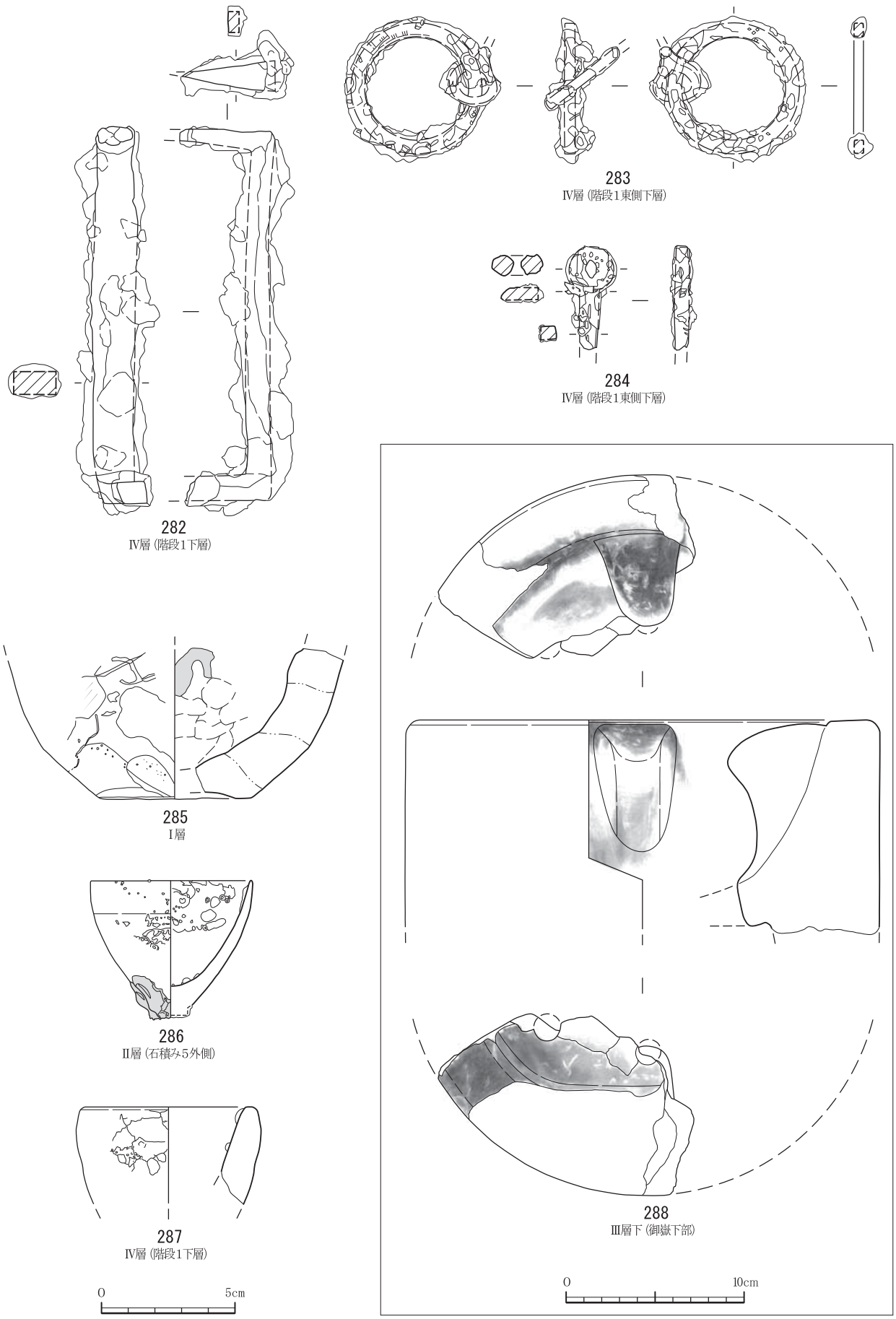
14 点出土している（第 22 表)。(285･286）は陶製、(287･288）は石製である。(288）は凝灰岩製で、


250
Ⅳ層（階段1東側下層）
251
Ⅰ層
252
Ⅳ層（階段1東側下層）
253
Ⅳ層（階段1東側下層）
254
Ⅳ層（階段1東側下層）
255
Ⅰ層
256
Ⅳ層（階段1東側下層）
257
Ⅳ層（階段1東側下層）
258
Ⅲ層上（御嶽上部）
259
Ⅰ層
260
Ⅲ層下（御嶽下部）
261
Ⅳ層（階段1東側下層）
0
3cm
262
Ⅳ層（階段1東側下層）
263
Ⅲ層下（御嶽下部）
264
Ⅳ層（階段1東側下層）
265
Ⅲ層下（御嶽下部）
266
Ⅱ層（石積み5外側）
267
Ⅱ層（御嶽外側）
268
Ⅳ層（階段1東側下層）
269
Ⅳ層（階段1東側下層）
0
5cm

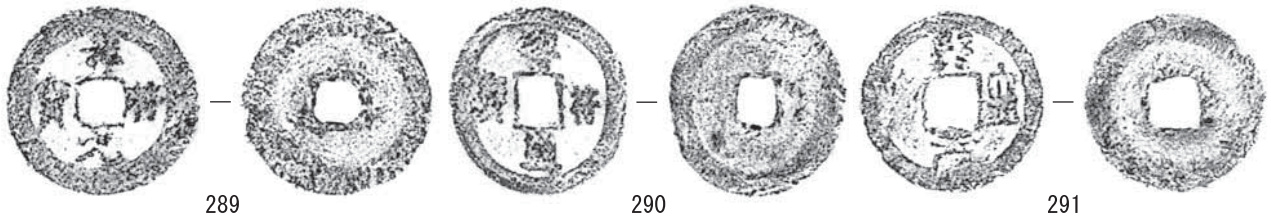
第41図　金属製品（1）


270
Ⅳ層（階段1東側下層）
271
Ⅱ層（石積み2外側）
272
Ⅳ層（階段1東側下層）
273
Ⅲ層下（御嶽下部）
274
Ⅳ層（階段1東側下層）
275
書院南
276
Ⅳ層（階段1下層）
277
Ⅳ層（階段1東側下層）
278
Ⅳ層（階段1下層）
279
Ⅳ層（階段1下層）
280
Ⅳ層（階段1東側下層）
281
Ⅳ層（階段1東側下層）
0
5cm

第 42 図　金属製品（２）



第43図　金属製品（3）・るつぼ



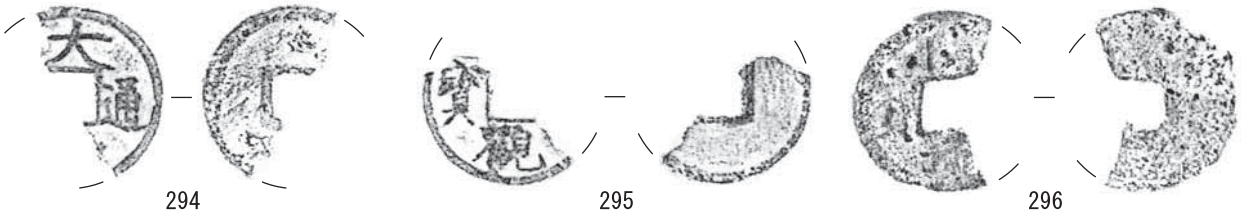
289
Ⅲ層上（御嶽上部）

290
Ⅲ層下（御嶽下部）

291
Ⅲ層下（御嶽下部）

292
Ⅰ層

293
Ⅳ層（階段1下層）



294
Ⅲ層下（御嶽下部）

295
Ⅲ層上（御嶽上部）

296
Ⅳ層（階段1下層）

297
Ⅰ層

298
Ⅲ層上（御嶽上部）

299
Ⅲ層下（御嶽イビ）

300
Ⅲ層下（御嶽イビ）

301
Ⅲ層下（御嶽イビ）

0　3cm

第44図　銭貨（1）

302
Ⅲ層下（御嶽イビ）

303
Ⅲ層下（御嶽イビ）

304
Ⅲ層下（御嶽イビ）

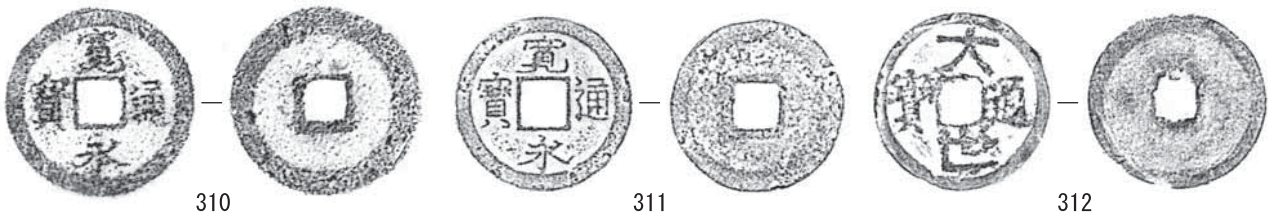
305
Ⅲ層下（御嶽イビ）

306
Ⅲ層下（御嶽イビ）

307
Ⅲ層下（御嶽イビ）

308
Ⅲ層上（御嶽上部）

309
Ⅰ層



310
Ⅱ層（石積み2外側）

311
Ⅲ層下（御嶽下部）

312
Ⅲ層下（御嶽下部）

313
Ⅲ層下（御嶽イビ）

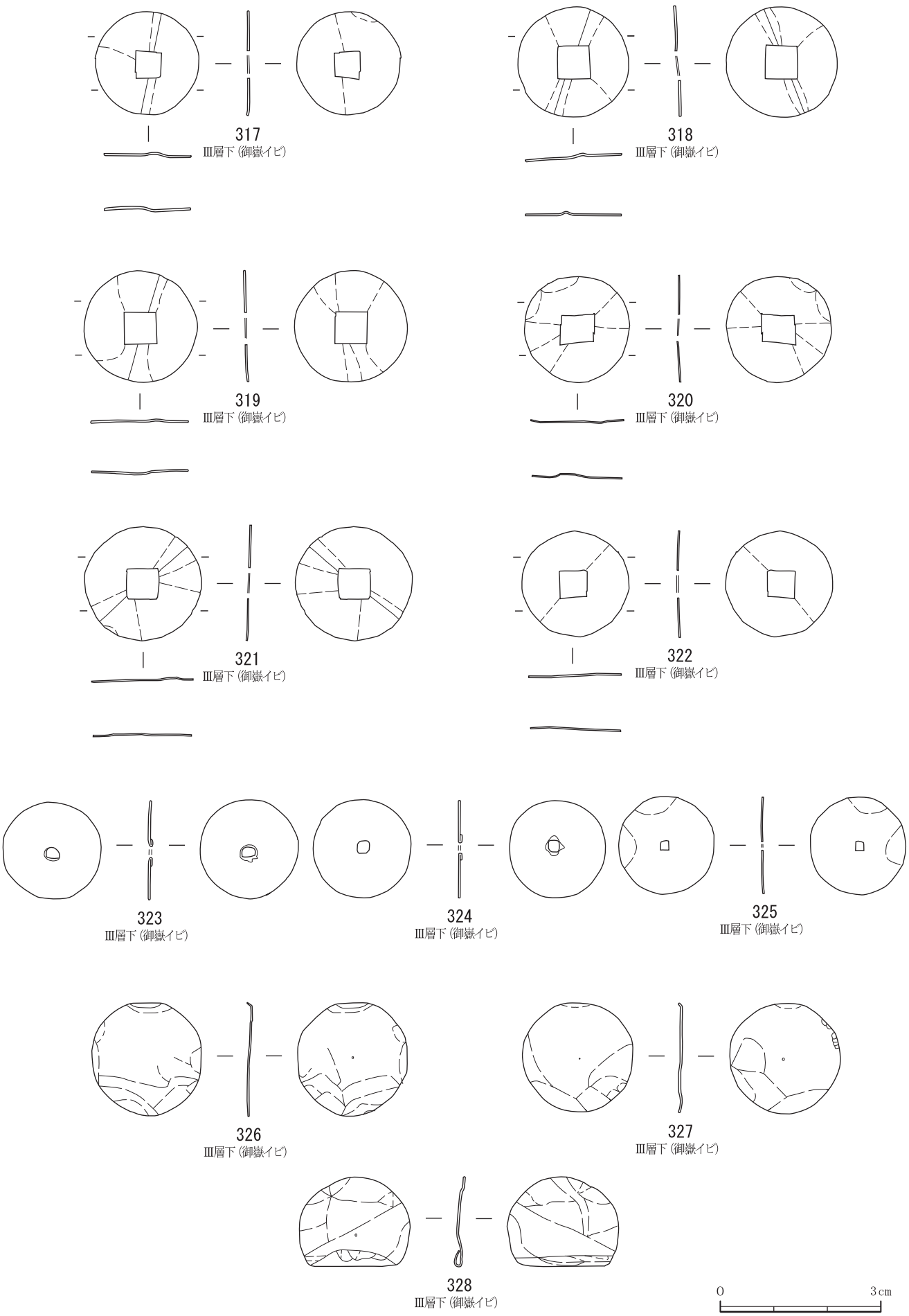
314
Ⅲ層下（御嶽イビ）

315
Ⅳ層（階段1下層）

316
Ⅱ層（石積み5外側）

0　3cm

第45図　銭貨（2）


317
Ⅲ層下（御嶽イビ）
318
Ⅲ層下（御嶽イビ）
319
Ⅲ層下（御嶽イビ）
320
Ⅲ層下（御嶽イビ）
321
Ⅲ層下（御嶽イビ）
322
Ⅲ層下（御嶽イビ）
323
Ⅲ層下（御嶽イビ）
324
Ⅲ層下（御嶽イビ）
325
Ⅲ層下（御嶽イビ）
326
Ⅲ層下（御嶽イビ）
327
Ⅲ層下（御嶽イビ）
328
Ⅲ層下（御嶽イビ）
0
3cm

第46図　銭貨状金製品

第 21 表　銭貨・銭貨状金製品集計表

合計 / 点数			継世門北										小計	総計
			Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層			
時代	銭種	初鋳年	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積み2外側	石積5外側	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層		
唐	開元通寶	621	1										1	1
北宋	祥符元寶	1008						1					1	16
	祥符通寶	1008							1				1	
	皇宋通寶	1038					2						2	
	嘉祐通寶	1056	1										1	
	熙寧元寶	1068							1				1	
	元豊通寶	1078	1										1	
	元祐通寶	1086	2										2	
	紹聖元寶	1094										1	1	
	元符通寶	1098									1		1	
	聖宋元寶	1101		1				1					2	
	大観通寶	1107						1	1				2	
	政和通寶	1111	1										1	
南宋	開禧通寶	1205									1		1	1
明	永楽通寶	1408	4					5	10		2		21	47
	洪武通寶	1368	8					6	3	9			26	
琉球	大世通寶	1454							1				1	1
日本	古・寛永通寶	1636	3			1		1	1				6	9
	新・寛永通寶	1665					1	1					2	
	一銭		1										1	
米国	1セント		1										1	1
無文銭			8	22	11		11	16	40	2	5	1	116	116
輪銭			7	1	5	1	7	2	1		2	2	28	28
不明			54	2	3	1	11	217	30		58	25	401	401
小計			92	26	19	3	32	251	89	11	69	29	621	621
銭貨状金製品	Ⅰ類									6			6	6
	Ⅱ類									3			3	3
	Ⅲ類									3			3	3
小計										12			12	12
総計			118		54			251	112		98		633	

内面口縁部に突起があり、見込みには円形の孔がある。

7．銭貨・銭貨状金製品　（第 44 ～ 46 図・図版 33 ～ 35　289 ～ 328）

中国銭（289 ～ 307）65 点、琉球銭（312）1 点、日本銭（308 ～ 311）9 点、米国貨幣 1 点、、無文銭（313・314）116 点、輪銭（315・316）28 点、不明 401 点、合計 621 が出土している (第 21 表)。なお、中国銭の判別には（永井 1994）を用いた。

銭貨状金製品（317 ～ 328）は、厚さ 0.1 ～ 0.2mm の極薄の厚さで銭貨状に伸ばした金製品で、12 点出土している（第 21 表）。発掘調査では南城市斎場御嶽で確認されていた（知念村 1999）。その形態から、Ⅰ類を切断による方形孔、Ⅱ類を穿孔による円形孔、Ⅲ類を貫通した孔は無いものとした。Ⅰ類には縦断する折れ目が見られ、何らかの意図をもって折り曲げていたものと思われる。Ⅲ類には、中央に径 1 mm 以下の孔が見られ、これはコンパスのような切断具で切り出した痕ではないかと考えられる。

8．その他の製品

その他の製品は、骨製品・石製品・貝製品・ガラス製品といった素材別で分けたもののほかに、煙管・円盤状製品といった形で分けたものを一括した。

1）石製品・石造物・石材　（第 47 図・図版 35　329･330･341）

石製品には硯・碁石・石臼・石球・石盤・砥石・器種不明の製品、石造物には礎石とみられる資料、合計 39 点である（第 23･24 表）。

石球（329）　可能性のあるものを含めて 10 点が得られている。利用石材はサンゴ石 1 点（329）と琉球石灰岩 7 点である。

石臼（330）　細粒砂岩（地元名でニービヌフニ）製の石臼片（330）。硫黄鳥島産輝石安山岩と並んでよく利用される石材で、こちらの石材の石臼も 1 点確認される。

図・図版掲載外の資料　日本産とみられる硯片（粘板岩製 2 点。ほか頁岩・凝灰岩・赤色頁岩各 1 点）・石盤（粘

第 22 表　るつぼ集計表

合計 / 点数		継世門北					総計
		Ⅰ層		Ⅱ層	Ⅲ層下	Ⅳ層	
種類	部位	表土他	Eトレンチ	石積5 外側	御嶽下部	階段1 下層	
坩堝	口～底部			1			1
	口縁部	1	1	2	1	1	6
	底部	2	1				3
	胴部	1		2		1	4
総計		4	2	5	1	2	14

第 23 表　石製品集計表

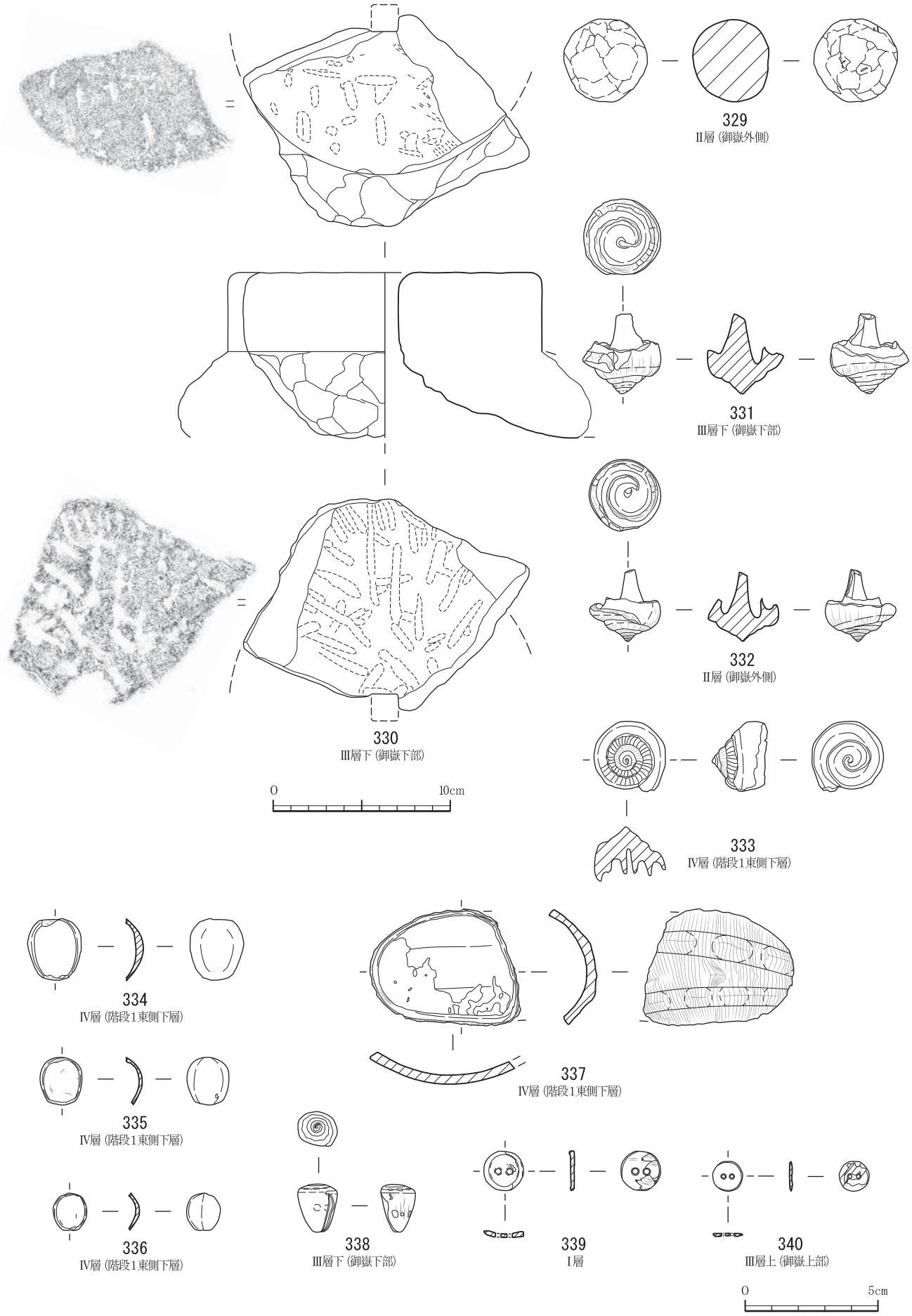
合計 / 点数		継世門北							小計	総計
		Ⅰ層		Ⅱ層		Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層		
種類	器種	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部	階段1 東側下層		
石製品	硯	3		1			1		5	32
	碁石	3				3	1		7	
	碁石か			1					1	
	石臼	1	1				1		2	
	石球	2		2			1	2	8	
	石球？	1			1				2	
	石盤	1							1	
	砥石	1							1	
	砥石か	1							1	
	不明	3						1	4	
石造物	礎石か							2	2	6
	不明	1			1		1	1	4	
石造物か	不明	1							1	1
小計		18	1	4	2	3	5	6	39	
総計		19		6		3	5	6		

第 24 表　石製品石材別集計表

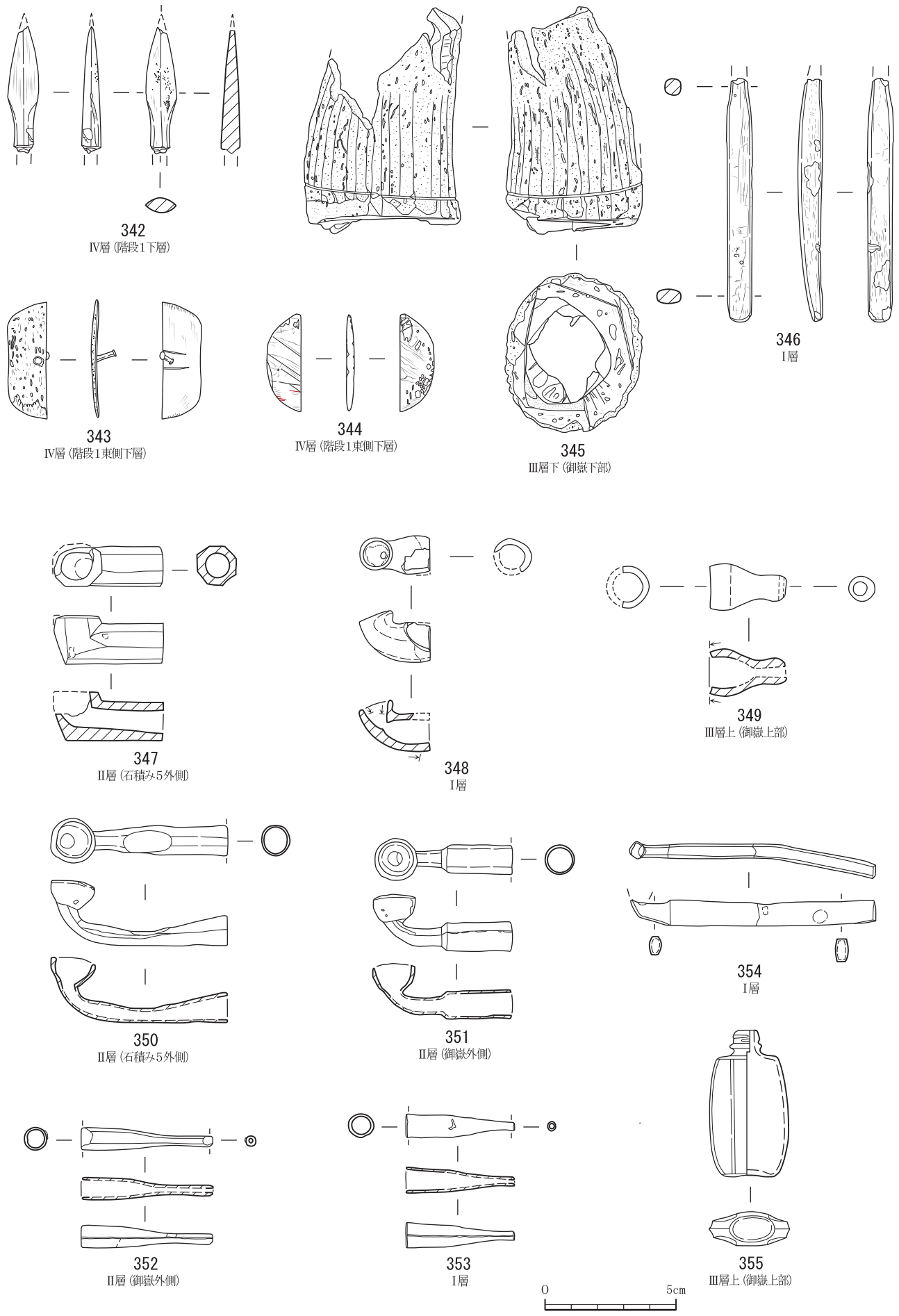
石材		火成岩		堆積岩												変成岩	鉱物等	小計	総計
		安山岩	輝石安山岩	サンゴ石	シルト岩か	ニービ	ニービか	凝灰岩	軽石	赤色頁岩	中粒砂岩	片状砂岩	頁岩	琉球石灰岩	砂質石灰岩	粘板岩	蝋石		
石製品	硯							1		1			1			2		5	32
	碁石										1					6		7	
	碁石か											1						1	
	石臼		1			1												2	
	石球			1										7				8	
	石球？			2														2	
	石盤															1		1	
	砥石								1									1	
	砥石か												1					1	
	不明				1						1					1	1	4	
石造物	礎石か	1				1												2	6
	不明					2	1								1			4	
石造物か	不明					1												1	1
総計		1	1	3	1	5	1	1	1	1	2	1	2	7	1	10	1	39	

第 25 表　石材重量集計表

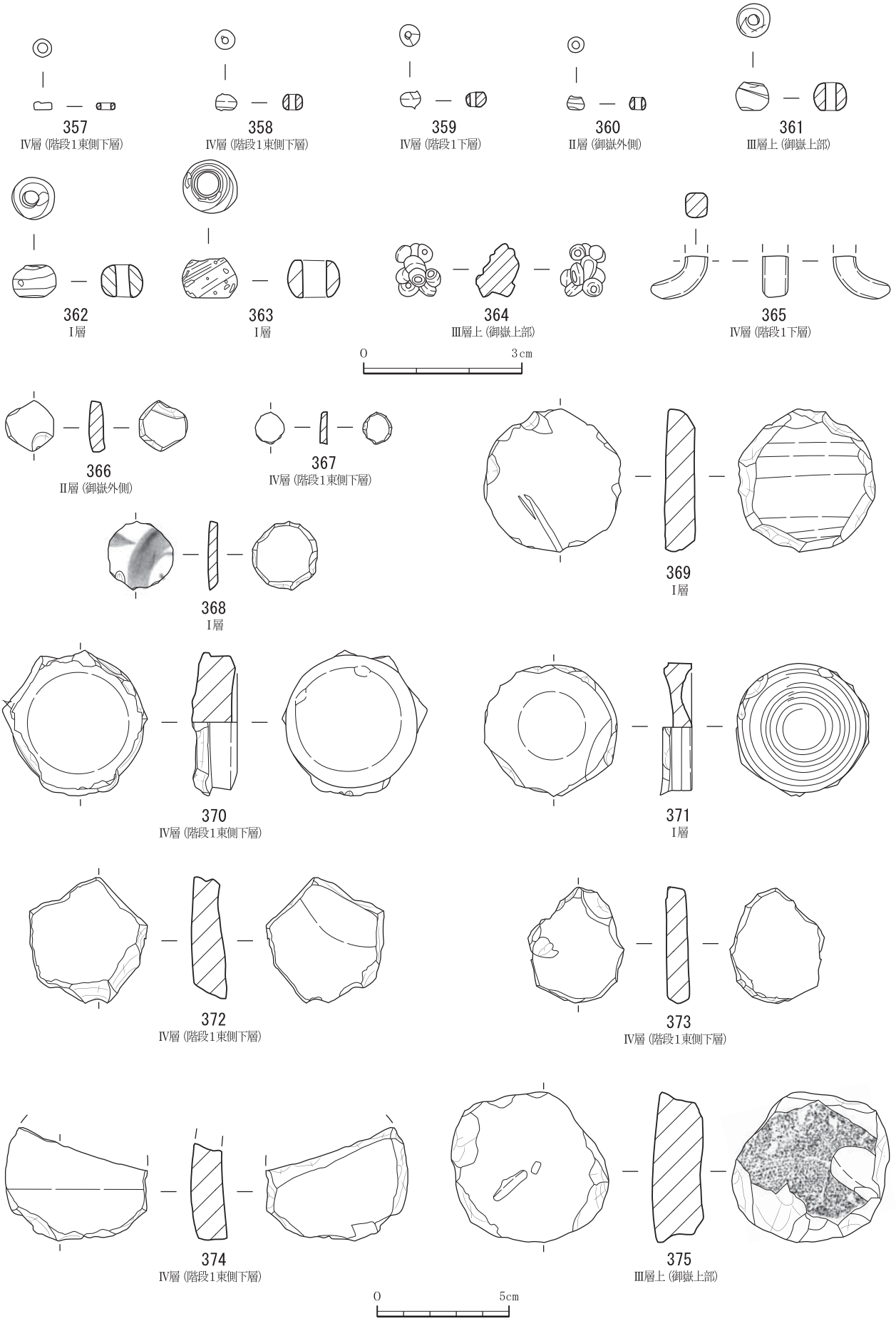
合計 / 重量(g)		継世門北									小計	総計
		Ⅰ層	Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層			
石材		表土他	御嶽外側	石積2 外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1 下層	階段1 東側下層		
火成岩	安山岩か	12.3									12.3	120.8
	輝緑岩	108.5									108.5	
堆積岩	ニービ	3602.4	47.9		56.1	176.7	1402.8	360.1	708.7	144.1	6498.8	7398.5
	中粒砂岩	250.2		118.4		111.2				132.1	611.9	
	中粒砂岩か				5.1						5.1	
	片状砂岩	17.4									17.4	
	頁岩				116.2					4.7	120.9	
	古生代石灰岩	7.8									7.8	
	砂質石灰岩						7.9		8.7		16.6	
	スコリア						120				120	
変成岩	粘板岩	41.77			317				2.3	128.6	489.67	775.07
	千枚岩	4.6			81.4					70.8	156.8	
	緑色岩				128.6						128.6	
鉱物等	碧玉か									6.1	6.1	12.7
	翡翠か					1.7					1.7	
	ネフライトか		1.3		3.6						4.9	
小計		4044.97	49.2	118.4	708	289.6	1530.7	360.1	719.7	486.4	8307.07	
総計		4044.97	875.6			289.6	1890.8		1206.1			


329
II層（御嶽外側）
331
III層下（御嶽下部）
332
II層（御嶽外側）
330
III層下（御嶽下部）
0
10cm
333
IV層（階段1東側下層）
334
IV層（階段1東側下層）
337
IV層（階段1東側下層）
335
IV層（階段1東側下層）
336
IV層（階段1東側下層）
338
III層下（御嶽下部）
339
I層
340
III層上（御嶽上部）
0
5cm

第 47 図　石製品・貝製品



第48図　骨製品・煙管・ガラス製品



第 49 図　ガラス玉・円盤状製品

板岩製１点）・碁石（粘板岩製６点、砂岩・粘板岩製各１点）、軽石製砥石１点、蝋石製の器種不明製品１点などがみられる。石製品の器種ごとに利用石材は限定的で、相関性が高いことが認められる。

石材（341）　他に加工･使用痕の確認できないが､石製品･石造物の石材として利用される岩石（細粒砂岩）と遺跡周辺では採集することのできない岩石を石材として取り扱った。石材は総重量で約 8.3kg に及び、近隣で採集できるニービ（細粒砂岩）以外のものが 1.8kg と２割を占める（第 25 表）。特に中粒砂岩や粘板岩などの沖縄本島北部及び慶良間諸島に産出する石材が大半である。また、琉球列島外の石材として勾玉・管玉やいわゆる「玉器」に利用される翡翠・碧玉・ネフライトといった美石も石材中に確認されており、当時の琉球王国の性格を反映した資料と理解される。

（341）は、細粒砂岩製の岩偶のような形状のものが確認されため図化したが、特別な加工痕が認められないため石材として取り扱った。

第 26 表　骨製品集計表

合計／点数	継世門北					総計
	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層下	Ⅳ層		
種類	表土他	石積5 外側	御嶽下部	階段1 下層	階段1 東側下層	
骨鏃				1		1
梳櫛					3	3
牛角加工製品			1			1
歯ブラシ	1					1
不明	1	1	1			3
小計	2	1	2	1	3	9
総計	2	1	2	4		9

２）貝製品（第 47 図・図版 35　331 ～ 340）

貝製品は 214 点出土している（第 27 表）。

第 27 表　貝製品集計表

合計 / 点数			継世門北								総計
			Ⅰ層	Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層		
科名	種名	形態	表土他	御嶽外側	石積2 外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部	階段1 下層	階段1 東側下層	
リュウテン科	チョウセンサザエ	ボタン	1								1
	チョウセンサザエ？	ボタン					1				1
	ヤコウガイ	剥片製品								1	1
スイショウガイ科	マガキガイ	コマ状製品		1				1		3	5
タカラガイ科	キイロダカラ	殻口残核								1	1
		背面剥片								15	15
	ハナビラダカラ	殻口残核		1		1				1	3
		背面剥片			2				1	38	41
	ハナマルユキ	殻口残核				3	2			2	7
		背面剥片	1			5		1		126	133
	ホシキヌタ	殻口残核								1	1
	不明	背面剥片								4	4
イモガイ科	マダライモ	有孔製品						1			1
小計			2	2	2	9	3	3	1	192	214
総計			2	13			3	3	193		

第 28 表　ガラス製品集計表

合計 / 点数		継世門北						書院南	総計
		Ⅰ層	Ⅱ層		Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層		
種類	器種	表土他	御嶽外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部	階段1 下層		
ガラス製品	碁石							1	1
	瓶	4			3	3			10
	瓶の蓋					1			1
	小瓶				1				1
	ガラス環						1		1
	ガラス容器				1				1
	器種不明	9	2	2	3			1	17
小計		13	2	2	8	4	1	2	32
総計		13	4		8	4	1	2	

第 29 表　煙管集計表

合計 / 点数			継世門北								総計
			Ⅰ層	Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層	
種類	材質	部位	表土他	御嶽外側	石積2 外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1 東側下層	
煙管	瓦質	雁首	1								1
	金属製	雁首一体形	1								1
		雁首		1		1					2
		吸口	1	2							3
	陶製	雁首	10	3	2	18	2	9	1	1	46
		吸口					1				1
小計			13	6	2	19	3	9	1	1	54
総計			13	27			3	10		1	

（331 ～ 333）はマガキガイ製のコマ状製品、（334 ～ 337）はタカラガイ類の背面剝片、（338）はタカラガイの背面を剝ぎ取った有孔製品、（339・340）チョウセンサザエと思われるボタンである。

3）骨製品（第 48 図・図版 36　342 ～ 346）

骨製品は 9 点出土している（第 26 表）。通例出土する骨鏃（343）、歯ブラシ（346）などのほかに、今回特徴的なものを下に挙げる。

（343・344）は、沖縄県内では首里城跡や近世墓などで出土しておりこれまで骨製ヘラなどと称していたものである。中国に系譜があるとされる両歯櫛の梁部材と考えられ、大分県大友府内町遺跡で類例が出土している（真貝・松井 2014、大分県 2016）。（345）は牛角加工製品で、基部端面に金属製刃先と思われる切断痕があり、また根元の周囲には圏線が 1 条巡る。

4）煙管（第 48 図・図版 36　347 ～ 354）

煙管は 54 点出土している（第 29 表）。（347 ～ 349）が陶製、（350 ～ 354）は金属製である。

5）ガラス製品・ガラス玉（第 48･49 図・図版 36･37　355 ～ 365）

ガラス製品は 32 点で、ガラス瓶（355）、碁石、皿などと考えられるガラス容器破片（356）、ガラス環 (365) が出土している（第 28 表）。ガラス玉は 81 点で、ガラス玉（357 ～ 364）がある（第 30 表）。

第 30 表　ガラス玉集計表

合計／点数		継世門北										総計
		Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層		Ⅴ層	
分類	色調	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	御嶽上部	御嶽下部	階段1下層	階段1東側下層	Eトレンチピット内	
ガラス玉	水色	16			3	3	9	2	3	8		44
	青色	3		5				2		1	1	12
	黄色								1	1		2
	赤色			1						2		3
	茶色	2										2
	白色						1					1
	緑色		1			3	8		2	2		16
	不明							1				1
小計		21	1	6	3	6	18	4	7	14	1	81
総計		22		15			18	4	21		1	

※№364は15個がくっついているが、本表には個別に集計した。

第 31 表　円盤状製品集計表

合計 / 点数	継世門北									書院南	総計
	Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層			
素材	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	御嶽上部	御嶽下部	階段1下層	階段1東側下層		
中国産青磁			1					1			2
中国産白磁									1		1
中国産青花	3				1						4
中国産天目									1		1
中国産褐釉陶器	14	6	1	2	8	4	4	2	33		74
タイ産褐釉陶器	7			1	5	1	3		9		26
本土産陶器	1				1						2
沖縄産無釉陶器	12	1	2		2		4		1	1	23
産地不明陶器									1		1
陶質土器	1										1
土器	1				1		1		2		5
明朝系灰瓦系	2			2	3	1	2		4		14
明朝系赤瓦系	9				6		1				16
ガラス							1				1
不明	1										1
小計	51	7	4	5	27	6	16	3	52	1	172
総計	58		36			6	16	55		1	

6）円盤状製品（第 49 図・図版 37　366 ～ 375）

円盤状製品は 172 点出土している（第 31 表）。

9．瓦

瓦は高麗系、大和系、明朝系瓦が出土している。

1）高麗系（第 50 図・図版 38　376 ～ 379）

高麗系瓦は、平瓦（377・378）、丸瓦（379）のほか、鬼瓦の破片と考えられるもの（376）もあり、合計 39 点出土している（第 32 表）。

第 32 表　高麗系瓦集計表

合計 / 点数		継世門北							総計
		Ⅰ層		Ⅱ層		Ⅲ層上	Ⅳ層		
種類	部位	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積5外側	御嶽上部	階段1下層	階段1東側下層	
鬼瓦？	–				1				1
丸瓦	筒部	1					1		2
平瓦	広端部							1	1
	狭端部	1							1
	筒部	13	2	1	7	1	5	5	34
小計		15	2	1	8	1	6	6	39
総計		17		9		1	12		

第 33 表　大和系瓦集計表

合計 / 点数		継世門北			総計
		Ⅰ層		Ⅱ層	
種類	部位	表土他	Eトレンチ	石積5外側	
丸瓦	筒部			1	1
平瓦	筒部	1	5		6
総計		1	5	1	7

第 34 表　明朝系軒丸瓦集計表

合計 / 点数				継世門北									書院南	小計	総計
				Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層				
種類	分類	細分類	色調	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	御嶽上部	御嶽下部	階段1下層	階段1東側下層			
軒丸瓦	牡丹紋様Ⅰ	–	灰色	1		1		1	1					4	12
		新タイプ？	灰色							1				1	
		西のアザナG	灰色									2		2	
		西のアザナH	灰色			2		1						3	
		西のアザナI	灰色					1						1	
		湧田古窯G	灰色	1										1	
	牡丹紋様Ⅱ	–	灰色	4		2		5		3		1		15	116
			赤色	2		1		5	1	2		1		12	
		浦添城C	灰色	1										1	
			赤色			2		1						3	
		浦添城D	赤色			1								1	
		仮称2	赤色						1					1	
		歓会門・久慶内①	赤色							1				1	
		旧中城御殿A	灰色	1										1	
		天界寺D	灰色			1								1	
		天界寺E	灰色			3								3	
		天界寺F	灰色									1		1	
			赤色		1									1	
		内間御殿A	灰色	10		5	2	5	2	11		1		36	
			赤色	3		1	1	3	5	4	1			18	
		内間御殿B	灰色	2		1	1	2						6	
			赤色	2						1				3	
		内間御殿D	赤色	1										1	
		内間御殿E	赤色							2				2	
		木曳門C	灰色			1			1					2	
		湧田古窯R	灰色			2			2	1		1		6	
			赤色			1								1	
	牡丹紋様Ⅲ	下之御庭B	赤色	1										1	2
		崇元寺A	赤色	1										1	
	牡丹紋様Ⅳ	–	赤色	3				2		3				8	38
		内間御殿C	赤色	1						1				2	
		内間御殿D	赤色	1										1	
		内間御殿E	赤色	15				2	3	6				26	
		観会門・久慶門①	赤色							1				1	
	牡丹紋様以外	湧田古窯J	灰色			1								1	1
	–		灰色	6		6		2	1	2		2		19	61
			赤色	15		1		6	8	7		3	1	41	
			陶器質	1										1	
小計				72	1	32	4	36	25	46	1	12	1	230	
総計				73		72			25	46	13		1		

2）大和系（第 50 図・図版 38　380）

大和系瓦は、平瓦（380）、丸瓦があり、合計 7 点出土している（第 33 表）。

3）明朝系（第 50 ～ 52 図・図版 38･39　381 ～ 406）

明朝系瓦は、後述のように色調で分けられる。瓦当は、石井龍太（2006）の分類に基づく。

色調・焼成　色調・焼成によって灰色系、褐赤色系、陶器質、喜名窯系の計 4 つに分けた。

灰色系　灰色のものである。褐色系ともされる色調としては黄褐色、黄橙色のものも含めた。

赤色系　赤色、橙色のものとした。なお、マンガン釉と呼ばれる黒色の薄い釉が掛けられるものもある。

陶器質　焼成が堅緻で沖縄産無釉陶器に近くなっており、表裏面の色調とは異なって、断面が赤色であるのが特徴である。

喜名窯系　淑順門西地区で多く出土したタイプで、白色粒を多く含むのが特徴で、喜名窯で生産されたと考えられる（上原ほか 2011、沖埋文 2013）。

軒丸瓦（381 ～ 392）　軒丸瓦と特定できる破片は 230 点のうち、169 点の瓦当型式が判明し、牡丹文様Ⅱが 116 点（68％）と一番多かった（第 34 表）。特記としては、（381）は牡丹文様Ⅰのうち西のアザナＣに近似するが、中下方の花弁の数と大きさ、茎もわずかに曲がることが異なっており、新タイプの可能性がある。（386 ～ 388）は、牡丹文様Ⅱも内間御殿Ａであるが、笵型の木目と思われる横線が（386）になく、（387）に中央部、（388）に中央部と下部というように増えている。前 2 者が灰色系に対し、（386）

第 35 表　明朝系軒平瓦集計表

合計 / 点数				継世門北									書院南	小計	総計
				Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層				
種類	分類	細分類	色調	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	御嶽上部	御嶽下部	階段1下層	階段1東側下層			
軒平瓦	牡丹紋様Ⅰ	牡丹紋様Ⅰ	灰色	1		2		1	1	1		2		8	23
		西のアザナA	灰色	1		5							1	7	
		西のアザナB	灰色			1								1	
		西のアザナC	灰色			2								2	
		西のアザナD	灰色			1								1	
		天界寺E	赤色								1			1	
		湧田古窯A	灰色							1		1		2	
		用持座A	灰色									1		1	
	牡丹紋様Ⅱ	－	灰色	4		2	1	5	5	2		1		20	116
			赤色	15				3	1	8				27	
			陶器質	1						1				2	
		浦添城A	灰色	2					1					3	
		仮称1	灰色			1		1						2	
		管理用道路①	灰色					1						1	
		崇元寺	灰色	1										1	
		崇元寺B	陶器質	1										1	
		天界寺B	灰色	3		1		5		3		2		14	
			赤色	4		1	1	2		6				14	
		天界寺C	灰色					1	1	2				4	
			赤色	3		1				2				6	
		内間御殿A	灰色					1						1	
			赤色							2				2	
		木曳門B	灰色	1		1		1		3				6	
			赤色	1										1	
		木曳門C	灰色					1						1	
			赤色					1						1	
		湧田古窯R	灰色	1		1				1				3	
			赤色							1				1	
		湧田古窯S	赤色					1						1	
		湧田古窯T	赤色	1				1						2	
			陶器質	2										2	
	牡丹紋様？	下之御庭A	赤色	3						1				4	4
	－		灰色	3	1	3			1	1		3		12	30
			赤色	5		3		1	2	6				17	
			陶器質		1									1	
小計				53	2	25	2	26	12	41	1	10	1	173	
総計				55		53			12	41	11		1		

が赤色系であることから、同じ笵型が継続的に使用されている証拠といえよう。

軒平瓦（393 ～ 402）　軒平瓦と特定できる破片は 173 点のうち、143 点の瓦当型式が判明し、牡丹文様Ⅱが 116 点(81％)と一番多かった(第 35 表)。特記すべきは、これまで花芯の表現が明瞭な資料が少なかった下之御庭Ａであるが、（402）は軒丸瓦の牡丹文様Ⅲと類似しているように見える。セット関係や同時性があるかどうかについては、より詳細な検討が必要であろう。

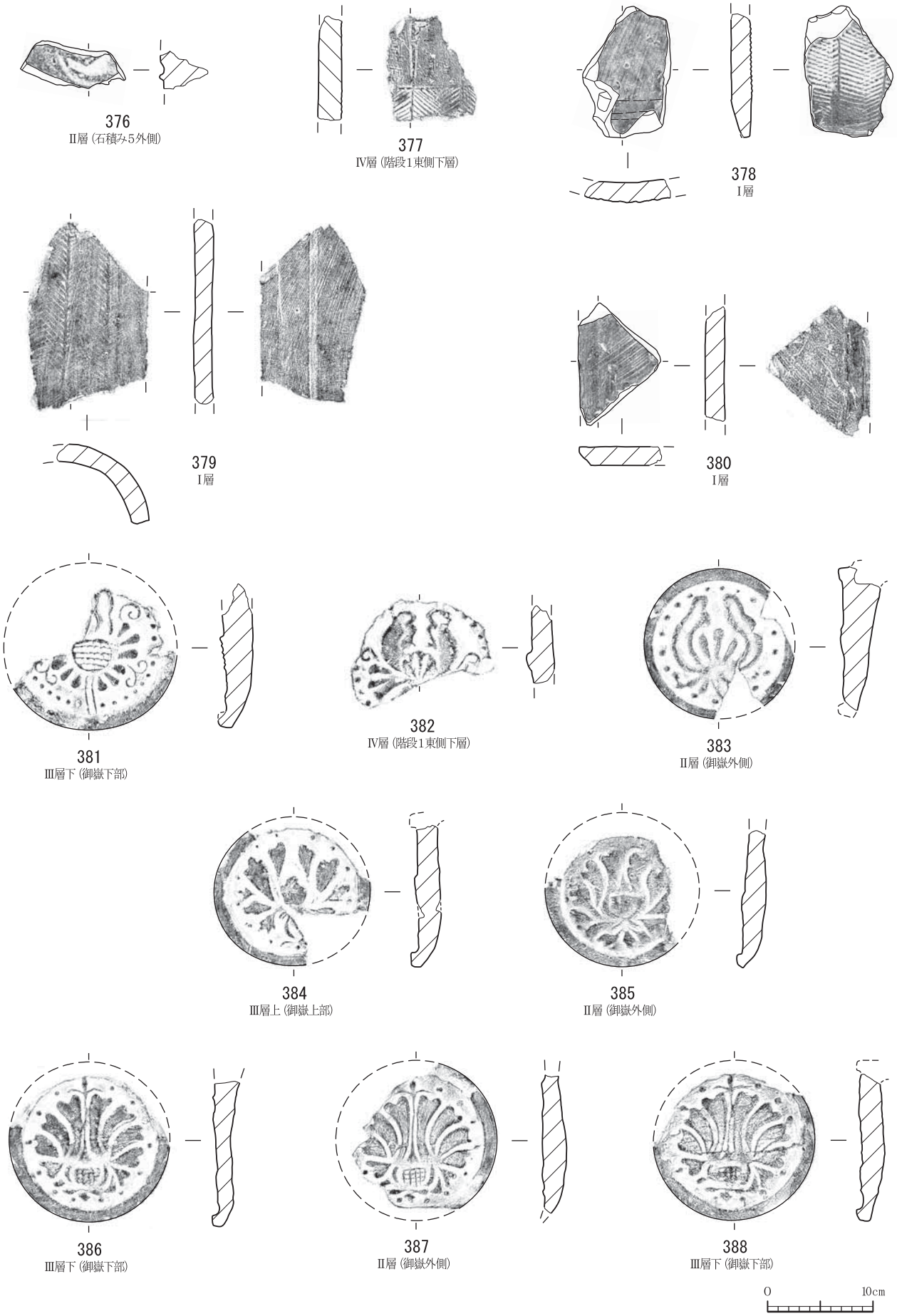
軒瓦以外の破片は、丸瓦（403 ～ 406）が 652 点、平瓦が 932 点、道具瓦（406）が 1 点出土している（第 36 表)。ヘラ記号がある破片は 26 点ある（第 37 表)。

第 36 表　明朝系丸・平瓦集計表

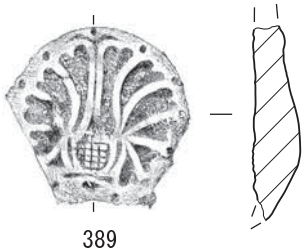
合計 / 点数				継世門北											小計	総計
				Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層			
種類	色調	部位	角	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	Dトレンチ	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層		
道具瓦	赤色	雲形	–								1				1	1
丸瓦	灰色	玉縁・端部	角1つ・角なし								1				1	652
			角1つずつ			1		1							2	
		玉縁部	角1つ	43		38	9	39		16	26			3	174	
			角2つ	3		1	2	5		1	3				15	
			角なし	20		25	7	13		5	13			2	85	
			玉縁のみ			1		2			2				5	
		端部	角1つ	11		27	3	12		4	10		1		68	
			角なし	7		8	2	12		2	5			2	38	
		筒部	–	22	1	46	12	13	1	6	15		2	4	122	
	赤色	玉縁部	角1つ	15		2	1	14		10	14				56	
			角2つ	1						1	3				5	
			角なし	9		3	1	7		3	9				32	
			玉縁のみ	3							2			1	6	
		玉縁部・端部	角1つ・角2つ								1				1	
		端部	角1つ	2		1		3			2				8	
			角2つ				2								2	
			角なし				1	1		1	1				4	
		筒部	–	2		4		2		3	9				20	
	赤褐色（陶器質）	筒部	–	2				1			1				4	
	喜名系	玉縁部	角1つ	2						2					4	
平瓦	灰色	狭端部	角1つ	27		36	8	24		9	12		1	7	124	932
			角2つ			1		2			1				4	
			角なし	9		12	2	5		3	4		1	1	37	
		広端・狭端	角1つずつ			3		1			1				5	
			角なし					1							1	
		広端部	角1つ	21		31	9	32	1	10	23	1	1	10	139	
			角2つ					2							2	
			角なし	13		19		16		4	3			1	56	
		端部	角1つ	1											1	
		筒部	–	120	7	129	15	53	1	32	30	1	15	40	443	
	赤色	狭端部	角1つ	1		7				2	3				13	
			角なし	5											5	
		広端部	角1つ	2		5	1	4		6	6				24	
			角なし	2											2	
		筒部	–	15		5	1	1		1	5			3	31	
	赤褐色（陶器質）	狭端部	角1つ	2											2	
			角なし	1		1				1					3	
		広端部・狭端部	角1つずつ							1			1		2	
		筒部	–	4	1	4		3		1	1		1		15	
不明	灰色	–	–	1			4	2	3	2	4			6	22	
	赤褐色（陶器質）	–	–					1							1	
小計				366	9	410	80	272	6	126	211	2	23	80	1585	
総計				375		768				126	213		103			

第 37 表　明朝系ヘラ記号瓦集計表

点数	継世門北								総計
	Ⅰ層	Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層		
種類	表土他	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	御嶽上部	御嶽下部	階段1下層	階段1東側下層	
丸瓦	1	1	2	10	2	8		1	25
平瓦							1		1
小計	1	1	2	10	2	8	1	1	26
総計	1	13			2	8	2		

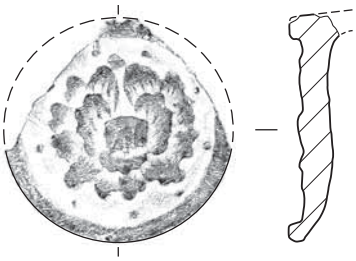


第 50 図　高麗系瓦・大和系瓦・明朝系瓦（１）

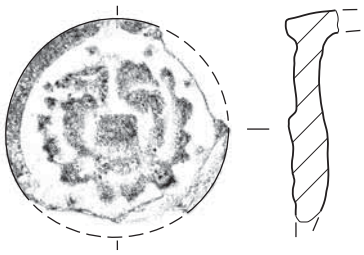


389
Ⅲ層下（御嶽下部）

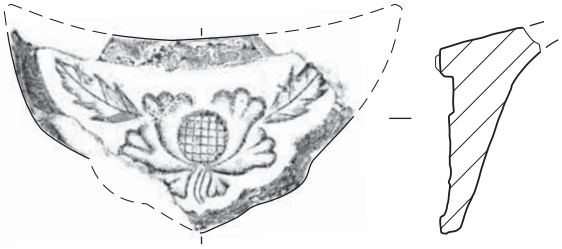
390
Ⅳ層（階段1東側下層）



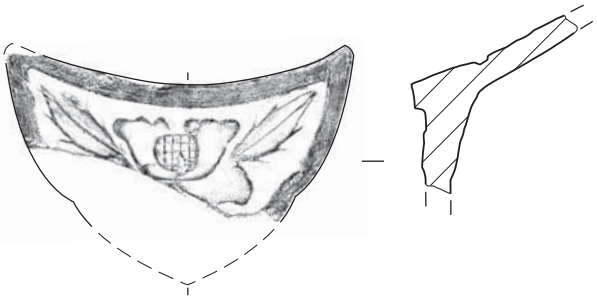
391
Ⅰ層



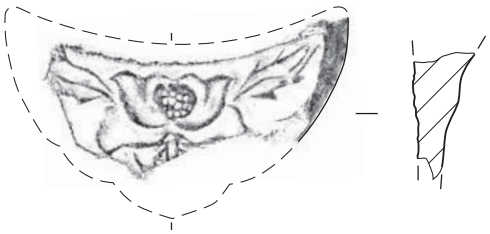
392
Ⅲ層下（御嶽下部）



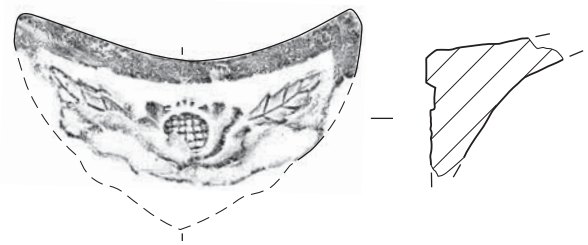
393
Ⅳ層（階段1東側下層）



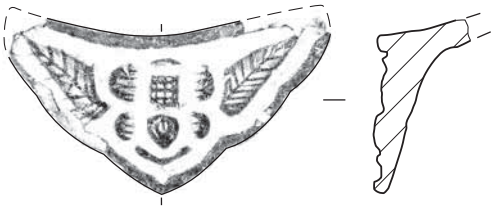
394
Ⅱ層（御嶽外側）



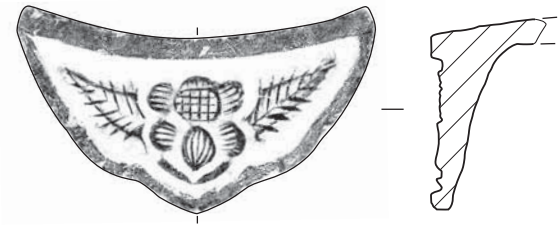
395
Ⅱ層（御嶽外側）



396
Ⅳ層（階段1東側下層）

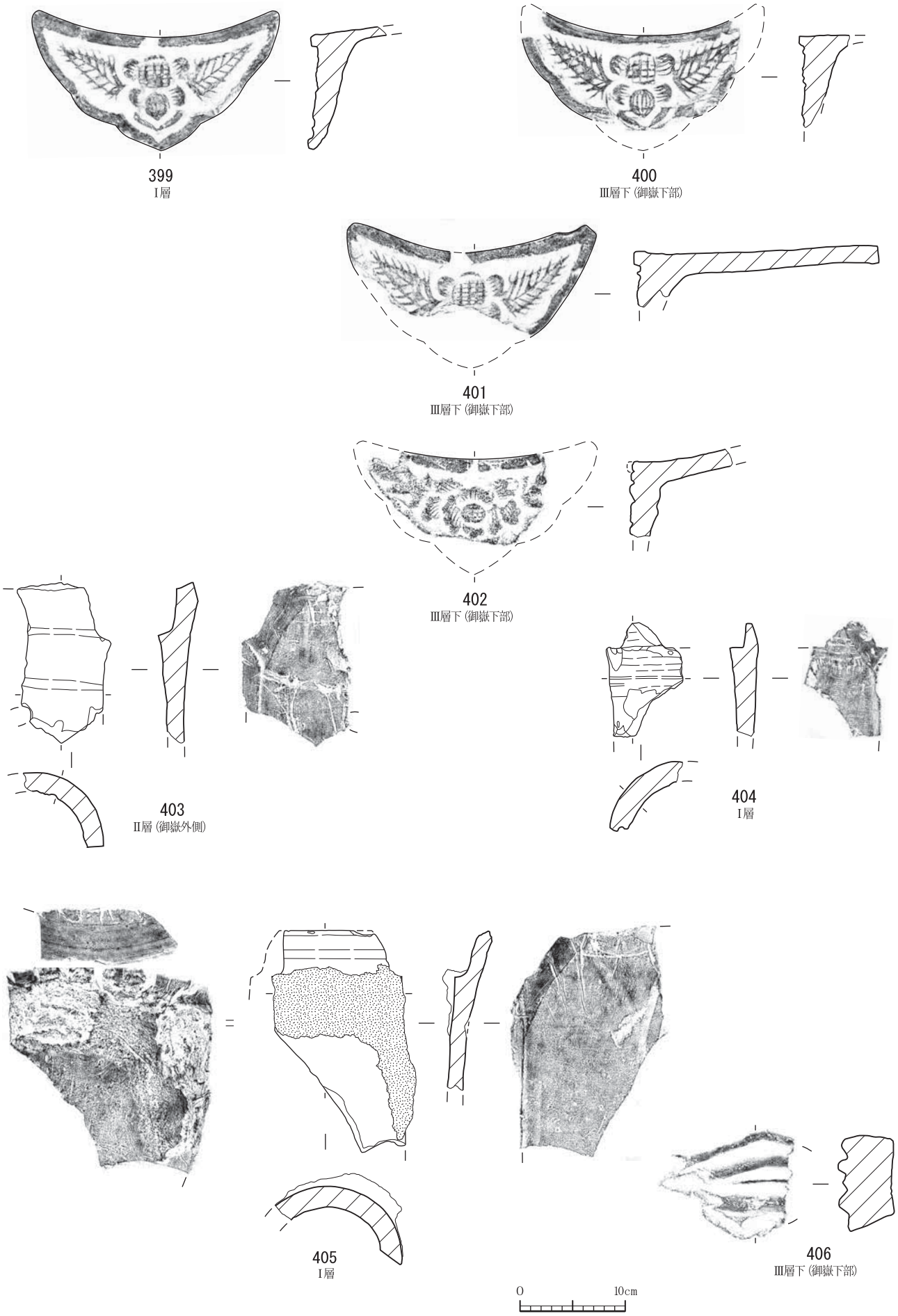


397
Ⅲ層下（御嶽下部）



398
Ⅱ層（石積み5外側）

第51図　明朝系瓦（2）


399
Ⅰ層
400
Ⅲ層下（御嶽下部）
401
Ⅲ層下（御嶽下部）
402
Ⅲ層下（御嶽下部）
403
Ⅱ層（御嶽外側）
404
Ⅰ層
405
Ⅰ層
406
Ⅲ層下（御嶽下部）
0
10cm

第52図　明朝系瓦（3）

10. 塼 （第 53 ～ 57 図・図版 39 ～ 41　407 ～ 424）

塼は 387 点出土している（第 38 表）。上原静の分類（2011）を参考にして、形態により大きく 4 つに分けられ、正方形（407 ～ 416）、長方形（417・424）、三角形（418 ～ 421）、噛み合わせ式（422・423）がある。ヘラ記号があるものは 15 点見られる（第 39 表）。

11. 漆喰 （図版 41･42　425 ～ 439）

漆喰は 146 点出土している（第 40 表）。そのうち、箱状（425）、饅頭状（426）を呈した一定の形を持っているものを漆喰製品とし、7 点を数える。このほかの（427 ～ 439）は、明朝系瓦が付着した（429 ～ 431）など、瓦などを包含もしくは付着して使用されたものと思われる。

第 38 表　塼集計表

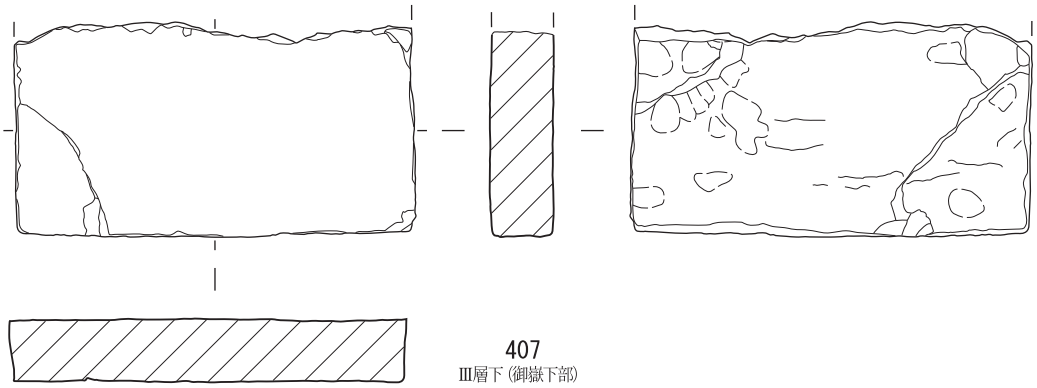
合計 / 点数					継世門北									書院南	小計	総計
					Ⅰ層		Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下	Ⅳ層				
色調	形状	被熱	漆喰	角	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2 外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部	階段1 下層	階段1 東側下層			
灰色	正方形	無	無	1	12		48	2	25		8		4		99	282
				2			2						1		3	
				無	14	1	33	2	18	4	9		5	1	87	
			有	1			1		1						2	
	長方形	無	有	2	1				1						2	
				無					1						1	
	三角形	無	無	1	4		6	1	13	1	1		1		27	
				2			2		2						4	
				無	2		1		2						5	
	噛み合わせ式	無	無	1			1						1		2	
				無	2				1		1		2		6	
	不明	無	無	1	1	1	6		1				1		10	
				2			2		1						3	
				無	6		10		9				6		31	
赤色	正方形	無	無	1	6		8	1	13		4		1		33	105
				2					2				1		3	
				無	14		8		7	5	3	1	7		45	
			有	無	1										1	
	三角形	無	無	1			2		7				1		10	
				2					2						2	
				無					2		1				3	
	不明	無	無	無	2		1		2			1	2		8	
小計					65	2	131	6	110	10	27	2	33	1	387	
総計					67		247			10	27	35		1		

第 39 表　塼ヘラ記号集計表

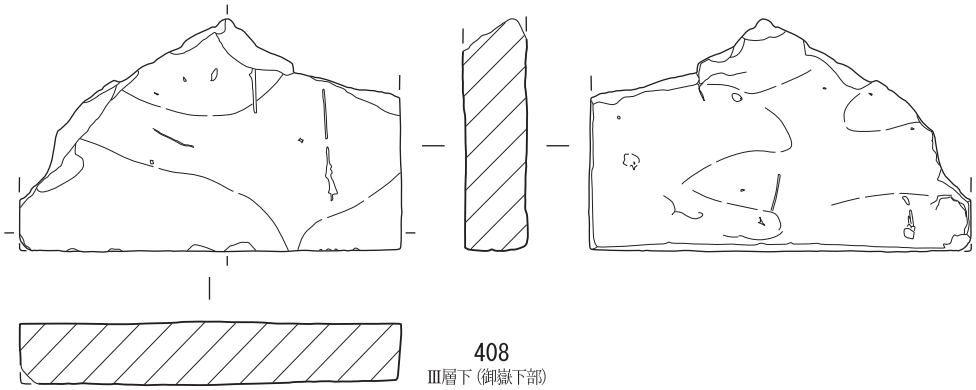
合計 / 点数			継世門北					小計	総計
			Ⅰ層	Ⅱ層		Ⅲ層上	Ⅲ層下		
色調	形状	刻印・記号	表土他	御嶽外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部		
灰色	正方形	／			1		1	2	11
		／／	1					1	
		キ		1				1	
		大二					1	1	
		不明		2	1			3	
	長方形	有文			1			1	
	三角形	×			1			1	
	噛み合わせ式	ー			1			1	
赤色	正方形	／			2			2	4
		不明				1		1	
	三角形	大					1	1	
小計			1	3	7	1	3	15	
総計			1	10		1	3		

第 40 表　漆喰集計表

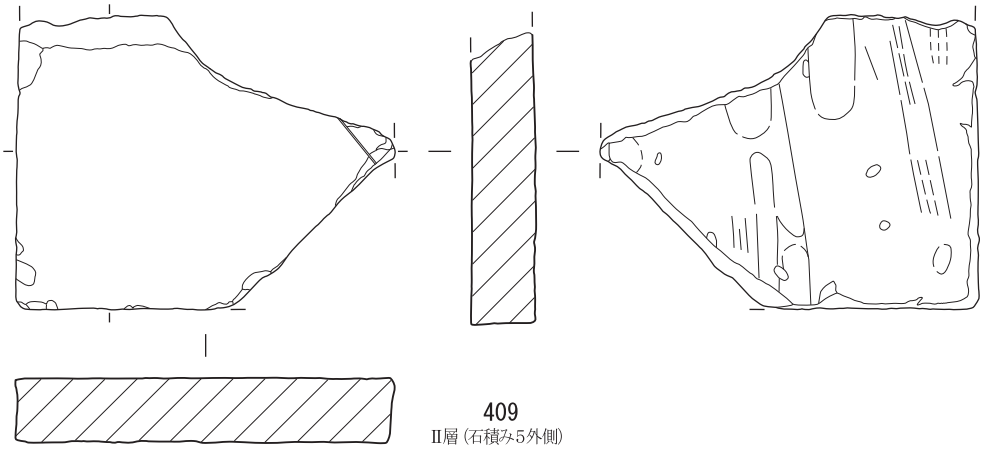
合計 / 点数		継世門北								総計
		Ⅰ層	Ⅱ層			Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層	
種類	器形	表土他	御嶽外側	石積2 外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1 東側下層	
漆喰製品	饅頭状		1							1
	箱状			2	4					6
漆喰	ー	13	71	6	24	1	20	1	3	139
小計		13	72	8	28	1	20	1	3	146
総計		13	108			1	21		3	



407
Ⅲ層下（御嶽下部）



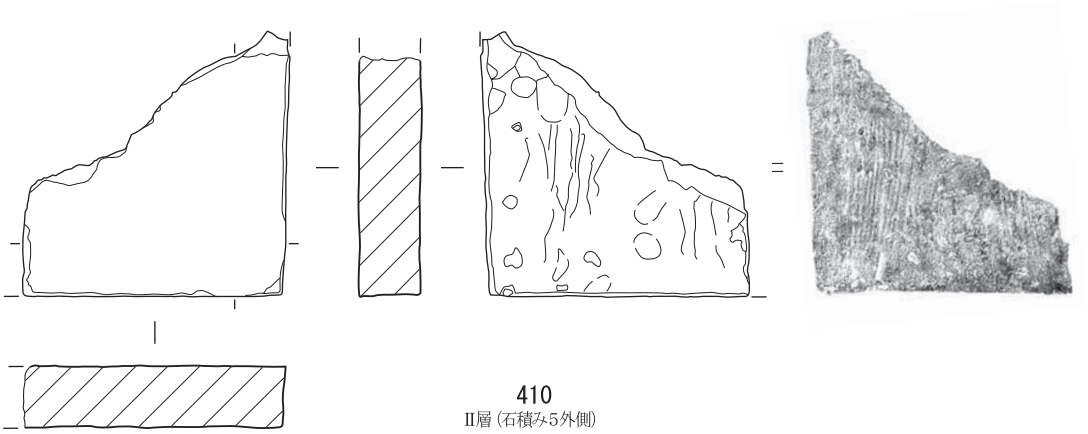
408
Ⅲ層下（御嶽下部）



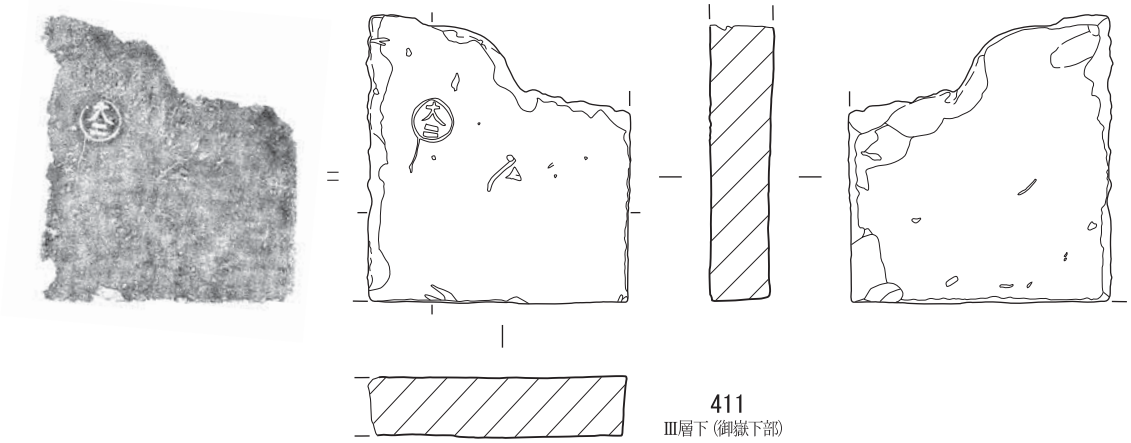
409
Ⅱ層（石積み5外側）

0　10cm

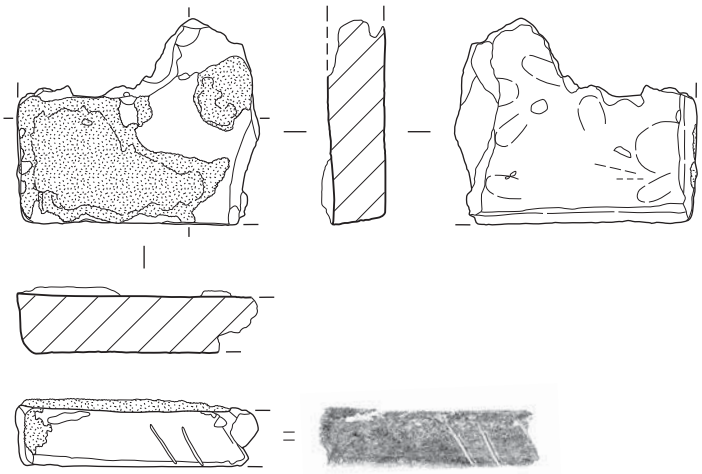
第53図　塼（1）



410
Ⅱ層（石積み5外側）



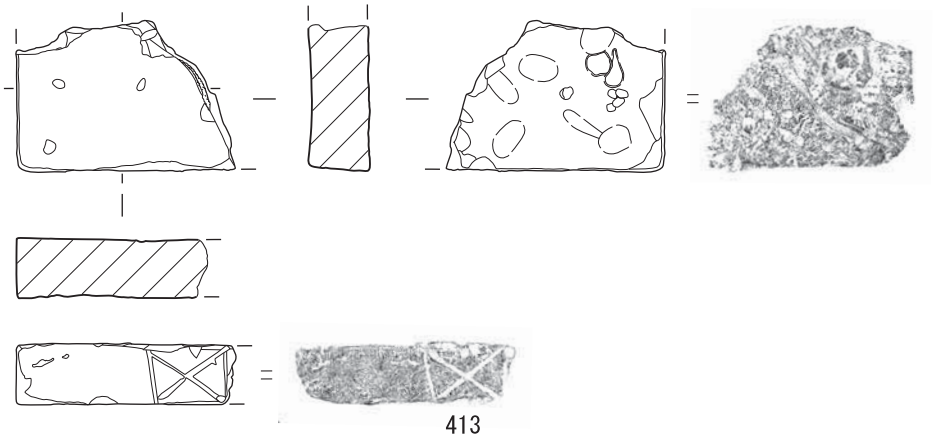
411
Ⅲ層下（御嶽下部）



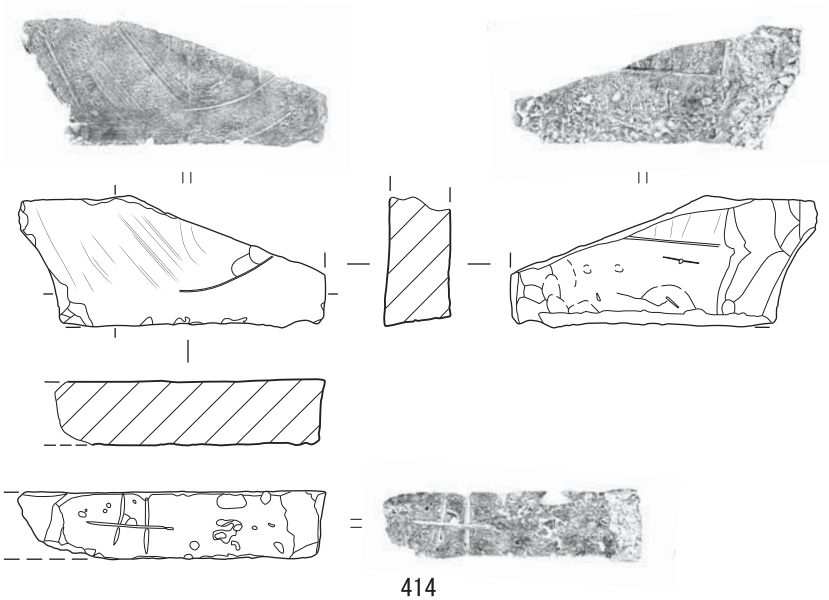
412
Ⅲ層下（御嶽下部）

0　10cm

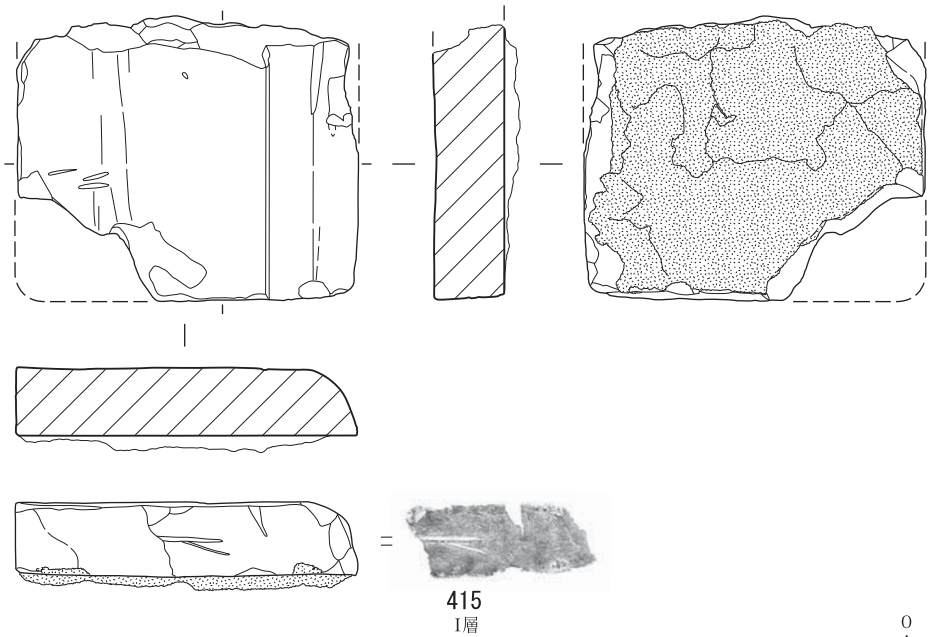
第54図　塼（2）



413
Ⅲ層下（御嶽下部）



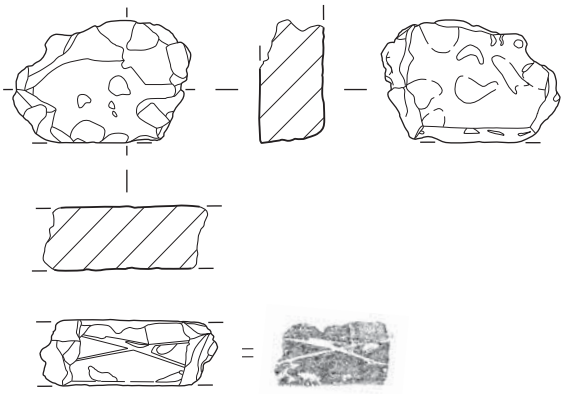
414
Ⅱ層（御嶽外側）



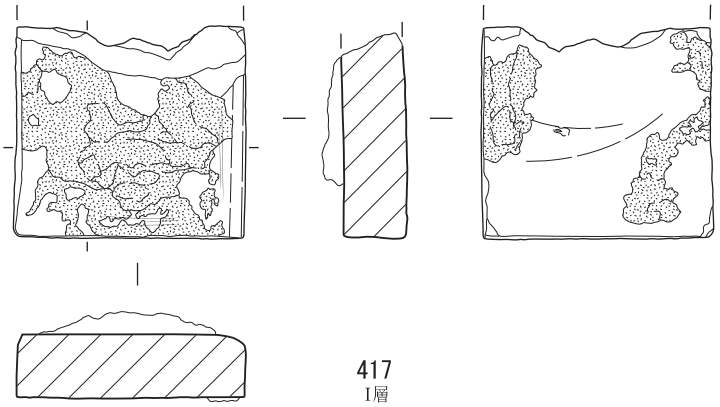
415
Ⅰ層

0　10cm

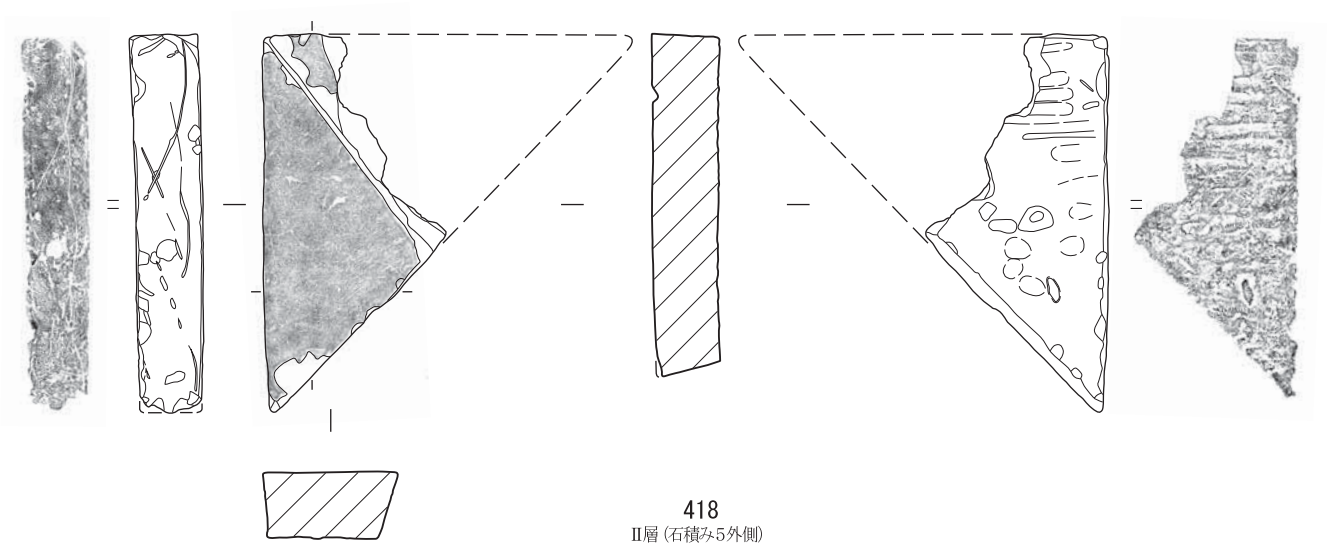
第55図　塼（3）



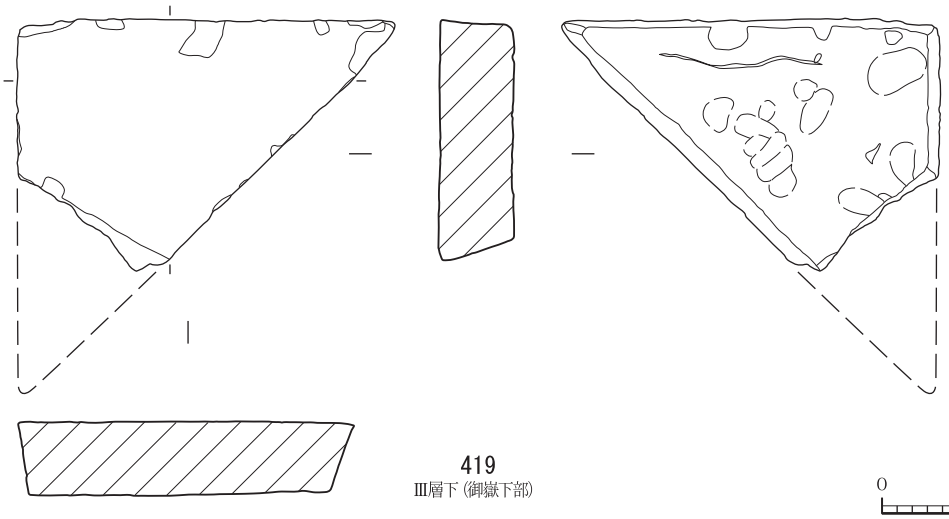
416
Ⅲ層上（御嶽上部）



417
Ⅰ層



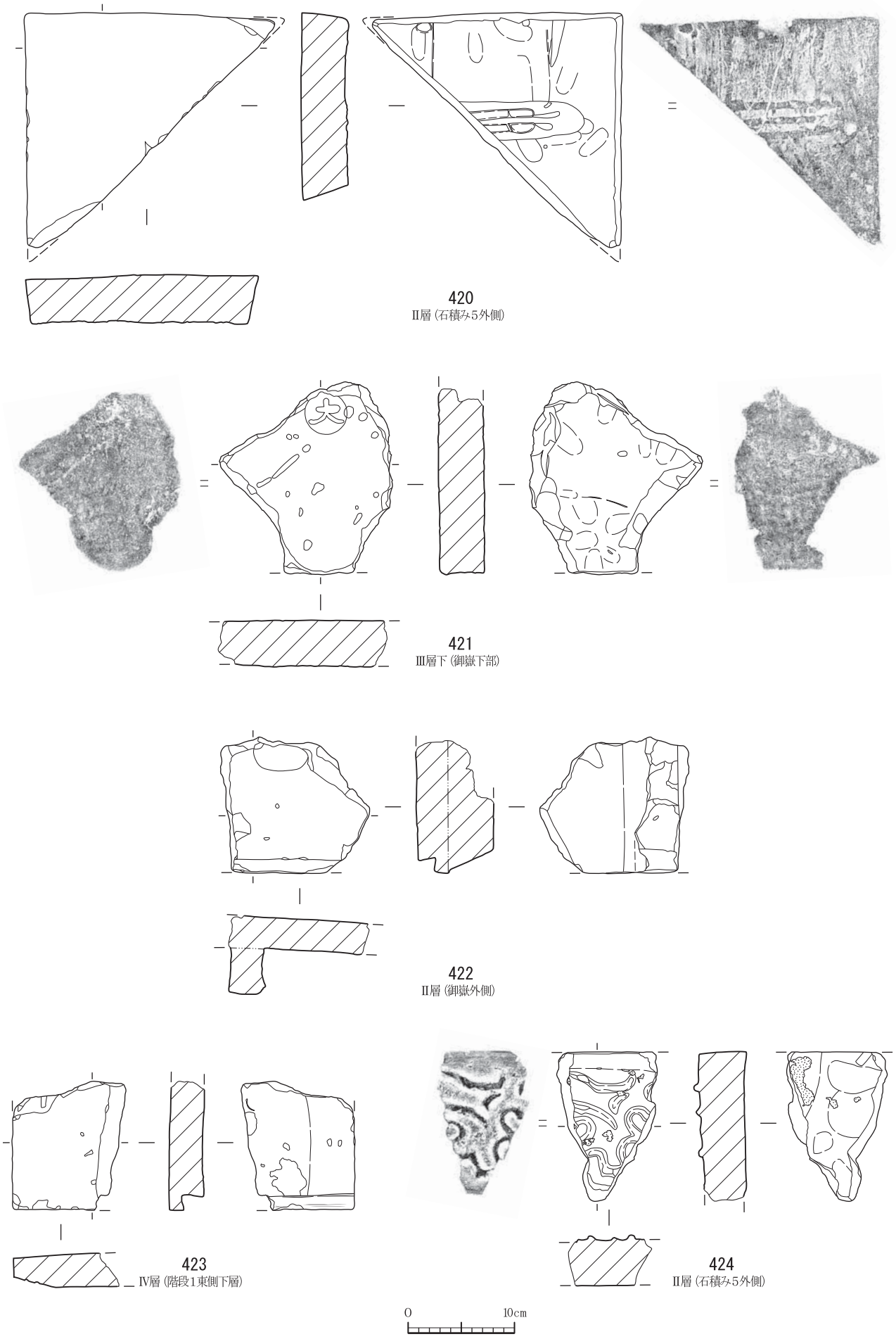
418
Ⅱ層（石積み5外側）



419
Ⅲ層下（御嶽下部）

0　10cm

第56図　塼（4）


420
Ⅱ層（石積み5外側）
421
Ⅲ層下（御嶽下部）
422
Ⅱ層（御嶽外側）
423
Ⅳ層（階段1東側下層）
424
Ⅱ層（石積み5外側）
0
10cm

第57図　塼（5）

第 41 表　遺物観察表（１）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
1	中国産青磁	碗	Ⅵ－１	－	－	5.5	片切彫りの細連弁文。釉（A）は高台内途中まで掛かる。外底は突出。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下２層
2	中国産青磁	碗	Ⅵ	9.3	－	－	細連弁状の区画に縦位の円文を浮き彫り。口縁端部が方形に仕上げており、Ⅵ類と考えた。	Ⅱ層（御嶽外側）	Ｃトレンチ１層
3	中国産青磁	皿	Ⅲ－１	14.0	4.2	6.9	釉（A）は青緑色で発色良好、厚さ1mm。口縁は口折、端部は丸い。畳付釉剥ぎで灰色。見込みおそらく双魚文。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ７層
4	中国産青磁	皿	Ⅴ－１	12.00	－	－	釉（A）やや薄い。幅太の片切彫りの無鎬連弁文。口縁端部は外反し丸い。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北２層
5	中国産青磁	皿	Ⅴ－１ 口折	－	－	5.0	外底蛇の目釉（A）剥ぎ。やや細めの無鎬連弁文。見込み片切彫りの花弁文。口縁はおそらく口折。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
6	中国産青磁	皿	Ⅴ－０ 外反	12.0	3.8	6.4	外底蛇の目釉（A）剥ぎ。見込みは印花。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間４層
7	中国産青磁	皿	Ⅴ－３ 腰折	－	－	6.2	外底おそらく蛇の目釉（A）剥ぎ。体部外面下半は三角（連弁状）文。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
8	中国産青磁	皿	Ⅴ－０	－	－	5.8	外底蛇の目釉（A）剥ぎ。見込みは印花で花弁十字文。見込みやや突出。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１３層
9	中国産青磁	皿	Ⅵ－０	－	－	5.8	外底おそらく蛇の目釉（B）剥ぎ。見込みは円文か。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
10	中国産青磁	皿	Ⅵ－０	－	－	5.2	外底大半釉が掛かり、釉剥ぎなし。見込みは梵字？文。	Ⅰ層	表土
11	中国産青磁	盤	Ｂ？	－	－	18.2	見込み蛇の目釉剥ぎ、釉（A）やや薄い。器面赤変し、被熱か。見込みは片切彫りで、鱗・波濤の表現あるため、魚文か。	Ⅰ層	表土
12	中国産青磁	盤	Ａ－１	40.4	7.95	22.2	釉（A）やや薄い。口縁は鍔縁で厚く端部上方にわずか摘み上げ。内面幅広で連弁状に区画。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下２層
13	中国産青磁	瓶	―	－	－	－	釉（A）は青白色。外面貼付花弁文、下半連弁文。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
14	中国産青磁	壺	Ｂ	－	－	－	釉（A）薄い。おそらく長胴壺。外面花弁文だがやや疎ら。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１
15	中国産青磁	壺蓋	Ａ	20.0	－	－	釉（A）、内面は薄い。外面草花文。庇端部に重ね焼き痕あり。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北３層
16	中国産青磁	天目台	―	6.0	4.0	4.6	畳付釉（A）剥ぎ。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
17	中国産白磁	碗	景徳鎮 Ｅ０	－	－	5.0	外底無釉、畳付黒色物付着。見込み凹む。	Ⅰ層	表土
18	中国産白磁	碗	福建	－	－	7.0	外底無釉、黒色物（漆？）付着。見込み蛇の目釉剥ぎ。幅広高台。	Ⅱ層（石積み２外側）	石積み２南側
19	中国産白磁	小碗	徳化	9.3	4.4	4.8	見込みの段明瞭、型作りの痕跡。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南１・２層
20	中国産白磁	皿	景徳鎮 Ｅ０	－	－	7.2	釉細かな貫入多い。外底無釉。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下１・２層
21	中国産白磁	皿	福建 Ｄ	8.6	－	－	口縁端部溶着痕、見込みに目跡？	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１７層
22	中国産白磁	皿	福建 Ｄ	－	－	3.8	釉細かな貫入多い。外面下半一部、外底無釉。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ７層
23	中国産白磁	皿	福建 Ｄ	－	－	4.4	外面下半無釉。見込み目跡４つ。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北３層
24	中国産白磁	皿	景徳鎮 Ｅ	14.7	3.75	7.8	口縁外面に段あり。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
25	中国産白磁	皿	景徳鎮 Ｅ	－	－	8.3	畳付内傾。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側３層
26	中国産白磁	皿	景徳鎮 Ｅ	－	－	11.8	畳付端部短くやや太め。見込み中央に円圏の稜あり。	Ⅳ層（階段１下層）	石積み６・イビ間北１層＋階段１内トレンチ１＋３層
27	中国産白磁	皿	福建	－	－	6.1	体部下半、見込み無釉。高台脇水平。Ｄ´群外反皿か。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
28	中国産白磁	皿	徳化	7.6	2.2	4.2	高台短く、抉り浅い。	Ⅰ層	表土
29	中国産白磁	小杯	徳化	4.2	2.9	2.2	畳付ざらつきあり。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南２層＋南７層

第 42 表　遺物観察表（２）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
30	中国産白磁	器台？	福建	5.6	－	－	体部に窓がある可能性が高く、器台か。大きな貫入あり。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
31	中国産青花	碗	明代景徳鎮Ｘ	14.2	－	－	口縁端部釉剥ぎ。外面雷文、花蔓草文を細線描き、ダミ塗り。	Ⅱ層（石積み５外側）	表土＋Ａトレンチ２層
32	中国産青花	碗	明代景徳鎮Ｘ	12.8	5.8	6.0	外面、見込みに風景文、細線描き、ダミ塗り。見込みわずかに凹む。外底字款。	Ⅱ層（御嶽外側）	表土＋石積み４東側３層＋Ａトレンチ３層
33	中国産青花	碗	明代景徳鎮Ｘ	12.2	5.7	5.8	内外に龍文を細線描き、ダミ塗り。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南３層
34	中国産青花	碗	明代景徳鎮Ｘ	14.4	－	－	円圏花弁文とリンドウ風の立草文。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
35	中国産青花	碗	明代景徳鎮Ｘ	－	－	7.4	内外面、蔓草風文を細線描き、ダミ塗り。見込み全体的に凹む。	Ⅱ層（御嶽外側）	Ｃトレンチ１層＋２層
36	中国産青花	碗	清代景徳鎮／徳化	11.4	6.0	5.7	釉は乳白色、口縁端部のみ釉剥ぎ。外底字款。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北１層＋南＋南２層
37	中国産青花	碗	明代漳州？	14.8	6.0	6.6	体部内外面下半無釉。口縁横帯崩れた唐草文。体部下半にカンナ削り痕明瞭。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側２層
38	中国産青花	碗	清代福建・広東Ａ	11.8	5.0	6.4	畳付釉剥ぎ。見込み中央無釉、蛇の目、凹む。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北１層＋東２層＋南２層
39	中国産青花	碗	清代福建・広東Ａ	12.8	4.6	7.2	内外面下半無釉。見込み中央わずかに凹む。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南
40	中国産青花	碗	清代福建・広東Ｂ	15.0	6.1	8.0	畳付釉剥ぎ。見込み蛇の目釉剥。口縁外反。	Ⅱ層（石積み２外側）	石積み２南側
41	中国産青花	碗	清代福建・広東Ｂ	14.7	6.6	7.0	畳付釉剥ぎ。見込み蛇の目釉剥。口縁外反。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
42	中国産青花	碗	清代福建・広東Ｂ	13.4	6.0	7.2	畳付釉剥ぎ。見込み蛇の目釉剥ぎ、中央部わずかに突出。外面全体的に黒ずむ。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側３層
43	中国産青花	碗	清代福建・広東Ｂ	14.3	6.0	8.8	外面高台より下無釉。見込み無釉だが、中央は蛇の目状。外底突出。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
44	中国産青花	碗	清代福建・広東	－	－	8.5	畳付釉剥ぎ。見込み蛇の目釉剥ぎ。胎土白色硬質。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
45	中国産青花	碗	清代景徳鎮	8.6	5.6	4.0	筒形。見込み凹む。外底字款。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
46	中国産青花	碗	清代景徳鎮	－	－	3.8	筒形。見込み凹む。外底字款。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
47	中国産青花	碗	清代景徳鎮／徳化	－	－	4.4	筒形。見込み平坦。高台内側縦じわあり。外底字款は葉文。	Ⅰ層	表土
48	中国産青花	碗	清代徳化	8.6	4.2	4.2	釉は乳白色。畳付ざらつく。	Ⅲ層下（御嶽下部）	表土＋石積み６・イビ間南２層
49	中国産青花	皿	明代景徳鎮Ｃ	10.4	－	－	釉・胎土灰色、陶器質。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側３層
50	中国産青花	皿	明代景徳鎮Ｂ	－	－	7.9	体部内外面、見込み共に牡丹唐草文。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
51	中国産青花	皿	明代景徳鎮Ｘ	－	－	9.8	見込み鬼？獅子？細線描き、ダミ塗り。外底字款。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
52	中国産青花	皿	明代景徳鎮Ｘ	16.6	3.0	10.0	体部緩やかに開く器形。見込み蔓草風文を細線描き、ダミ塗り。外底字款。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間
53	中国産青花	皿	明代景徳鎮Ｘ	11.2	(2.6)	7	外面は急須？、見込み花弁と幾何学文、細線描き、ダミ塗り。外底字款は香炉？	Ⅲ層下（御嶽イビ）	石積み６・イビ間北１層＋イビ
54	中国産青花	皿	明代景徳鎮Ｘ	11.8	2.6	6.2	中位で折れて外反する器形。内面、細線描き、ダミ塗りによる、見込みは獅子？	Ⅰ層	表土
55	中国産青花	小杯	明代景徳鎮	5.4	3	2.4	外面は馬？、見込み共に細線描き、ダミ塗り。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
56	中国産青花	杯	清代景徳鎮？	－	－	3.6	腰折杯。外底字款は福。	Ⅱ層（御嶽外側）	Ｃトレンチ３層
57	中国産青花	杯	清代景徳鎮？	12.8	9.7	8.0	腰折杯。体部外面は幾何学文。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み１・４間１層＋４層　石積み６・イビ間北１層＋２層
58	中国産青花	鉢	清代福建・広東	30.0	－	－	胎土軟質、釉青灰色。円文。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	石積み６・イビ間南５・６層

第 43 表　遺物観察表（３）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
59	中国産青花	瓶	明代景徳鎮？	6.0	－	－	呉須が大きくにじむ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ東側５層
60	中国産青花	盤	元様式景徳鎮	－	－	－	外底無釉。内面は唐草文。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
61	中国産青花	壺	元様式景徳鎮	－	－	－	口縁。雷文帯。器面ざらつき付着物があり、被熱か？	Ⅰ層	表土
62	中国産青花	壺	元様式景徳鎮	－	－	－	体部下半か。ラマ式連弁文。器面ざらつき、被熱か？	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
63	中国産青花	蓋	明代景徳鎮？	11.8	－	10.0	把手は褐釉。文様は細線描き、ダミ塗り。	Ⅰ層	表土
64	中国産青花	蓋	明代景徳鎮？	－	－	4.6	ダミ塗り見られる。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南３層
65	中国産青花	水注	明景徳鎮	－	－	－	注口部。比較的丁寧な蔓唐草文。	Ⅱ層（御嶽外側）	Ｃトレンチ１層
66	中国産青花	香炉	明景徳鎮	－	－	－	脚部。渦文。やや器面ざらつき、被熱か。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
67	中国産褐釉	壺	２類	15.4	－	－	内外面緑褐釉。胎土灰白色、白・褐色粗粒多く混入。縦耳、欠損。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北２層
68	中国産褐釉	壺	３類	11.8	－	－	外面白色、内面灰白色釉。胎土褐灰色、白色粒若干混入。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北３層
69	中国産褐釉	壺	４類	10.2	－	－	内外面緑褐釉。胎土黄褐色、白・褐色粒若干混入。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み３東側５層
70	中国産褐釉	壺	－	15.2	－	－	内面口縁から外面明褐釉。胎土赤色、白・褐色粒若干混入。71と同一個体か。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
71	中国産褐釉	壺	－	－	－	－	外面明褐釉。胎土赤色、白・褐色粒若干混入。貼り付けによる雲状文。70と同一個体か。	Ⅳ層（階段１東側下層）	表土＋Ｂトレンチ東側５層
72	中国産褐釉	壺	５類	18.4	－	－	内外面緑褐釉。胎土灰黄色、石英等混入。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ東側５層
73	中国産褐釉	壺	－	－	－	15.7	外面灰白釉、釉だまりが部分的にある。胎土灰白色、白色粒若干混入。内面の狭いロクロ目が74と共通。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北１層＋南３層
74	中国産褐釉	壺	－	－	－	12.6	外面上半黒褐釉。胎土灰白色、白色粒若干混入。内面の狭いロクロ目が73と共通。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南３層
75	中国産褐釉	壺	５類	－	－	15.6	内外面緑褐釉。胎土灰黄色、石英等混入。外底に胎火土か付着。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ
76	中国産褐釉	壺	－	－	－	20.1	内面黄灰色、外面橙色、共に無釉。胎土灰色、白色粒等多く混入。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ７層
77	中国産褐釉	壺	－	－	－	15.4	内外面鈍褐色、無釉。胎土灰色、白色粒等混入。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南３層
78	中国産褐釉	壺	－	－	－	－	内外断面暗褐色、無釉。有耳、その右に不明スタンプ。内面に横位の線状痕。	Ⅰ層	表土＋不明
79	中国産褐釉	壺	５類？	－	－	－	内外面緑褐釉。胎土灰黄色、石英等混入。外面に不明（字？）の釉掻き取り、胎火土が等間隔で見られる。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ東側５層
80	中国産褐釉	水注	－	10.4	－	－	内外断面褐色、無釉。口縁は直口し、端面水平。内面頚部に突出部。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南１・２層
81	中国産褐釉	小壺	洪糖？	5.8	(5.0)	5.0	内面、外面上半黄緑釉。胎土黄橙色、精良。外底糸切り痕。厚さ1～2mm。	Ⅱ層（石積み５外側）	表土＋Ａトレンチ３層
82	中国産褐釉	不明	－	－	－	－	底部か。外面ごくわずかに褐釉。胎土鈍橙色、白色粒わずか混入。外面に墨書２行「企□」「□□」。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
83	中国産褐釉	鉢	－	32.8	27.5	17.8	内外面・断面中灰色、断面外が赤褐色。口縁上面に爪先状痕。胴部は貼り付け花芯文。	Ⅱ層（石積み５外側）	表土＋Ａトレンチ４層＋７層
84	中国産褐釉	鉢	－	44.5	－	－	内外面断面橙色、一部灰色。口縁上面に凹線。胴部は貼り付け縄目文。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ７層
85	中国産褐釉	擂鉢	－	－	－	12.4	内外面赤褐色、断面褐灰色。擂目12本／2.4cm。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ４層
86	中国産黒釉	天目碗	南平茶洋	－	－	4.4	内面褐釉。外面下半鈍橙色、無釉。胎土灰色。外底歪に凹む。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下１・２層
87	中国産三彩陶器	水注	－	－	－	7.1	胎土淡黄色、精良、軟質。木瓜形。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間

第 44 表　遺物観察表（４）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
88	中国産翡翠釉磁器？	瓶	―	5.0	－	－	内外面コバルト色だが、部分的に剥がれている。胎土は磁器質であり、白磁が変色した可能性も？	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北１層
89	中国産紫釉陶器	瓶	―	－	－	－	内面無釉、ハケ状痕。線刻により胴部上半が雲文？、圏線挟み花弁文。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下３・４層
90	中国産褐釉磁器	小杯	景徳鎮	4.6	2.5	2.2	外面高台より上が褐釉。畳付釉剥ぎ。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
91	タイ産褐釉陶器	壺	シーサッチャナライ	20.4	－	－	胎土褐灰色。口縁端部上下に肥厚。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側２層
92	タイ産褐釉陶器	壺	シーサッチャナライ	18.0	－	－	胎土褐灰色。口縁端部まるめ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ東側５層
93	タイ産褐釉陶器	壺	メナムノイ	18.8	－	－	胎土赤褐色。玉縁口縁、上端・下端凹み。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
94	タイ産褐釉陶器	壺	メナムノイ	20.6	－	－	胎土赤褐色。玉縁口縁、上端凹み。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
95	タイ産褐釉陶器	壺	メナムノイ	－	－	26.6	胎土赤褐色。外底砂付着でざらつく。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
96	タイ産土器	壺	バンプーン	－	－	－	胎土灰色、黒色粒混入。口縁外面に凹線３条。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
97	タイ産半練土器	蓋	―	－	4.5＋	－	胎土明黄褐色。つまみ。	Ⅳ層（階段１下層）	石積み９
98	タイ産半練土器	蓋	―	－	－	15.4	胎土内外面鈍黄橙色、断面黄灰色。口縁。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南３層
99	産地不明陶器	蓋	―	17.6	14.5	－	胎土鈍橙色、赤色粒混入。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１
100	本土産染付	碗	Ⅱ－１	11.3	6.8	5.0	外面に花文と圏線。側面に凹み、いわゆるえくぼ碗。畳付には砂が付着。肥前。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側２層
101	本土産染付	碗	Ⅲ	11.8	－	－	外面に草花文と圏線、内面に圏線。肥前産。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
102	本土産染付	碗	Ⅲ	10.0	－	－	外面には口縁部の二重圏線と草花文。肥前産。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
103	本土産染付	碗	Ⅲ	－	－	4.6	外面には草花文と、胴下部及び高台外面、外底に圏線。畳付には砂付着。No.102と同一個体の可能性あり。肥前産。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
104	本土産染付	碗	Ⅲ	13.9	7.3	5.1	外面は簡略化された雲龍文と二重圏線、内面には圏線、見込には二重圏線と簡略化された荒磯文。畳付には砂付着。肥前産。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
105	本土産染付	碗	Ⅲ	13.9	7.7	4.9	色調灰色で呉須の発色悪く不鮮明。外面は圏線と簡略化された山水文。内面口縁部に圏線、見込に二重圏線。畳付の文様は残存部僅少で不明。畳付露胎、砂付着。肥前産。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層＋４層
106	本土産染付	碗	Ⅲ	－	－	5.5	色調灰色で呉須の発色悪く不鮮明。外面圏線、主文様は残部僅少で不明。見込に二重圏線と不明文様。肥前産。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
107	本土産染付	碗	ⅢかⅣ	8.8	5.0	4.5	筒丸形の蓋付碗。外面に丸文と圏線。口唇部～内面口縁部、畳付釉剥ぎ。肥前産。	Ⅱ層（御嶽外側）	Ｃトレンチ３層
108	本土産染付	小碗	Ⅳ	－	－	4.3	筒形碗。外面に蛸唐草文・蓮弁文・圏線、高台に二重圏線、内面に二重圏線・環状松竹梅文。畳付釉剥ぎ。肥前産。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６イビ間南６層
109	本土産染付	小碗	Ⅴ	－	－	6.0	猪口。外面に唐草文・蓮弁文・圏線、内面は口縁部に四方襷文、見込みには二重圏線と五弁花。畳付釉剥ぎ。肥前産。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層＋表土
110	本土産染付	碗	－	－	－	4.4	器壁厚く胎土灰白色。呉須の発色悪く色調は濁り気味。外面に草花文と圏線、高台二重圏線。見込みは蛇の目状の釉剥ぎと重ね焼き痕。波佐見産。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ７層
111	本土産染付	皿	－	－	－	－	変形皿。型打成形。外面は七宝結文、内面は薄ダミ地に唐草文。鍋島焼で初期から盛期。	書院南	H26首書南　表採
112	本土産染付	瓶	Ⅱ～Ⅲ	3.9	－	－	徳利の口部。短い頸部から外反し、口縁部は玉縁状。肥前産。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下１・２層
113	本土産染付	瓶	Ⅲ	－	－	－	瓶胴部。胴上（肩）部に鋸歯文、二重圏線。胴部は圏線とその下に網目文。肥前産。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層＋石積み４東側３層
114	本土産染付	瓶	Ⅲ	－	－	－	瓶胴部。胴上（肩）部に波形文、二重圏線。胴部は草花文。肥前産。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側２層＋表土
115	本土産色絵	皿	Ⅴ	－	－	－	口縁部変形の角皿か。外面胴部に簡略化した宝文、内面には色絵で鶴、ただし顔料は全て剥落。肥前産。	Ⅰ層	表土
116	本土産青磁	碗	－	－	－	6.3	筒形碗。外面に青磁釉、内面は釉垂れが残るが露胎。底部には鉄泥塗布。肥前産。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層

第 45 表　遺物観察表（５）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
117	本土産青磁	火入	－	－	－	5.2	火入れ。外面に青磁釉、内面は露胎。底部は鉄泥塗布。肥前。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
118	本土産青磁	火入	－	－	－	7.4	火入れ。外面及び底部に青磁釉、内面は露胎で見込中央部に凹み。底部は蛇の目状に釉剥ぎし鉄泥塗布。肥前。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
119	本土産陶器	碗	Ａ－１	11.9	7.6	4.8	淡黄色でやや粗い胎土。全面銅緑、内面は部分的に露胎。重ね焼き跡残。畳付は釉剥ぎ。肥前産でⅣ期相当。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
120	本土産陶器	碗	Ａ－１	－	－	4.6	浅黄色でやや粗い胎土。高台及び外底部を除き銅緑釉を施釉。見込みは全体的に砂粒付着、重ね焼き痕も残。肥前産でⅣ期相当。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
121	本土産陶器	碗	Ａ－１	－	－	4.4	浅黄色で緻密な胎土。内外面ともに銅緑釉、外面胴下部から高台は露胎。見込みには砂が付着。肥前産でⅣ期相当。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
122	本土産陶器	碗	Ｂ	11.0	6.85	5.1	淡黄色で緻密な胎土。内外面ともに鉄釉。外面底部は露胎。肥前産。	Ⅱ層（石積み２外側）	石積み２南側
123	本土産陶器	碗	Ａ－２	10.6	7.7	7.0	灰色で粗い胎土。内外面とも緑釉を施釉し、外底部は釉剥ぎ。手づくね成形で全面に凹凸あり。産地・年代とも不明。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間東１層＋北１層
124	本土産陶器	小碗	－	－	－	3.4	灰白色で緻密な胎土。灰釉が内外面に施釉され、畳付のみ釉剥ぎ。産地・年代とも不明。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６イビ間南３層
125	本土産陶器	皿	Ａ－１	13.4	3.5	4.7	淡黄色で緻密な胎土。内外面銅緑釉、外面胴下部から高台は露胎。見込みは蛇の目状に釉剥ぎ。畳付と見込みに重ね焼き痕も残。肥前産でⅣ期相当。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間４層＋１層表土＋石積み１・４間
126	本土産陶器	皿	Ａ－１	12.7	3.6	4.6	淡黄色で緻密な胎土。内外面に銅緑釉、外面胴下部から高台は露胎。見込みは蛇の目状に釉剥ぎ、重ね焼き痕も残。肥前産でⅣ期相当。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
127	本土産陶器	皿	Ｂ	11.4	3.1	4.8	灰色で緻密な胎土。内外面とも透明釉。畳付と外底面は露胎。見込みは蛇の目状に釉剥ぎ、中央部には砂付着。肥前産でⅣ期相当。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
128	本土産陶器	皿	Ａ－２	12.0	3.9	4.5	浅黄色で緻密な胎土。内外面に緑釉、ただし外面は発色悪い。胴下部から高台露胎。見込みは蛇の目状に釉剥ぎ。肥前産でⅣ期相当。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
129	本土産陶器	皿	－	－	－	3.7	灰色で緻密な胎土。内外面とも緑釉を施釉。畳付と外底面は露胎。産地・年代とも不明。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
130	本土産陶器	小壷	－	3.3	－	－	髪油壷。外面暗褐色、内面黒灰色で緻密な胎土の２層状。外面は胴部まで褐釉、内面は鉄釉。丹波か。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間４層＋イビ＋石積み４・６間２・３層
131	本土産陶器	小壷	－	－	－	4.0	灰白色で砂粒の多い胎土。外面に黒釉施釉、底部及び底部付近は露胎。底部は削りによる僅かに窪む。内底面には砂が付着し、中央部は押捺により突起。産地・年代とも不明。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
132	本土産陶器	小壷	－	－	－	6.0	灰白色で砂粒の多い胎土。外面に灰釉、内面・底部は露胎。外面底部付近に指痕、底部に糸切痕明瞭。産地・年代とも不明。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ５層
133	本土産陶器	瓶	－	－	－	5.9	褐色で砂粒の多い胎土。内外面に自然釉、底部は露胎。外面底部付近に指痕、底部に糸切痕明瞭。産地・年代とも不明。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側２層
134	本土産陶器	鍋	－	10.1	－	－	灰色で緻密な胎土。内外面とも透明釉、外面底部付近と内面の蓋受部は露胎。外面には白土を象嵌して圏線と斜格子文。産地・年代とも不明。	Ⅰ層	表土
135	本土産陶器	火炉	－	－	－	14.4	灰白色で緻密な胎土。外面及び口唇部には褐釉が施される。産地・年代とも不明。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６イビ間南３層
136	本土産陶器	蓋	－	7.2	2.95	撮1.3	急須の蓋。暗灰色で多孔質の胎土。外面は褐釉。摘部付近に穿孔あり。産地・年代とも不明。	Ⅰ層	表土
137	本土産陶器	蓋	－	－	－	撮4.6	灰色で緻密な胎土。外面緑釉。摘部は三爪の龍、外縁には唐草文。産地・年代とも不明。	Ⅰ層	表土
138	本土産陶器	皿	－	21.6	7.0	7.0	中形の皿。浅黄色で緻密、やや軟質の胎土。内外面とも透明釉が施釉、高台は露胎。見込は蛇の目状に釉剥ぎした上で鉄錆を塗布。見込には砂目付着。内面は波形文。関西系。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層＋Ａトレンチ１層＋表土
139	本土産陶器	火入	－	12.5	－	－	浅黄色で緻密な胎土。外面及び内面口縁部まで緑釉。外面鉄釉による文字文様。関西系か。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
140	本土産陶器	餌猪口	－	5.9	2.3	5.5	浅黄色で緻密、やや軟質の胎土。内面及び外面胴部にかけて透明釉施釉。関西系。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
141	本土産陶器	皿	－	－	－	4.5	色絵皿。卵黄白色でやや粗粒、軟質の胎土。高台及びその付近を除いて灰釉を施釉。内面には青・赤色顔料で梅花文を施文。京・信楽産。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
142	本土産陶器	皿	－	－	－	3.7	色絵皿。灰色で緻密な胎土。高台及びその付近を除いて灰釉を施釉。内面は緑・赤色顔料で花文を施文。京・信楽産。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
143	本土産陶器	皿	－	－	－	3.8	色絵皿。卵黄白色で緻密、軟質の胎土。高台及びその付近を除いて透明釉を施釉。外面には赤色顔料で施文。外底面に陰刻で「寶山」銘。京・信楽産。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
144	本土産陶器	皿	－	9.9	3.35	5.6	色絵皿。灰色で緻密な胎土。高台及びその付近を除いて透明釉を施釉。内面には顔料で草花文を施文。京・信楽産。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
145	本土産陶器	急須	－	5.0	－	－	紫砂。赤褐色で緻密な胎土。型作りで胴部に四爪の龍。	Ⅰ層	表土

第 46 表　遺物観察表（６）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
146	本土産陶器	急須	－	4.6	－	－	紫砂。赤褐色で緻密な胎土。型作りで胴部に四爪の龍。No.145と同型品。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
147	本土産陶器	急須	－	6.1	－	－	紫砂。赤褐色で緻密な胎土。型作り。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６イビ間南２層
148	本土産陶器	蓋	－	－	－	－	紫砂。六角水注の蓋。赤褐色で緻密だが砂の多い胎土。型作り。外面に印判あり。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
149	本土産陶器	甕	－	39.2	－	－	灰色で緻密、砂の混ざる胎土。口唇部を除く全面を施釉。薩摩産。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６イビ間南３層
150	本土産陶器	植木鉢	－	31.8	－	－	暗赤褐色で緻密、砂の混ざる胎土。内外面の口縁部に施釉。口縁部に貼付で縄目文。薩摩産。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６イビ間南７層
151	本土産陶器	壷	－	13.4	－	－	明褐色で砂粒の多い胎土。内外面に褐釉を施釉。器面には指頭痕による凹凸あり。口縁部付近には穿孔有りか。口唇部には重ね焼き痕残る。薩摩産。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
152	本土産陶器	甕	－	35.8	43.9	25.6	にぶい赤褐色で緻密な胎土。口唇部に目跡。胴上部に貼付で縄目文と隆帯。薩摩産。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側10層＋表土＋石積み６南側３層
153	本土産陶器	壷	－	－	－	－	灰白色で砂粒の多い胎土。備前。年代不明。	Ⅰ層	表土
154	本土産陶器	不明	－	－	－	－	淡黄色で軟質の胎土。龍もしくは鳥の脚部で鱗や爪の造形。底部に軸棒の穴あり。型作り。器種・年代いずれも不明。京・信楽か。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
155	沖縄産施釉陶器	碗	A	13.6	5.9	6.6	灰釉。胎土浅黄橙色。フィガキーに見込みの円形に釉掛ける。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南１層
156	沖縄産施釉陶器	碗	A	14.1	6.0	6.4	灰釉。胎土浅黄橙色。フィガキーに見込みの円形に釉掛ける。外底やや突出。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南２層
157	沖縄産施釉陶器	碗	A	13.2	5.4	7.0	緑釉。胎土灰白色。フィガキー。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南７層
158	沖縄産施釉陶器	碗	A	13.9	6.0	7.6	緑釉。胎土灰白色。フィガキー。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
159	沖縄産施釉陶器	碗	A	13.2	5.8	7.8	灰釉、鉄絵で不明文。胎土灰白色。フィガキー。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南２層
160	沖縄産施釉陶器	碗	A	－	－	8.0	緑釉。胎土灰白色、やや硬質。フィガキー、外面高台まで掛かる。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
161	沖縄産施釉陶器	小碗	A	9.6	4.55	4.6	黒釉。胎土灰黄色。見込み蛇の目釉剥ぎ。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
162	沖縄産施釉陶器	小碗	B	－	－	4.1	白釉。胎土浅黄色。見込み蛇の目釉剥ぎ、重ね焼き痕。外底無釉だが、中央に釉塗布。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
163	沖縄産施釉陶器	小碗	B	7.0	－	－	白釉。胎土白色。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南５・６層
164	沖縄産施釉陶器	皿	B	13.5	4.3	7.2	白釉で、畳付釉剥ぎ。胎土褐灰色。見込み蛇の目釉剥ぎ、重ね焼き痕。	Ⅰ層	表土
165	沖縄産施釉陶器	皿	A	12.0	1.9	5.8	灰釉。胎土灰白色。外面下半無釉。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南５・６層
166	沖縄産施釉陶器	鉢	B	－	－	10.1	外面黒釉、内面白釉、畳み付け釉剥ぎ。胎土灰白色。見込み蛇の目釉剥ぎ、重ね焼き痕。	書院南	H26首書南トレンチ１
167	沖縄産施釉陶器	壺	A	10.4	－	－	黒釉。胎土褐灰色。玉縁口縁。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
168	沖縄産施釉陶器	鍋	A	17.9	－	－	褐釉。胎土浅黄橙色。外面下半無釉。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南３層
169	沖縄産施釉陶器	瓶	A	5.4	12.0	6.8	褐釉。胎土橙色。外底・内面胴部無釉。	Ⅱ層（石積み２外側）	石積み２南側
170	沖縄産施釉陶器	瓶	B	－	－	8.8	いわゆる琉球古典焼。外面黒釉、掻き分けにより施文。内面白釉。	Ⅰ層	表土
171	沖縄産施釉陶器	瓶	A	－	－	8.2	褐釉。胎土灰白色。外底無釉。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層＋３層
172	沖縄産施釉陶器	袋物	A	－	－	4.6	灰釉。外底無釉。碁笥底。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南１・２層
173	沖縄産施釉陶器	香炉	A	9.4	7.25	6.8	灰釉、内外面下半無釉。胎土灰白色。高台周辺赤色化。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	石積み６・イビ間南２層＋４層＋イビ
174	沖縄産施釉陶器	灯明具	A	－	－	5.0	褐釉。見込み蛇の目釉剥ぎ。胎土浅黄橙色。外底無釉。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層

第 47 表　遺物観察表（７）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
175	沖縄産施釉陶器	餌入れ	A	5.6	2.5	2.6	灰釉。胎土灰白色。外底無釉、べた底。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
176	沖縄産無釉陶器	碗	－	13.5	6.0	5.4	赤褐色。	Ⅲ層上（御嶽上部）	表土＋Ａトレンチ１層＋石積み１・４間１層
177	沖縄産無釉陶器	碗	－	15.6	7.7	7.5	橙色、部分的に灰色。内面に粘土の付着。高台抉り浅い。	Ⅱ層（御嶽外側）	Ａトレンチ３層　＋石積み４東側３層
178	沖縄産無釉陶器	碗	－	14.4	5.5	6.8	鈍赤褐色。底部が3mmと薄い。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
179	沖縄産無釉陶器	碗	－	14.6	7.6	5.5	橙色。高台抉り浅い。口縁が端反り状。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
180	沖縄産無釉陶器	碗	－	13.7	6.1	5.6	鈍褐色。外底にヘラ記号（２条に斜線１条で３条）。	Ⅱ層（御嶽外側）	Ａトレンチ３層　＋石積み４東側３層
181	沖縄産無釉陶器	碗	－	14.0	6.9	7.2	内面橙色、外面鈍赤褐色。器壁が最大1cmと厚め。	Ⅰ層	表土
182	沖縄産無釉陶器	碗	－	－	－	5.2	内面灰色、外面橙色。外底ヘラ記号、全容不明。	Ⅱ層（石積み２外側）	石積み２南側
183	沖縄産無釉陶器	碗	－	－	－	5.8	暗赤褐色。見込みの凹凸が目立ち、3mmと薄い。高台が細形。	Ⅰ層	表土
184	沖縄産無釉陶器	碗	－	11.9	7.1	5.8	鈍赤褐色。ベタ底で直線的な器形。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
185	沖縄産無釉陶器	碗	－	－	－	5.6	鈍赤褐色。外底中央が凹むベタ底。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
186	沖縄産無釉陶器	碗	－	12.5	6.0	7.8	褐灰色。口縁のヨコナデが丁寧。見込みが膨らむ。広口で胴部が膨らむ器形、楽茶碗状。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側２層
187	沖縄産無釉陶器	小碗	－	7.2	－	－	褐灰色、口縁から外面は暗褐色で泥釉か。口縁外面に凹線１条。	Ⅱ層（御嶽外側）	Ｃトレンチ３層
188	沖縄産無釉陶器	碗	－	－	－	7.5	浅黄橙色、焼成不良か。外底から高台付近が黒色、二次焼成か。見込み中央は橙色。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
189	沖縄産無釉陶器	皿	－	10.3	2.3	4.6	赤褐色。外底やや凹み、ヘラ記号２条。内面気泡による凹凸が激しい。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
190	沖縄産無釉陶器	皿	－	11.1	3.0	3.5	鈍赤褐色。外底やや凹む。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み４裏込め
191	沖縄産無釉陶器	皿	－	9.6	3.1	5.2	橙色、部分的に鈍赤褐色。煤付着で灯明皿の利用。外底ヘラ記号４条、「井」状。	Ⅱ層（御嶽外側）	表土＋石積み４東側３層
192	沖縄産無釉陶器	鉢	－	15.5	6.5	7.8	鈍赤褐色、部分的に暗灰色。外底ヘラ記号１条。内湾。	Ⅰ層	表土
193	沖縄産無釉陶器	鉢	－	16.2	6.5	10.0	鈍赤褐色。内湾。肩部に波状文（４条/8mm）、上下端ナデ消し。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
194	沖縄産無釉陶器	鉢	－	36.4	5.3＋	34.6	鈍赤褐色、外底のみ橙色。器面の気泡がやや目立つ。外底端部を面取り。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南７層
195	沖縄産無釉陶器	擂鉢	－	32.4	14.0	11.2	外面鈍褐色、外底・内面赤褐色。擂目９条/2.2cm。	Ⅰ層	表土
196	沖縄産無釉陶器	擂鉢	－	32.2	13.3	11.3	外面鈍褐色、外底・内面赤褐色。擂目９条/1.9cm。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
197	沖縄産無釉陶器	擂鉢	－	－	－	10.0	外面鈍褐色、外底・内面赤褐色。擂目９条/2.2cm。見込みが円形に貫通、焼成後だが意図的か不明。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
198	沖縄産無釉陶器	瓶	－	5.7	－	－	外面鈍赤褐色、内面明赤褐色。頸部に凹線４条。内面絞り痕あり。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み４・６間２・３層
199	沖縄産無釉陶器	瓶	－	7.2	－	－	鈍赤褐色。ナデによる横位の線条痕が顕著。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南１・２層
200	沖縄産無釉陶器	瓶	－	－	－	5.8	外面鈍赤褐色、内面灰色。肩部に凹線１条。胴部下半のロクロ目やや粗い。	Ⅰ層	表土
201	沖縄産無釉陶器	壺	－	16.9	－	－	暗赤褐色、断面明赤褐色。口縁端部に目跡。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
202	沖縄産無釉陶器	壺	－	8.3	－	－	外面暗赤褐色、内面赤褐色。頸部に１条の段。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
203	沖縄産無釉陶器	壺	－	－	－	9.6	外面灰褐色、内面灰色。外底ヘラ記号３条。長胴壺の底部。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側２層

第 48 表　遺物観察表（８）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
204	沖縄産無釉陶器	急須	－	9.0	－	－	赤褐色。外面下半若干スス付着。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
205	沖縄産無釉陶器	急須	－	9.4	－	－	灰褐色。肩部段２条、胴部中央凹線１条。	Ⅱ層（御嶽外側）	表土＋石積み４東側３層
206	沖縄産無釉陶器	急須	－	10.0	－	－	橙色、断面灰色。肩部凹線２条。	Ⅱ層（御嶽外側）	Ａトレンチ２層　＋石積み４東側３層
207	沖縄産無釉陶器	急須	－	10.3	－	－	外面暗赤褐色、内面赤褐色。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
208	沖縄産無釉陶器	急須	－	8.2	－	－	外面暗赤褐色、内面赤褐色。胴部中位で大きく段がつき下半は窄まる。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
209	沖縄産無釉陶器	急須蓋	－	9.3	4.95	庇径11.6	灰色、断面灰赤色。つまみ3mmの気泡もしくは欠損あり。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
210	沖縄産無釉陶器	急須蓋	－	10.6	－	庇径13.4	鈍赤褐色。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
211	沖縄産無釉陶器	急須蓋	－	8.6	4.4	庇径11.0	明赤褐色。内面中央、口縁端部にスス付着。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
212	沖縄産無釉陶器	急須蓋	－	9.6	－	庇径11.3	外面赤灰色、内面赤褐色。外面中央部に２条の凹線。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
213	沖縄産無釉陶器	急須蓋	－	9.1	－	庇径11.1	赤褐色。口縁端部にスス付着。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
214	沖縄産無釉陶器	急須蓋	－	7.5	1.5	庇径7.5	灰色、断面鈍赤褐色。つまみは細く円柱状。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側２層
215	沖縄産無釉陶器	急須蓋	－	6.0	1.5	庇径6.2	鈍赤褐色。つまみは宝珠状。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
216	沖縄産無釉陶器	火炉	－	－	11.8	11.6	暗赤褐色。方形状把手とその下方に穿孔。外底に不明のヘラ記号。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側２層
217	沖縄産無釉陶器	火炉	－	16.0	－	－	赤褐色。口縁内面中位に突起。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下１・２層
218	沖縄産無釉陶器	植木鉢	－	29.8	－	－	鈍赤褐色。外面、スタンプによる花文の後、ナデ及び貼付による縄目文、口縁は刻目文。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側３層
219	沖縄産無釉陶器	植木鉢	－	30.7	－	－	鈍赤褐色、断面部分的に灰色。口縁上下に刻目文、胴部上半に貼付による縄目文２条。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側３層
220	沖縄産無釉陶器	蓋	－	6.4	4.5	庇径12.4	橙色、胎土に白色・赤色粒多く混じる。壺等大型品の蓋か。	書院南	H26首書南　表土
221	沖縄産無釉陶器	人形	－	－	－	－	橙色。貼付による渦巻状文などから獅子か。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南７層
222	沖縄産無釉陶器	脚付皿	－	11.2	4.4	－	鈍赤褐色。器壁２～３mmと雨水。細く尖る脚を有する。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
223	陶質土器	鍋	－	15.6	－	－	黄橙色。把手欠損。	Ⅰ層	表土
224	陶質土器	火炉	－	－	－	14.4	橙色。胴部下半に白化粧による横線。	Ⅰ層	表土
225	陶質土器	鉢	－	22.1	－	－	黄橙色。波状文５条/１cm、上下端をナデ消し。	Ⅰ層	表土
226	陶質土器	蓋	－	7.1	－	庇径8.5	橙色。器壁２～３mm。	Ⅰ層	表土
227	陶質土器	蓋	－	15.2	4.1	撮径6.2	橙色。内面中央にスス付着。	Ⅰ層	表土
228	瓦質土器	風炉	本土産	－	－	－	胎土は白色で細砂粒混入。229と同一か。上下の突線は区画線の上より貼付し、断面三角状の貼付による格子文。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
229	瓦質土器	風炉	本土産	－	－	－	胎土、突線の貼付は228と同一か。胴部下半。重円文の下にやや簡略化された花菱文を配す。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｅトレンチ１層　＋Ｂトレンチ東側５層
230	瓦質土器	鉢	湧田産？	－	－	－	橙色、赤色粒混入。２条の突帯。平面が直線的であり、方形か。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間１層
231	瓦質土器	香炉	湧田産	－	－	16.0	赤色粒若干混入。脚部は貼付。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
232	瓦質土器	植木鉢	湧田産	－	－	27.0	外底に線条痕あり。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ　＋　石積み７下２層

第 49 表　遺物観察表（９）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
233	瓦質土器	植木鉢	湧田産	55.0	－	－	黒色粒混入。２段に配されるスタンプによる花文は湧田Ｇに近似するが、上方の蔓がない点で異なる。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ７層
234	土器	皿	本土産？	21.4	4.7	9.2	淡黄色、胎土精良。ヨコナデが徹底し、器面が滑らか。	Ⅱ層（御嶽外側）	表土＋石積み４東側３層
235	土器	焙烙	本土産？	－	－	－	浅黄橙色、砂粒わずかに混入。外面に墨書。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南２層
236	土器	焙烙	本土産？	－	－	－	浅黄橙色、砂粒混入。把手。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南５・６層
237	土器	焼塩壺（蓋）	本土産	9.0	1.05	－	黄橙色、砂粒混入。上面に左から「フタ」「花□」の刻印。下面平坦。	Ⅱ層（御嶽外側）	Ａトレンチ３層　＋石積み４東側３層
238	土器	焼塩壺（蓋）	本土産	9.3	0.95	－	黄橙色、砂粒混入。上面に右から「ミ？」「塩」の刻印。下面平坦。	Ⅰ層	表土
239	土器	壺	宮古式	－	－	－	外面黒色、内面橙色、白・褐色粒大量混入。器面の剥落目立つ。	Ⅴ層	ＳＰ10
240	土器	碗	沖縄産？	9.4	6.65	4.8	浅黄橙色、部分的に褐灰色、白色粒・雲母混入。内面のヨコナデ顕著。高台貼付け。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	石積み６・イビ間北１層＋イビ
241	土器	小壺	沖縄産？	2.9	7.7	3.9	明黄褐色、白色粒混入。短頸、下膨れの器形。外底糸切痕。内面のヨコナデ顕著。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南１層＋南３層
242	土器	壺？	沖縄産？	－	－	8.6	外面灰黄褐色、内面橙色、白・赤色粒・雲母混入。外底糸切痕。底部内面より穿孔。	Ⅰ層	表土
243	土器	蓋	沖縄産？	－	－	－	橙色、白色粒大量混入。外面に貼付による文様。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北１層
244	土器	碗	沖縄産？	－	－	3.8	鈍黄橙色、白色粒混入。内面灰釉？高台貼付。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
245	土製品	不明	沖縄産？	7.4	1.7	－	鈍黄橙色、橙色粒混入。器面滑らかに整形。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ４層
246	土製品	人形	本土産？	9.4	－	8.5	灰白色。外面ナデ、内面指オサエのまま。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み４裏込め
247	土製品	人形	本土産？	3.8	－	3.6	橙色、雲母混入、胎土精良。丁寧な整形。和装女性、髪型は灯篭鬢島田髷か。	Ⅰ層	表土
248	土製品	人形	沖縄産？	－	5.2	－	橙色、断面黄灰、褐色粒混入。指オサエが残る整形。福耳や腹の露出などから布袋を象たものか。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
249	土製品	不明	沖縄産？	－	1.1	－	鈍黄橙色。円柱状。	Ⅰ層	表土
250	青銅製品（鍍金）	冑金具	鍬形	3.5	0.05	1.5＋	立物中央部の円形飾。両面鍍金だが、片面は部分的。1.6ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下１層
251	青銅製品（鍍金）	冑金具	鍬形	3.4＋	0.05	2.1	立物中央部の一部。両面鍍金。3.5ｇ。	Ⅰ層	不明
252	青銅製品（鍍金）	甲冑金具	笠鞐	2.7	0.4	0.9	完品。両面鍍金。3.7ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
253	青銅製品（鍍金）	甲冑金具	責鞐	1.65	0.1	0.9	完品。外面鍍金。2.4ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
254	青銅製品（鍍金）	甲冑金具	八双金具	6.75	0.1	1.5	完品。表面鍍金。線刻で草花文、空隙を径１㎜の魚々子を施す。径４㎜の円形孔２、ハート形孔１ヶ所。7.0ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下３・４層
255	青銅製品（鍍金）	甲冑金具	八双金具	5.65	0.1	2.0	完品。表面鍍金。無文で、径４㎜の円形孔２ヶ所、ハート形孔２ヶ所。6.8ｇ。	Ⅰ層	表土
256	青銅製品（鍍金）	甲冑金具	八双金具	3.0＋	0.1	1.7	表面鍍金。線刻で渦？花文を描き、空隙を径1㎜の魚々子を施す。径４㎜の円形孔あり。2.5ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
257	青銅製品（鍍金）	甲冑金具	覆輪	5.3＋	0.6	1.0	鎧胸板等の覆輪か。凸面鍍金。4.7ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ東側５層
258	青銅製品	飾金具	花弁形	1.75	0.1	1.75	完品。円板を内湾させ、凸部に菊花状刻み目。0.7ｇ。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み４裏込め
259	青銅製品（鍍金）	飾金具	不明	6.0＋	0.1	1.1	一辺欠損。現状では折り曲がっている。一面を鍍金し、菊花状花弁を中心とした草花文を線刻する。3.5ｇ。	Ⅰ層	Ｅトレンチ１層
260	青銅製品	釘	丸釘	2.7	0.2	0.5	完品。軸部は稜がつく。0.7ｇ。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南２層
261	青銅製品（鍍金）	鋲	―	1.1	0.2	0.5	完品。頭部上面に鍍金。0.2ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み３

第 50 表　遺物観察表（10）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
262	青銅製品	不明	花弁形	1.9	0.1	1.9	完品。四葉形に整形、中央に一辺4mmの方形孔もうける。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ東側５層
263	青銅製品	鍵	－	11.5	0.7	0.9	完品。把手は円環状、鍵部は４つの突起状。11.8ｇ。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北１層
264	青銅製品	毛抜き	－	4.2	0.1	0.6	完品。同幅の板を折り曲げて整形。把手は円環状。3.0ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ東側５層
265	青銅製品	かんざし	側差	13.9	0.2	0.4	完品。3.9ｇ。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南１層
266	青銅製品	かんざし	側差	11.1	0.3	0.4	完品。4.2ｇ。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
267	青銅製品	かんざし	側差	9.6	0.22	0.4	受部側に明瞭な段あり。3.0ｇ。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
268	青銅製品	指輪	－	2.0	0.5	1.8	完品。板を折り曲げて整形。中央部は広げて上下に窪みをつけ、同心円状の線刻を施す。1.8ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下３・４層
269	青銅製品（鍍金）	不明	－	4.95	0.3	1.0	棒状で断面は半円形。両面鍍金。凸部に縦方向にＶ字状の刻み目。2.6ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ東側６層
270	鉄製品	小札	碁石頭伊予札	6.6	0.3	2.3	完品。錆のため不明瞭だが、２列８個の孔が見られる。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下２層
271	鉄製品	鉄鏃	ＩＡ類	4.9＋	1.0	1.9	基部欠損。刃部長3.5cm、幅上部1.9cm・下部0.8cm。分類は上原ほか（2007）による。	Ⅱ層（石積み２外側）	石積み２南側
272	鉄製品	刀子	－	19.4	0.4	2.0	ほぼ完品。基部長5.1cm。峰幅0.3cm。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下３・４層
273	鉄製品	鉄鎌	－	9.2	0.5	8.5＋	刃部欠損。刃部と基部の境目に別鉄片付着。基部長約5.5cm。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北３層
274	鉄製品	角釘？	－	6.1	0.4	1.1	両端欠損。扁平なため鉄鏃の可能性もあるが、刃部と基部の境目が明確でなく、長さ８～10cm前後の角釘と推定。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下５層
275	鉄製品	角釘	－	12.5＋	1.2	1.5	頭部わずか、先端欠損。頭部が横に突出しないタイプ。基部幅・厚1.0cm。	書院南	H26首書南トレンチ２
276	鉄製品	角釘	－	6.7＋	0.5	1.0	先端欠損。頭部上面はやや丸い。基部幅0.5cm・厚0.4cm。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１３層
277	鉄製品	角釘	－	8.2	1.0	1.65	ほぼ完品だが、頭部わずか欠損、先端緩く曲がる。基部幅0.8cm・厚0.9cm。推定長８cm。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
278	鉄製品	角釘	－	6.4	0.8	1.2	ほぼ完品だが、先端渦巻状に折れ曲がる。基部幅0.8cm・厚0.6cm。推定長７cm。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１５層
279	鉄製品	角釘	－	5.4	0.8	1.1	ほぼ完品だが、先端Ｕ字状に折れ曲がる。基部幅0.7cm・厚0.6cm。推定長８cm。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１７層
280	鉄製品	角釘	－	2.75＋	0.45	1.0	先端欠損。基部幅0.3cm・厚0.4cm。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
281	鉄製品	角釘？	－	3.7＋	1.1	1.8	角釘の先端部か。先端が渦巻き状に曲がる。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
282	鉄製品	鎹	－	19.5＋	2.0	3.5＋	両端欠損。中央部長12.5cm、幅1.6cm、厚0.8cm。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１７層
283	鉄製品	環状鋲	－	5.9	0.4	5.0	大円環に環状鋲が連接、鋲部先端欠損。大円環径5.0cm、幅0.8xm、厚0.4cm。鋲部厚0.4cm。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
284	鉄製品	環状鋲	－	3.9＋	0.6	2.0	鋲部先端欠損。円環径1.6cm、幅0.5xm、厚0.4cm、孔部径0.5×0.7cm。鋲部厚0.4cm。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
285	るつぼ	－	－	－	－	5.6	底部。外面橙色、断内面褐灰色。白色粒混入。気泡多い。	Ⅰ層	表土
286	るつぼ	－	－	6.0	5.1	1.3	灰白色。胎土精良。外面紫色溶着物付着。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
287	るつぼ	－	－	6.6	－	－	白色。石製、凝灰岩か。暗赤色の透明釉状の付着有。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１７層
288	るつぼ	－	－	26.7	－	－	灰白色。石製、凝灰岩。内面黒・赤変。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南２層＋南７層
289	銭貨	祥符元寳	北宋	2.51	0.15	孔径0.5	完品。内径1.77cm。4.2ｇ。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み４
290	銭貨	祥符通寳	北宋	2.53	0.12	0.59	完品。内径1.95cm。3.3ｇ。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南７層

第 51 表　遺物観察表（11）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
291	銭貨	熙寧元寳	北宋	2.41	0.16	0.57	完品。内径1.8cm。4.0ｇ。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南
292	銭貨	元祐通寳	北宋	2.47	0.12	0.63	完品。内径1.92cm。3.6ｇ。	Ⅰ層	表土
293	銭貨	元符通寳	北宋	2.5	0.13	0.53	完品。内径1.8cm。3.5ｇ。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１７層
294	銭貨	大観通寳	北宋	－	0.15	－	左半欠損。大□通□が残存。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６
295	銭貨	大観通寳	北宋	－	0.13	－	右半欠損。□観□寳が残存。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
296	銭貨	開禧通寳	南宋	2.45	0.16	0.58	右半欠損。開□通寳が残存。内径2.06cm。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１３層
297	銭貨	永楽通寳	明	2.49	0.13	0.5	完品。内径2.03cm。3.7ｇ。	Ⅰ層	表土
298	銭貨	永楽通寳	明	2.56	0.12	0.48	完品。内径2.06cm。3.6ｇ。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間４層
299	銭貨	洪武通寳	明	2.38	0.11	0.53	完品。内径1.92cm。3.1ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
300	銭貨	洪武通寳	明	2.36	0.13	0.54	左上部欠損。銭文は残る。内径1.87cm。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
301	銭貨	洪武通寳	明	－	0.11	0.53	左下部欠損。銭文は残る。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
302	銭貨	洪武通寳	明	2.31	0.11	0.53	完品。内径1.77cm。2.6ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
303	銭貨	洪武通寳	明	－	0.14	0.58	完品。3.1ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
304	銭貨	洪武通寳	明	－	0.11	0.57	完品。2.7ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
305	銭貨	洪武通寳	明	2.34	0.13	0.58	完品。内径1.78cm。2.8ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
306	銭貨	洪武通寳	明	2.32	0.11	0.57	完品。内径1.84cm。2.9ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
307	銭貨	洪武通寳	明	2.32	0.12	0.53	完品。内径1.86cm。3.1ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
308	銭貨	寛永通寳（新寛永）	日本	2.3	0.1	0.62	完品。内径1.82cm。2.4ｇ。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
309	銭貨	寛永通寳（古寛永）	日本	2.44	0.13	0.54	完品。内径1.88cm。3.5ｇ。	Ⅰ層	表土
310	銭貨	寛永通寳（古寛永）	日本	2.54	0.15	0.5	完品。内径1.94cm。4.5ｇ。	Ⅱ層（石積み２外側）	石積み２南側
311	銭貨	寛永通寳（新寛永）	日本	2.36	0.1	0.57	完品。内径1.86cm。2.3ｇ。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南１層
312	銭貨	大世通寳	琉球	2.36	0.15	0.49	完品。内径1.94cm。4.0ｇ。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南７層
313	銭貨	無文銭	－	2.02	0.09	0.59	完品。1.5ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
314	銭貨	無文銭	－	1.98	0.08	0.59	完品。1.3ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
315	銭貨	輪銭	－	0.74	0.07	0.44	完品。0.1ｇ。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１３層
316	銭貨	輪銭	－	0.74	0.04	0.48	完品。0.3ｇ。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
317	銭貨状金製品	Ⅰ類	－	2.0	0.03	1.95	完品。方形孔。中央を縦断する折り曲げ線が１本あり。0.3ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
318	銭貨状金製品	Ⅰ類	－	2.1	0.02	2.05	完品。方形孔。中央を縦断する折り曲げ線が１本あり。0.4ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
319	銭貨状金製品	Ⅰ類	－	2.1	0.02	2.1	完品。方形孔。中央を縦断する折り曲げ線が１本あり。0.4ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ

第 52 表　遺物観察表（12）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
320	銭貨状金製品	Ⅰ類	－	2.0	0.01	2.0	完品。方形孔。中央を縦断する折り曲げ線が１本、やや不鮮明だが斜行する折り曲げ線も１本あり。0.4ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
321	銭貨状金製品	Ⅰ類	－	2.2	0.01	2.2	完品。方形孔。中央を縦断する折り曲げ線が１本あり。0.4ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
322	銭貨状金製品	Ⅰ類	－	2.0	0.02	2.0	完品。方形孔。中央を縦断する折り曲げ線が１本あるが不鮮明。0.5ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
323	銭貨状金製品	Ⅱ類	－	1.82	0.01	1.82	完品。円形孔の周縁が片面側に盛り上がる、穿孔痕か。0.3ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
324	銭貨状金製品	Ⅱ類	－	1.81	0.01	1.79	完品。円形孔の周縁が片面側に盛り上がる、穿孔痕か。0.3ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
325	銭貨状金製品	Ⅱ類	－	1.8	0.02	1.8	完品。小方形孔で、盛り上がりはなく、切断によるものか。0.4ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
326	銭貨状金製品	Ⅲ類	－	2.1	0.02	2.0	完品。中央に貫通しない微小孔が片面にあり。0.3ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
327	銭貨状金製品	Ⅲ類	－	2.05	0.01	2.05	完品。中央に貫通しない微小孔が両面にあり。0.4ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
328	銭貨状金製品	Ⅲ類	－	2.05	0.02	－	完品。中央に貫通しない微小孔が片面にあり。一端折り曲げる。中央を縦断する折り曲げ線あり。0.3ｇ。	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
329	石製品	石球	－	3.1	2.9	3.1	石材：サンゴ石／加工痕：全面を研磨／使用痕：なし	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側３層
330	石製品	石臼	－	23.4＋	9.4＋	10.9＋	石材：細粒砂岩（ニービヌフニ）／加工痕：欠損部面以外の全面にノミによる整形痕。中央部穿孔。／使用痕：側面部に磨面及び黒色物付着。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南
331	貝製品	コマ状製品	－	2.95	3.0	2.85	マガキガイ。体部割り取りか。15.5ｇ。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南７層
332	貝製品	コマ状製品	－	2.7	2.7	2.7	マガキガイ。表面色残り。体部割り取りか。9.5ｇ。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
333	貝製品	コマ状製品	－	2.65	2.0	2.55	マガキガイ。体部割り取りか。11.8ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下３・４層
334	貝製品	剥片	－	2.35	0.3	2.0	ハナマルユキ。表面色残り。上端に剥離の打点あり。2.0ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
335	貝製品	剥片	－	1.8	0.1	1.6	ハナビラダカラ。表面色残り。上端に剥離の打点あり。0.8ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
336	貝製品	剥片	－	1.4	0.15	1.3	キイロダカラ。表面色残り。打点不明。0.3ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
337	貝製品	剥片	－	5.7＋	0.3	4.4＋	ヤコウガイ。体部剥離面に研磨あり。19.7ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ東側６層
338	貝製品	有孔製品	－	1.8	1.3	1.5	マダライモ。上面研磨穿孔径3㎜。下面一部研磨か。2.8ｇ。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北２層
339	貝製品	ボタン	－	1.5	0.15	1.45	チョウセンサザエか。孔２ヶ所、径２㎜。0.7ｇ。	Ⅰ層	表採
340	貝製品	ボタン	－	1.1	0.1	1.05	チョウセンサザエか。孔２ヶ所、径1.5㎜。0.1ｇ。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み４裏込め
341	石材	石材か	－	－	－	－	石材：細粒砂岩（ニービヌフニ）／加工痕：なし／使用痕：なし ※形状が岩偶に類似か	Ⅲ層下（御嶽イビ）	イビ
342	骨製品	骨鏃	－	4.85＋	0.75	1.15	獣骨製。軸部欠損。菱形状で中央に稜をつける。3.2ｇ。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１３層
343	骨製品	両歯櫛	－	4.5	0.2	1.5	両歯櫛の梁部材。獣骨製。完品。孔に目釘（骨製）あり。片面には骨組織が露出。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
344	骨製品	両歯櫛	－	3.7	0.3	1.3	両歯櫛の梁部材。獣骨製。完品。両面に幅２㎜の斜線状痕あり。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
345	骨製品	牛角加工製品	－	6.1	－	5.2	ウシ角の基部側が残る。基部端面に金属製刃先と思われる鋭い切断痕、周囲に圏線１条。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南２層
346	骨製品	歯ブラシ	－	9.3＋	0.6	0.95	持ち手部のみ残存。中央部が厚い。	Ⅰ層	平場３南側解体
347	煙管	陶製雁首	沖縄産無釉	4.2	－	1.85	火皿部一部欠損。表面鈍赤褐色。火皿部径1.1㎝、首部径0.9㎝、共に八角形。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
348	煙管	陶製雁首	沖縄産施釉	2.7	－	2.0	首部一部欠損。表面、緑色だが一部黒変。火皿部径1.2㎝、首部径1.3㎝。	Ⅰ層	表土

第 53 表　遺物観察表（13）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
349	煙管	陶製吸口	沖縄産施釉	2.9	－	1.6	小口一部欠損。表面、透明感がある灰釉。口付径0.4cm。小口径1.2cm。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み４
350	煙管	青銅製雁首	―	6.7	－	2.5	完品。首部中央凹む。火皿径1.4cm、高0.9cm。首部径0.9cm。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
351	煙管	青銅製雁首	―	5.4	－	2.2	完品。火皿径1.4cm、高0.9cm。首部径0.5cm。肩部長2.6cm、径1.0cm。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
352	煙管	青銅製吸口	―	5.0	－	0.9	完品。小口径0.7cm、口付径0.2cm。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
353	煙管	青銅製吸口	―	4.1	－	0.95	完品。小口径0.9cm、口付径0.2cm。	Ⅰ層	表土
354	煙管	青銅製雁首一体形	―	9.4	－	1.0	火皿部一部欠損。羅宇中央やや曲がる。	Ⅰ層	表土
355	ガラス製品	ガラス瓶	－	0.8	5.6	2.1	緑色透明。胴部菱状八角形。外底凹む。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み４
356	ガラス製品	ガラス容器	－	－	－	－	青色で表面が真珠層。胴部に面付。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
357	ガラス製品	ガラス玉	－	0.34	0.16	孔径0.18	完品。赤色。0.01ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
358	ガラス製品	ガラス玉	－	0.39	0.28	孔径0.12	完品。緑色。0.07ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
359	ガラス製品	ガラス玉	－	0.41	0.3	孔径0.10	完品。黄色。0.1ｇ。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１
360	ガラス製品	ガラス玉	－	0.32	0.24	孔径0.13	完品。赤色。0.03ｇ。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側２層
361	ガラス製品	ガラス玉	－	0.63	0.51	孔径0.22	完品。白色半透明。0.29ｇ。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間４層
362	ガラス製品	ガラス玉	－	0.8	0.6	孔径0.3	完品。水色。0.44ｇ。	Ⅰ層	表土
363	ガラス製品	ガラス玉	－	1.05	0.75	孔径0.5	ほぼ完品だが表面一部剥落。緑色。1.22ｇ。	Ⅰ層	Ｅトレンチ３層
364	ガラス製品	ガラス玉	－	1.0	0.9	－	15個付着、うち水色７個（その内２個は剥落し実測図にはない）・緑色８個。0.67ｇ。１個は径0.3・厚0.1・孔0.1cm。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１裏込め
365	ガラス製品	ガラス環	－	－	0.47	－	2/3欠損。水色と思われるが器面がざらつき、白色の付着物有。推定径２cm前後。	Ⅳ層（階段１下層）	階段１内トレンチ１
366	円盤状製品	中国産青磁	碗胴部	1.9	0.55	1.8	完品。2.7ｇ。Ｖ類か。	Ⅱ層（御嶽外側）	Ｃトレンチ１層
367	円盤状製品	中国産白磁	不明	1.3	0.3	1.1	完品。0.6ｇ。徳化窯系か。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ北壁
368	円盤状製品	中国産青花	碗胴部	2.7	0.35	2.5	完品。3.7ｇ。徳化窯系か。	Ⅰ層	表土
369	円盤状製品	沖縄産無釉陶器	壺・甕胴部	5.3	1.1	5.2	完品。41.2ｇ。	Ⅰ層	表土
370	円盤状製品	中国産天目	底部	5.55	1.7	5.5	完品。59.3ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
371	円盤状製品	陶質土器	碗底部	5.0	1.2	5.0	完品。18.7ｇ。	Ⅰ層	表土
372	円盤状製品	中国産褐釉陶器	壺胴部	4.8	1.25	4.5	完品。32.5ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ西側６～９層
373	円盤状製品	産地不明陶器	蓋胴部	4.4	0.8	3.6	完品。12.0ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ
374	円盤状製品	タイ産褐釉陶器	壺胴部	5.35	1.2	4.4＋	半分残存。35.1ｇ。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ東側５層
375	円盤状製品	明朝系灰色瓦	平瓦筒部	6.0	1.8	5.7	完品。67.0ｇ。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間２層
376	高麗系瓦	鬼瓦？	灰色	－	－	－	器面が平坦なため軒平瓦とも考えたが、残存している厚みや文様などから鬼瓦の可能性。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
377	高麗系瓦	平瓦	灰色	－	2.25	－	左側端一部平滑になっているが、二次的な研磨のためか。銘文の摩滅が激しいが、「高」が残る。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ東側５層

第 54 表　遺物観察表（14）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
378	高麗系瓦	平瓦	灰色	－	1.8	－	羽状文叩き目が一部摩滅。	Ⅰ層	表土
379	高麗系瓦	丸瓦	灰色	－	1.6	－	凸面羽状文叩き目。凹面布目痕、継ぎ目あり、その後に線条痕。右側縁に切断痕あり。	Ⅰ層	表土
380	大和系瓦	平瓦	灰色（一部褐色）	－	1.9	－	側縁面取り整形。離れ砂は顕著ではなく、両面に線条痕。	Ⅰ層	表土
381	明朝系瓦	軒丸瓦	灰色系	－	3.1	－	＜牡丹文様Ⅰ　新タイプ？＞。西のアザナＣに近似するが、中下方の花弁の数と大きさが異なり、茎もわずかに曲がる。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南７層
382	明朝系瓦	軒丸瓦	灰色系	－	2.0	－	＜牡丹文様Ⅰ　西のアザナＧ＞。文様が比較的鮮明。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下１層
383	明朝系瓦	軒丸瓦	灰色系	－	2.8	－	＜牡丹文様Ⅰ　西のアザナＨ＞。文様が全体的に太く浅め。	Ⅱ層（御嶽外側）	表土＋石積み６南側３層
384	明朝系瓦	軒丸瓦	灰色系	－	2.8	－	＜牡丹文様Ⅱ　木曳門Ｃ＞。子房より上方の盛り上がりがない。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
385	明朝系瓦	軒丸瓦	灰色系（褐色）	－	2.3	－	＜牡丹文様Ⅱ　湧田古窯Ｒ＞。全体的に文様が不鮮明で浅め。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側２層
386	明朝系瓦	軒丸瓦	灰色系	－	2.3	－	＜牡丹文様Ⅱ　内間御殿Ａ＞。板目の横線ほとんど目立たない。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北１層
387	明朝系瓦	軒丸瓦	灰色系（褐色）	－	2.3	－	＜牡丹文様Ⅱ　内間御殿Ａ＞。板目の中央の横線がやや見られる。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側３層
388	明朝系瓦	軒丸瓦	赤色系	－	2.2	－	＜牡丹文様Ⅱ　内間御殿Ａ＞。板目の中央と下方の横線が顕著。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南３層
389	明朝系瓦	軒丸瓦	赤色系	－	3.2	－	＜牡丹文様Ⅱ　内間御殿Ｂ＞。板目の中央の横線がやや見られる。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間２層
390	明朝系瓦	軒丸瓦	灰色系	－	2.0＋	－	＜牡丹文様Ⅱ　天界寺Ｆ＞。下方の文様が不鮮明。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下１・２層
391	明朝系瓦	軒丸瓦	赤色系	－	3.3	－	＜牡丹文様Ⅳ　内間御殿Ｅ＞。	Ⅰ層	表土
392	明朝系瓦	軒丸瓦	赤色系	－	2.5	－	＜牡丹文様Ⅳ　歓会門・久慶門①＞器面の剥落が激しい。軒丸部裏面と丸瓦部上方にわずかに漆喰付着。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南５・６層
393	明朝系瓦	軒平瓦	灰色系	－	5.5	－	＜牡丹文様Ⅰ　湧田古窯Ａ＞。軒平部上方に漆喰付着。平瓦部に桶板綴じ痕が５ヶ所以上。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下２層
394	明朝系瓦	軒平瓦	灰色系	－	4.5	－	＜牡丹文様Ⅰ　西のアザナＢ＞。平瓦部に桶板綴じ痕が推定５ヶ所。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側３層
395	明朝系瓦	軒平瓦	灰色系（褐色）	－	4.2＋	－	＜牡丹文様Ⅰ　西のアザナＣ＞。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側３層
396	明朝系瓦	軒平瓦	灰色系（褐色）	－	6.3	－	＜牡丹文様Ⅰ　用物座Ａ＞。平瓦部に桶板綴じ痕をナデ消した痕あり。	Ⅳ層（階段１東側下層）	石積み７下１・２層
397	明朝系瓦	軒平瓦	灰色系	－	4.4	－	＜牡丹文様Ⅱ　木曳門Ｂ＞。平瓦部と軒平部の接続部の横ナデが顕著。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南３層
398	明朝系瓦	軒平瓦	赤色系	－	5.5	－	＜牡丹文様Ⅱ　木曳門Ｃ＞。軒平部にススス、平瓦部に漆喰わずかに付着。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
399	明朝系瓦	軒平瓦	灰色系	－	4.5	－	＜牡丹文様Ⅱ　天界寺Ｂ＞。平瓦部上面の凹凸が顕著。	Ⅰ層	表土
400	明朝系瓦	軒平瓦	赤色系	－	4.6	－	＜牡丹文様Ⅱ　内間御殿Ａ＞。板目の世汚染が中央と下方に見える。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南２層
401	明朝系瓦	軒平瓦	灰色系（褐色）	－	4.7	－	＜牡丹文様Ⅱ　天界寺Ｃ＞。平瓦部８割残存、全長22.0cm、広端幅23.0cm、狭端幅19.0cm、桶板綴じ痕５ヶ所。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北１層
402	明朝系瓦	軒平瓦	赤色系	－	3.5	－	＜牡丹文様　下之御庭A？＞。花芯は軒丸瓦の牡丹文様Ⅲに類似している。裏面や平瓦部のナデはやや粗い。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南５・６層
403	明朝系瓦	丸瓦	灰色系	－	1.8	－	玉縁部長5.5cm。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み６南側２層
404	明朝系瓦	丸瓦	喜名窯系	－	2.1	－	白色粒が多く混じり、胎土がマーブル状になっている。	Ⅰ層	表土
405	明朝系瓦	丸瓦	赤色系	－	2.7	－	玉縁部長5.0cm。凸面の上方から側縁に漆喰が付着。漆喰は面をもっている。	Ⅰ層	平場３南側解体
406	明朝系瓦	道具瓦	赤色系	－	5.25	－	雲形。全容不明。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南６層

第 55 表　遺物観察表（15）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
407	塼	正方形	灰色系	－	4.2	26.2	右面のみ灰白色、他面は黒灰色。左面平滑。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６南側２層
408	塼	正方形	灰色系	－	4.0	25.2	灰白色。左面平滑。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６南側３層
409	塼	正方形	赤色系	－	4.2	－	橙色。左面平滑。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ１層
410	塼	正方形	赤色系	－	4.1	－	橙色。左面平滑。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ７層
411	塼	正方形	灰色系	－	3.8	17.3	灰色。左面平滑、スタンプ丸囲い「大三」。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北１層
412	塼	正方形	灰色系	－	3.7	－	灰色。左面平滑の上に面をもつ漆喰付着。下側縁にヘラ描き斜線２本。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６南側３層
413	塼	正方形	灰色系	－	3.8	－	灰色。左面平滑、割れ面に石灰質（漆喰？）付着。下側縁にヘラ描き４本線で四角囲いで×印。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６南側２層
414	塼	正方形	灰色系	－	4.2	－	灰色、一部黄褐色。左面平滑。下側縁にヘラ描き３本線で縦２本に横１本を交差。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
415	塼	正方形	赤色系	－	4.5	22.6	橙色。左面平滑、刻線１本。右面凹凸のある漆喰付着。下側縁にヘラ描き２本線でＹ字状。	Ⅰ層	表土
416	塼	正方形	赤色系	－	4.1	－	橙色。左面あまり平滑ではなく、スス付着。下側縁にヘラ描き２本線で×印。	Ⅲ層上（御嶽上部）	石積み１・４間１層
417	塼	長方形	灰色系	－	4.25	15.4	鈍橙色。全面漆喰付着だが、左面が顕著。	Ⅰ層	表土
418	塼	三角形	灰色系	24.9	4.3	（24.4＋）	黒灰色。左面平滑、頂点から刻線。左側縁のヘラ記号は浅いため、意識的なものかは不明。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ７層
419	塼	三角形	灰色系	24.9	4.9	－	灰色。左面はあまり平滑ではない。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６南側２層
420	塼	三角形	赤色系	（24.5）	4.2	（23.3）	黄橙色。ほぼ完品、2020ｇ。左面平滑。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ７層
421	塼	三角形	赤色系	－	4.3	－	橙色。左面は平滑でなく、スタンプ丸囲いの「大」。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間北１層
422	塼	噛み合わせ式	灰色系	－	7.3	－	灰色。	Ⅱ層（御嶽外側）	Ｃトレンチ３層
423	塼	噛み合わせ式	灰色系	－	3.1	－	灰色、一部褐色。	Ⅳ層（階段１東側下層）	Ｂトレンチ北壁
424	塼	長方形	灰色系	－	4.4	－	左面にスタンプによる文様。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
425	漆喰製品	箱状	－	12.5	7.5	11.0＋	箱状ではあるが、内面は凹凸がある。外面は平滑なので、こちらが露出面と思われる。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
426	漆喰製品	饅頭状	－	12.0	5.2	11.8	完品、800ｇ。外面は指オサエによる整形か。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６南側３層
427	漆喰	－	－	11.0	2.5	7.7	丸瓦の連結部に付着していたものか。	Ⅰ層	表土
428	漆喰	－	－	10.9	3.5	8.8	丸瓦の連結部に付着していたものか。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６南側２層
429	漆喰	－	－	12.5＋	2.9	11.5＋	明朝系灰色平瓦の上面に付着。漆喰上面は緩やかな面をもつ。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
430	漆喰	－	－	17.0＋	6.5	12.2＋	明朝系灰色平瓦片を包含する。左面は平瓦の付着痕、上方３面は平滑な面あり。右面は面をもつ。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
431	漆喰	－	－	20.8＋	8.4	15.0＋	明朝系灰色平瓦の上面に付着。上面は緩やかな面をもつ。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
432	漆喰	－	－	12.5	4.2	6.8＋	半円状に整形か。右面は２ヶ所の何らかの付着痕。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
433	漆喰	－	－	10.5	3.4	4.8＋	半円状に整形か。右面は３ヶ所の何らかの付着痕。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南１・２層
434	漆喰	－	－	11.1＋	1.8	11.0＋	左面に幅１㎝で丸底状の溝５本。右面平滑。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南４層
435	漆喰	－	－	7.8＋	3.6	6.5＋	左面に幅５㎜の溝が格子状。左面下側、右面、下側縁も平滑。	Ⅲ層下（御嶽下部）	石積み６・イビ間南１・２層

第 56 表　遺物観察表（16）

遺物No.	種類	器形等	細分類	口径（長軸）	器高（厚さ）	底径（短軸）	観察事項	地点・層序	出土地詳細
436	漆喰	－	－	19.0＋	5.5	14.5	左面に丸瓦の付着痕１ヶ所、平瓦の付着痕２ヶ所。右面は平滑。	Ⅰ層	表土
437	漆喰	－	－	30.5	7.7	19.0	左面に板目状の付着痕。右面は平滑ではない面と上方に平瓦の付着痕あり。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ３層
438	漆喰	－	－	25.5＋	11.0	20.0＋	左面に４ヶ所の付着痕。右面は平滑で、右下方の側縁は半円状に整形。	Ⅱ層（石積み５外側）	Ａトレンチ２層
439	漆喰	－	－	28.0＋	10.0	9.0＋	円柱状の漆喰。左面は幅1.5cmの付着痕が６ヶ所あり、平瓦が重ねられ取り付いていたものか。	Ⅱ層（御嶽外側）	石積み４東側３層
440	本土産近代陶磁器	洗面台	－	－	－	－	白磁製洗面台の下部。下端には排水口、上端には突起部が一部残存。ロゴマークから東洋陶器株式会社の昭和３～36年製品と推定。	Ⅰ層	表土

※法量の（　）は推定、＋は破片の場合。銭貨の短軸は、孔径。

第 57 表　遺物全体集計表

合計／点数	継世門北												書院南	合計	重量(kg)
	Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層		Ⅴ層			
種類／層序	表土他	Eトレンチ	御嶽外側	石積2外側	石積5外側	Dトレンチ	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層	Eトレンチピット内			
中国産青磁	660	41	93	17	343	2	69	72	8	141	305		7	1,758	18.9024
中国産白磁	95	1	24	17	60		9	40	2	24	28		3	303	1.7847
中国産青花	521	22	205	36	359	9	122	188	13	37	123		16	1,651	15.96436
中国産褐釉陶器	61	4	16	7	45		15	31		22	154		1	356	292.44073
中国産その他の陶磁器	81	1	16	2	31		15	28		10	15		1	200	1.3644
タイ産褐釉陶器	36		7		15		12	5	1	8	94			178	104.6262
タイ産土器		1			1									2	0.1689
タイ産半練土器	11	1	1		4		5	4		11	18			55	0.5959
ベトナム産色絵					2									2	0.0037
ベトナム産青花	8			2	3		1							14	0.0806
ベトナム産白磁	1										2			3	0.0208
韓半島産像嵌青磁									2					2	0.0047
本土産陶磁器	191	7	81	21	197	1	87	131	9	7	50		8	790	19.94693
沖縄産施釉陶器	780	27	46	12	204		70	149	9	25	38		40	1,400	17.216
沖縄産無釉陶器	942	58	228	56	478	6	135	256	10	13	85		18	2,285	145.3103
瓦質土器	6	1	9		19		3	7		4	6			55	18.55785
陶質土器	329	7	26	9	79		51	142	4	8	6		6	667	6.701
土器	30	3	14		18	1	5	26	1	11	12	1	3	125	1.9733
土製品	2				1		2					1		6	0.4392
産地不明陶器	107	4	22	3	71		11	23	3	70	201		1	516	13.5949
陶磁器　小計	3,861	178	788	182	1,930	19	612	1,102	62	391	1,137	2	104	10,368	659.69687
陶磁器　合計	4,039		2,919				612	1,164		1,528		2	104		
ガラス玉	21	1	6	3	6		18	4		7	14	1		81	0.00573
ガラス製品	13		2		2		8	4		1			2	32	0.85189
石製品	18	1	4		2		3	5			6			39	9.573
石材（重量のみ）														－	8.30707
るつぼ	4	2			5			1		2				14	1.2374
煙管	13		6	2	19		3	9	1		1			54	0.3489
漆（重量のみ）														－	0.0392
銭貨・銭貨状金製品	92	26	19	3	32		251	89	23	69	29			633	0.7636
鉄製品・青銅製品	180	19	109	22	149	7	98	162	4	393	329	3	15	1,490	9.6329
円盤状製品	51	7	4	5	27		6	16		3	52		1	172	3.1464
骨製品	2				1			2		1	3			9	0.091
塼	65	2	131	6	110		10	27		2	33		1	387	250.039
漆喰	13		71	6	24		1	20	1		3			139	61.1365
漆喰製品			1	2	4									7	1.54
明朝系瓦（軒丸・軒平）	125	3	57	6	62		37	87		2	22		2	403	83.3213
明朝系瓦（丸・平）	366	9	410	80	272	6	126	211	2	23	80			1,585	377.9028
高麗系瓦	15	2	1		8		1			6	6			39	4.2671
大和系瓦	1	5			1									7	0.7
貝製品	2		2	2	9		3	3		1	192			214	334.93
炭（重量のみ）														－	2.4634
陶磁器他　小計	981	77	823	137	733	13	565	640	31	510	770	4	21	5,305	1150.29719
陶磁器他　合計	1,058		1,706				565	671		1,280		4	21		
全体　小計	4,842	255	1,611	319	2,663	32	1,177	1,742	93	901	1,907	6	125	15,673	1809.99406
全体　総計	5,097		4,625				1,177	1,835		2,808		6	125		

12. 貝類遺体（写真２～４）

貝類遺体は、調査現場において通常の遺物と共に取り上げたピックアップ資料である。貝類の同定は黒住耐二の指導を受け、当センターの標本、出土資料により判断した。巻貝（腹足綱）86 種、カニ類１種、ウニ類２種、二枚貝 49 種を同定した（第 58・59・61・62 表）。貝類の生息地の分類は黒住耐二の研究に基づいた（第 60 表、黒住 1987）。

第 58 表　出土貝類遺体（巻貝等）一覧

		腹足綱　Gastropoda	生息場所類型
		ﾕｷﾉｶｻｶﾞｲ科　Lottiidae	
1	リュウキュウウノアシ	Patelloida saccharina	Ⅰ-1-a
		ミミガイ科　Haliotidae	
2	イボアナゴ	Haliotis(Sanhalitos)varia	
		ﾆｼｷｳｽｶﾞｲ科　Trochidae	
3	ニシキウズ	Trochus maculatus	Ⅰ-2-a
4	ムラサキウズ	Trochus stellatus	Ⅰ-3-a
5	ギンタカハマ	Trochus pyramis	Ⅰ-4-a
6	ベニシリダカ	Tectus conus	
7	サラサバテイラ	Trochus niloticus	Ⅰ-4-a
8	オキナワイシダタミ	Monodonta labio	Ⅱ-1-b
		ﾘｭｳﾃﾝ科　Trubinidae	
9	リュウテンサザエ	Turbo petholatus	Ⅰ-4-b
10	ヤコウガイ	Turbo (Lunatica) marmoratus	Ⅰ-4-a
11	ヤコウガイの蓋		Ⅰ-4-a
12	チョウセンサザエ	Turbo (Marmarostoma) argyrostomus	Ⅰ-3-a
13	チョウセンサザエの蓋		Ⅰ-3-a
14	コシダカサザエ	Turbo (Marmarostoma) stenogyrus	Ⅰ-2-a
15	カンギク	Lunella coronoatus coronatus	Ⅱ-1-b
16	カンギクの蓋		Ⅱ-1-b
17	オオウラウズ	Astralium rhodostoma	Ⅰ-2-a
		ｱﾏｵﾌﾞﾈｶﾞｲ科　Neritidae	
18	マングローブアマガイ	Nerita undulata	Ⅲ-0-a
19	キバアマガイ	Nerita plicata	Ⅰ-0-a
20	マルアマオブネ	Nerita squamulata	Ⅱ-1-b
21	アマオブネガイ	Nerita albicilla	Ⅰ-1-b
22	ニシキアマオブネ	Nerita (Linnerita) polita	Ⅰ-1-c
		ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ科　Cerithiidae	
23	オニノツノガイ	Cerithium modulosum	Ⅰ-2-c
24	コオニノツノガイ	Cerithium columnum	Ⅰ-2-a
25	コゲツノブエ	Cerithium (s.s) coralium	Ⅲ-1-c
26	イワカニモリ	Clypeomorus batillariaeformis	Ⅱ-1-b
27	クワノミカニモリ	Clypeomorus petrosa chemnitziana	Ⅰ-1-b
		ウミニナ科　Batillariidae	
28	イボウミニナ	Batillaria zonalis	Ⅲ-1-c
		ﾄｳｶﾞﾀｶﾜﾆﾅ科 Thiaridae	
29	スグカワニナ	Thiaria uniformis	Ⅵ-6
30	ヌノメカワニナ	Malanoides tuberculatus	
		ﾌﾄﾍﾅﾀﾘ科 Potamididae	
31	カワアイ	Cerithideopsilla djadjariensis	Ⅲ-1-c
32	マドモチウミニナ	Terebralia sulcata	Ⅲ-1-c
33	キバウミニナ	Terebralia parstris	Ⅲ-0-c
34	センニンガイ	Telescopium telescopium	Ⅲ-0-c
		ｽｲｼｮｳｶﾞｲ科 Stombidae	
35	オハグロガイ	Strombus urceus	Ⅱ-2-c
36	マガキガイ	Strombus luhuanus	Ⅱ-2-c
37	ムカシタモト	Strombus mutabilis	Ⅰ-2-c
38	ゴホウラ	Strombus latissimus	Ⅰ-4-c
39	クモガイ	Lambis lambis	Ⅰ-2-c
		ｽｽﾞﾒｶﾞｲ科　Hipponicidae	
40	アツキクスズメ	Hipponix acuta	Ⅰ-3-a
		ﾀｶﾗｶﾞｲ科　Cypraeidae	
41	ヤクシマダカラ	Cypraea (Arabica)arabica	Ⅰ-2-a
42	ホソヤクシマダカラ	Cypraea (Arabica)eglantina	Ⅱ-2-a
43	ホシダカラ	Cypraea(s.s)tigris	Ⅰ-2-a
44	ホシキヌタ	Cypraea(Mystaponda)vitellus	Ⅰ-2-a
45	カバフダカラ	Cypraea caurica caurica	
46	コモンダカラ	Cypraea erosa	Ⅰ-1-a
47	ハナビラダカラ	Cypraea annulus	Ⅰ-1-a
48	キイロダカラ	Cypraea (Erosaria) moneta	Ⅰ-1-a
49	ハナマルユキ	Cypraea caputserupentis	Ⅰ-3-a
50	ウスムラサキ(ﾘｭｳｷｭｳ)ダカラ	Cypraea pallidula	Ⅱ-2-b
51	ホウシュノタマガイ	Natica gualteriana	Ⅱ-1-c
		ｵｷﾆｼ科　Bursidae	
52	オキニシ	Bursa bufonia dunkeri	Ⅰ-3-a
		トウカムリガイ科 Cassidae	
53	トウカムリ	Cassis cornutus	
		ﾌｼﾞﾂｶﾞｲ科　Ranellidae	
54	ミツカドボラ	Cymatium nicobaricum	Ⅰ-2-a
55	シオボラ	Cymatium muricinum	Ⅰ-2-a
56	ホラガイ	Charonia tritonis	Ⅰ-4-a
		ｱｯｷｶﾞｲ科　Muricidae	
57	ガンセキボラ	Chicoreus (Triplex) brunneus	Ⅰ-4-a
58	ヒロウネレイシダマシ	Cronia crassulnata	Ⅱ-1-b
59	ハナワレイシ	Nassa francolina	Ⅰ-3-a
60	ツノレイシ	Mancinella tuberosa	Ⅰ-3-a
61	シラクモガイ	Thais (Stramonita) armigera	Ⅰ-3-a
		ｵﾆｺﾌﾞｼ科　Vasidea	
62	コオニコブシ	Vasum turbinellum	Ⅰ-3-a
		ﾑｼﾛｶﾞｲ科　Nassariidae	
63	ヨフバイモドキ		
		ｴｿﾞﾊﾞｲ科　Buccinidae	
64	シマベッコウバイ	Japeuthria cingulata	Ⅱ-1-c
		ｲﾄﾏｷﾎﾞﾗ科　Fasciolariidae	
65	イトマキボラ	Pleuroploca trapezium	Ⅰ-2-a
66	ナガイトマキボラ	Pleuroploca filamentosa	Ⅰ-2-a
67	リュウキュウツノマタ	Latirus (Hemipolygona)polygonus	Ⅰ-3-a
68	チトセボラ	Fusinus nicobaricus	Ⅰ-2-c
		ｲﾓｶﾞｲ科　Conidae	
69	ナンヨウクロミナシ	Conus(s.s)marmoreus	Ⅱ-2-c
70	クロフモドキ？	Conus(Lithoconus)leopardas?	Ⅰ-2-c
71	マダライモ	Conus (Virroconus) ebraeus	Ⅰ-1-a
72	サヤガタイモ	Conus miliaris	Ⅰ-1-a
73	ヤキイモ	Conus(Pinoconus)magus	Ⅰ-2-c
74	カバミナシ	Conus(Rhizoconus)vexillum vexillum	Ⅰ-4-b
75	キヌカツギイモ	Conus (virgiconus) flavidus	Ⅰ-2-a
76	ヤセイモ	Conus (Virgiconus) emaciatus	Ⅰ-2-a
77	ヤナギシボリイモ	Conus(Rhizoconus)miles	Ⅰ-2-a
78	イボシマイモ	Conus(Virgiconus)lividus	Ⅰ-2-a
		ﾅﾂﾒｶﾞｲ科 Bullidae	
79	ナツメガイ	Bulla ventricosa	Ⅰ-2-c
		ｷｾﾙｶﾞｲ科 Clausiliidae	
80	ツヤギセルガイ	Luchuphaedusa p. praeclara	Ⅴ-8
		ﾔﾏﾀﾆｼ科　Cyclophoridae	
81	オキナワヤマタニシ	Cyclophorus turgidus turgidus	Ⅴ-8
		ｱﾌﾘｶﾏｲﾏｲ科 Achatinidae	
82	アフリカマイマイ	Achatina fulica	Ⅴ-9
		ﾅﾝﾊﾟﾝﾏｲﾏｲ科　Camaenidae	
83	シュリマイマイ	Satsuma mercatoria mercatoria	Ⅴ-8
		ｵﾅｼﾞﾏｲﾏｲ科　Bradybaenidae	
84	オキナワウスカワマイマイ	Acusta despecta despedta	Ⅴ-9
85	パンダナマイマイ	Bradybaena circulus	Ⅴ-9
86	シュリケマイマイ	Aegista slegantissima	
		節足動物門　Arthropoda	
		軟甲綱　Malacostraca	
87	カニ類		－
		棘皮動物門　Echinodermata	
		ウニ綱 Echinoidea	
		ナガウニ科　Echinoidea	
88	パイプうに	Heterocentrotus mammillatns(spine)	Ⅰ-3-a
89	ウニ類のとげ		
		軟体動物門　Mollusca	
		頭足綱　Cephalopoda	
		ｺｳｲｶ科　Sepiidae	
90	コウイカ	Sepiida	－

第 59 表　出土貝類遺体（二枚貝）一覧

二枚貝綱 Bivalvia		生息場所類型
ﾌﾈｶﾞｲ科 Arcidae		
1 フネガイ	Arca avellana	Ⅰ-2-a
2 オオタカノハガイ	Arca ventricosa	
3 エガイ	Barbatia (Abarbatia) lima	Ⅰ-1-a
4 カリガネエガイ	Barbatia virescens	Ⅱ-1-a
5 ベニエガイ	Barbatia (Ustularca) fusca	Ⅰ-2-a
6 リュウキュウサルボオ	Anadara antiquata	Ⅱ-2-c
7 ハイガイ	Tegillarca granosa	Ⅱ-2-c
タマキガイ科 Glycymerididae		
8 ウチワガイ	Tucetona aurifiva	Ⅱ-2-c
ｲｶﾞｲ科 Mytilidae		
9 リュウキュウヒバリガイ	Modiolus auriculatus	Ⅰ-1-a
ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ科 Pteriidae		
10 ミドリアオリ	Pinctada panasesae	Ⅰ-1-a
11 カイシアオリの一種	Isognomon sp.cf.perna	-
ｲﾀﾔｶﾞｲ科 Pectenidae		
12 ナデシコガイ類	Chlamys irregularis sp.	-
13 ヒナキンチャク類	Decatopecten plica sp.	Ⅵ-12
14 イタヤガイ	Pecten albicans	Ⅵ(Ⅰ-4-c)
ウミギク科 Spondylidae		
15 メンガイ類	Spondylus sp.	-
ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科 Ostreidae		
16.17 シマガキ	Crasostrea lineata	Ⅱ-2-c
18.19 ニセマガキ	Crasostrea echinata	Ⅱ-1-b
20 オハグロガキ	Saccostrea mordax	Ⅰ-1-a
ﾂｷｶﾞｲ科 Lucinidae		
21 ウラキツキガイ	Codakia paytenorum	Ⅱ-2-c
ｷｸｻﾞﾙ科 Chamidae		
22 ヒレインコ	chama lazarus	
23 シロザル	Chama brassica	Ⅰ-4-a
24 キクザル類	Chama sp.	-
25 カネツケザル	Chama iostoma	Ⅰ-1-a

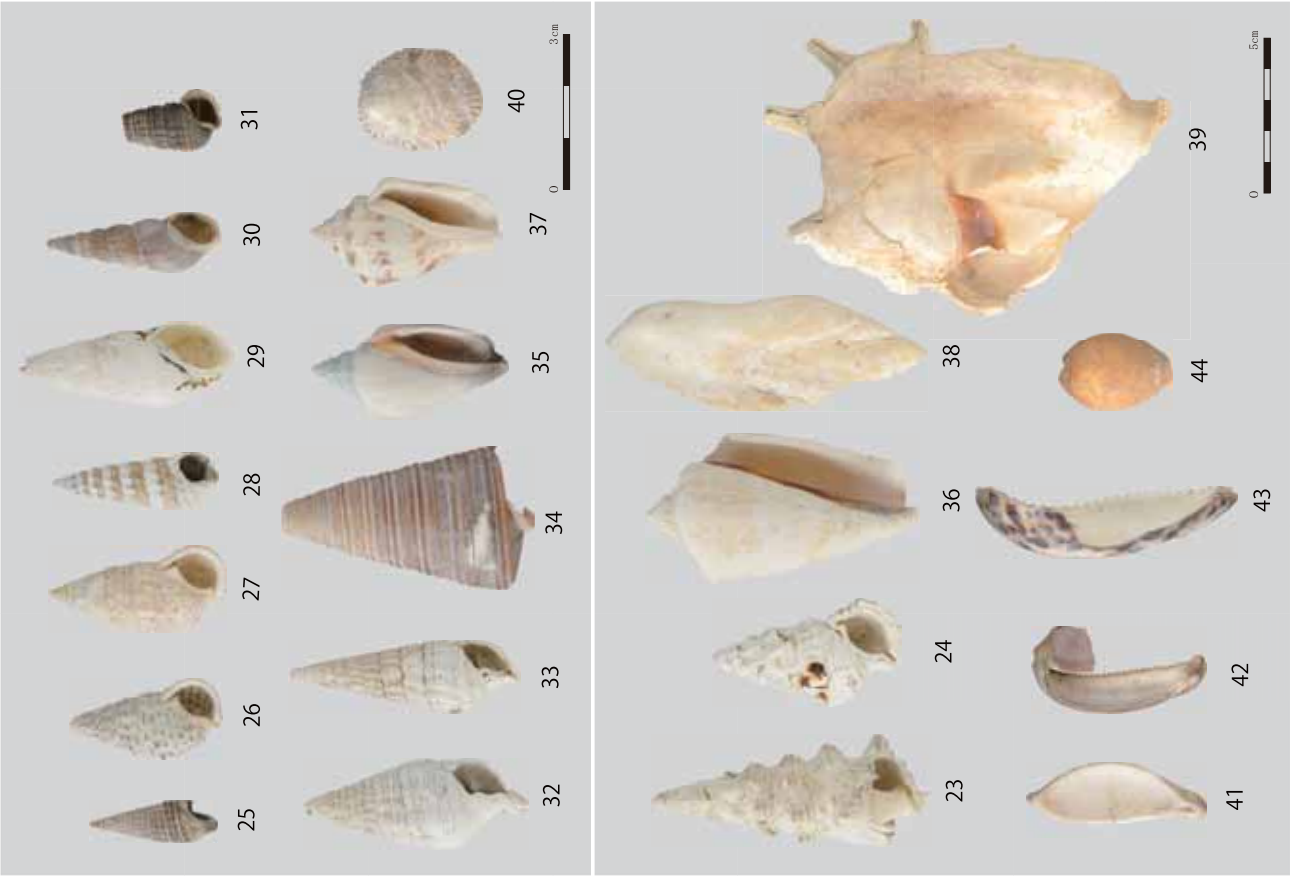
		生息場所類型
ｻﾞﾙｶﾞｲ科 Cardiidae		
26 イレズミザル	Vepricardium compunctnm	
27 リュウキュウザル	Regozara flavum	Ⅱ-2-c
28 カワラガイ	Fragum unedo	Ⅱ-2-c
ｼｬｺｶﾞｲ科 Tridacnidae		
29 シャゴウ	Hippopus hippopus	Ⅰ-2-c
30 ヒメジャコ	Tridacna crocea	Ⅰ-2-a
31 ヒレジャコ	Tridacna squamosa	Ⅰ-2-c
ﾁﾄﾞﾘﾏｽｵｶﾞｲ科 Mesodesmatidea		
32 イソハマグリ	Atactodea striata	Ⅰ-1-c
ニッコウガイ科 Tellinidae		
33 リュウキュウシラトリ	Quidnipays palatum	Ⅱ-1-c
34 ヌノメイチョウシラトリ	Pistris capsoides	Ⅲ-1-c
イソシジミ科		
35 マスオガイ	Psammotaea elongata	Ⅱ-1-c
36 リュウキュウマスオ	Asaphis violascens	Ⅱ-1-c
シｼﾞﾐ科 Corbiculidae		
37 シレナシジミ	Geloina erosa	Ⅰ-1-a
ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ科 Veneridae		
38 ヌノメガイ	Pteriglypta puerpera	Ⅱ-1-c
39 アラスジケマンガイ	Gafrarium tumidum	Ⅲ-1-c
40 ホソスジイナミガイ	Gafrarium pectinatum	Ⅱ-1-c
41 ユウカゲハマグリ	Pitar citrinum	Ⅱ-2-c
42 マルオミナエシ	Lioconcha castrensis	Ⅰ-2-a
43 オイノカガミ	Bonartemis histrio	Ⅱ-2-c
44 イオウハマグリ	Pitar sulfureum	Ⅱ-1-c
45 ヒメリュウキュウアサリ	Tapes literatus	Ⅱ-2-c
46 ヒメアサリ	Ruditapes variegata	Ⅱ-2-c
47 スダレハマグリ	Katelysia japonica	Ⅱ-2-c
48 ハマグリ類似種	Meretrix sp. cf. lusoria	Ⅱ-2-c
49 ダテオキシジミ	Cyclina sp. cf. sinensis	Ⅲ-1-c

第 60 表　貝類の生息場所類型

貝類の生息場所類型

大区分	底質等
Ⅰ　外洋ーサンゴ礁域	a 岩礁
Ⅱ　内湾ー転石域	b　転石
Ⅲ　河口干潟ーマングローブ域	c　砂/泥
Ⅳ　淡水域	d　河川礫底
Ⅴ　陸域	f　植物上
Ⅵ　その他	

小区分	
0　潮間帯上部	5　止水
Ⅰ-0　ノッチ	6　流水
Ⅲ-0　マングローブ	7　林内
1　潮間帯中・下部	8　林内・林縁部
2　亜潮間帯上縁部	9　林縁部
Ⅰ-2　イノー内	10　海浜部
3　干瀬	11　打ち上げ物
4　礁斜面	12　化石



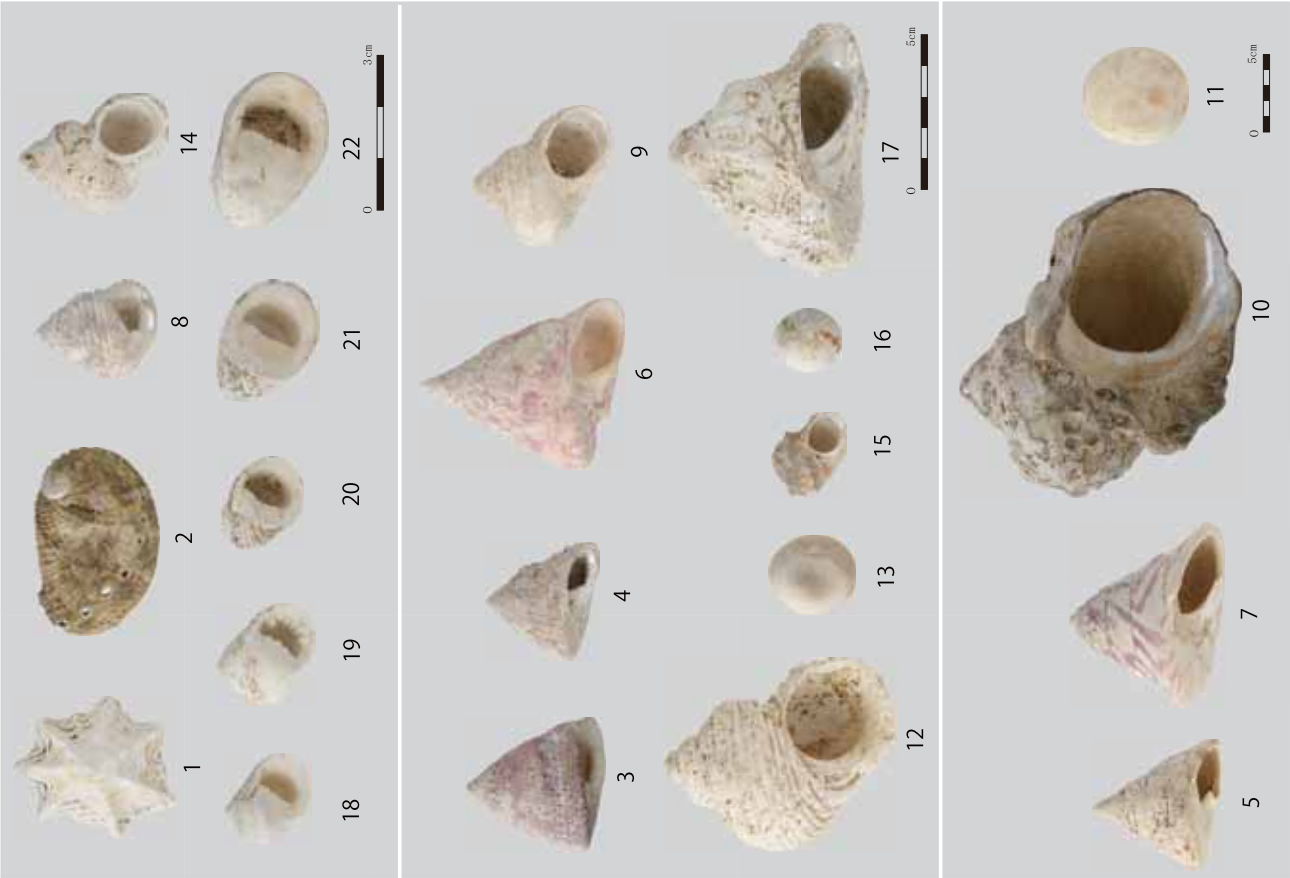


写真２　貝類遺体　巻貝（１）　※番号は第 61 表と一致

第 61 表　巻貝集計表

合計／点数				縄世門北																															書院南			総計		
				Ⅰ層						Ⅱ層										Ⅲ層上			Ⅲ層下			Ⅳ層														
				表土他			Eトレンチ			御嶽外側			石積2外側			石積5外側			Dトレンチ			御嶽上部			御嶽下部			階段1下層			階段1東側下層								
写真	科名	種名	生息場所	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
1	ユキノカサガイ科	リュウキュウウノアシ	Ⅰ-1-a							1															1							6						6		
2	ミミガイ科	イボアナゴ	-	1																																		1		
3	ニシキウズガイ科	ニシキウズ	Ⅰ-2-a		1							1					1	2						1	1		1	1		1	6	3	13				8	5	19
4		ムラサキウズ	Ⅰ-3-a																								1				1						1	1	1
5		ギンタカハマ	Ⅰ-4-a	3	2	13					6	2					8	1					5	1		4						5	1				3	30	20
6		ベニシリダカ	-																						1												1		
7		サラサバテイラ	Ⅰ-4-a		11	7											9	4				1	21	12	3	6	1					7	2				4	54	26
8		オキナワイシダタミ	Ⅱ-1-b							1						1						1									16		1				19		1
9	リュウテンサザエ	リュウテンサザエ	Ⅰ-4-b							1																											1		
10		ヤコウガイ	Ⅰ-4-a	1	12	61			1		6	52		5	3	1	11	59				1	6	27	3	13	38			8	1	28	102				7	81	361
11		ヤコウガイの蓋	Ⅰ-4-a	10	19	17		1		6	3	23	3	1	4	14	9	18		1		3	5	6	4	8	16	1		1	6	8	23		1		47	56	108
12		チョウセンサザエ	Ⅰ-3-a	31	80	13	1			19	24	2	11	13		64	79	11				29	56	10	45	58	7				18	29	9				218	339	52
13		チョウセンサザエの蓋	Ⅰ-3-a	19	2					16			1			46	2	1				23		1	13	2		2			16						136	6	2
14		コシダカサザエ	Ⅰ-2-a													2																					3		
15		カンギク	Ⅱ-1-b	10	2	5				82	13					86	3		2			26	2		13	3		58	4		264	61	18				541	88	23
16		カンギクの蓋	Ⅱ-1-b	1												5									1			3			3						13		
17		オオウラウズ	Ⅰ-2-a																														1						1
18		マングローブアマガイ	Ⅲ-0-a																												1						1		
19		キバアマガイ	Ⅰ-0-a																												1						1		
20	アマオブネガイ科	マルアマオブネ	Ⅱ-1-b							1						1												2			3	1					7	1	
21		アマオブネガイ	Ⅰ-1-b	1		1										3									1			1			9						14		1
22		ニシキアマオブネ	Ⅰ-1-c													1												1									2		
23	オニノツノガイ科	オニノツノガイ	Ⅰ-2-c		3						1						3	1					1						1		1	5					1	14	1
24		コオニノツノガイ	Ⅰ-2-a		1																										1						1	1	
25		コケツノブエ	Ⅲ-1-c		2																																	2	
26		イワカニモリ	Ⅱ-1-b	2	5	2				6	9					11	13					13	9		8	4	1	15	13		38	144	1				93	197	4
27		クワノミカニモリ	Ⅰ-1-b		1					1	1					4	3					3	3			1		20			14	30					44	39	
28	ウミニナ科	イボウミニナ	Ⅲ-1-c	1	2	1								3		1	1					1	1									2	2				3	6	3
29	トウガタカワニナ科	スグカワニナ	Ⅵ-6																							2						1						3	
30		ヌノメカワニナ	-	1																																	1		
31	フトヘナタリ科	カワアイ	Ⅲ-1-c			1																	2	3			2	1	7			7					1	16	8
32		マドモチウミニナ	Ⅲ-1-c		1																										9	2					4	3	
33		キバウミニナ	Ⅲ-0-c																												1						1		
34		センニンガイ	Ⅲ-0-c		1									1		1							1			1						1						6	1
35	スイショウガイ科	オハグロガイ	Ⅱ-2-c	8	2					2	1	1				3		1							6				1		6						35	4	1
36		マガキガイ	Ⅱ-2-c	7	54	2		3		3	6	1		2		24	34			1		4	16		2	14		30	27		71	75	5				131	230	8
37		ムカシタモト	Ⅰ-2-c																						1												1		
38		ゴホウラ	Ⅰ-4-c									1																											1
39		クモガイ	Ⅰ-2-c			1					1			1				1																				2	2
40	スズメガイ科	アツキクスズメ	Ⅰ-3-a													1															1						2		
41	タカラガイ科	ヤクシマダカラ	Ⅰ-2-a			1																																	1
42		ホソヤクシマダカラ	Ⅱ-2-a		1																																	1	
43		ホシダカラ	Ⅰ-2-a																								3												3
44		ホシキヌタ	Ⅰ-2-a	1																					1												2		
45		カバダダカラ	-													1																					1		
46		コモンダカラ	Ⅰ-1-a																						1												1		
47		ハナビラダカラ	Ⅰ-1-a	1						3						10									3			1		1	6	1					24	1	1
48		モイロタカラ	Ⅰ-1-a	1									1			1										1					3						6	1	
49		ハナマルユキ	Ⅰ-3-a	2												4									1			4			9	2	3				11	2	5
50		ウスムラサキ(リュウキュウ)ダカラ	Ⅱ-2-b	1																																	1		
-		不明	-		2	1																																2	1
51	タマガイ科	ホウシュノタマガイ	Ⅱ-1-c		1																																	1	
52	オキニシ科	オキニシ	Ⅰ-3-a														1																					1	
53	トウカムリガイ科	トウカムリ	-			1												1																					2
54	フジツガイ科	ミツカドボラ	Ⅰ-2-a													1																					1		
55		シオボラ	Ⅰ-2-a																						1		1				1						2		1
56		ホラガイ	Ⅰ-4-a								1																											1	
57		ガンセキボラ	Ⅰ-4-a														1																					1	
58		ヒロウネレイシダマシ	Ⅱ-1-b																									1			1						2		
59	アッキガイ科	ハナブレイシ	Ⅰ-3-a													1																					1		
60		ツノレイシ	Ⅰ-3-a													1	1								1		1	2			2	1					7	2	1
61		シラクモガイ	Ⅰ-3-a	2																											1						3		
62	オニコブシ科	コオニコブシ	Ⅰ-3-a													1						1			1			1			5	3	1				9	3	1
63	ムシロガイ科	ヨフバイモドキ	-	1																																	1		
64	エゾバイ科	シマベッコウバイ	Ⅱ-1-c	1						1	2		1			3									1			1			12						20	2	
65	イトマキボラ科	イトマキボラ	Ⅰ-2-a	11	7	2				2		1	1			20	3	1				5	1	1	12		3				1	2					52	13	8
66		ナガイトマキボラ	Ⅰ-2-a													1																					1		
67		リュウキュウツノマタ	Ⅰ-3-a													1																					1		
68		チトセボラ	Ⅰ-2-c																			1															1		
69	イモガイ科	ナンヨウクロミナシ	Ⅱ-2-c													1																					1		
70		クロフモドキ？	Ⅰ-2-c		1																																	1	
71		マダライモ	Ⅰ-1-a	1												2									1				1		3						7	1	
72		ササガタイモ	Ⅰ-1-a	1						1			1												2			1			3						8		
73		ヤキイモ	Ⅰ-2-c	1																																	1		
74		カバミナシ	Ⅰ-4-b																						1												1		
75		キヌカツギイモ	Ⅰ-2-a													1															1						2		
76		ヤセイモ	Ⅰ-2-a		1																																	1	
77		ヤナギシボリイモ	Ⅰ-2-a																												1	1	1				1	1	1
78		イボシマイモ	Ⅰ-2-a					1		1						1															1						4		
-		小形イモガイ	-																							2					1							3	
-		中形イモガイ	-		2																																	2	
-		不明	-		1												1																					2	
79	ナツメガイ科	ナツメガイ	Ⅰ-2-c																						1												1		
80	キセルガイ科	ソヤギセルガイ	Ⅴ-8	1		1				2	2	1				5		1				1			2	2					26		5				42	4	8
81	ヤマタニシ科	オキナワヤマタニシ	Ⅴ-8	5	4	1				1							2					6		1		3	2			1							10	9	5
82	アフリカマイマイ科	アフリカマイマイ	Ⅴ-9			1																																	1
83	ナンバンマイマイ科	シュリマイマイ	Ⅴ-8																									1									1		
84		オキナワウスカワマイマイ	Ⅴ-9													1																					1		
85	オナジマイマイ科	バンダナマイマイ	Ⅴ-9							1																						1					1	1	
86		シュリケマイマイ	-	1										1								1															2	1	
87	不明	カニ類	-			1										1		8						3									1						14
88	ナガウニ科	バイブラに	Ⅰ-3-a					1																															1
89	不明	ウニ類のとげ	-																								1												1
90	コウイカ科	コウイカ	-			1																																	1
-	不明	巻貝不明	-																				1				1											1	1
		総計		127	221	156	2	4	2	151	74	86	19	29	9	324	186	109	3	2		118	130	68	136	124	69	148	54	12	566	423	191		1		1581	1247	701

第 62 表　二枚貝集計表

| 合計／点数 | | | | 縄世門北 | | | |

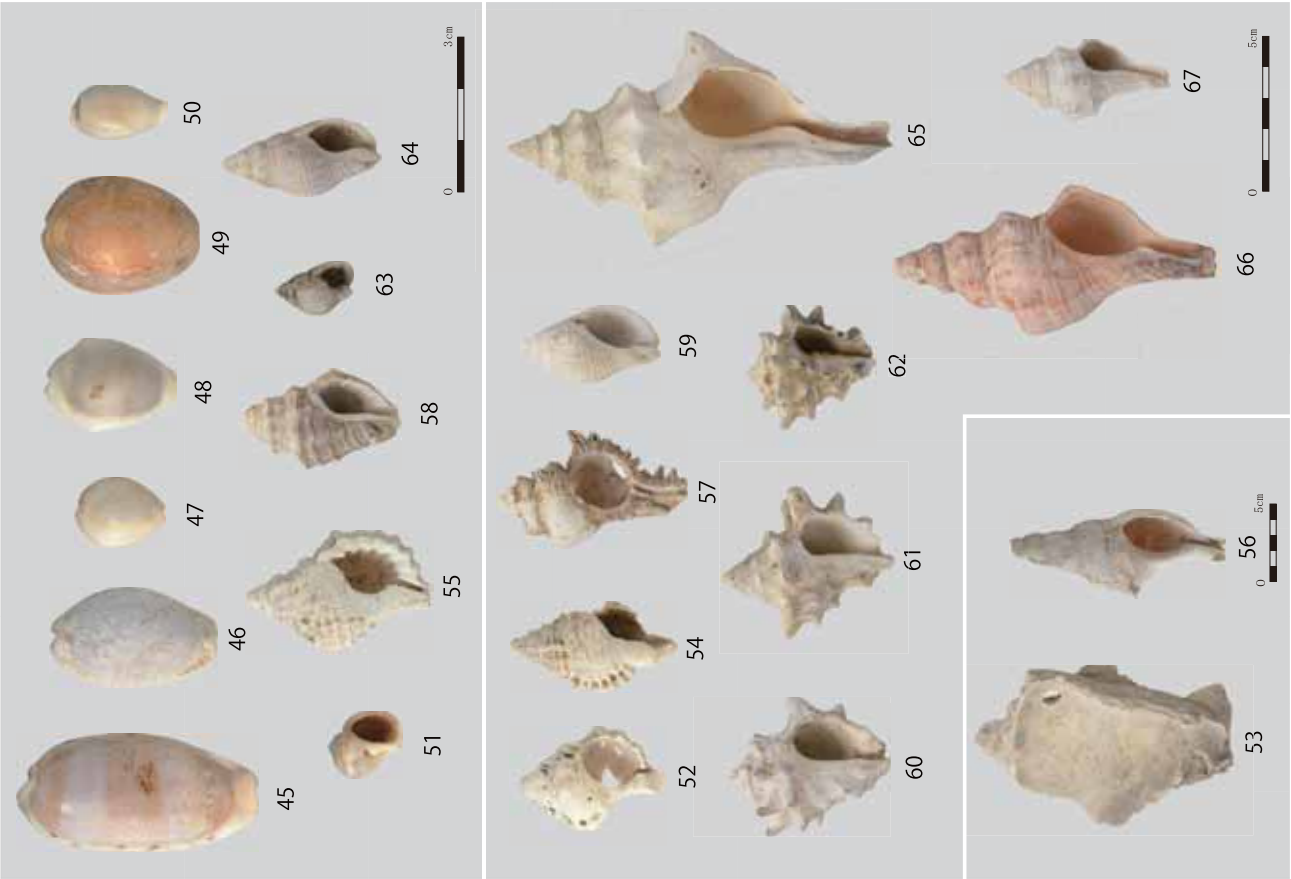
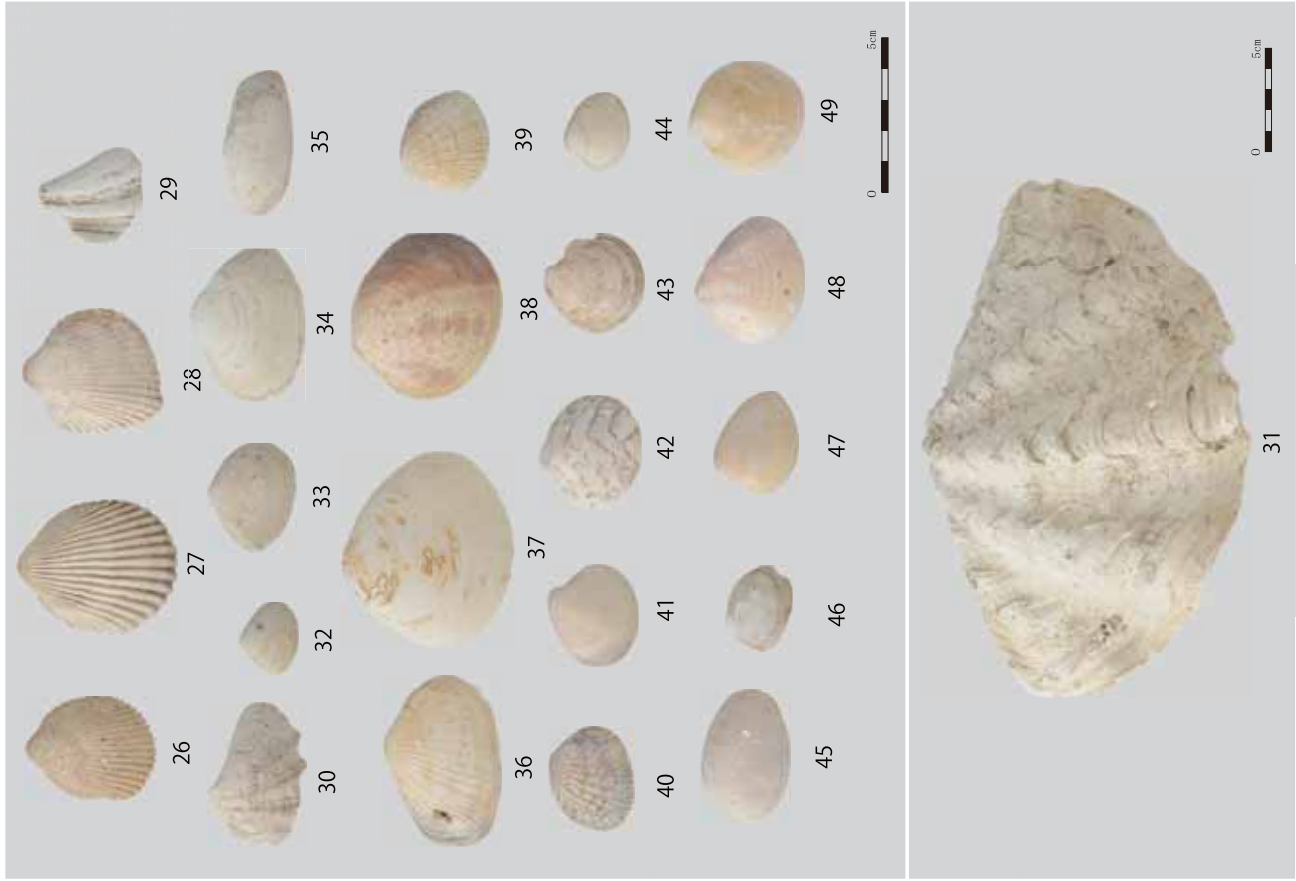


写真３　貝類遺体　巻貝（２）　※番号は第 61 表と一致



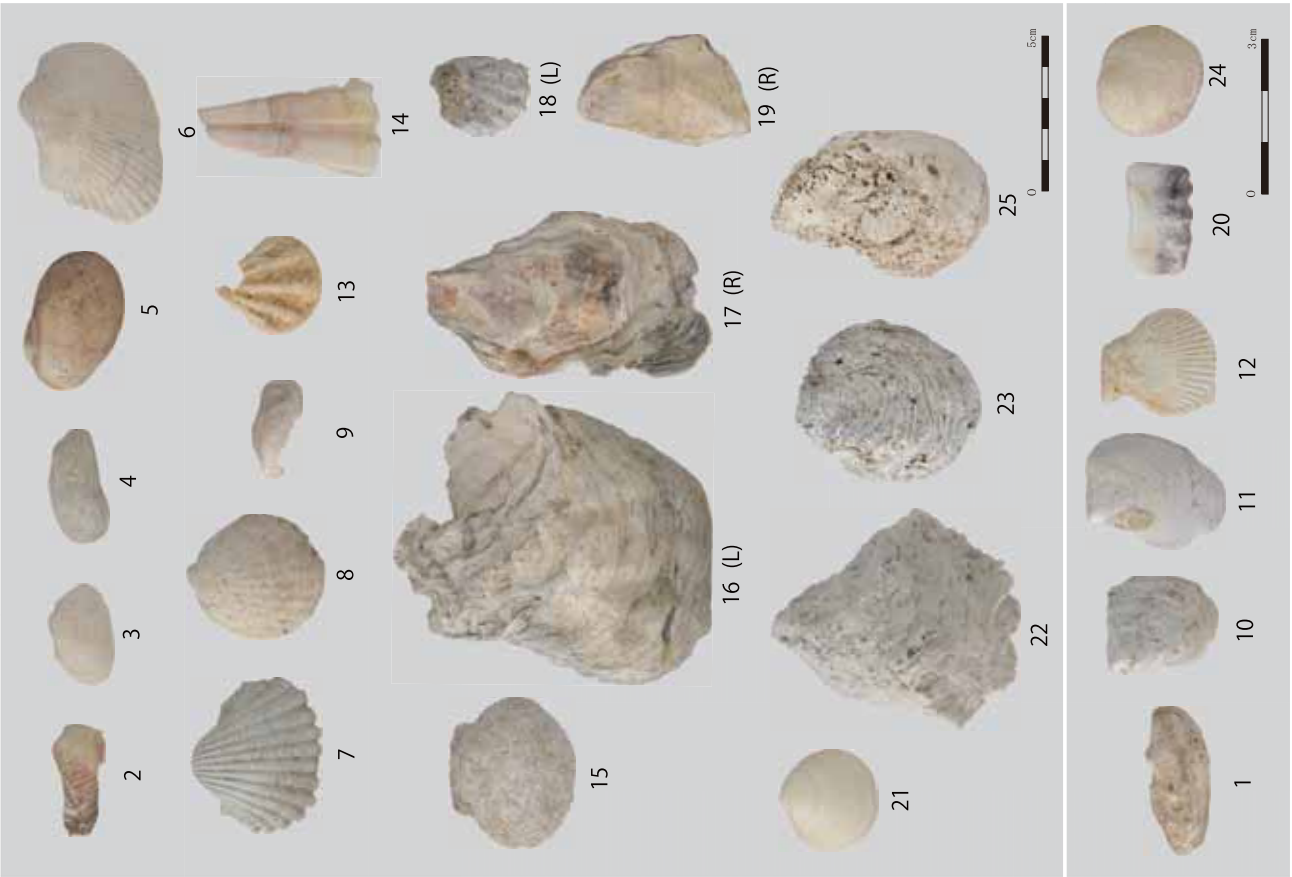


写真４　貝類遺体　二枚貝　※番号は第 62 表と一致

13. 脊椎動物遺体（写真５～８）

脊椎動物遺体も貝類遺体と同様にピックアップ資料である。種の同定は丸山真史の指導を受け、当センター所蔵の現生標本と県内出土資料の比較により行った。

同定できたものは魚類が軟骨魚綱２分類群、硬骨魚綱 40 分類群、両生綱１分類群、爬虫綱１分類群、鳥綱５分類群、哺乳綱 13 分類群、合計 62 分類群が同定できた（第 63 ～ 70 表）。

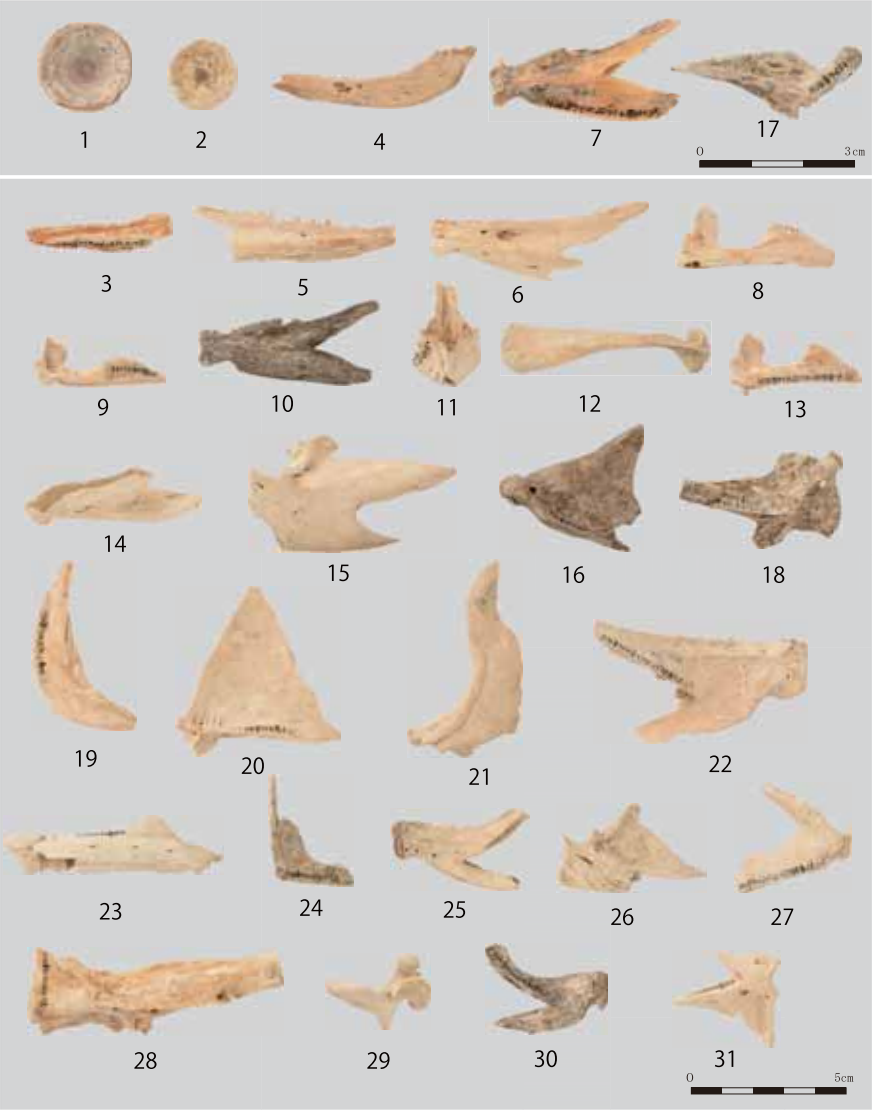
第 63 表　脊椎動物遺体の種名一覧

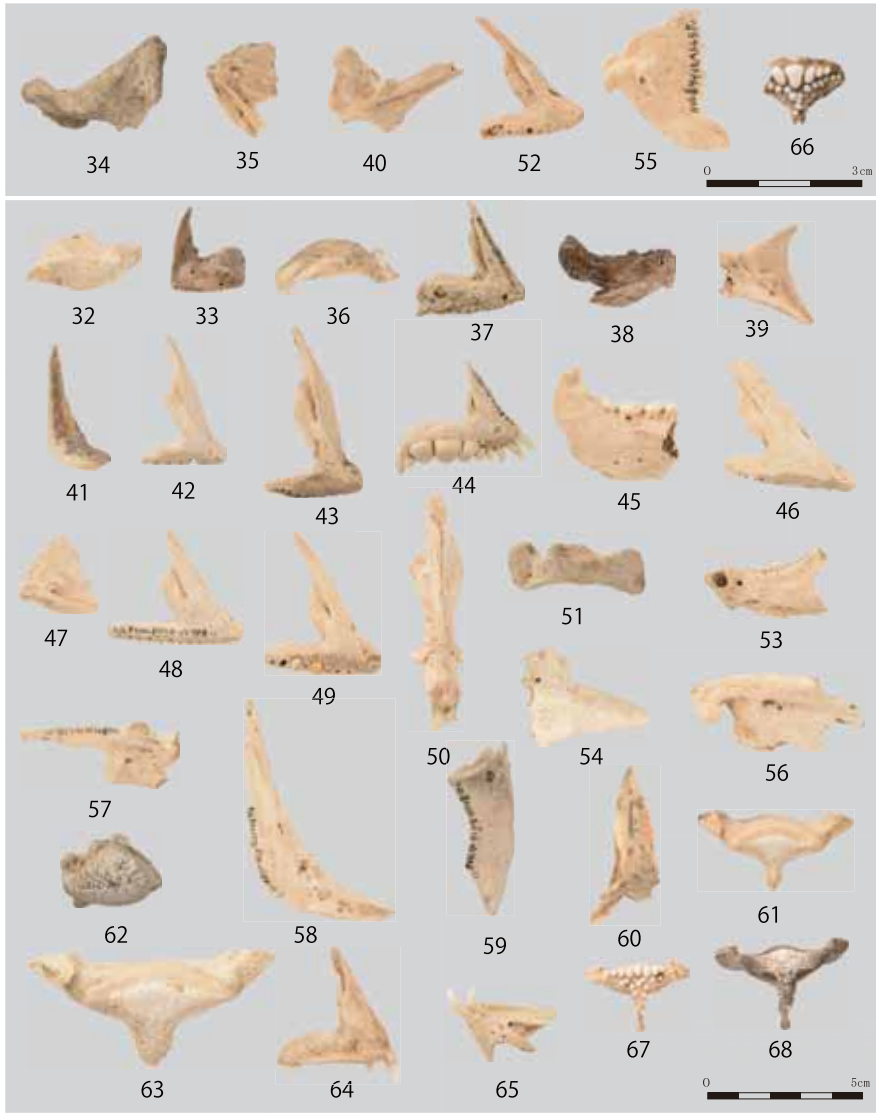
軟骨魚綱	CHONDICHTHYES
サメ類	Lamniformes
エイ類	Rajiformes
硬骨魚綱	OSTEICHTHYES
ウツボ科	Muraenidae
ダツ科	Belonidae
カマス科	Sphyraenidae
マハタ型	cf. *Epinephelus*
バラハタ型	cf. *Variola*
ハタ科A	Serranidae A (cf.*Epinephelus*)
ハタ科B	Serranidae B (cf.*Plectropomus*)
ハタ科	Serranidae
ハタ科／フエダイ科	Serranidae／Kyphosidae
アジ科	Garangidae
アジ科（大型）	Garangidae(large)
フエダイ科	Kyphosidae
コショウダイ属	*Plectorhynchus*
ヘダイ	*Sparus sarba*
クロダイ属	*Acanrhpagrus*
シロダイ型	cf.G.*japonicus*
メイチダイ属	*Gymnocranius*
ヨコシマクロダイ	*Monotaxis grandoculis*
キツネフエフキ	*Lethrinus miniatus*
ミナミクロダイ	Acanthopagrus sivicolus
アマミフエフキ型	cf. *L.. amamianus*
ハマフエフキ型	cf. *L.. nebulosus*
フエフキダイ科	Lethrinidae
コブダイ	Asian sheepshead wrasse
シロクラベラ型	cf. *Cherodon shoenleinii*
タキベラ型	cf. *"Bodianus perditio"*
ベラ科A	Labridae A
ベラ科B	Labridae B
ベラ科	Labridae
イロブダイ	*Bolbometopon*
ナガブダイ型	cf.*Scarops rubrouiolaceus*

（右段につづく）

硬骨魚綱（つづき）	OSTEICHTHYES(cont.)
ブダイ科	Scaridae
サバ科	Scombridae
マグロ／カツオ類	Thunnus／Katuwonus
マグロ属	*Thunnus*
ニザダイ科	Acanthrinidae
ニザダイ科／アイゴ科	Acanthrinidae／Siganidae
コチ科	Platycephalidae
モンガラカワハギ科	Balistidae
カワハギ類	Stephanolepis
両生綱	AMPHIBIA
カエル類	Salientia
爬虫綱	RRPTILIA
ウミガメ類？	Cheloniidae?
鳥綱	AVES
カモ科	Anatidae (small)
カモ科ヒシクイ大	Anatidae Anser fabalis(large)
キジ科	Family Phasianidea
ニワトリ	*Galus galus*
鳥類	Birds
哺乳綱	MAMMALIA
ネズミ科	Murinae
イヌ	*Canis familiaris*
ネコ	*Felis catus*
イノシシ／ブタ	*Sus scrofa*
ヤギ	*Capra hircus*
ウシ	*Bos taurus*
ウマ	*Equus feres*
ウシ/ウマ	*Bos taurus/Equus feres*
クジラ類	Cetacea(large)
イルカ類	Cetacea(Small)
哺乳類	Mammalia
大型哺乳類	Large mammalia
ジュゴン?	*Dugong dugon?*

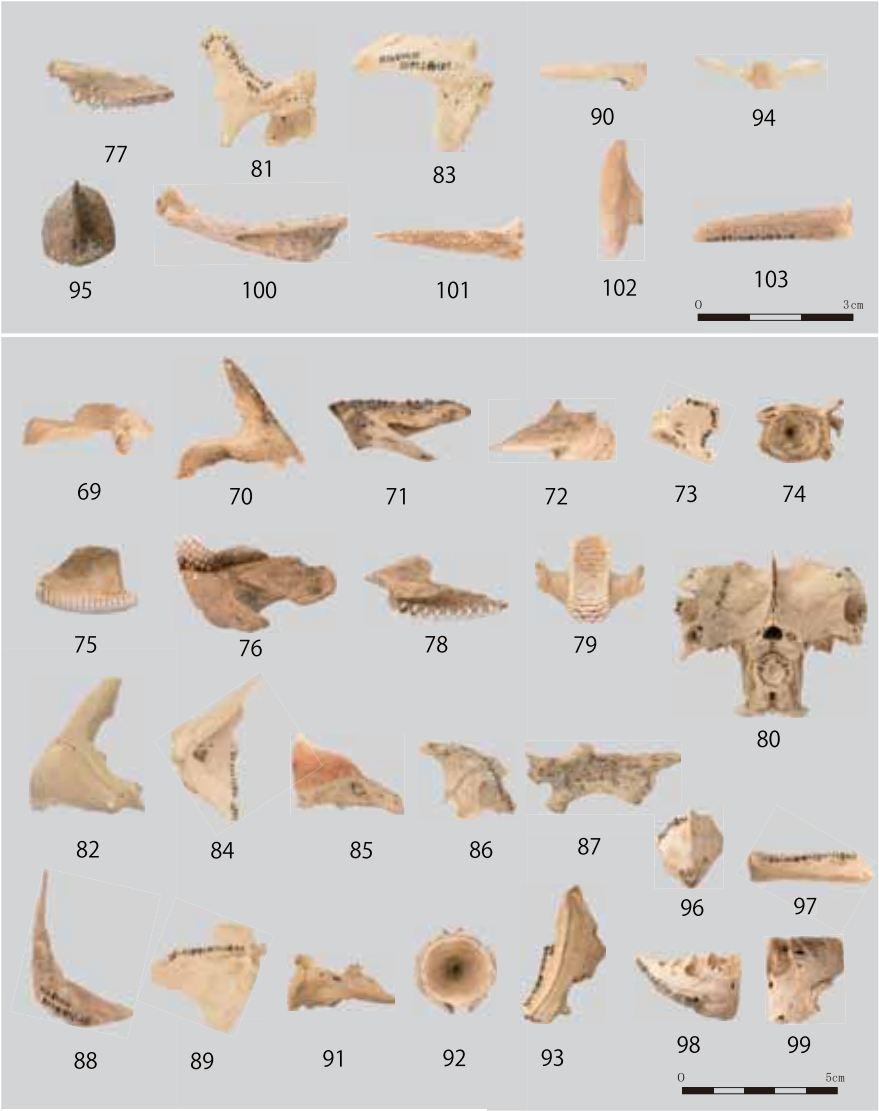
写真５　脊椎動物遺体（１）



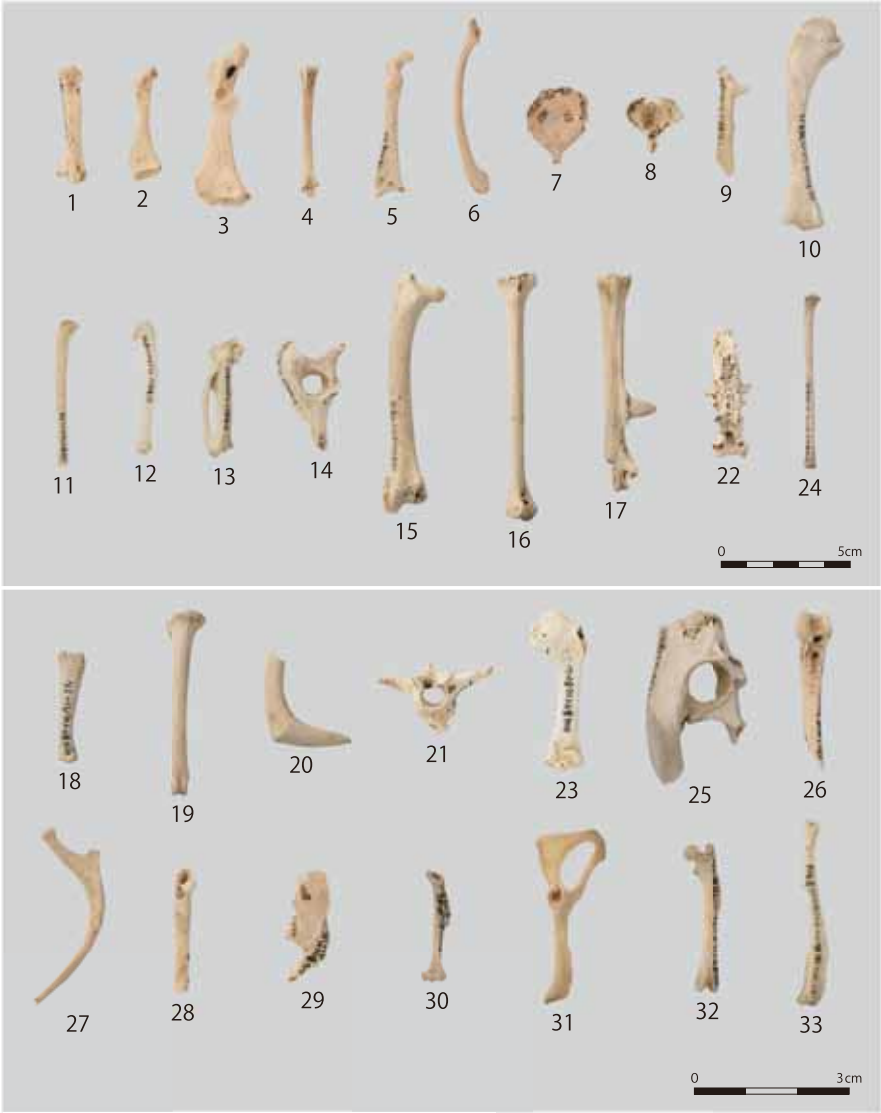


サメ類　1.椎骨　**エイ類**　2.椎骨　**ウツボ科**　3.左　歯骨　**ダツ科**　4.右　前上顎骨　**カマス科**　5.右　歯骨
マハタ型　6.左　歯骨　**バラハタ型**　7.左　歯骨　**ハタ科Ａ**　8.左　前上顎骨　**ハタ科Ｂ**　9.左　前上顎骨
10.左　歯骨　**ハタ科**　11.鋤骨　12.右　主上顎骨　13.左　前上顎骨　14.右　歯骨　15.右　角骨　16.左　方骨
17.左　口蓋　18.左　舌顎　19.左　前鰓蓋骨　20.右　主鰓蓋骨　21.左　擬鎖骨　**アジ科**　22.左　歯骨
アジ科（大型）23.左　前上顎骨　**フエダイ科**　24.左　前上顎骨　25.右　歯骨　26.右　角骨　27.右　方骨
28.右　舌顎　**コショウダイ属**　29.左　主上顎骨　30.左　歯骨　31.左　角骨

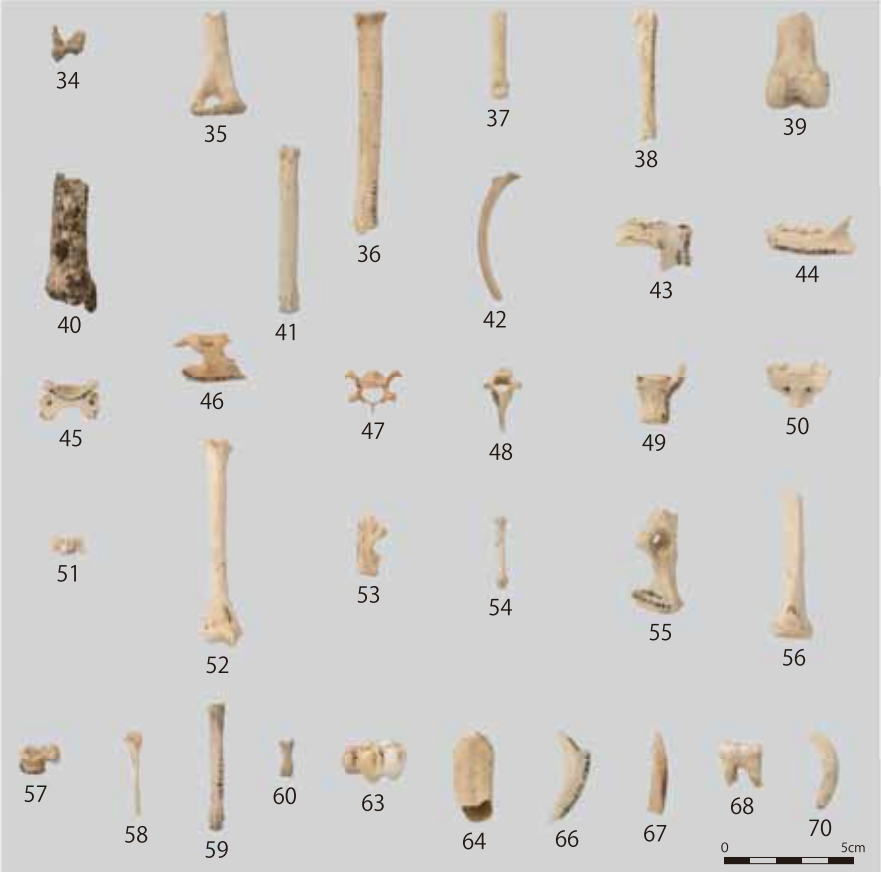
ヘダイ　32.左　主上顎骨　33.左　前上顎骨　34.左　歯骨　35.右　方骨　**クロダイ属**　36.左　主上顎骨
37.左　前上顎骨　38.右　歯骨　39.左　角骨　40.右　舌顎骨　41.左　前鰓蓋骨　**シロダイ型**　42.左　前上顎骨
メイチダイ属　43.左　前上顎骨　**ヨコシマクロダイ**　44.左　前上顎骨　45.右　歯骨　**キツネフエフキ**
46.左　前上顎骨　**ミナミクロダイ**　47.右　方骨　**アマミフエフキ型**　48.左　前上顎骨　**ハマフエフキ型**
49.左　前上顎骨　50.副楔骨　**フエフキダイ科**　51.左　主上顎骨　52.左　前上顎骨　53.左　歯骨　54.左　角骨
55.左　方骨　56.左　口蓋　57.左　舌顎　58.左　前鰓蓋骨　59.左　主鰓蓋骨　60.左　擬鎖骨　**コブダイ**　61.下咽頭骨
シロクラベラ型　62.左　上咽頭骨　63.下咽頭骨　64.左　前上顎骨　65.左　歯骨　**タキベラ型**　66.下咽頭骨
ベラ科Ａ　67.下咽頭骨　**ベラ科Ｂ**　68.下咽頭骨

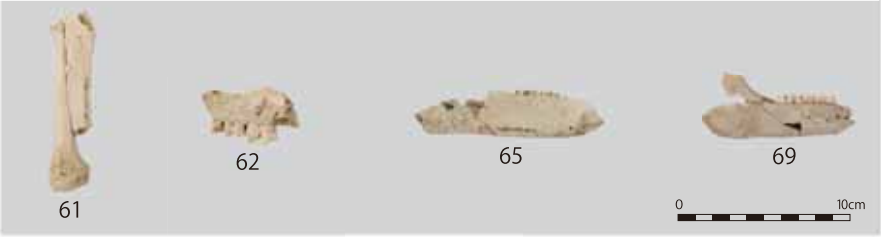


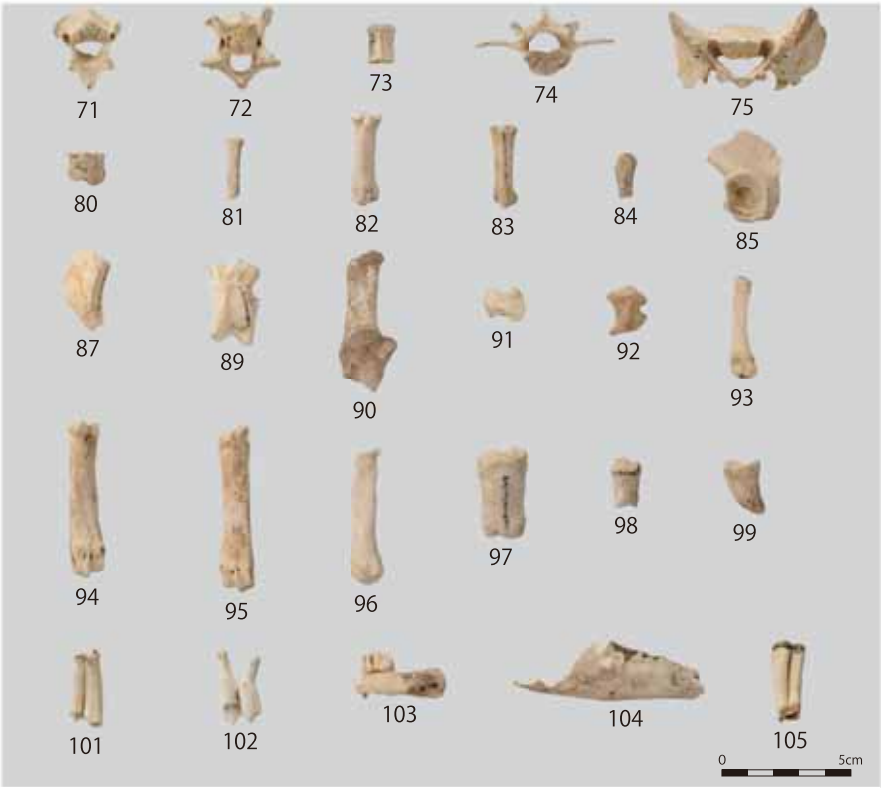
ベラ科　69.左　主上顎骨　70.左　前上顎骨　71.左　歯骨　72.左　角骨　73.左　方骨　74.椎骨　**イロブダイ**
75.右　上咽頭骨　76.左　歯骨　**ナガブダイ型**　77.左　上咽頭骨　**ブダイ科**　78.左　上咽頭骨　79.下咽頭骨
80.神経頭蓋　81.左　主上顎骨　82.左　前上顎骨　83.左　角骨　84.右　方骨　85.左　歯骨　86.左　口蓋
87.右　舌顎　88.左　前鰓蓋骨　89.左　主鰓蓋骨　**サバ科**　90.左　前上顎骨　**マグロ・カツオ類**　91.左　舌顎骨
マグロ属　92.尾椎　**ニザダイ科**　93.左　擬鎖骨　94.尾椎　95.楯鱗　96.尾部ウロコ　**コチ科**　97.左　歯骨
モンガラカワハギ科　98.左　前上顎骨　99.左　歯骨　100.腰帯　101.背鰭棘　102.歯　**カワハギ類**　103.背鰭棘



カモ科　1.左　中足骨　2.左　鳥口骨　**カモ科ヒシクイ大**　3.左　鳥口骨　**キジ科**　4.左　中足骨　**ニワトリ**
5.左　鳥口骨　6.鎖骨　7.胸骨　8.頭蓋骨　9.左　肩甲骨　10.左　上腕骨　11.右　橈骨　12.左　尺骨　13.左　中手骨
14.左　寛骨　15.左　大腿骨　16.左　脛骨　17.左　中足骨　**鳥類**　18.趾骨　19.指骨　20.鎖骨　21.頚椎　22.胸椎
23.左　上腕骨　24.左　橈骨　25.右　寛骨　26.左　脛骨　27.左　肋骨　**ネズミ**　28.左　大腿骨　**ネズミ科**
29.左　下顎骨　30.右　上腕骨　31.左　寛骨　32.左　大腿骨　33.左　脛骨

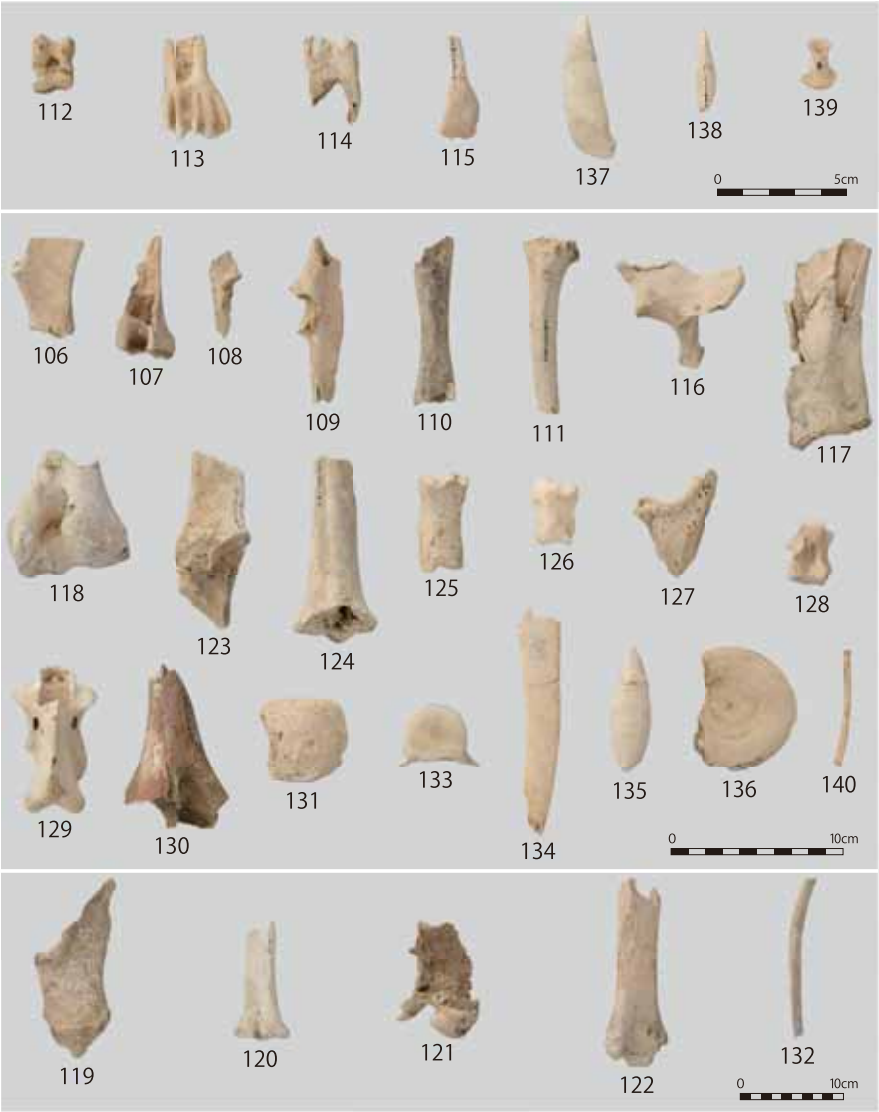






イヌ　34.左　上顎(M1)　35.右　上腕骨　36.左　橈骨　37.左　中手骨/中足骨　38.左　中手骨　39.右　大腿骨
40.左　脛骨　41.左　第3中足骨　42.右　肋骨　**ネコ**　43.左　上顎骨　44.左　下顎骨　45.環椎　46.軸椎　47.頸椎
48.胸椎　49.腰椎　50.仙椎　51.尾椎　52.右　上腕骨　53.右　尺骨　54.左　中手骨　55.左　寛骨　56.左　脛骨
57.右　距骨　58.右　腓骨　59.右　中足骨　60.左　基節骨　**イノシシ/ブタ**　61.右　橈骨+尺骨　62.左　上顎骨
63.左　上顎(M3)　64.右?　上顎犬歯　65.左　下顎骨　66.左　下顎(C)　67.右　下顎(I1)　68.左　下顎(M2)
69.右　下顎(dpz,dp3,dp4,M1)　70.左　下顎犬歯

イノシシ/ブタ　71.軸椎　72.頚椎　73.胸椎　74.腰椎　75.仙骨　76.左　肩甲骨　77.左　上腕骨　78.左　橈骨
79.左　尺骨　80.左　中間手根骨　81.左　第2中手骨　82.左　第3中手骨　83.左　第4中手骨
84.左右不明　中手/中足　85.右　寛骨　86.左　大腿骨　87.左　膝蓋骨　88.右　脛骨　89.左　距骨　90.左　踵骨
91.左　橈側手根骨　92.右　第4足根骨　93.右　第2中足骨　94.左　第3中足骨　95.左　第4中足骨
96.左　第5中足骨　97.左　基節骨　98.中節骨　99.末節骨　100.左　肋骨　**ヤギ**　101.右　上顎(M1)
102.右　上顎(M1/M2)　103.右　下顎骨(P4)　104.右　下顎　105.左　下顎(M2)



ヤギ 106.右? 肩甲骨 107.左 上腕骨 108.右 尺骨 109.右 寛骨 110.右 大腿骨 111.左 脛骨
112.右 距骨 **ウシ** 113.左 上顎(M1/M2) 114.左 下顎(M1/M2) 115.左 下顎切歯 116.頚椎
117.左 肩甲骨 118.左 上腕骨 119.左 尺骨 120.右 中手骨 121.左 大腿骨 122.左 脛骨 123.左 踵骨
124.左 中足骨 125.基節骨 126.中節骨 127.末節骨 128.左 中間手根骨 **ウマ** 129.軸椎 130.右 上腕骨
131.左 膝蓋骨 132.左右不明 肋骨 **ウシ/ウマ** 133.椎骨 134.左 肋骨 **クジラ** 135.歯 136.椎骨
クジラ類 137.歯 **イルカ類** 138.歯 **哺乳類** 139.尾椎 140.左 橈骨

第 64 表　脊椎動物遺体集計表（１）

合計／点数			継世門北											書院南	総計
			Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層			
分類群	部位	LR	表土他	E トレンチ	御嶽 外側	石積2 外側	石積5 外側	D トレンチ	御嶽 上部	御嶽 下部	御嶽 イビ	階段1 下層	階段1 東側下層		
サメ類	椎骨	―	4		1		2					2	31		40
エイ類	椎骨	―										1			1
ウツボ科	歯骨	L										1			1
ダツ科	前上顎骨	L					1								1
		R											1		1
カマス科	歯骨	L			1										1
		R								1			2		3
カマス科？	椎骨	―										2			2
マハタ型	歯骨	L	1		2		5		1	8			4		21
		R	1		1	1	2			3		2	9		19
バラハタ型	歯骨	L	1		2	1	2			2					8
		R	1		1		3						2		7
ハタ科Ａ	前上顎骨	L			2	2	3			4		1	4		16
		R	1		2	2	3			1			9		18
ハタ科Ｂ	前上顎骨	L					1					1	4		6
		R			1				3	1			2		7
	歯骨	L					3			1			2		6
		R			1		1						4		6
ハタ科	鋤骨	―	1				1			3			1		6
	主上顎骨	L	3		4	1	8			3		2	7		28
		R	4		1	5	8		3	3			10		34
	前上顎骨	L								1			1		2
		R								1					1
	歯骨	R	1												1
	角骨	L	2		4	1	3		1	4			8		23
		R	1		3	1	6			8			6		25
	方骨	L	3		2	3	2		1	2		1	9		23
		R	2		3	2	5		2	4			6		24
	口蓋	L	1			1	1		1	1			1		6
		R				1	1			1			2		5
	舌顎	L			1	2	8					1	14		26
		R	1		1		6		2	1		2	21		34
	前鰓蓋骨	L	1			6	3			5			2		17
		R	2		2	1	4			4		3	3		19
	主鰓蓋骨	L								2			3		5
		R	2	1	1		2			2			2		10
	擬鎖骨	L	2		2		6			7		1	12		30
		R	2		6	1	1		2	7		2	18		39
	下顎	R											1		1
ハタ科？	角骨	L	1												1
		R								1					1
	腹椎	―					1								1
	前上顎骨	L								1					1
		R											2		2
	前鰓蓋骨	L					1								1
ハタ科かフエダイ科	主上顎骨	L	1												1
アジ科	歯骨	L								1					1
		R					1		1						2
アジ科？	主鰓蓋骨	R				1									1
	腹椎	―							1						1
アジ科（大型）	前上顎骨	L					1								1
フエダイ科	前上顎骨	L	1				1			1			1		4
	歯骨	L											1		1
		R			3							1	2		6
	角骨	R			1										1
	方骨	L	1												1
		R						1		1					2
	舌顎	L	1				1		1			1	1		5
		R				1	1		1						3
コショウダイ属	主上顎骨	L	3				4			1			5		13
		R				1	1			2					4
	歯骨	L											1		1
		R				1	1			1			2		5
	角骨	L											2		2
		R					1						1		2
ヘダイ	主上顎骨	L					1								1
		R					2		1						3
	前上顎骨	L											2		2
	歯骨	L										1			1
		R											1		1
	方骨	R											1		1

第 65 表　脊椎動物遺体集計表（２）

合計／点数			継世門北											書院南	総計
			Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層			
分類群	部位	LR	表土他	E トレンチ	御嶽 外側	石積2 外側	石積5 外側	D トレンチ	御嶽 上部	御嶽 下部	御嶽 イビ	階段1 下層	階段1 東側下層		
クロダイ属	主上顎骨	L	1				2		1	1		1	9		15
		R	1				1						2		4
	前上顎骨	L	2			1	4					1	2		10
		R	3			4	1			2		1	3		14
	歯骨	L							1			2	10		13
		R	3		1	1	1			1		2	5		14
	角骨	L										1	1		2
	舌顎骨	R											1		1
	前鰓蓋骨	L											2		2
		R										1			1
シロダイ型	前上顎骨	L											1		1
		R			3		1						1		5
メイチダイ属	前上顎骨	L					1			1					2
		R				1	1			1					3
ヨコシマクロダイ	前上顎骨	L					1					2			3
	歯骨	R	1												1
キツネフエフキ	前上顎骨	L								1					1
ミナミクロダイ	方骨	R					1								1
アマミフエフキ型	前上顎骨	L			2		1			2		1	2		8
		R				1	2			3		1	2		9
ハマフエフキ型	前上顎骨	L	6		4	4	23			9		5	6		57
		R	7		2	5	13			8		6	5		46
	副楔骨	―			4	1	10		2	17		2	5		41
フエフキダイ科	主上顎骨	L	7		6	3	10			3		6	18		53
		R	5		1	2	8		1	4		3	23		47
	前上顎骨	L					2			4		2	2		10
		R										1	1		2
	歯骨	L	5		5	3	14		3	9	1	4	8		52
		R	3		1	5	12		3	10	1	3	7		45
	角骨	L	3		4	2	8		1	6		2	9		35
		R			5	10	15			8		6	9		53
	方骨	L	2		3	3	8			2		2	5		25
		R	3			8	3		2	5		4	7		32
	口蓋	L	10		2	9	13		2	6		7	13		62
		R	6		5	6	20		1	6		8	13		65
	舌顎	L			3	8	12		3	3		3	5		37
		R	4		2	1	6		2	8		3	15		41
	前鰓蓋骨	L	1		3	1	2			7		2	7		23
		R	3			2	10		1	7		1	8		32
	主鰓蓋骨	L			2	1	4			3		1	7		18
		R	1			2	2		1	3		1	6		16
	擬鎖骨	L								2			3		5
		R			2					2		2	2		8
コブダイ	下咽頭骨	―								1					1
シロクラベラ型	上咽頭骨	L	1		2		1					1			5
	下咽頭骨	―	1			1			2	2			1		7
	前上顎骨	L	3		1	1	4			2		1	9		21
		R	2				6			5		3	11		27
	歯骨	L				1	1			1			2		5
		R				1	2		1				2		6
タキベラ型	下咽頭骨	―											1		1
ベラ科Ａ	下咽頭骨	―			1					1			2		4
ベラ科Ｂ	下咽頭骨	―					2	1	1	2			2		8
ベラ科	主上顎骨	L					2		1				5		8
		R			1		1			3		1	7		13
	前上顎骨	L			1		1			3			5		10
		R			3		4			1			2		10
	前上顎骨or 歯骨	L											1		1
		R											1		1
	歯骨	L	3			1	1			1			2		8
		R	2		2		1	1		2		2	2		12
	角骨	L			1								5		6
		R					1			1			1		3
	方骨	L					1		1						2
		R	1			1	1			1			3		7
	椎骨	―	1						1						2
イロブダイ	上咽頭骨	R	2												2
	歯骨	L			1								3		4

第 66 表　脊椎動物遺体集計表（３）

合計／点数			継世門北											書院南	総計
			Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層			
分類群	部位	LR	表土他	E トレンチ	御嶽 外側	石積2 外側	石積5 外側	D トレンチ	御嶽 上部	御嶽 下部	御嶽 イビ	階段1 下層	階段1 東側下層		
ナガブダイ型	上咽頭骨	L											2		2
ブダイ科	上咽頭骨	L										1	2		3
		R	1			1	1			1			1		5
	下咽頭骨	―			1				1	2			3		7
	神経頭蓋	―								1					1
	主上顎骨	L	1							2			3		6
		R								1			8		9
	前上顎骨	L			3	1				4		3	14		25
		R			1		2					5	18		26
	角骨	L				1	1						1		3
		R					1						1		2
	方骨	L	1				1		1				13		16
		R					1	1				2	10		14
	歯骨	L	2		1	1			1	3		3	12		23
		R	1				7			2		1	10		21
	口蓋	L	3			1	1					1	3		9
		R											2		2
	舌顎	L					1			3					4
		R											2		2
	前鰓蓋骨	L								1					1
		R											2		2
	主鰓蓋骨	L	1										6		7
		R			1		1			1			5		8
サバ科	前上顎骨	L								2					2
マグロ・カツオ類	舌顎骨	L											1		1
マグロ属	尾椎	―	1						1						2
ニザダイ科	擬鎖骨	L											2		2
	尾椎	―			1										1
	楯鱗	―											2		2
	尾部ウロコ	―	3										1		4
ニザダイ科かアイゴ科	擬鎖骨	R											1		1
コチ科	歯骨	L											1		1
モンガラカワハギ科	前上顎骨	L								1					1
	歯骨	L								1					1
	腰帯	―					1								1
	背鰭棘	―											1		1
	歯	―								1					1
カワハギ類	背鰭棘	―	1										2		3
種不明	頭骨	―			1					1					2
	前頭骨	―	1				2			1					4
	主上顎骨	L										1			1
		R											2		2
		RL不明				1									1
	前上顎骨	R											1		1
	前上顎骨 or歯骨	RL不明	1												1
	後側頭骨	RL不明	1		3	1	4	1	1	3		3	8		25
		―											1		1
	角骨	L	3										1		4
		R			2		1					1	5		9
	方骨	L											1		1
		R								1			1		2
	歯骨	L					1								1
		RL不明			1		2			2		1	4		10
	口蓋	RL不明	1									1	1		3
	口蓋？	RL不明			1							1	2		4
	舌顎	L					2								2
		R											2		2
		RL不明	4		8	15	18		3	12	1	4	24		89
	前鰓蓋骨	L			1					2			2		5
		R					2			2			2		6
	主鰓蓋骨	L	1				2			1					4
		R					1			2			1		4
		RL不明											4		4
	主鰓蓋骨？	RL不明			1								2		3
	鋤骨	―	2		2	1	3		2	8		3	9		30
	擬鎖骨	L								2					2
		R						1					1		2
	椎骨	―										2			2
	尾骨	―					3								3
	腎鰭血管間棘	―	6		7	3	9		5	12	1	12	26	1	82
	ウロコ？	RL不明											1		1
小計			173	1	156	151	417	6	67	334	4	165	745	1	2220
総計			174		730				67	338		910		1	2220

第 67 表　脊椎動物遺体集計表（４）

合計／点数			継世門北											総計
			Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層		
分類群	部位	左右	表土他	E トレンチ	御嶽 外側	石積2 外側	石積5 外側	D トレンチ	御嶽 上部	御嶽 下部	御嶽 イビ	階段1 下層	階段1 東側下層	
カエル類	大腿骨？	不明							1					1
ウミガメ類？	甲板？	ー	1											1
カモ科	中足骨	L	1				2		1	2		1	1	8
		R								1				1
	烏口骨	L				1			1					2
		R					1			1				2
カモ科ヒシクイ大	烏口骨	L					1							1
キジ科	中足骨	L			2	1				1				4
		R								2				2
ニワトリ	烏口骨	L	1		3	4	9		1	11			6	35
		R	3		3	3	14		1	13			1	38
	鎖骨	ー				1	4		2	6			1	14
	胸骨	ー			1		6	1	1	7				16
	頭蓋骨	ー			1									1
	肩甲骨	L				1	5		1	14		1	1	23
		R	3		2	5	6			8			1	25
	上腕骨	L	2		4	2	8		1	17		1	2	37
		R	2		1	10	9		1	22			3	48
	橈骨	R	2		2	2	5		3	9		1	1	25
	尺骨	L	4			1	8		2	13		3	3	34
		R	3		1	6	19		1	7		2	5	44
	中手骨	L	2			1	4		1	2				10
		R	3			1	5		1	4		1		15
	寛骨	L					2			5				7
	大腿骨	L	5		2	2	9		3	21	1		4	47
		R	5		1	5	10		1	15			5	42
	脛骨	L	3		2	6	3		4	7		1	3	29
		R			2	1	7			8		2		20
	中足骨	L	3		3	5	3		1	26		1	1	43
		R	2		5	7	12		2	13			4	45
鳥類	趾骨	ー	1		1		2			3				7
	指骨	ー								1				1
	鎖骨	ー				1	2							3
	頚椎	ー					6			4				10
	胸椎	ー	1			4	3			14				22
	上腕骨	L	1		1	1							1	4
		R				1			1	5				7
	橈骨	L	1		2		4		1	4			3	15
	橈骨？	不明					1							1
	寛骨	R	1			1	1			2			1	6
	脛骨	L	1		2	2	1			5				11
		R			1		1			1			1	4
		不明							1					1
	肋骨	L					1			2				3
		R			1					4				5
	手根中手骨？	不明			1									1
	不明	不明								3				3
ネズミ	大腿骨	L							1					1
		R					1							1
ネズミ科	下顎骨	L					3		1					4
		R	1				2							3
	上腕骨	R					1						1	2
	寛骨	L							1	1		1		3
		R								4				4
	大腿骨	L								8		1		9
		R					2			1				3
	脛骨	L					3			3				6
		R	1							8				9

第 68 表　脊椎動物遺体集計表（５）

合計／点数			継世門北											総計
			Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層		
分類群	部位	左右	表土他	E トレンチ	御嶽 外側	石積2 外側	石積5 外側	D トレンチ	御嶽 上部	御嶽 下部	御嶽 イビ	階段1 下層	階段1 東側下層	
イヌ	上顎(M1)	L											1	1
	上腕骨	R					2						1	3
	橈骨	L	1											1
	中手骨/中足骨	L					1							1
	中手骨	L					1							1
	大腿骨	R					1							1
	脛骨	L					1						1	2
		R?							1					1
	第3中足骨	L					1							1
	肋骨	R	1											1
イヌ？	大腿骨	不明								1				1
イヌ？哺乳類	大腿骨	L							1					1
ネコ	上顎骨	L								1				1
	下顎骨	L								1				1
		R					1		1					2
	環椎	ー							1					1
	軸椎	ー			1									1
	頸椎	ー	1		2									3
	胸椎	ー								2				2
	腰椎	ー								2			3	5
	仙椎	ー								1				1
	尾椎	ー								1				1
	上腕骨	R								1				1
	尺骨	R	1				1							2
	中手骨	L								1				1
		不明						1						1
	寛骨	L								1				1
	脛骨	L								1				1
	距骨	R				1								1
	腓骨	R								1				1
	中足骨	L						1		2				3
		R						2						2
	基節骨	L			1									1
		R					1							1
ネコ？	大腿骨	不明					1							1
	肋骨	不明	1											1
イノシシ/ブタ	橈骨＋尺骨	R							1					1
	上顎骨	L	1				1			1				3
		R					1		1					2
	上顎(M3)	L					1							1
		R					1							1
		不明				1				3				4
	上顎犬歯	R?	1											1
	下顎骨	L							1					1
		R	1				1							2
	下顎(C)	L								1				1
		R								3				3
	下顎(Ⅰ1)	R								1				1
		不明	2			1	2			1				6
	下顎(M2)	L				1								1
		不明	1			1	6			2			1	11
	下顎(dpz,dp3,dp4,M1)	R								1				1
	下顎犬歯	L								1				1
		不明	1							2				3
	軸椎	ー							1					1
	頚椎	ー	3		2	1	4		4					14
	胸椎	ー	2		2		2			2				8
	腰椎	ー					4		1	4				9
	仙骨	ー							1					1
	肩甲骨	L	3		1	3	2		1	2				12
		R	1			2	3							6
	上腕骨	L	4		1		3			3				11
		R					6		1	2				9
	橈骨	L	2				4		1	1				8
		R	1			2	5						1	9
		不明											1	1
	尺骨	L	1			1	1		1	1				5
		R	2				3			1				6
	中間手根骨	L				1								1
	第2中手骨	L											1	1

第 69 表　脊椎動物遺体集計表（６）

合計／点数			継世門北											総計
			Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層		
分類群	部位	左右	表土他	E トレンチ	御嶽 外側	石積2 外側	石積5 外側	D トレンチ	御嶽 上部	御嶽 下部	御嶽 イビ	階段1 下層	階段1 東側下層	
イノシシ/ブタ	第3中手骨	L	1				2		1	1		1		6
		R	2				3		1					6
	第4中手骨	L					6					2	1	9
		R				1	3		1	1			1	7
	中手/中足	不明											1	1
	寛骨	L	2											2
		R					2							2
	大腿骨	L	2			1	2			1				6
		R			1		2							3
		不明				1	1			1				3
	膝蓋骨	L				1	1					1	1	4
	脛骨	L				1	1							2
		R	1			1	2		1					5
		不明								1				1
	距骨	L	1			1	4			1			1	8
		R	1				4		2	1			1	9
		R？								1				1
		不明					1							1
	踵骨	L			2				1	1			2	6
		R	1		1		1		2					5
	橈側手根骨	L				1								1
	第4足根骨	R					1							1
	第2中足骨	R	1							1				2
		不明	1											1
	第3中足骨	L					3	1	1	3			3	11
		R	1			1	4			1				7
	第4中足骨	L					2			2		1		5
		R				1	1						2	4
	第5中足骨	L								1				1
	基節骨	L	1							2				3
		R			1	1	1		1	1			1	6
		不明			1		5					1	2	9
	中節骨	―				2							3	5
	未節骨	―				3	1			2				6
	肋骨	L	2		1	3	29		9	7		2	24	77
		R	7			5	14		4	4			10	44
		R？	1											1
		不明					3		1	2				6
	肋骨？	不明					2							2
イノシシ/ブタ？	胸椎	―							4	1				5
	腰椎	―					1							1
ヤギ	上顎（M1）	L					1							1
		R					1							1
	上顎（M1/M2）	R					1							1
	下顎骨（P4）	R								1				1
	下顎	L	1			1	1							3
		R					2		4					6
	下顎（M2）	L					1							1
		R					1		1					2
	肩甲骨	R？	2											2
	上腕骨	L								1				1
		R					1			1				2
	尺骨	R					1							1
	寛骨	R							1	1				2
	大腿骨	L					1							1
		R					1							1
		不明	3			1	4							8
	脛骨	L			1									1
	距骨	R					1							1

第 70 表　脊椎動物遺体集計表（７）

合計／点数			継世門北											総計
			Ⅰ層		Ⅱ層				Ⅲ層上	Ⅲ層下		Ⅳ層		
分類群	部位	左右	表土他	E トレンチ	御嶽 外側	石積2 外側	石積5 外側	D トレンチ	御嶽 上部	御嶽 下部	御嶽 イビ	階段1 下層	階段1 東側下層	
ウシ	上顎(M1/M2)	L					2						1	3
		R	2											2
		不明	2			1	1							4
	下顎(M1/M2)	L	1											1
	下顎切歯	L					1							1
	頚椎	ー				1								1
	肩甲骨	L					1						2	3
		R											2	2
	上腕骨	L								1				1
	尺骨	L											1	1
	中手骨	L								1				1
		R					1		1					2
		不明				1								1
	大腿骨	L								2				2
		不明								3				3
	脛骨	L								1			1	2
		不明								1				1
	踵骨	L					1							1
		不明							1					1
	中足骨	L					1		1	1				3
		不明					1		4	2				7
	基節骨	ー				2	2		3					7
	中節骨	ー	2				1		4					7
	末節骨	ー	1			2	2							5
	中間手根骨	L					1							1
		不明											1	1
ウマ	軸椎	ー					1							1
	上腕骨	R								1				1
		不明	1			1	1		1					4
	膝蓋骨	L					1							1
	肋骨	不明					5						5	10
	切歯？	不明	1											1
ウマ？	肋骨	不明								1				1
ウシ/ウマ	椎骨	ー					1							1
	肋骨	L					1							1
		R					1							1
ウシ/ウマ？	下顎臼歯	不明		1										1
クジラ	歯	ー					1							1
	椎骨	ー					8							8
クジラ類	歯	ー					1							1
イルカ類	歯	ー					1							1
哺乳類	尾椎	ー					1							1
	橈骨	L				1								1
大型哺乳類	不明	ー	1				2							3
ジュゴン？	不明	ー			1		4							5
不明	趾骨	ー	2		4	3	3		1	5	1			19
	指骨	ー				1	1			1				3
	胸椎	ー							1	1				2
	上腕骨	不明	1											1
	基節骨	ー					2							2
	肋骨	L					1		1					2
		R					1							1
	肋骨？	不明					1							1
	不明	不明	2	1		3	10		1	6		1		24
小計			131	2	67	132	429	6	108	423	2	25	125	1450
総計			133		634				108	425		150		1450

第４章　首里城跡継世門北地区出土の銭貨状金製品の科学調査について

沓名貴彦（国立科学博物館　理工学研究部）

はじめに

首里城跡の３地区（京の内、東のアザナ北、継世門北）から、円形薄板の金製品が出土している。これらは厭勝銭として使用されたと考えられるもので、現在まで県内で出土している同様の資料は、首里城跡以外に斎場御嶽の９点（重要文化財）及び園比屋武御嶽出土の３点と、事例は非常に限られる 1)。

本土の金貨を考えた場合、江戸時代の小判は金銀の合金が基本であり、表面の金品位を高めるため薬剤を用いて表面近傍の銀を除去する色付（いろつけ）と呼ばれる技術が用いられてきた。その技術は現時点では戦国時代の蛭藻金においても使用されていることが近年科学調査から判明している 2)。

そこで、同様な技術が近い時期の沖縄において使用されているか確認するため、金貨の品位や表面処理技術等について科学調査を行った。その結果について報告する。

調査資料

・首里城継世門北地区出土　銭貨状金製品　　12 点

調査方法

・蛍光エックス線分析による合金主成分の半定量分析

金貨は金銀銅の合金であるため、その含有比率について当館設置のエネルギー分散型蛍光エックス線分析装置 ORBIS PC（アメテック社製）を用いて、ノンスタンダードによるファンダメンタルパラメーター法（FP 法）を用いて半定量分析を行った。測定は各資料 4 点行い、その平均とした。分析条件は、以下の通りである。

管電圧：50kV　　感電流：250 μ A　　測定時間：300sec　　雰囲気：真空

・走査型電子顕微鏡による表面の詳細観察

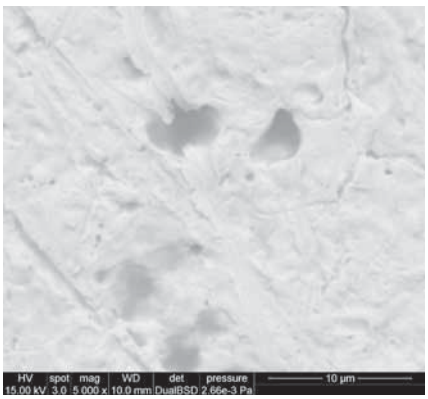
表面処理が行われている場合、走査型電子顕微鏡による微細観察により、その痕跡を確認することができる。そこで、山梨県立博物館設置の走査型電子顕微鏡 Quanta600（FEI 社製）を用いて、表面の微細観察を行った。その条件は下記のとおりである。

加速電圧：15kV　　雰囲気：真空

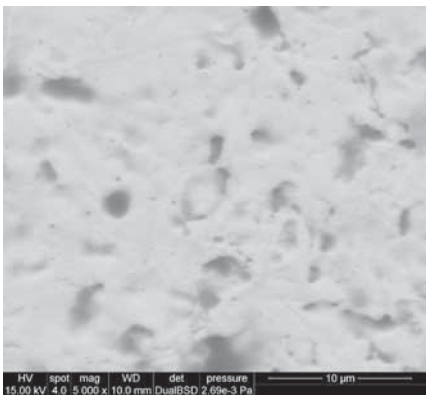
調査結果及び考察

表 1 に半定量分析結果を示す。12 点は、金品位が低い資料で約 70wt%、高いもので 90wt％以上とばらつきがあった。その他銅（Cu）は 1wt％から 4wt% 程度、銀（Ag）は 10wt% 以下から約 30wt％近いまで幅がみられた。以上から継世門北地区出土の 12 点は、幾つかは同じ薄金板から切り抜き加工したものと考えられるが、全て同一材料からの制作品ではないと考えられる。

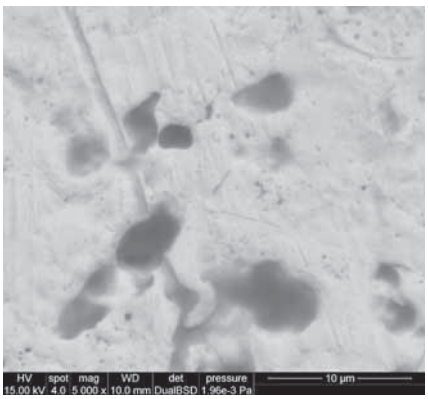
金製品の成分を金－銀合金で考えた場合、金の濃度が 80wt% 以下になると金色から薄金色となり、70wt% 程度になると金色が薄くなりレモン色程度となる。（銅は 5wt% 以下のため色調に大きな影響はない。）しかし、12 点を目視で確認する限り大きな色調の差はみられないことから、表面処理が行われてい



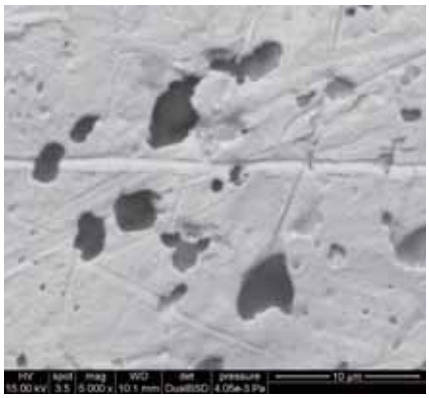
(a) 326 ＜旧 No275 ＞



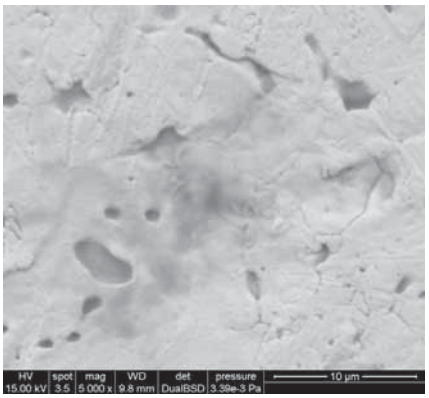
(b) 327 ＜旧 No276 ＞



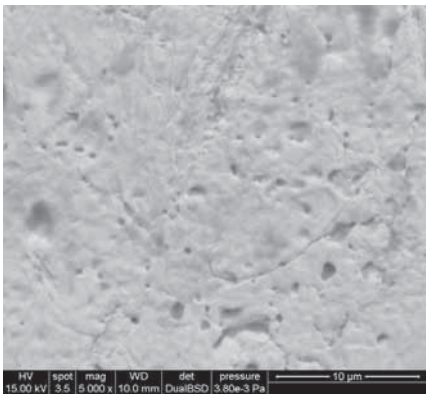
(c) 328 ＜旧 No277 ＞



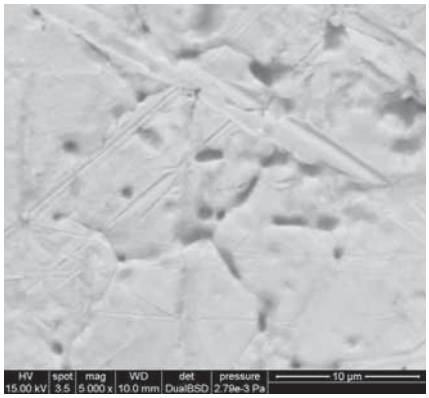
(d) 323 ＜旧 No278 ＞



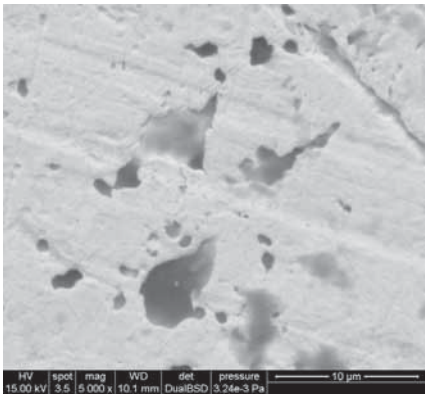
(e) 317 ＜旧 No279 ＞



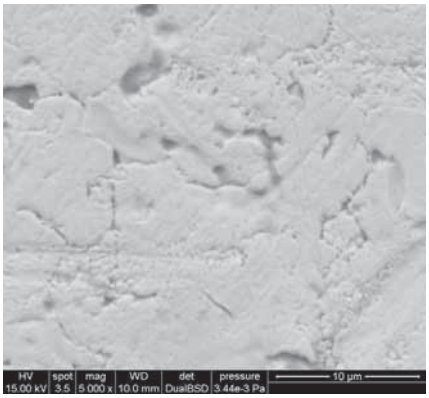
(f) 318 ＜旧 No280 ＞



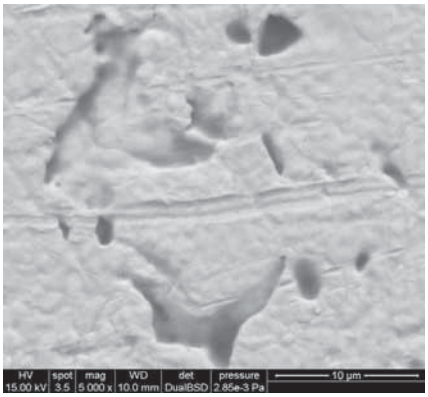
(g) 319 ＜旧 No281 ＞



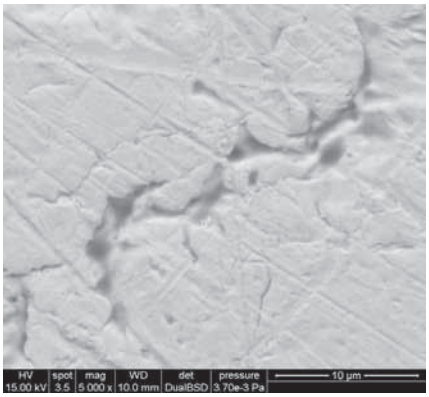
(h) 324 ＜旧 No282 ＞



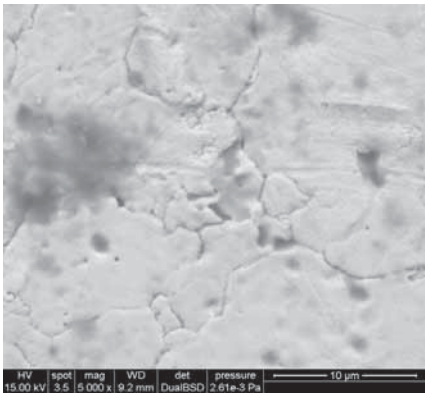
(i) 320 ＜旧 No283 ＞



(j) 321 ＜旧 No284 ＞



(k) 325 ＜旧 No285 ＞



(l) 322 ＜旧 No286 ＞

写真９　継世門北地区出土金貨表面の電子顕微鏡画像

る可能性が考えられたため、電子顕微鏡を用いて表面の微細観察を行った。その結果を、写真９に示す。

各資料表面を 5000 倍で観察した結果、表面に何らかの処理によるとみられる穴や溝状の痕跡らしきものが全ての資料で確認された。写真 10 には、表面処理の比較事例として山梨県福寺遺跡出土甲州金（山梨県立博物館所蔵）中の蛭藻金の表面画像（5000 倍）を示す。

本土で行われた色付と呼ばれる表面処理は、色付薬と呼ばれる薬剤を金銀合金の表面に塗った後に炭を用いて加熱することで、薬剤と表面近傍の金銀合金中の銀を反応させて銀化合物とすることで除去する技術であり、そうすることで表面近傍の金濃度が相対的に高まるため、色調が良くなる技術である。炭での加熱後は水洗で薬剤を除去し、合金表面は反応により銀が除去されることで微細な穴等が生じるため光沢が失われているので、金の光沢を生じさせるためにヘラなどを用いて研磨を行う。

第 71 表　首里城跡継世門北地区出土金貨の蛍光エックス線分析による半定量分析結果

	掲載番号	旧番号	Au（wt%）	Ag（wt%）	Cu（wt%）
継世門北	326	275	86.0	11.8	2.2
	327	276	86.1	11.9	2.0
	328	277	85.8	12.5	1.7
	323	278	91.4	7.1	1.5
	317	279	78.3	19.1	2.6
	318	280	70.6	28.2	1.1
	319	281	79.3	19.6	1.1
	324	282	92.0	6.7	1.4
	320	283	78.2	19.1	2.7
	321	284	82.9	16.0	1.1
	325	285	81.7	16.5	1.7
	322	286	76.7	19.0	4.3

この技術を用いると前述のように表面には微細な穴が生じることから、電子顕微鏡の微細観察により 1 μ m 弱から数 μ m 程度の穴が磨き残しの部分で確認できる。写真 10 は、色付によって蛭藻金の表面に生じた穴である。

今回の銭貨状金製品 12 点について表面の微細観察では、写真９（d）（h）のように同程度のサイズの穴がみられるもの、（i）（l）の 1 μ m 以下の非常に微小な穴や溝状痕跡といった、本土での色付の痕跡とは異なる様相のものもある。本件については、現時点では充分検討可能な状況ではないため、今後も他事例などの調査事例を増やし検討を重ねたいと考える。

おわりに

今回、首里城跡の継世門北地区から出土した銭貨状金製品 12 点についてその金属成分や表面処理について調査を行った。その結果、金品位の高い金貨から銀が若干多く含まれるものなどばらつきが見られることから同一の金板材料からの制作品ではないことが考えられた。

また、表面処理について微細観察を行った結果、処理跡らしきものはみられるもののその事例がこれまでと異なる事から、さらなる検討が必要と考えられた。

今後も同様な事例を調査することで、沖縄の金属生産技術が明らかとなると考えられる。

最後に、本調査の機会を下さりました沖縄県埋蔵文化財センター、及び電子顕微鏡の使用を許可下さりました山梨県立博物館に感謝致します。

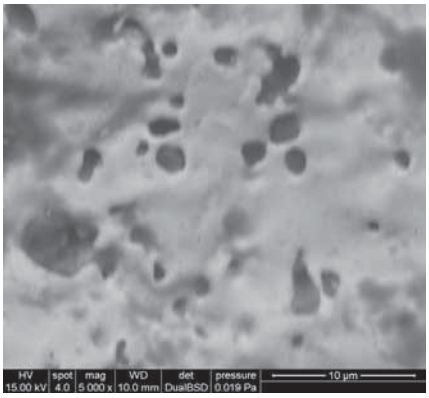


写真 10　福寺遺跡出土蛭藻金表面の電子顕微鏡画像

参考文献

1) 沖縄県教育委員会（2008）「沖縄の金工品関係資料調査報告書」
2) 山梨県立博物館（2014）「福寺遺跡　埋蔵金貨及び渡来銭貨発見地点の発掘調査報告書」

第５章　総括

今回の継世門北地区の調査では、継世門北側ピット群、美福門基壇・階段、御嶽が確認された。これまで、遺構と遺物に分けて説明してきたが、それらを総括してまとめることとする。

１．継世門北側ピット群

ピット群は基盤面であるⅥ層（マージ）直上より検出されているが、ピット内埋土のⅤ層からの遺物はごく少量のため時期の確定は難しい。しかしながら、美福門前階段の正面に位置し、継世門（1546 年創建）よりレベル的に下位にあることを考慮すると、それより以前の遺構である可能性があろう。

２．美福門基壇・階段

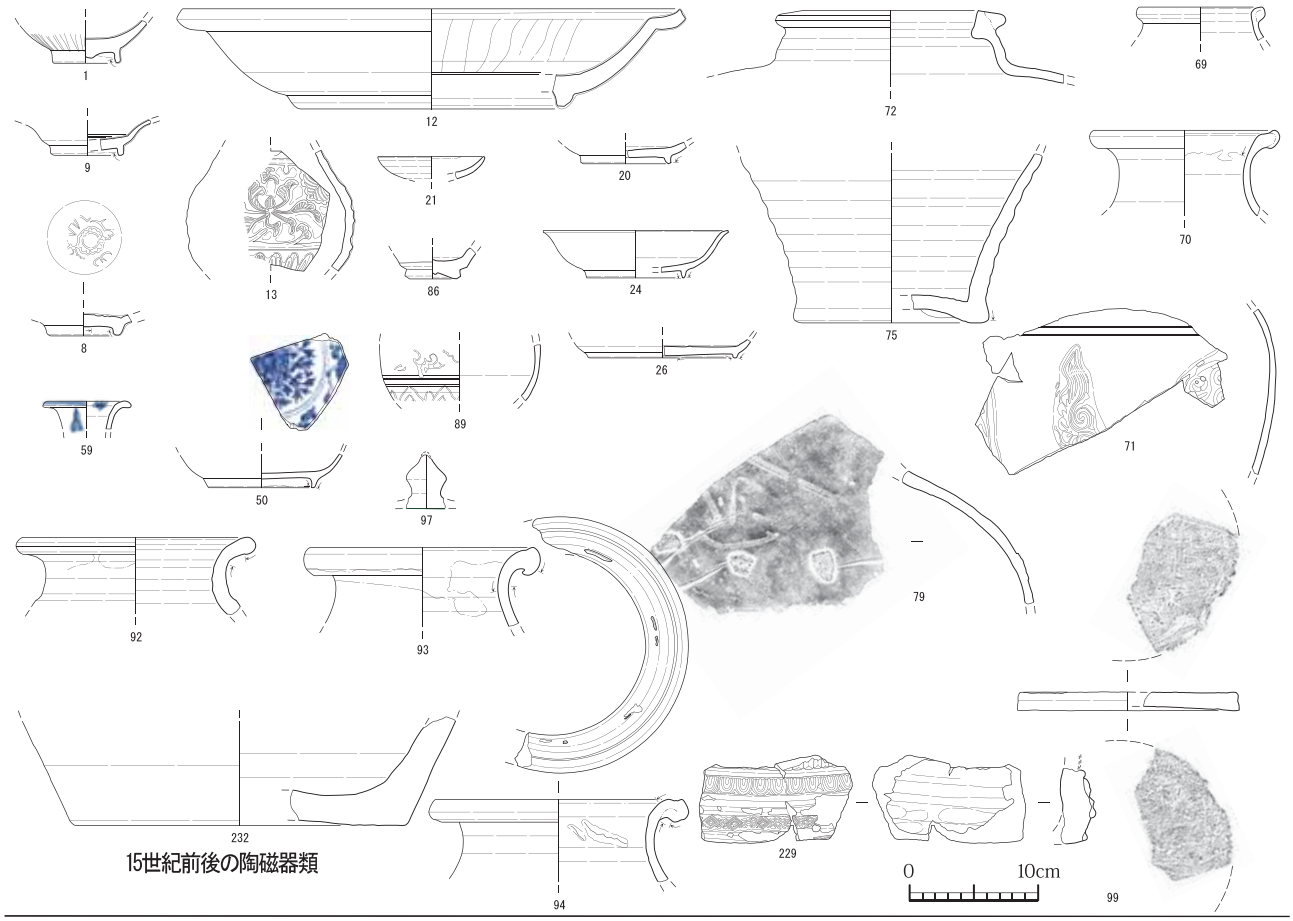
尚巴志王代（1422 ～ 39 年）に創建されたと伝わる美福門の基壇と、そこから継世門へ至る南東方向に延びる階段を検出した。基壇は櫓を乗せる城壁の東側に当る石列２、階段が取り付く平場１・石積み８、かつて獅子像が置かれていたとされる台座の一部と思われる石列３が確認されている。またこれらの下層からは、美福門城壁を構築する以前のもので、土留めの可能性もある石積み９も検出された。階段は磴道とも呼ばれるもので、幅が広く緩やかに傾斜する踏面と、高い蹴上という独特の特徴を持つ。段数は基壇から数えて 12 段確認されたが、その南側は戦後の造成により破壊されている。階段の東壁は７段目までは平場２・３に隣接しているが、それから東へ 15°振り、８段目より南側に石積み３が接するといった複雑な構造を呈しているが、東側にある御嶽への導線などが関連しているものと思われる。

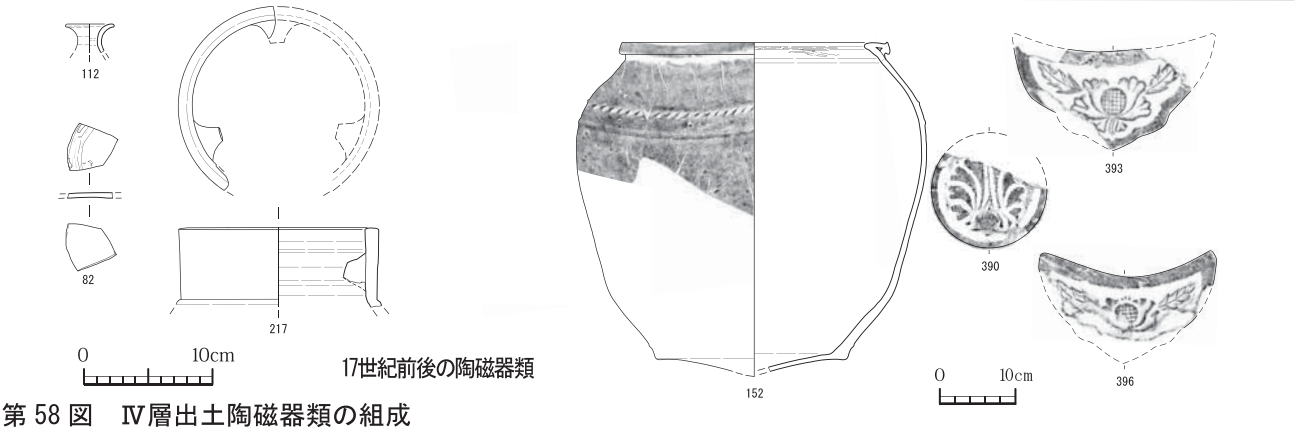
この基壇・階段の時期であるが、下層であるⅣ層より 15 世紀前後の陶磁器類が主体であるが、17 世紀前後のものも一定量みられる。つまり、今回確認された遺構は、15 ～ 17 世紀代の幅で考えることになり、15 世紀代に構築されたが 17 世紀代に改修されたなどとも考えうるが確定できない（第 58 図）。

３．御嶽

美福門の東側に隣接しており、独立した巨石の周りに石積みを巡らしていること、その隙間に銭貨等が出土していることから、この巨石が神域であるイビだったと考えられる。その位置や第２章で述べた絵図等から、かつて継世門の北側に存在した「赤田御門の御嶽」である可能性が高い。このイビの西北部の隙間から、銭貨状金製品 12 枚と、洪武通寶９枚、無文銭２枚が一部重ねられた状態で合計 23 枚出土した。銭貨状金製品は折り目がみられており、これは南城市（旧知念村）斎場御嶽のものと同一の様相で、何らかの祭祀行為に伴うものと推定される（知念村 1999）。また、御嶽周辺では、焼塩壺（237・238）、あまり出土例がない土器腰折碗（240）・茶入形の小壺（241）などがみられる一方、現在の御嶽で使用される香炉が特に目立つ状況はない。御嶽祭祀が具体的にどのように行われたかについては、今後の多角的な調査研究が求められるが、首里城内における御嶽の発掘調査が実施できたことは重要であろう。

イビを囲む石積みにはその切り合いから時期差がみられ、石積みの周囲を円形に取り巻く石積み６やそれに取り付く石積み２・５は美福門階段よりは確実に古いが、前述のようにその時期を確定できていない。ただ、御嶽としての利用は、この周辺で青磁Ⅴ類が多く出土しており、15 世紀前半代に遡る可能性もある。一方、これらより新しい平面観が「コ」の字形を呈する石積み４は、覆土であるⅢ層上部は 17 ～ 18 世紀代だが、18 世紀初頭作成「首里古地図」（第５図）には描かれておらず、明治初期作成「沖縄県首里旧城図」（第６図）に見られることから、18 世紀後半～ 19 世紀前半の間に構築された可能性も考えられよう。





第 58 図　Ⅳ層出土陶磁器類の組成

引用文献

新垣　力　2003「沖縄出土の清朝陶磁」『紀要沖縄埋文研究』第 1 号　沖縄県埋蔵文化財センター

新垣　力　2005「沖縄における 14 世紀～ 16 世紀の中国白磁の再整理」『紀要沖縄埋文研究』第 3 号　前同

新垣　力　2011「無釉陶器の成立と展開」『琉球陶器の成立と展開』沖縄県立博物館・美術館、那覇市立壺屋焼物博物館

安里進　2013「首里王府の重要施設絵図調整事業」『首里城研究』№ 15　首里城公園友の会

石井龍太　2006「琉球近世瓦の分類と編年～琉球近世瓦の研究その 3 ～」『南島考古』第 25 号　沖縄考古学会

石井龍太 2009「湧田古窯の再評価―湧田古窯跡の瓦質土器製植木鉢－」『南島考古』第 28 号　前同

池谷望子・内田晶子・高瀬恭子　2005『朝鮮王朝実録　琉球史料集成【訳注篇】』榕樹書林

上原　静　2011「琉球の塼と煉瓦」『南島考古』第 30 号

上原静・仲宗根求・小原裕也・伊波勝美・上門大悟　2011「喜名古窯跡（瓦編）」『読谷村歴史民俗資料館紀要』第 35 号

上原 静・宮城 綾乃 2007 「南島考古資料録（2）」『廣友会誌』第 3 号

江浦洋 2003「二片の衛生陶器」『水野正好先生古稀記念論文集　続文化財学論集』文化財学論集刊行会

大分県教育庁埋蔵文化財センター　2016「第 9 章　町屋と人々のくらし」『豊後府内を掘る～明らかになった戦国時代の都市～』

沖縄県立埋蔵文化財センター　2013『首里城跡－淑順門西地区・奉神門埋甕地区発掘調査報告書－』
沖縄県教育庁文化課　1985『金石文－歴史資料調査報告書Ⅴ－』
沖縄県教育庁文化課　2001『世界遺産　琉球王国のグスク及び関連遺産群』「琉球王国のグスク及び関連遺産群」世界遺産登録記念事業実行委員会
沖縄県立埋蔵文化財センター　2004『首里城跡－東のアザナ地区発掘調査報告書－』
沖縄県立埋蔵文化財センター　2005a『首里城跡－書院・鎖之間地区発掘調査報告書－』
沖縄県立埋蔵文化財センター　2005b『首里城跡－二階殿地区発掘調査報告書－』
沖縄タイムス社編　1983『沖縄大百科事典』沖縄タイムス社
小野正敏　1982「15、16 世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』第２号　日本貿易陶磁研究会
九州近世陶磁学会　2000『九州陶磁の編年　九州近世陶磁学会 10 周年記念』
球陽研究会（編）　1974『沖縄文化史料集成５　球陽　読み下し編』角川書店
久手堅憲夫　2000『南島文化叢書　22　首里の地名－その由来と縁起－』第一書房
宮内庁三の丸尚蔵館　2001『明治美術再見Ⅳ　記録の芸術　山本芳翠とその時代　三の丸尚蔵館企画展図録№ 23』財団法人菊葉文化協会
角田清美　2014「沖縄島・首里城と周辺地域の古井戸」『専修人文論集』第 94 号　専修大学学会
柴田圭子　2011「今帰仁城跡出土明代青化瓷の研究（１）」『今帰仁城跡発掘調査報告書Ⅴ』今帰仁村文化財調査報告書第 29 集
首里城研究グループ（編）　1997『首里城入門　その建築と歴史』ひるぎ社
首里城復元期成会・那覇出版編集部（編）　1987『写真集　首里城』那覇出版社
瀬戸哲也　2015 a「14・15 世紀の沖縄出土の中国産青磁について」『貿易陶磁研究』第 35 号　日本貿易陶磁研究会
瀬戸哲也　2015 b「14 ～ 16 世紀の沖縄出土龍泉窯系青磁における生産地の模索」『中近世陶磁器の考古学』第１巻　雄山閣
瀬戸哲也・仁王浩司・玉城靖・宮城弘樹・安座間充・松原哲志　2007「沖縄における貿易陶磁研究－ 14 ～ 16 世紀を中心に－」『紀要沖縄埋文研究』５　沖縄県埋蔵文化財センター
太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』
平良啓　1994「「沖縄県首里旧城図」について」『首里城研究』№ 1　首里城公園友の会
高階絵里加　1998「山本芳翠の沖縄訪問に関する試論」『美術史』第 144 冊　美術史學會
田中克子　2003「博多遺跡群出土陶磁に見る福建古陶磁（その３）宋・元代白磁をめぐる問題」『博多研究会誌』第 11 号
高良倉吉　1996「第四節　琉球王国成立期の首里城に関する覚書」『前近代における南西諸島と九州－その関係史的研究』多賀出版
知念村教育委員会 1999『斎場御嶽－整備事業報告書（発掘調査・資料編）－』知念村文化財調査報告書第８集
陳　建中　1999『徳化民窯青花』文物出版社
福建博物館　1997「漳州窯－福建漳州地区明清窯址発掘調査報告之一」福建人民社
古川博恭・高里良政　1986「三、地形・地質」『那覇市歴史地図－文化財悉皆調査報告書－』那覇市教育委員会
法政大学沖縄文化研究所　2014『沖縄研究資料　29　琉球沖縄本島取調書』
外間守善（校注）　2015『ワイド版岩波文庫 390　おもろさうし（上）』岩波書店
外間守善・波照間永吉　1997『定本　琉球国由来記』角川書店
真栄平房敬　1997『首里城物語』ひるぎ社
真貝理香・松井章 2014「中世大友府内町遺跡出土の骨角製品－両歯櫛の系譜について－」『日本動物考古学会第２回大会プログラム・抄録集』
森　達也　2009「15 世紀後半～ 17 世紀の中国貿易陶瓷－沈船と窯址発見の新資料を中心に－」『関西近世考古学研究』17　関西近世考古学研究会
森　毅　1995「十六・十七世紀における陶磁器の様相とその流通－大坂の資料を中心に－」『ヒストリア』第 149 号
森　毅　2005「中世後期輸入陶磁器の分類と変化」『中世窯業の諸様～生産技術の展開と編年～』資料集第３分冊
森田　勉　1982「14 ～ 16 世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』第２号　日本貿易陶磁研究会
琉球王府御近習方　1958『女官御双紙（中巻）』琉球史料研究会
琉球国絵図史料集編集委員会・沖縄県教育庁文化課　1994『琉球国絵図史料集　第三集－天保国絵図・首里古地図及び関連史料－』沖縄県教育委員会
琉球大学二十周年記念誌編集委員会　1970『琉球大学二十周年記念誌』琉球大学

１．継世門北地区（上空西より）

２．継世門北地区（上空より）

図版１　遺構（１）

１．美福門基壇・階段、御嶽（上空より）

図版２　遺構（２）

１．Ｅトレンチピット群検出状況（南より）

２．Ｅトレンチピット群完掘状況（南より）

３．ＳＰ 18・19 断面（東より）

４．ＳＰ 12・13 断面（南より）

５．ＳＰ９断面（南より）

６．ＳＰ７断面（南より）

図版３　遺構（３）

１．美福門階段全景（南より）
図版４　遺構（４）

１．美福門基壇（西より）

２．石積み１（西より）

３．石積み８（南より）

４．美福門基壇（東より）

図版５　遺構（５）

１．美福門階段南側（東より）

２．石積み３（東より）

３．階段１東側トレンチ遺物出土状況（東より）

４．階段１東側トレンチ下層貝等出土状況（東より）

５．美福門階段と石積み２の切り合い（東より）

図版６　遺構（６）

１．御嶽（石積み１・４・６・イビ）検出状況（南より）

２．御嶽（石積み１・４・６・イビ）検出状況（北より）

図版７　遺構（７）

１．御嶽イビ検出状況（西より）

２．銭貨状金製品 326・327 出土状況

３．銭貨状金製品 328 出土状況

４．銭貨状金製品 325 ほか出土状況

５．銭貨状金製品 320・321 出土状況

図版８　遺構（８）

１．御嶽周辺（北より）

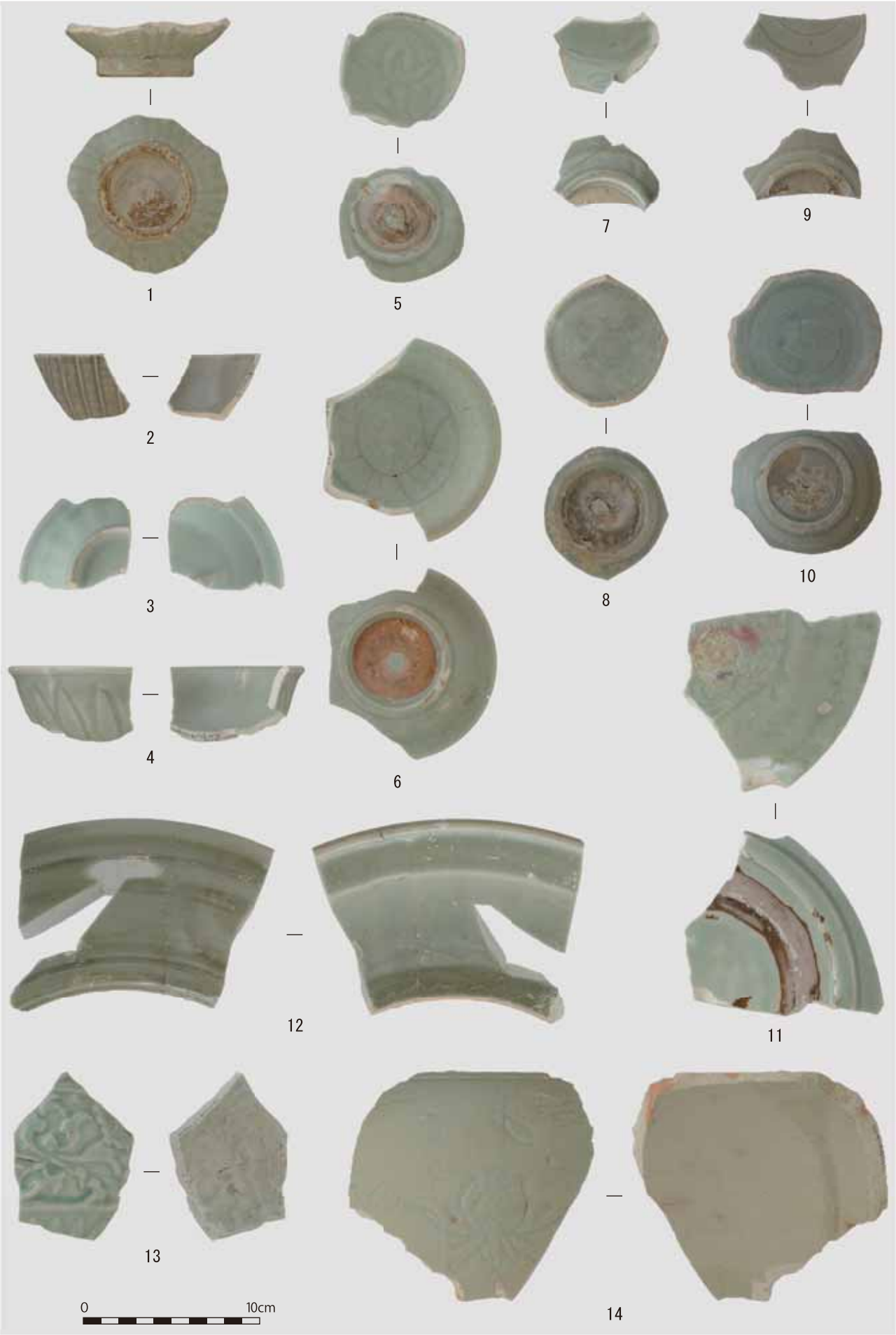
２．石積み１御嶽側（東より）

３．石積み２前面掘削時貝類集中状況

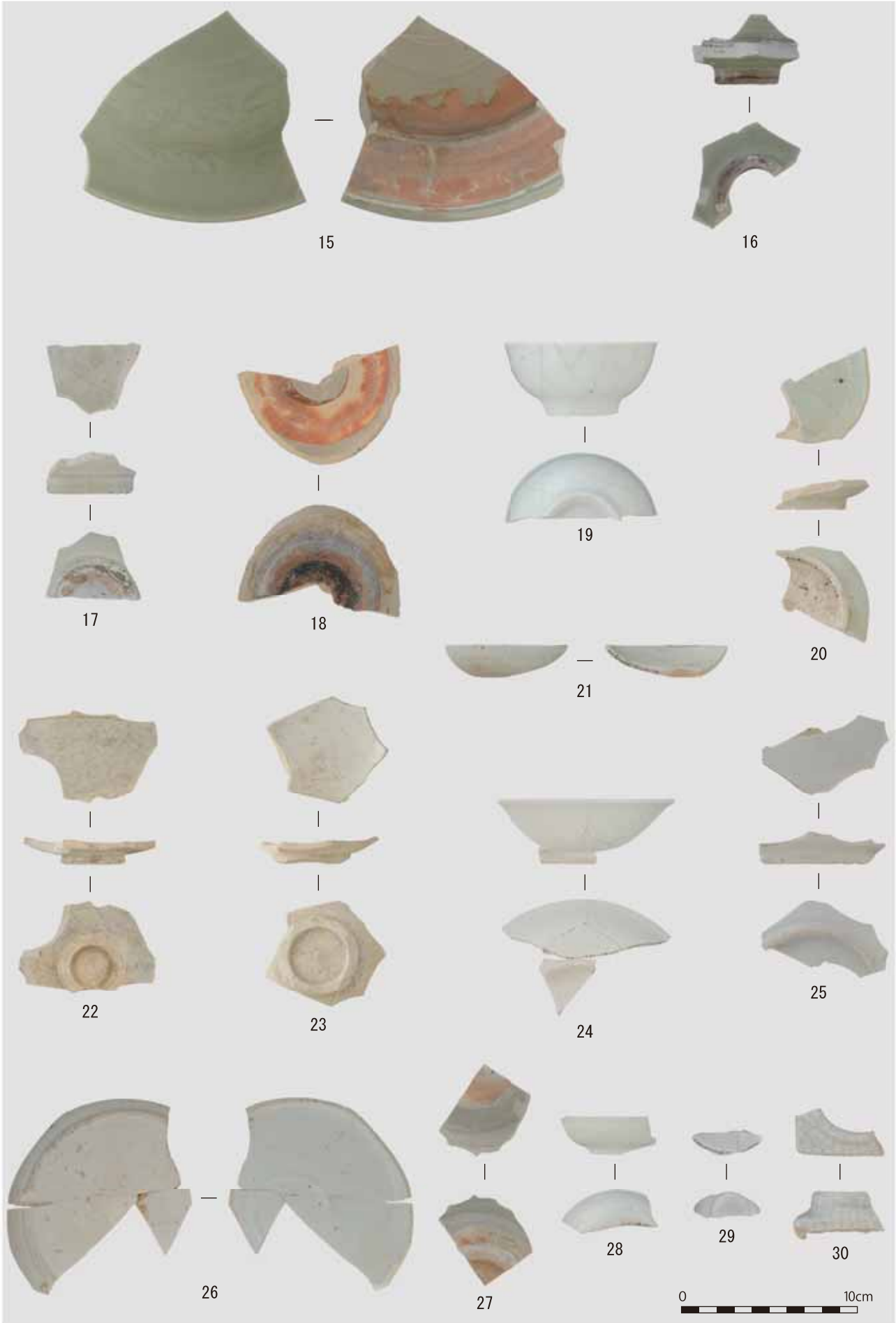
４．石積み６周辺遺物出土状況

５．石積み６前面漆膜出土状況

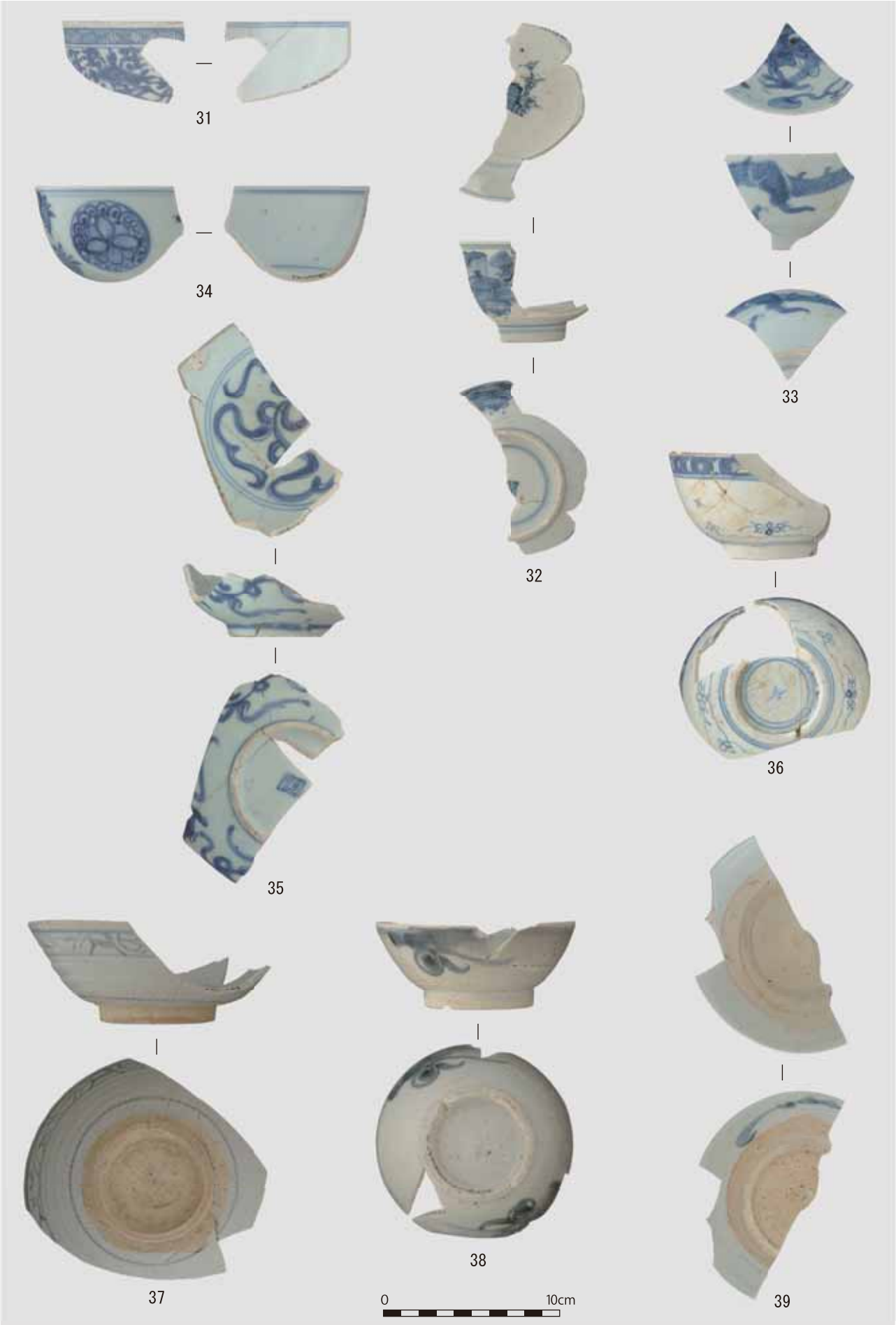
図版９　遺構（９）



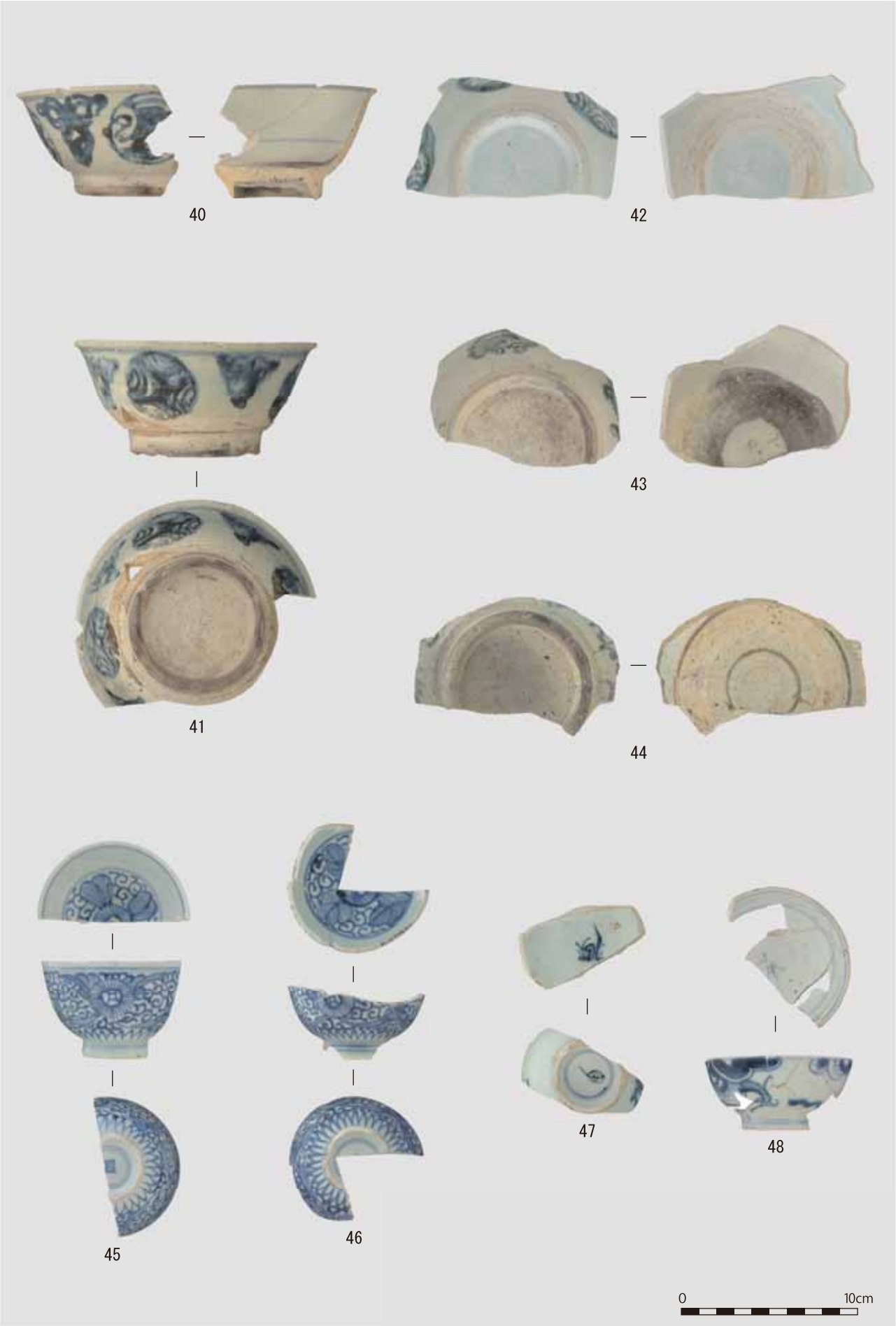
図版 10　中国産青磁（１）



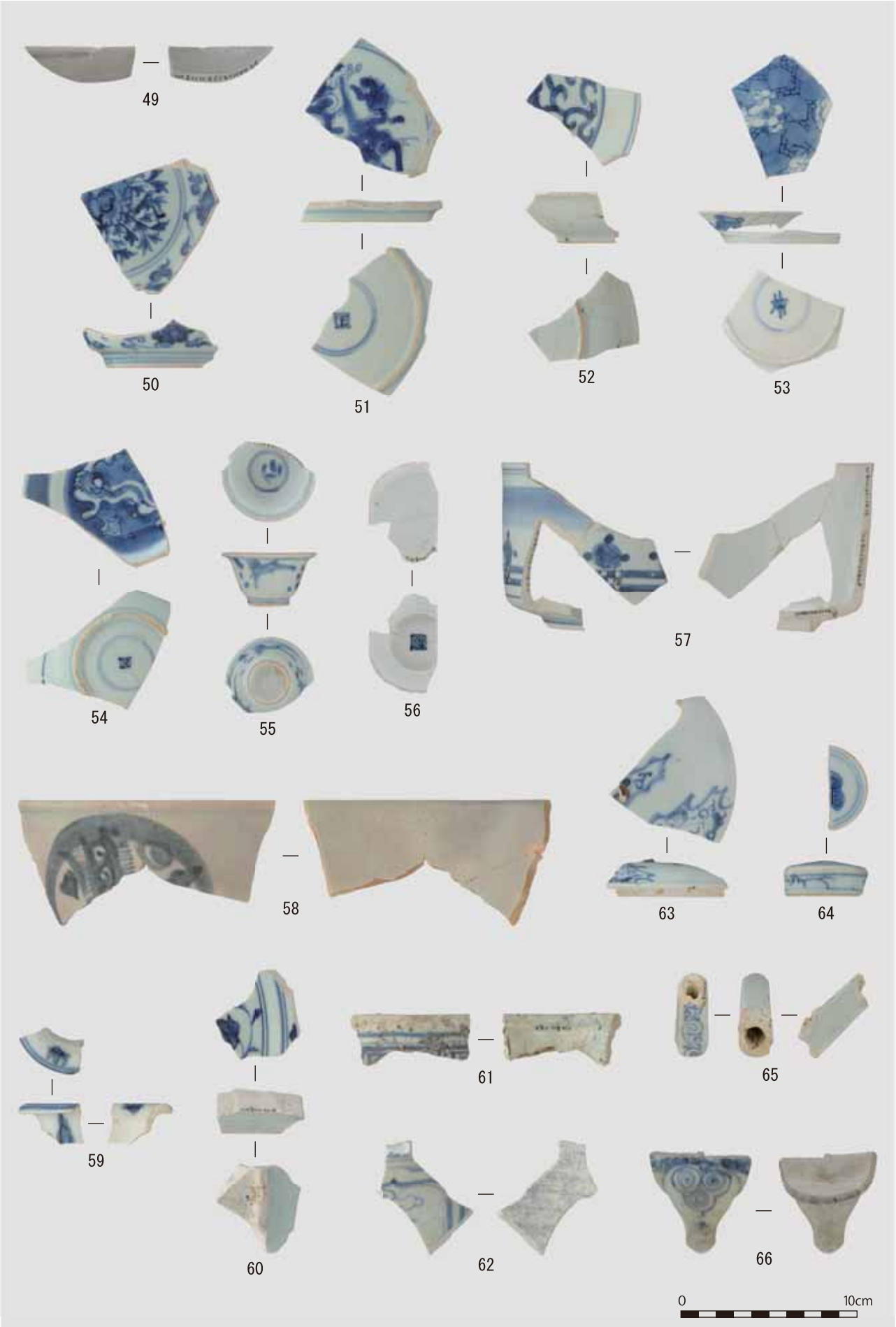
図版 11　中国産青磁（２）・中国産白磁



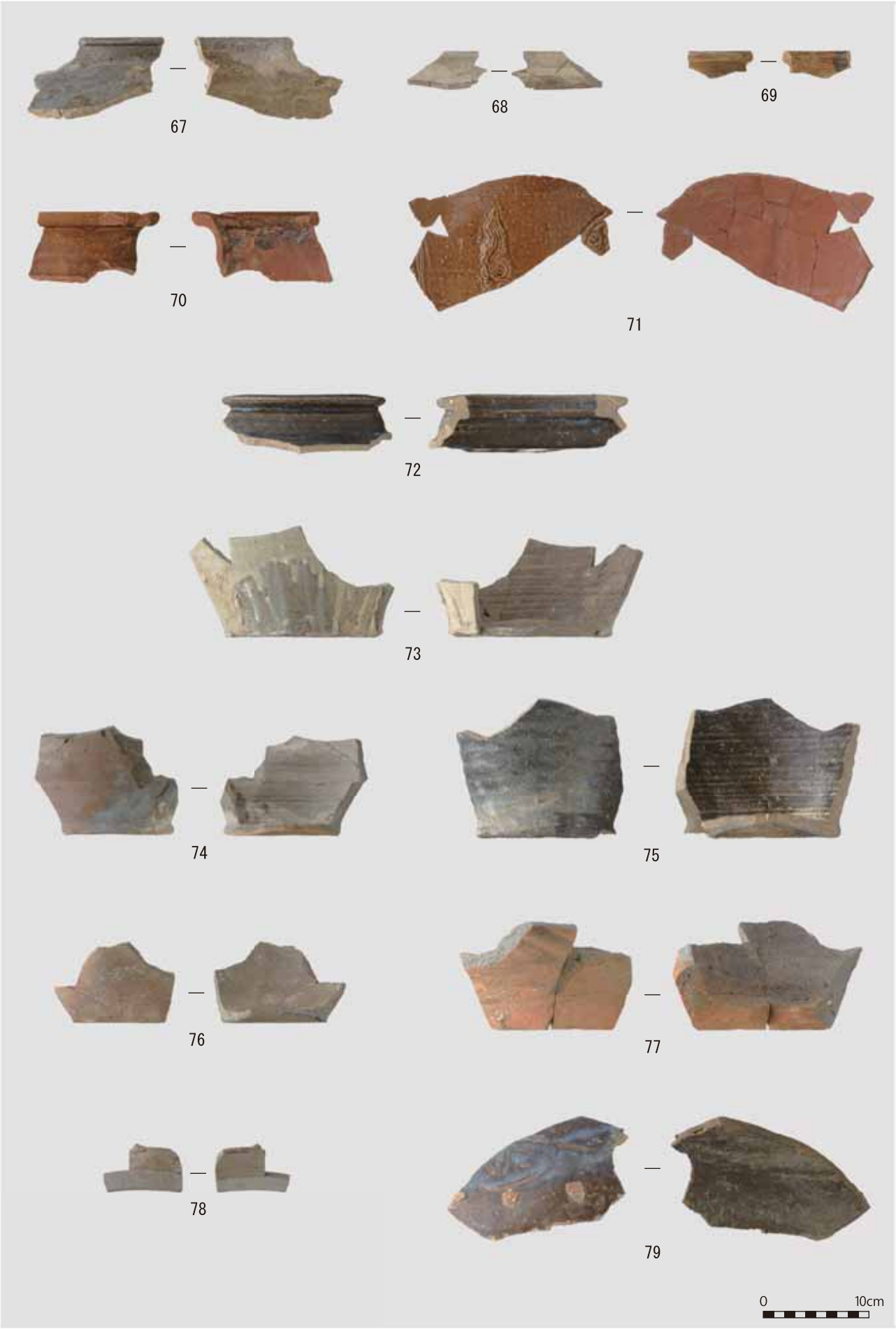
図版 12　中国産青花（1）



図版 13　中国産青花（２）

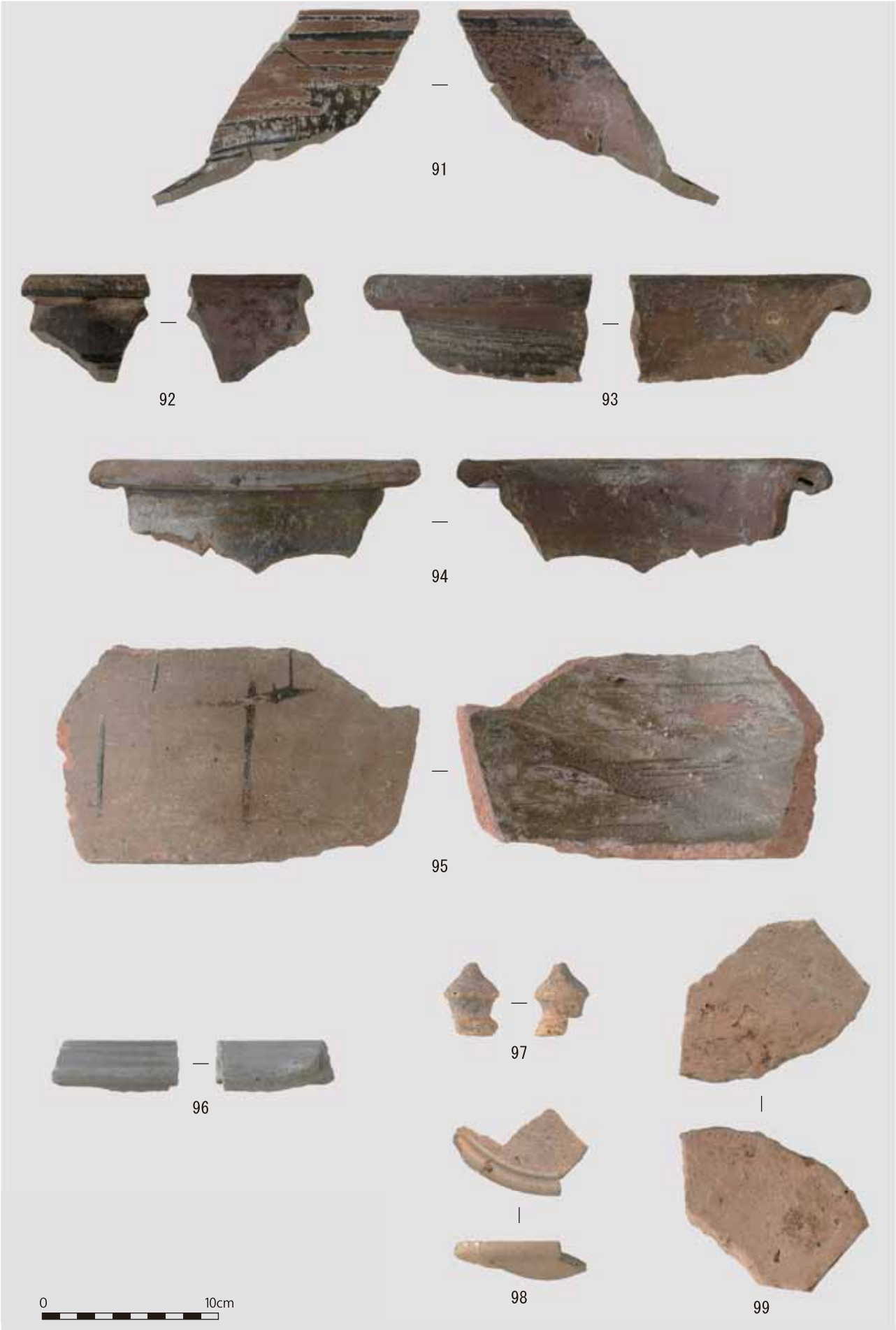


図版 14　中国産青花（3）

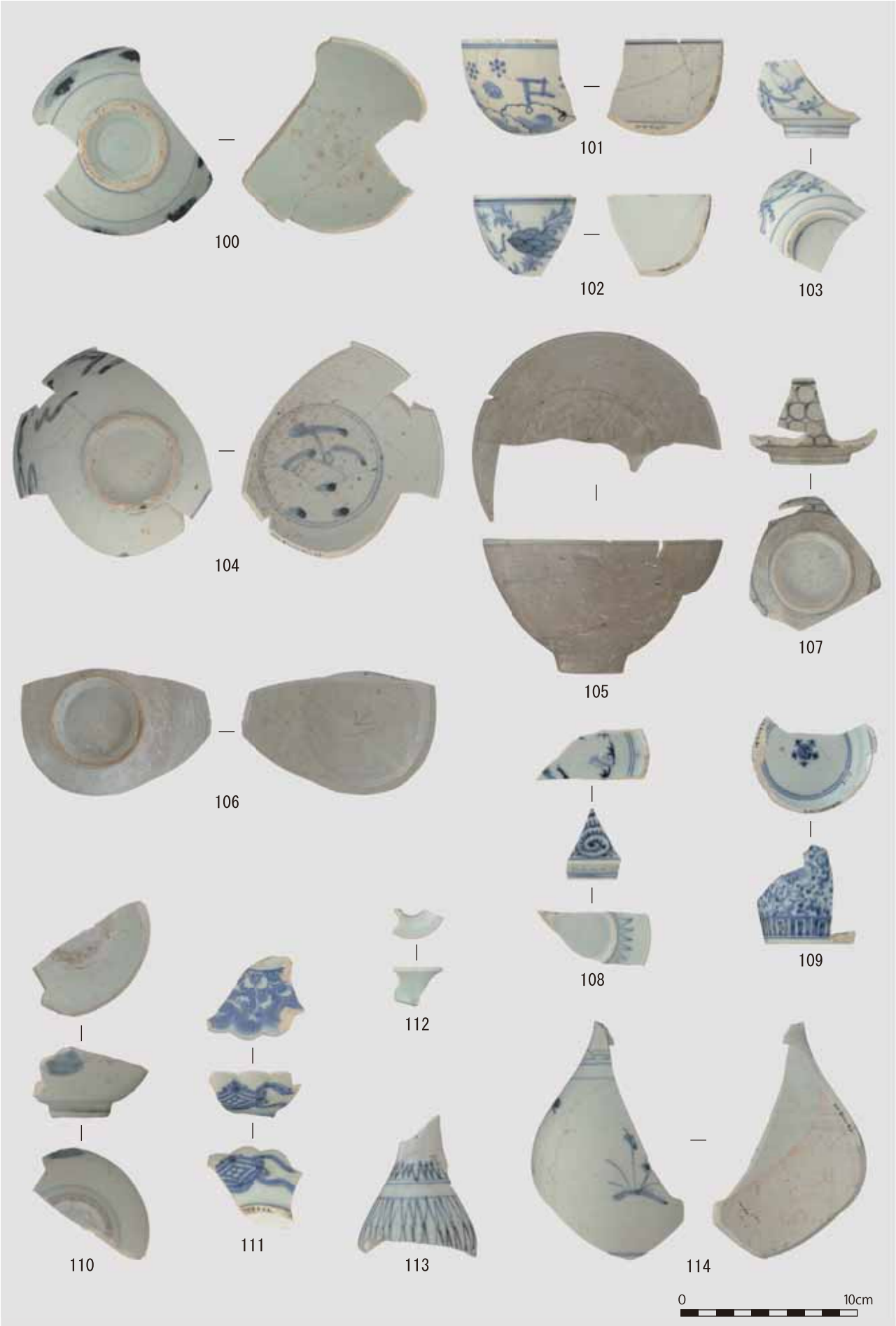


図版 15　中国産褐釉陶器（１）

図版 16　中国産褐釉陶器（２）・その他の陶磁器



図版 17　タイ産陶磁器・産地不明陶器



図版 18　本土産陶磁器（１）

図版 19　本土産陶磁器（２）

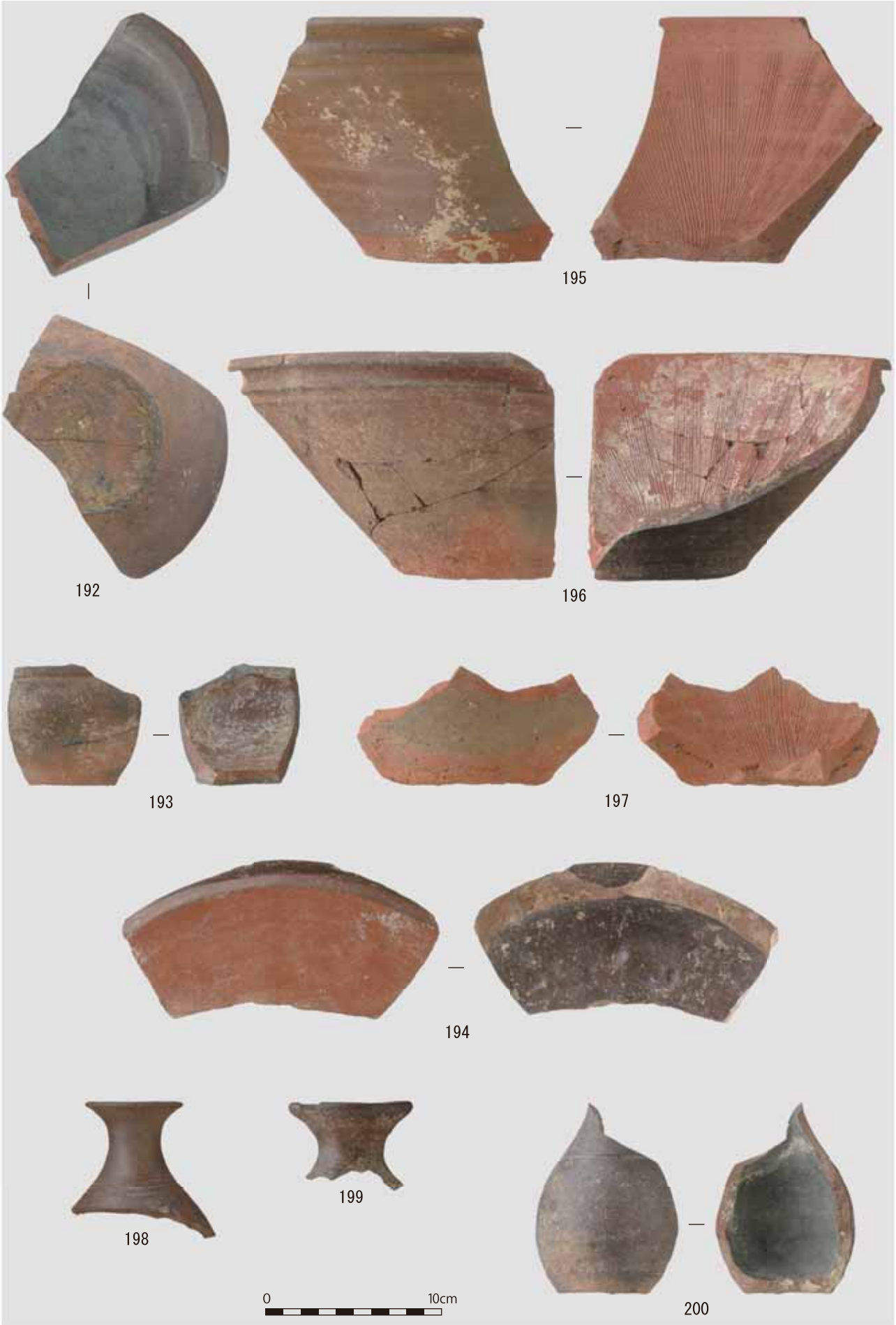
図版 20　本土産陶磁器（３）

図版 21　本土産陶磁器（４）

図版 22　沖縄産施釉陶器（１）

図版 23　沖縄産施釉陶器（２）・沖縄産無釉陶器（１）

図版 24　沖縄産無釉陶器（２）

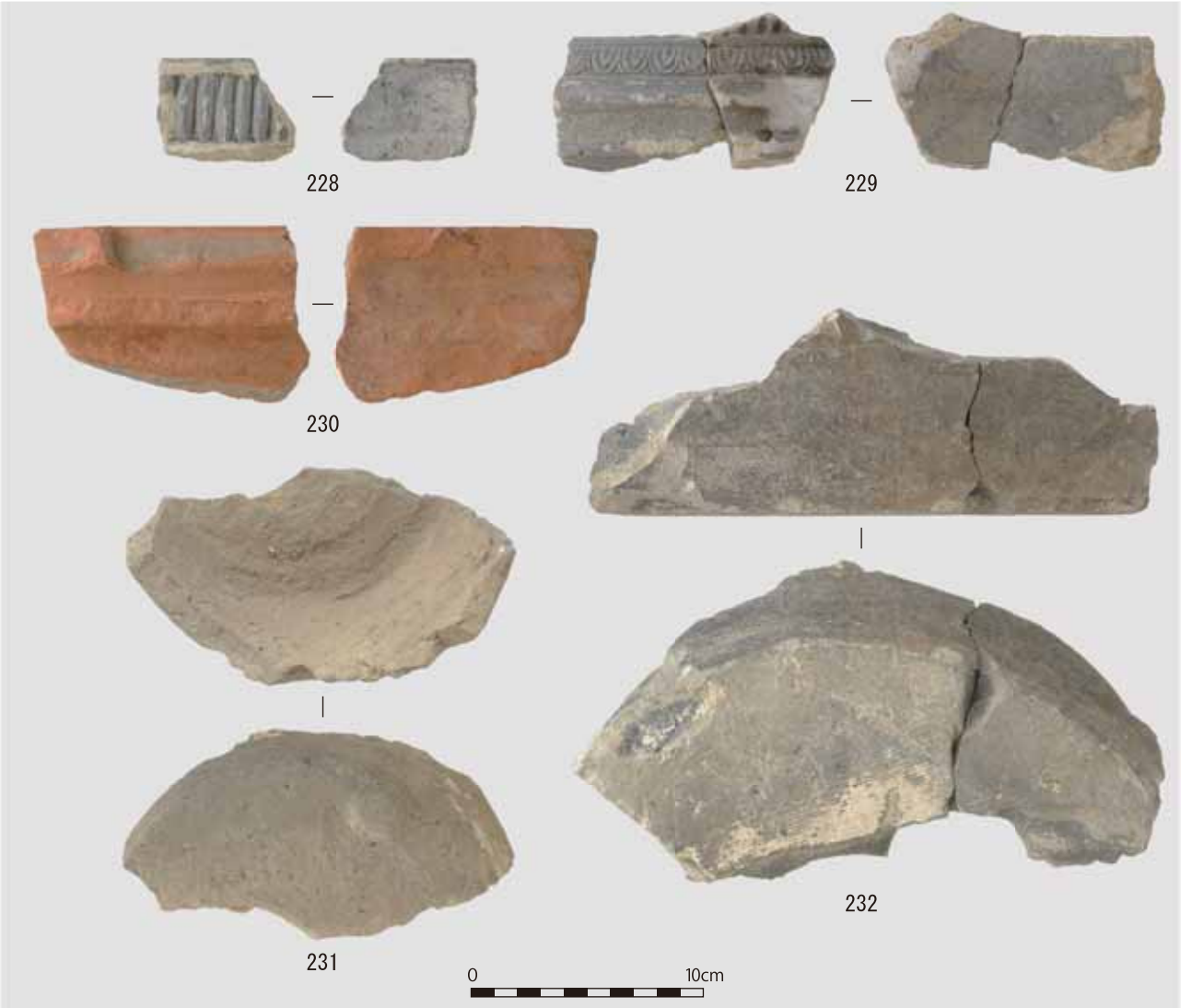


図版 25　沖縄産無釉陶器（３）

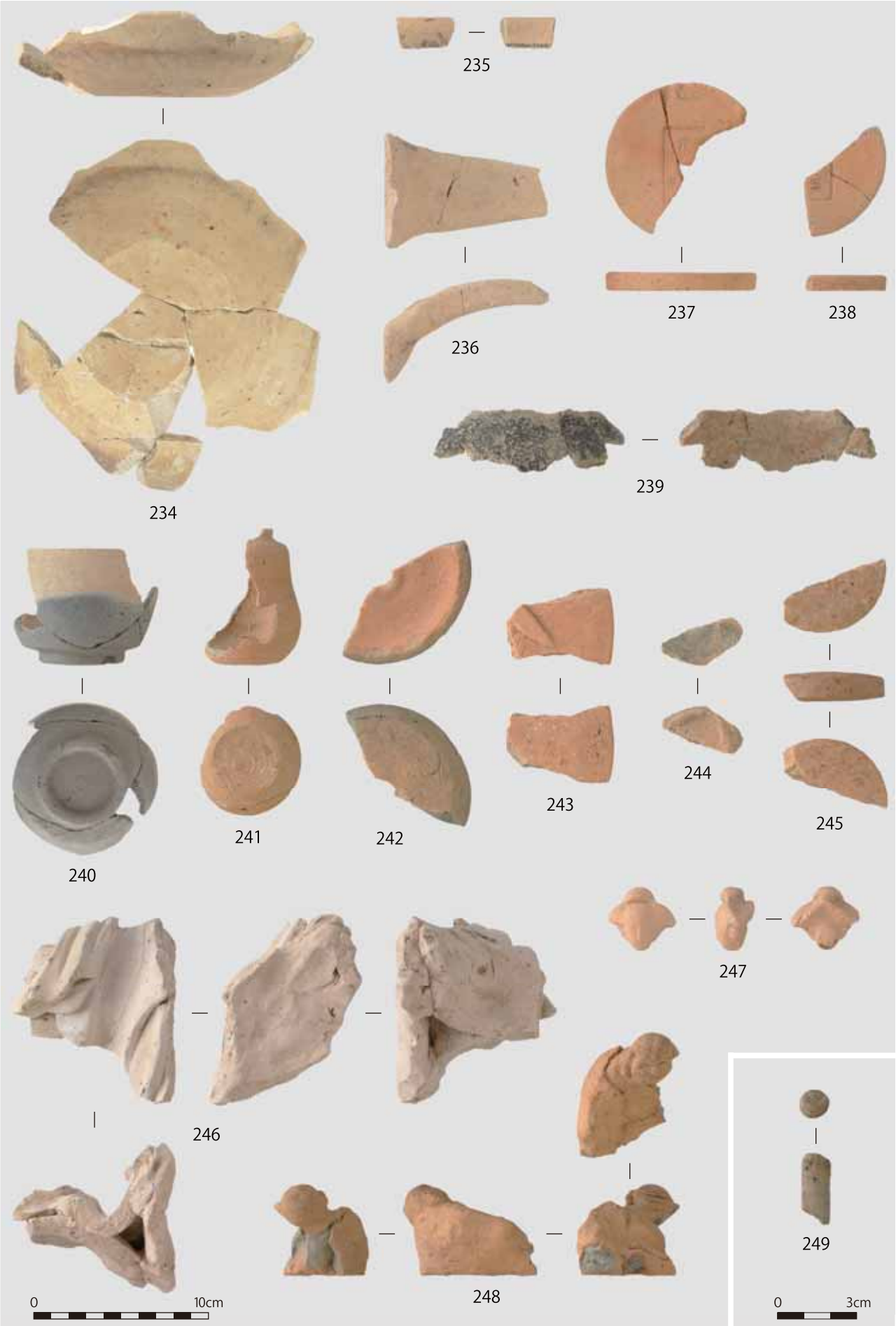
図版 26　沖縄産無釉陶器（４）

図版 27　沖縄産無釉陶器（５）

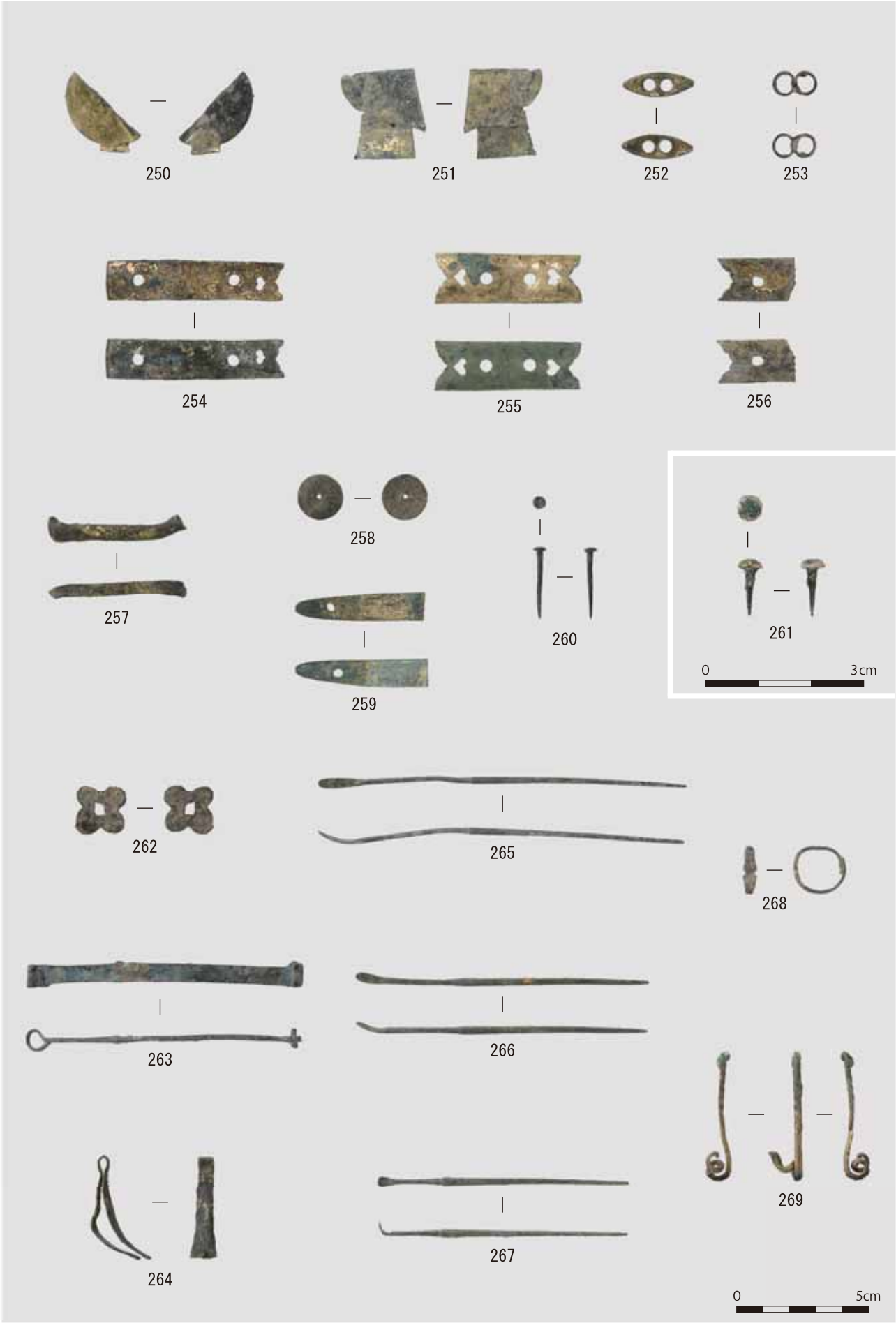
図版 28　沖縄産無釉陶器（６）・陶質土器



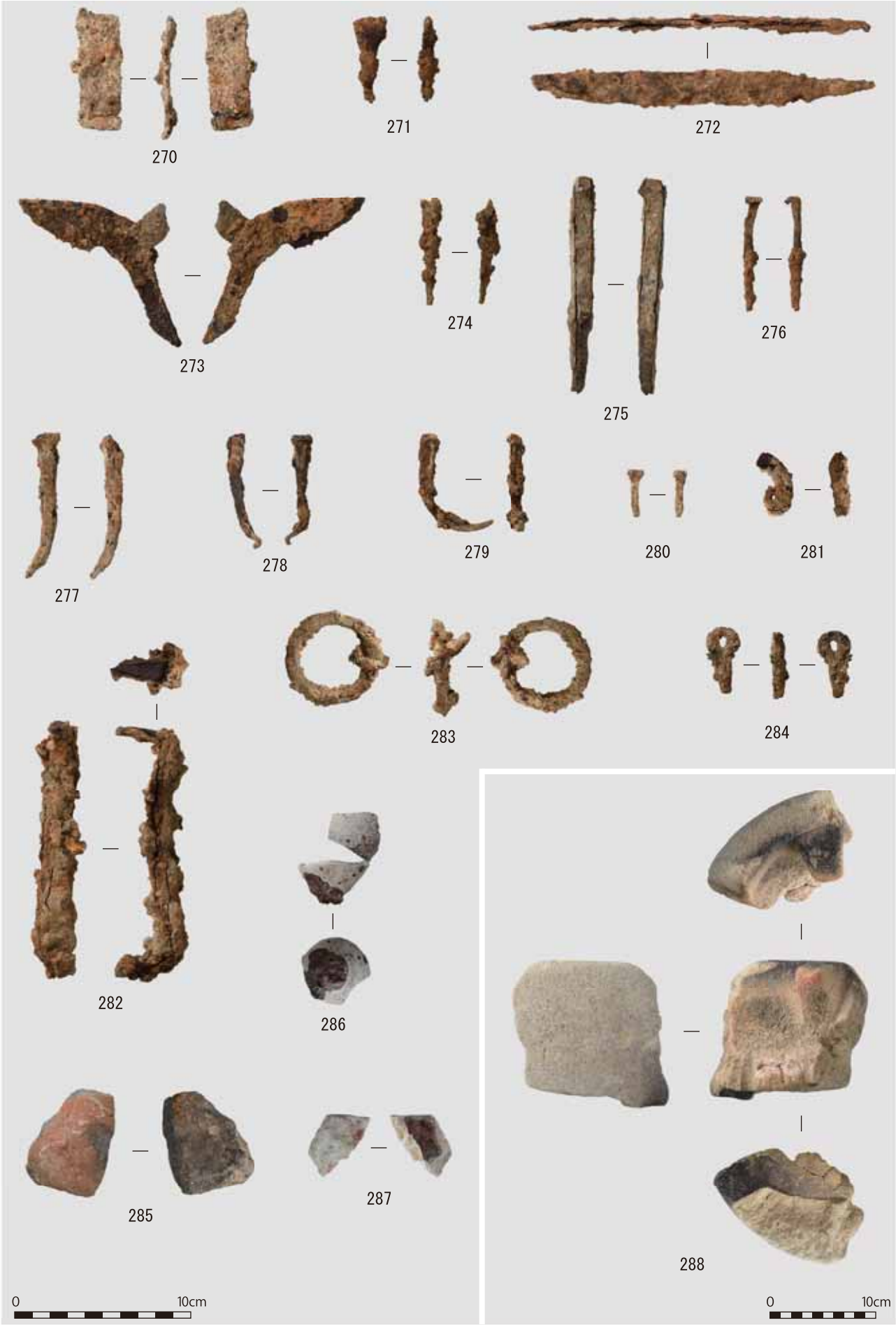
図版 29　瓦質土器


235
234
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
0
10cm
0
3cm

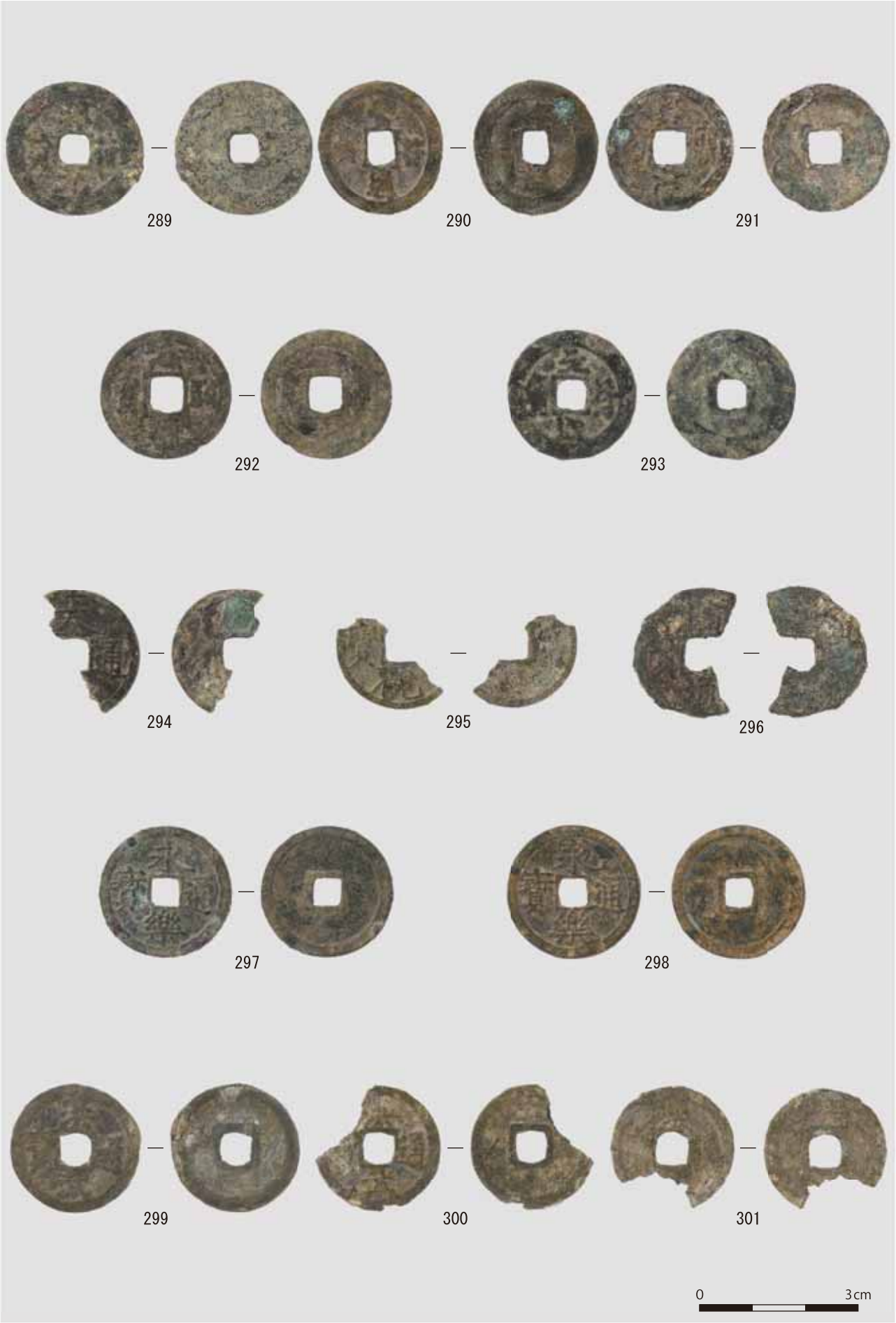
図版 30　土器・土製品


250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
0
3cm
262
265
268
263
266
269
264
267
0
5cm

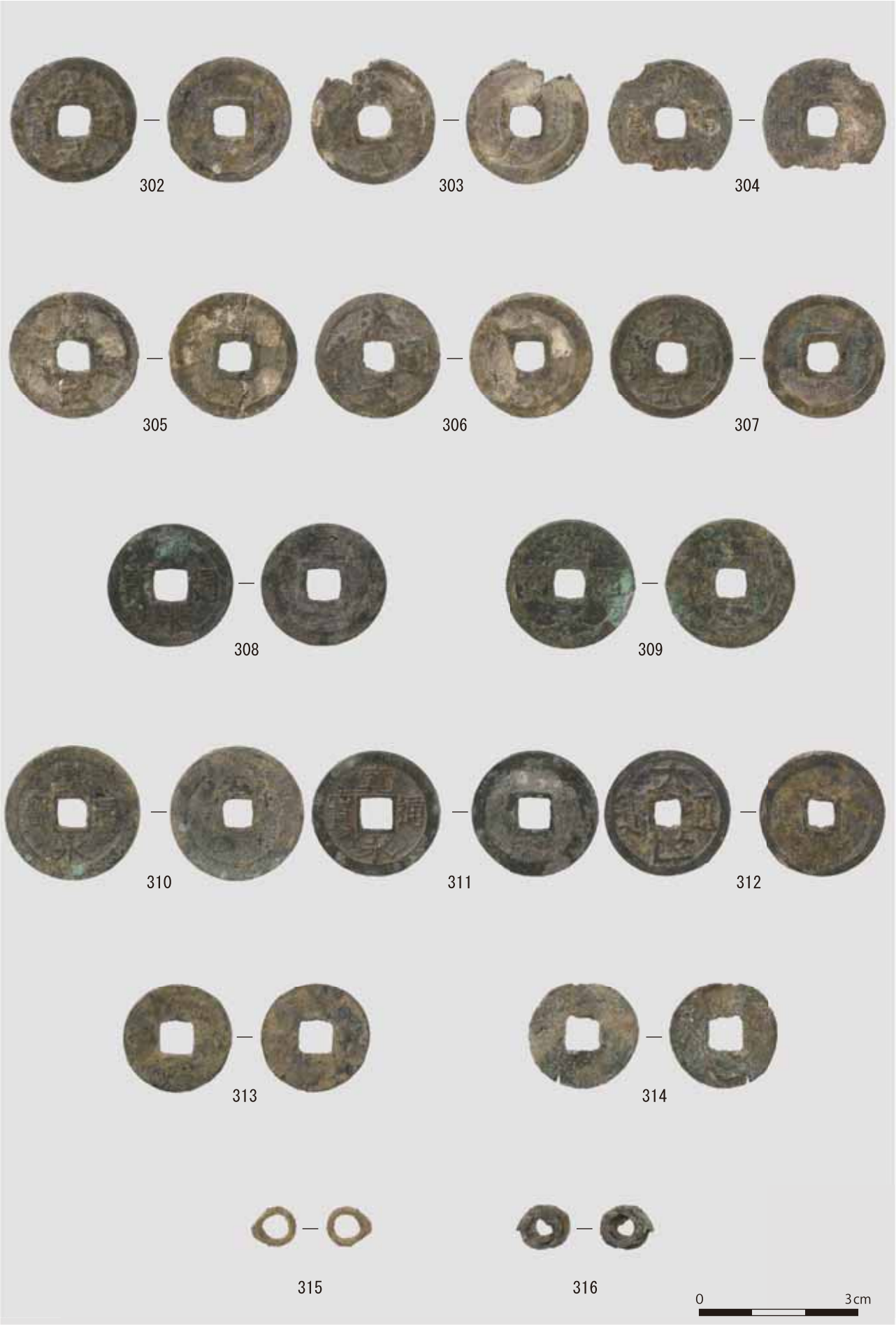
図版 31　金属製品（１）



図版 32　金属製品（２）・るつぼ



図版 33　銭貨（１）



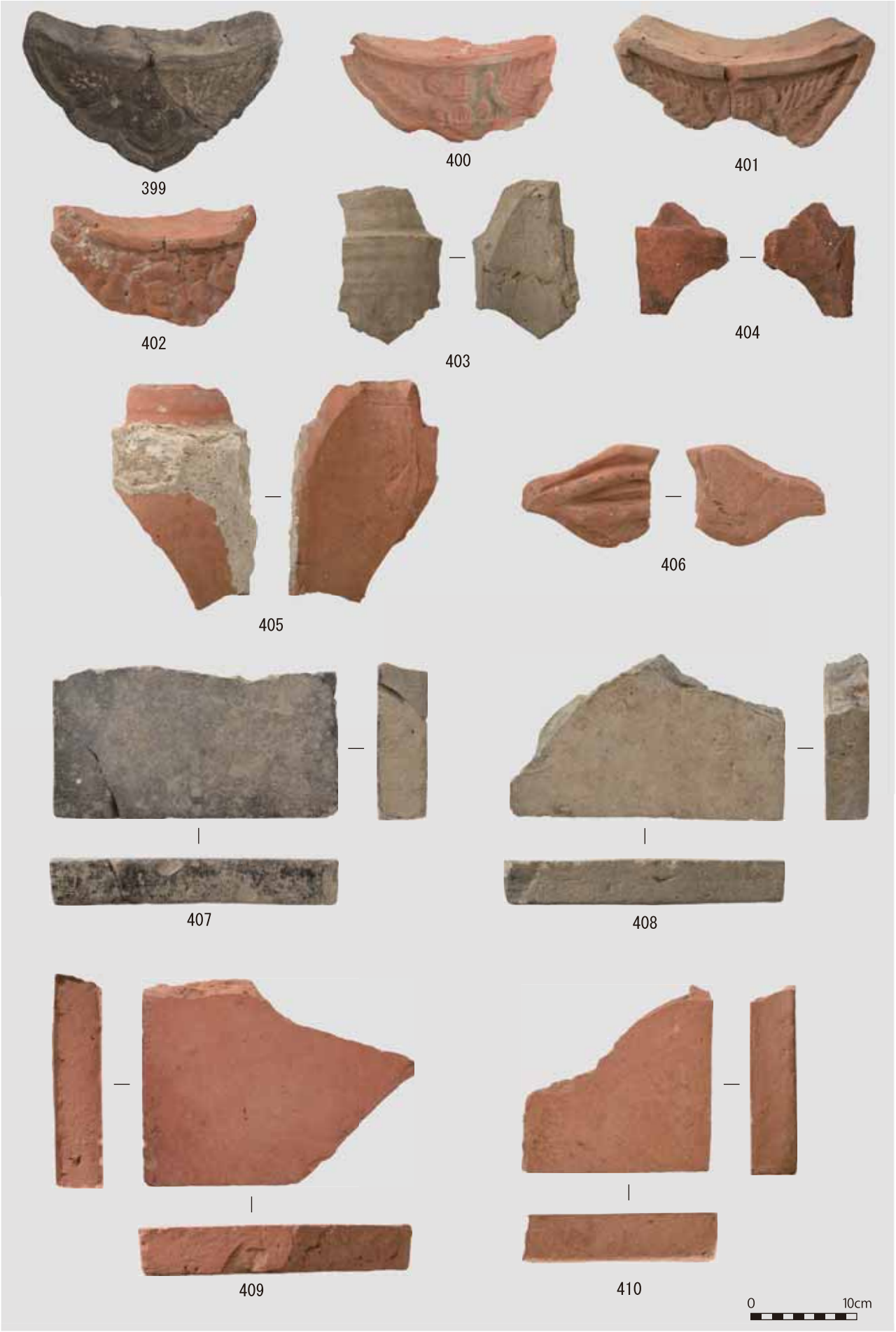
図版 34　銭貨（２）

図版 35　銭貨状金製品・石製品・貝製品

図版 36　骨製品・煙管・ガラス製品

図版 37　ガラス玉・円盤状製品

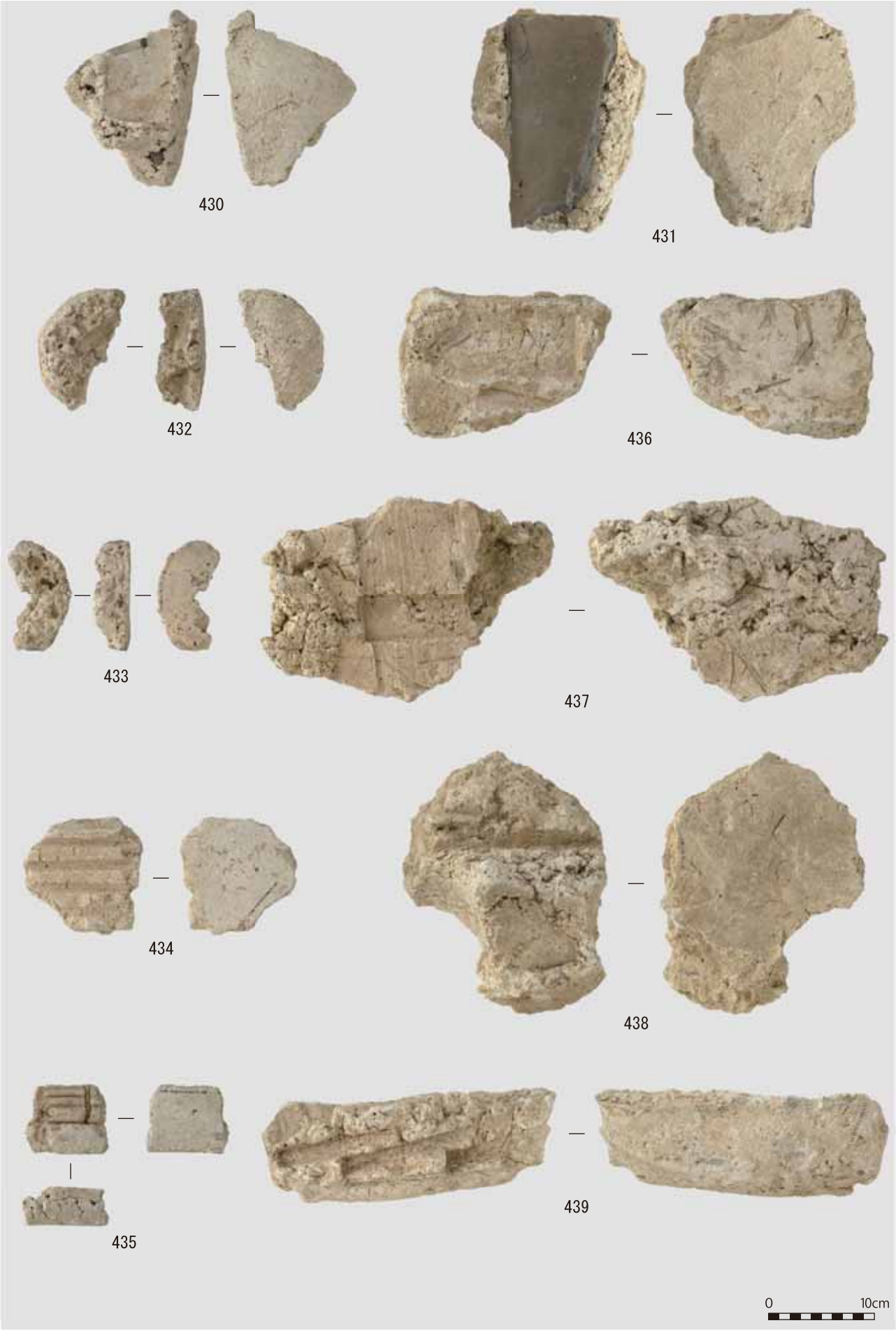
図版 38　高麗系瓦・大和系瓦・明朝系瓦（１）



図版 39　明朝系瓦（２）・塼（１）

図版 40　塼（２）

図版 41　塼（３）・漆喰（１）



図版 42　漆喰（２）

報　告　書　抄　録

ふりがな	しゅりじょうあと
書名	首里城跡
副書名	継世門北地区発掘調査報告書
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第97集
編著者名	瀬戸哲也・新垣　力・大堀皓平・沓名貴彦
編集機関	沖縄県立埋蔵文化財センター
所在地	〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町上原193-7　TEL 098-835-8752　FAX 098-835-8754
発行年月日	2018年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
首里城跡 経世門北地区	沖縄県 那覇市 首里当蔵町 3丁目1番	47201		26° 13′ 2″	127° 43′ 11″	2014.7.1 ～ 2015.3.27	286 ㎡	国営沖縄記念公園（首里城地区）整備に伴う遺構確認調査

所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
首里城跡 継世門北地区	城跡	グスク時代～近代	御嶽（イビ）1、石積み9、階段1、石列3、ピット26	中国産・ベトナム産・タイ産・朝鮮半島産・本土産陶磁器、土器、沖縄産陶器、金属製品、鍛冶関連遺物、銭貨、銭貨状金製品、骨製品、石製品、貝製品、円盤状製品、ガラス玉、瓦（明朝系・大和系・高麗系）、塼、漆喰、獣魚骨、貝殻	美福門基壇・階段、赤田御門の御嶽を確認

要　約

今回の継世門北地区の調査では、継世門北側ピット群、美福門基壇・階段、御嶽が確認された。

継世門北側ピット群は、遺物はごく少量のため時期の確定は難しいが、しかしながら、継世門（1546年創建）よりレベル的に下位にあることを考慮すると、それより以前の遺構である可能性があろう。

美福門基壇・階段では、　尚巴志王代（1422～39年）に創建されたと伝わる美福門の基壇と、そこから継世門へ至る南東方向に延びる階段を検出した。構築時期であるが、下層であるⅣ層の出土陶磁器類では、15世紀前後のものが主体だが、17世紀前後のものも一定量みられることから、今回確認された階段自体は17世紀に構築もしくは改修された可能性なども考えられよう。

御嶽は、美福門の東側に隣接しており、独立した巨石（イビ）の周りに石積みを巡らしており、かつて継世門の北側に存在したとされる「赤田御門の御嶽」である可能性が高い。イビの西北部の隙間から、銭貨状金製品12枚と、洪武通寶9枚、無文銭2枚が一部重ねられた状態で合計23枚出土しており、何らかの祭祀行為に伴うものと推定される。石積みにはその切り合いから時期差がみられ、イビを円形に取り巻く石積み6などは美福門階段より古いが、前述のようにその時期は確定できていない。しかし、御嶽としての利用は青磁Ⅴ類が多く出土しており、15世紀前半代に遡る可能性も考えられる。一方、これらより新しい平面観が「コ」の字形を呈する石積み4は、出土陶磁器では17～18世紀代だが、絵図資料を考慮すると18世紀後半～19世紀前半に構築された可能性も考えられよう。

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第97集

首　里　城　跡

ー継世門北地区発掘調査報告書 ー

発　行　日　　平成30(2018)年3月30日
発行・編集　　沖縄県立埋蔵文化財センター
〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原193-7
TEL:098-835-8751・8752
印　　刷　　文進印刷株式会社
〒901-0416　沖縄県島尻郡八重瀬町字宜次706-4

沖縄県立埋蔵文化財センター

第97集　首里城跡　正誤表

ページ・行数	正	誤
p32　上から2行目	5,305	5,303
p32　上から2行目	15,673	15,671
p52　下から10行目	（125～128）	（125～126）
p65　上から4行目	碗（240・244）、 小壺（241）、 壺（242）、蓋（243）	碗（240）、 小壺（241）、 壺（242）、蓋（243・244）
p79　上から4行目	（342）	（343）
p82　下から2行目	（403～405）	（403～406）